

	<p>～なぜ、「日本アンチ・ドーピング規程」が存在するのか～</p> <p><スポーツは、人類にとってかけがえのない文化></p> <p>スポーツは、人類にとって大きな価値を持っています。</p> <p>我が国が定める「スポーツ基本法」は、スポーツについて次のように述べています。</p> <ul style="list-style-type: none">・スポーツは世界共通の普遍的な文化である。・すべての人々がスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む権利を有する。 <p>つまりスポーツは、単に体を動かすことではなく、健康な心と体を育み、挑戦する気持ちや相手を尊敬する心を育ててくれるなど、私たちの社会の中で、欠かすことのできない役割を持っています。その役割は、国や地域、時代の違いを超えた「人類共通の文化」として培われてきたものであり、私たちは、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む「権利」を持っています。そして同時に、一人ひとりが、スポーツという文化を守り、後世に受け継いでいく担い手でもあるのです。</p> <p>スポーツを重要な「文化」ととらえ、すべての人がスポーツに参加する「権利」を持つという考え方は、ユネスコによる国際憲章にも規定された、「世界共通の認識」です。それほど、スポーツとは、人類にとって大切な価値を持った文化なのです。</p> <p><スポーツを成り立たせるための必須条件とは？></p> <p>では、すべての人が、スポーツの価値を享受し、幸福で豊かな生活を営むための条件とは何でしょうか？それは、スポーツが、すべての参加者にとって「フェア（公正・公平）」にとりおこなわれる、ということです。たった一人でも、ドーピングによって、不正かつ不公平な条件で参加するならば、その時点で、スポーツはスポーツとして成り立ちません。たった一人のドーピングは、競技者はもちろん、支える人や応援する人などスポーツに関わる「すべての人の権利」を奪うことになる。だからこそ、スポーツは、常にドーピングから守られ、すべての人にとって「フェア」でなくてはならないのです。</p> <p><日本アンチ・ドーピング規程は、フェアなスポーツを守るための、私たちの約束事></p> <p>スポーツは「世界共通の普遍的な文化」です。だからこそ、スポーツを「フェアな場」とし保証するた</p>
--	--

めのルールも世界共通でなければなりません。そうして生まれたルールが「世界アンチ・ドーピング規程」と「国際基準」です。これらのルールは、世界中の様々な競技に携わる人々や、競技者や競技団体、アンチ・ドーピング機関など、いろいろな立場の人々が意見を出し合い、協議してつくられた私たちみんなの約束事であり、世界アンチ・ドーピング機構（World Anti-Doping Agency 以下WADA）によって管理されています。そして、この世界共通のルールを、日本国内に適応させるために「日本アンチ・ドーピング規程」が存在しています。日本アンチ・ドーピング規程は、世界アンチ・ドーピング規程に記されている各条項に基づいて制作されており、国内においてフェアなスポーツを守るためのルールであると同時に、世界各国と協調してアンチ・ドーピング活動を推進するためのルールでもあります。

<すべての人が取り組む、アンチ・ドーピング活動>

日本アンチ・ドーピング機構（Japan Anti-Doping Agency 以下JADA）は、WADAや国内の関係機関と連携を図りながら、「日本アンチ・ドーピング規程」の取りまとめを行い、その取り決めに基づいて、国内のドーピング検査や啓発活動等を行っています。しかし、アンチ・ドーピング活動とは「JADAだけの活動」ではありません。スポーツという文化を守り、スポーツのフェアを保證する活動は、スポーツに関わる「すべての団体」とスポーツに参加する「すべての人」によって推進されなければならない活動であり、その抛り所が、私たち全員の約束事である「日本アンチ・ドーピング規程」になります。

～アンチ・ドーピング活動のゴールとは～

<スポーツが与えてくれる、多様な価値を守るために>

アンチ・ドーピング活動は、スポーツのフェアを保證し、スポーツの「価値」を守るために存在しています。オリンピックやパラリンピックの精神を含め、世界中の人々が、スポーツの持つ多様な価値を認め合っています。スポーツが私たちに与えてくれる価値には、以下のようなものがあります。

- ・健康
- ・倫理観、フェアプレーと誠意
- ・卓越した競技能力
- ・人格と教育
- ・楽しみと喜び
- ・チームワーク
- ・献身と真摯な取り組み
- ・規則・法を尊重する姿勢
- ・自分自身とその他の参加者へのリスペクト
- ・勇気
- ・共同体意識と連帯意識

	<p>スポーツには、世界中の人が認める、これほど大切な価値があります。そしてドーピングを行うことは、単にその人が、違反を犯したというだけにとどまりません。ドーピングは、あなた自身にとっての「スポーツの価値」を否定し、さらには、すべての人の「フェアなスポーツに参加する権利」を奪います。だからこそ、私たち一人ひとりが、「なぜドーピング違反を犯すことが全員にとって重大なことなのか」を認識し、ドーピング違反をしないことはもちろん、まわりや世の中の意識をともに高め合い、スポーツのフェアと価値を守るための活動を行なっていかなければなりません。</p> <p><スポーツの価値を守り、広め、よりよい社会に貢献する></p> <p>日本には、スポーツにおける、勝敗を超えた価値や倫理を重んじる長い歴史があります。日本のスポーツの礎をつくった嘉納治五郎は、「順道制勝」という言葉を提唱しました。この言葉は、「勝つにしても道に順って勝ち、負けるにしても道に順って負けなければならぬ。負けても道に順って負ければ、道に背いて勝ったよりも価値がある」ということを意味しています。</p> <p>嘉納治五郎が提唱し、日本のスポーツ界に受け継がれてきた精神は、世界の人々が推進しているアンチ・ドーピング活動の精神と、まさに一致するものです。アンチ・ドーピング活動によって、スポーツの価値を守ることは、同時に「スポーツの価値を社会全体に活かしていく」取り組みでもあります。スポーツを健全に発展させ、その価値をみんなで認識し、広めていくことで、将来の世代や、つぎの社会を、より豊かで、より健康的なものへと発展させていく。アンチ・ドーピング活動の目的はまさにそこにあります。それは、私たち全員で、守り続け、改善し続ける取り組みなのです。</p>
--	---

<p>INTRODUCTION</p> <p><u>Preface</u></p> <p>The elimination of doping in sport is one of the most important issues. On an international level, the World Anti-Doping Agency (“WADA”) was established as an international agency for the purposes of promoting fair anti-doping activities, under the cooperation of sport related parties and government related parties of various countries in 1999. 2004 witnessed the preparation of the World Anti-Doping Code, which is a uniform rule regarding anti-doping in sport, and a system to promote anti-doping activities on a worldwide scale was organised. In Japan, the Japan Anti-Doping Agency (“JADA”) was established in September 2001, and it has been performing doping tests as well as education, spreading and enlightenment related to doping in Japan. Under such circumstances, at the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organisation (“UNESCO”), the International Convention Against Doping in Sport (“International Convention”), which has</p>	<p>序論 序文</p> <p>スポーツにおいてドーピングの撲滅は最重要課題の一つである。国際的には、1999年、各国のスポーツ関係者と政府関係者の協力のもと、公正なアンチ・ドーピング活動の促進を目的に、国際的な機関として世界アンチ・ドーピング機構（以下、「WADA」）が設立された。2004年には、スポーツにおけるアンチ・ドーピングの統一ルールである世界アンチ・ドーピング規程が策定され、世界的なアンチ・ドーピング活動の推進体制の整備が行われた。我が国では、2001年9月に財団法人日本アンチ・ドーピング機構（当時；以下、「JADA」）が設立され、国内におけるドーピング検査及びアンチ・ドーピングに関する教育、普及・啓発を実施してきた。このような中、国際連合教育科学文化機関（以下、「ユネスコ」）では、2005年に開催された第33回ユネスコ総会において、WADAを中心とした国内及び世界レベルでの協力活動における推進・強化体制の確立を目的としたスポーツにお</p>
---	---

the purpose of establishing a system for promotion and reinforcement of cooperative activities on both domestic and worldwide levels with WADA as the main actor, was adopted at the 33rd UNESCO General Conference held in 2005. Japan entered into the International Convention in December 2006, and the International Convention entered into effect in February 2007.

The Basic Act on Sport was formed in June 2011. Under such circumstances, the promotion of anti-doping activities was positioned together with the enhancement of sport standards in events held by the Japan Sport Association (“JSPO”), the Japan Para-Sports Association (“JPSA”) and other sport organisations, as well as the promotion of sport on international scale by the Japan Olympic Committee (“JOC”), the Japan Paralympic Committee (“JPC”) and other sport organisations. The enhancement of the value of sport by the promotion of clean and fair sport is also positioned as a measure which should be comprehensively taken, in the Sport Basic Plan (first term: from March 2012 till March 2017, and second term: from April 2017 till March 2022) which was determined pursuant to the Basic Act on Sport.

In 2013, Act on the Japan Sport Council was amended, and work related to the protection of rights and interests, the maintenance and advancement of healthiness of mind and body, and the securement of safety, of persons playing sport, work related to the promotion of anti-doping activities in sport, as well as other work required for the realisation of the fair and appropriate implementation of sport related activities were added to the work of the Japan Sport Council (“JSC”).

In addition, in the amendment of the World Anti-Doping Code of January 2015, in Article 22.2 of the Code, it was provided that each government should perform procedures for laws, regulations, policies or administrative affairs for the cooperation and information sharing with anti-doping agencies as well as data sharing between anti-doping agencies. As a response, this leads to the domestic measure of the establishment of a testing system utilising intelligence information, where JSC, which is an independent administrative agency, acts as a window for administrative agencies and acquires information and JADA conducts doping tests in response.

In accordance with the purport of the Basic Act on Sport and the International Convention, the “Act on the Promotion of Anti-Doping Activities in Sport” (“Anti-Doping Promotion Act”), which is the first act on anti-doping in Japan, was enforced in October 2018, and the “Basic Policies for the Comprehensive Promotion of Measures Related to Anti-Doping Activities in Sport” (the “Basic Policies”) which provide the significance and basic matters, etc. related to anti-doping, were determined in accordance with the provisions of Article 11 Paragraph 1 of the Anti-Doping Promotion Act in

けるドーピングの防止に関する国際規約（以下、「国際規約」）が採択され、我が国は2006年12月に同国際規約を締結し、2007年2月に同国際規約が発効した。

2011年6月にスポーツ基本法が成立した。この中で、公益財団法人日本スポーツ協会（以下、「JSPO」）、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会（以下、「JPSA」）、及びその他の競技団体が開催する競技大会における競技水準の向上や、公益財団法人日本オリンピック委員会（以下、「JOC」）、日本パラリンピック委員会（以下、「JPC」）、及びその他のスポーツ団体による国際的な規模のスポーツの振興と共に、アンチ・ドーピング活動の推進が位置づけられた。スポーツ基本法に基づき定められたスポーツ基本計画（第1期：2012年3月～2017年3月、及び第2期：2017年4月～2022年3月）においても、クリーンでフェアなスポーツの推進によるスポーツの価値の向上が総合的に取り組むべき施策として位置づけられている。

2013年には独立行政法人日本スポーツ振興センター法が改正され、独立行政法人日本スポーツ振興センター（以下、「JSC」）の業務に、「スポーツを行う者の権利利益の保護」、「心身の健康の保持増進及び安全の確保に関する業務」、「スポーツにおけるドーピング防止活動の推進に関する業務」、「その他のスポーツに関する活動が公正かつ適切に実施されるようにするため必要な業務」を行うことが追加された。

また、世界アンチ・ドーピング規程の2015年1月の改定では、同規程の第22.2項において、各国政府は、アンチ・ドーピング機関との協力及び情報共有並びにアンチ・ドーピング機関間のデータ共有のために法令、規制、政策又は行政事務手続をとるよう定められた。これに対する国内対応として、独立行政法人であるJSCが様々な行政機関との窓口となり情報を入手し、これを受けてJADAがドーピング検査を実施する、インテリジェンス情報を活用した検査体制が構築されるに至った。

2018年10月には、スポーツ基本法及び国際規約の趣旨にのっとり、わが国で初となるアンチ・ドーピングに関する法律「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律（以下、「ドーピング防止活動推進法」）」が施行され、2019年3月にはドーピング防止活動推進法第11条第1項の規程に基づき、アンチ・ドーピング活動に関する意義や基本的事項等が定められた「スポーツにおけるドーピング防止活動に関する施策を総合的に推進するための基本的な方針（以下、「基本方針」）」が決定された。

March 2019.

The Basic Policies expressly provide that anti-doping activities shall be promoted in accordance with the following basic ideals of Article 3 of the Anti-Doping Promotion Act.

- 1) Securement of fairness in sport as well as the maintenance and advancement of the healthiness of the mind and body of athletes;
- 2) Securement of fairness and transparency in doping tests;
- 3) Securement of the independency and autonomy of national sport control organisations such as *JSPO*, *JOC* and *JPSA*, as well as national sport organisations;
- 4) Consideration for diversity in sport

Furthermore, the Basic Policies indicate the importance of excluding the possibility of organisational interference and the securement of fairness and transparency in relation to the implementation of doping tests.

The perspective of the independence of test planning and execution is not only indicated in the World Anti-Doping Code and the International Standards, but it also requires strict operation in the establishment of the anti-doping systems of various countries. In the audit of the anti-doping system of Japan conducted by WADA in July 2018, it was indicated that the structure in which national sport control organisations and national sport organisations take charge of the application of sport promotion lottery subsidy results in a structure in which there is interference with test planning, and a planning system independent from national sport control organisations and national sport organisations, as well as the securement of financial resources where neutrality is ensured, were requested.

Against such backdrop, it is critical for the policy regarding the implementation of tests to be prepared under a system where neutrality is secured, and the execution of doping tests to be realised under financial resources where independence is secured.

In response, under the consensus of *JSPO*, *JOC*, *JSPA*, national sport organisations, the Ministry of Education, Culture, Sport, Science and Technology, the Japan Sports Agency, *JSC* and *WADA*, a committee for the deliberation of the anti-doping system, which deliberates and prepares domestic testing policies while ensuring the neutrality of financial resources invested in doping tests of Japan in a manner independent from such organisations, was established. In addition, the Japan Sport Fairness Promotion Agency, which operates such committee, was established.

As a result, a system was established in which the Japan Sport Fairness Promotion Agency prepares the basic policies regarding the scale and contents of doping test

基本方針の中では、以下のドーピング防止活動推進法第3条の基本理念に基づいてアンチ・ドーピング活動が推進される旨が明記されている。

- 1) スポーツにおける公正性及び競技者の心身の健康の保持増進を確保する
- 2) ドーピングの検査における公平性及び透明性を確保する
- 3) *JSPO*、*JOC*、*JPSA*などの国内スポーツ統括団体や、国内競技団体の自主性及び自律性を確保する
- 4) スポーツの多様性に配慮する

さらに、同基本方針においては、ドーピング検査の実施に関して、組織的介入の可能性を排除し、公正性及び透明性を確保することの重要性を指摘している。

検査立案、執行の独立性の観点については、世界アンチ・ドーピング規程及び国際基準においても指摘されているのみならず、各国のアンチ・ドーピング体制の構築において厳格な運用を要求している。2018年7月にWADAにより実施された我が国のアンチ・ドーピング体制に対する監査において、国内スポーツ統括団体や国内競技団体がスポーツ振興くじ助成の申請を担う構造が、結果として検査の立案に介入する構造となっている点が指摘されることとなり、この体制を根本的に見直し、国内スポーツ統括団体や国内競技団体から独立した計画立案体制、及び中立性を担保した財源の確保が要求されることとなった。

これらの背景から、検査の実施に係る方針の策定は中立性が担保された体制の下で策定され、また独立性が確保された財源のもとでドーピング検査が執行されることが肝要である。

これを受けて、*JSPO*、*JOC*、*JPSA*、国内競技団体、文部科学省、スポーツ庁、*JSC*、*JADA*の総意のもと、これらの団体から独立した形で我が国のドーピング検査に投下される財源の中立性を確保しつつ、国内の検査方針を審議・策定するアンチ・ドーピング体制審議委員会が設置された。また、この運営主体となる一般社団法人日本スポーツフェアネス推進機構が設立された。

この結果、日本スポーツフェアネス推進機構が、国内のドーピング検査事業の規模と内容についての基本指針を策定し、*JADA*は基本方針のもとで個別具体的な年間の検査計画を立案し、検査が実施される体制が構築された。

business in Japan, and *JADA* plans the individual and specific annual testing plan under the Basic Policies, and testing is implemented.

In addition, in order to achieve the basic ideal of the Anti-Doping Promotion Act, the Act and the Basic Policies give the following indications for the organisations related to anti-doping activities in Japan and their roles.

- The government shall promote anti-doping activities pursuant to with the basic ideals of the Anti-Doping Promotion Act, mainly by the Ministry of Education, Culture, Sport, Science and Technology, especially the Sports Agency, in accordance with Article 5 of the Anti-Doping Promotion Act. In addition, the government must take legal or financial measures required for the implementation of the measures related to anti-doping activities.

- As one of the core agencies related to anti-doping activities in Japan, *JSC* shall make efforts to ensure fairness in sport events through the implementation of intelligence activities, etc. and the operation, etc. of the Japan Anti-Doping Disciplinary Panel under collaboration with related agencies such as *JADA*.

- *JADA* is authorised, and bears the responsibility, to provide the Japan Anti-Doping Code and to perform planning, adjustments, implementation, supervision and improvement instructions of doping control pursuant to the said Code. In addition, it shall perform anti-doping activities through planning and implementation of education and prevention programmes as well as intelligence activities, etc.

- National sport control organisations and national sport organisations shall comply with the Japan Anti-Doping Code and proactively perform doping tests as well as education and enlightenment activities towards sport players and support staff under cooperation and collaboration with *JADA*. In addition, upon enhancing the effectiveness of anti-doping activities, they shall make efforts to establish personnel responsible for the promotion of anti-doping activities, and cooperate with the anti-doping activities implemented by *JSC*. Furthermore, they shall make efforts to proactively and actively perform anti-doping activities.

- The laboratories accredited by *WADA* shall analyse samples in doping tests.

The aforementioned organisations are performing domestic anti-doping activities in cooperation and mutual collaboration with each other, satisfying their roles.

Furthermore, while the Sports Agency implements education, human resource development, and research and development related to anti-doping, *JSC* provides

また、ドーピング防止活動推進法の基本理念の実現を図るため、同法及び基本方針には国内のアンチ・ドーピング活動に関する組織とその役割を以下のとおり示している。

- 国は、ドーピング防止活動法第5条に基づき、文部科学省、特にスポーツ庁が中心となり、同法基本理念にのっとり、アンチ・ドーピング活動を推進する。また、政府はドーピング防止活動に関する施策を実施するために必要な法制上又は財政上の措置を講じなければならない。

- *JSC* は、我が国におけるアンチ・ドーピング活動における中核的な機関の1つとして、*JADA* 等の関係機関と連携を図り、インテリジェンス活動等の実施及び日本アンチ・ドーピング規律パネルの運用等を通じて、スポーツ競技大会における公正性の確保に努める。

- *JADA* は、日本アンチ・ドーピング規程を定め、当該規程にのっとり、ドーピング・コントロールの計画、調整、実施、監視及び改善指示を行う権限を有し、その責任を負う。また、教育及び予防プログラムの計画及び実施並びにインテリジェンス活動等を通じたアンチ・ドーピング活動を行う。

- 国内スポーツ統括団体や国内競技団体は、日本アンチ・ドーピング規程を遵守するとともに、*JADA* との協力と連携の基に、ドーピング検査並びにスポーツ選手及びサポートスタッフに対する教育啓発活動に主体的に取り組む。また、アンチ・ドーピング活動の実効性を高める上で、アンチ・ドーピング活動推進担当者の設置に努めるとともに、*JSC* の実施するアンチ・ドーピング活動に協力する。そして、基本理念にのっとり、主体的かつ積極的にアンチ・ドーピング活動に取り組むよう努める。

- *WADA* の認定を受けた分析機関は、ドーピング検査における検体分析を行う。

上記の組織においては、その役割を果たすとともに、相互に連携を図りながら協働して国内アンチ・ドーピング活動の推進を行っている。

さらに、スポーツ庁がアンチ・ドーピングに関する教育、人材育成及び研究開発を推進する事業を実施するとともに、*JSC* がスポーツ振興くじの助成

<p>subsidy for information delivery and enlightenment activities regarding anti-doping, anti-doping testing and procurement of doping analysis equipment or otherwise provides support for Anti-Doping Activities by national financial measures and public financial resources.</p> <p><u>National Anti-Doping Programme</u> <i>JADA</i> is a signatory to the World Anti-Doping Code, and is also an agency designated as a national anti-doping agency in Japan by the Ministry of Education, Culture, Sport, Science and Technology in Guidelines for Preventing Doping in Sports (May 2007) pursuant to Article 7 of the International Convention in order to perform its obligations under the International Convention. Pursuant to the “Act on the Promotion of Anti-Doping Activities in Sport” (enforced in October 2018) and the “Basic Policies for the Comprehensive Promotion of Measures Related to Anti-Doping Activities in Sport” (enforced in March 2019) determined by the Minister of Education, Culture, Sport, Science and Technology, <i>JADA</i> is authorised, and bears the responsibility, to provide this Code in accordance with the World Anti-Doping Code and to perform activities pursuant to this Code. In addition, in accordance with Article 20.5.1 of the World Anti-Doping Code, <i>JADA</i> particularly has the powers, and bears the responsibility, required for its operational judgments and activities to be independent from sport and the government. This includes, and is not limited to, the prohibition of operational judgments and activities by persons concurrently involved in the management and operation of international federations.</p> <p>Scope of these Anti-Doping Rules</p> <p>These Anti-Doping Rules shall apply to:</p> <p>(a) <i>JADA</i>, including its board members, directors, officers, specified employees and volunteers, and <i>Delegated Third Parties</i> and their employees, who are involved in any aspect of <i>Doping Control</i>;</p> <p>(b) <i>National Sports Federations of Japan</i>, including their board members, directors, officers, specified employees and volunteers, and <i>Delegated Third Parties</i> and their employees, who are involved in any aspect of <i>Doping Control</i>;</p> <p>(c) <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel, Japan Sports Arbitration Agency (JSAA)</i></p> <p>(d) the following <i>Athletes, Athlete Support Personnel</i> and other <i>Persons</i> (including <i>Protected Persons</i>), in each case, whether or not such <i>Person</i> is a national or resident of <i>Japan</i>:</p> <p>(i) all <i>Athletes</i> and <i>Athlete Support Personnel</i> who are members or licence-holders of any <i>National Sports</i></p>	<p>事業において、アンチ・ドーピングに関する情報提供・啓発活動、ドーピング検査及びドーピング分析機器等整備に対して助成を行うなど、国による財政上の措置や公的な財源によって、国内のアンチ・ドーピング活動に対する支援が行われている。</p> <p>国内アンチ・ドーピング・プログラム <i>JADA</i> は <i>世界規程</i> の署名当事者であり、また国際規約の義務を履行するために国際規約第 7 条に基づき、「スポーツにおけるドーピング防止に関するガイドライン（2007 年 5 月）」において、文部科学省により我が国における国内アンチ・ドーピング機関に指定された機関である。「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律（2018 年 10 月施行）」及び文部科学大臣決定の「スポーツにおけるドーピング防止活動に関する施策を総合的に推進するための基本的な方針（2019 年 3 月施行）」に基づき、<i>JADA</i> は <i>世界規程</i> に従って本規程を定め、本規程に基づく活動を行う権限を有し、その責任を負う。また <i>世界規程</i> 第 20.5.1 項に従い、<i>JADA</i> は、とりわけ、その運営上の判断・活動がスポーツ及び政府から独立しているために必要な権限を有し、責任を負う。これは、国際競技連盟の経営又は運営に同時に関与している人による運営上の判断・活動の禁止を含み、これに限られない。</p> <p>本規程の適用範囲</p> <p>本規程は以下に適用されるものとする。</p> <p>(a) <i>JADA</i>。その理事会構成員、理事、役員、特定の職員及びボランティア、並びに委託された第三者及びその職員であって、ドーピング・コントロールの側面に関与している者を含む。</p> <p>(b) 日本の国内競技連盟。その理事会構成員、理事、特定の職員及びボランティア、並びに委託された第三者及びその職員であって、ドーピング・コントロールの側面に関与している者を含む。</p> <p>(c) 日本アンチ・ドーピング規律パネル、日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)</p> <p>(d) 次に掲げるすべての競技者、サポートスタッフその他の人 (要保護者を含む。また、当該人が日本の国民又は居住者であるか否かを問わない。)</p> <p>(i) 日本の国内競技連盟、又は日本の国内競技連盟の会員機関・関連機関 (クラブ、チーム、団体又</p>
--	--

<p><i>Federation in Japan, or of any member or affiliate organisation of any National Sports Federation in Japan (including any clubs, teams, associations, or leagues);</i></p> <p>(ii) all <i>Athletes</i> and <i>Athlete Support Personnel</i> who participate in such capacity in <i>Events, Competitions</i>, and other activities organised, convened, authorised or recognised by any <i>National Sports Federation in Japan</i>, or by any member or affiliate organisation of any <i>National Sports Federation in Japan</i> (including any clubs, teams, associations or leagues), wherever held;</p> <p>(iii) any other <i>Athlete</i> or <i>Athlete Support Person</i> or other <i>Person</i> who, by virtue of an accreditation, a licence or other contractual arrangement, or otherwise, is subject to the authority of any <i>National Sports Federation in Japan</i>, or of any member or affiliate organisation of any <i>National Sports Federation in Japan</i> (including any clubs, teams, associations or leagues), for purposes of anti-doping; and</p> <p>(iv) all <i>Athletes</i> and <i>Athlete Support Personnel</i> who participate in any capacity in any activity organised, held, convened or authorised by the organiser of a <i>National Event</i> or of a national league that is not affiliated with a <i>National Sports Federation</i>.</p> <p>[Comment to point (iv): These organising bodies shall be incorporated into the national anti-doping programme.]</p> <p>(v) <i>Recreational Athletes</i>, i.e. <i>Athletes</i> who have never fallen under any of the following for five years before the occurrence of an anti-doping rule violation with respect to such <i>Athlete</i>.</p> <ul style="list-style-type: none"> - <i>National-Level Athletes</i> and <i>International-Level Athletes</i> - <i>Athletes</i> who represented any country in a classification without age or qualification restrictions in an <i>International Event</i> - <i>Athletes</i> included in a <i>Registered Testing Pool</i> by an International Federation or <i>National Anti-Doping Organisation</i> - <i>Persons</i> who have participated in <i>National Events</i> or <i>Competitions</i> of a similar level <p>For purposes of these Anti-Doping Rules, if any <i>Athlete</i> who meets the above criteria also falls under any category of (i) through (iv) above, such <i>Athlete</i> shall be treated as <i>Recreational Athlete(s)</i>.</p> <p>(e) all other <i>Persons</i> over whom the <i>Code</i> gives <i>JADA</i> authority, including all <i>Athletes</i> who are nationals or residents of <i>Japan</i>, and all <i>Athletes</i> who are present in <i>Japan</i>, whether to compete or to train or otherwise.</p> <p>Each of the abovementioned <i>Persons</i> is deemed, as a condition of his or her participation or involvement in sport in <i>Japan</i>, to have agreed to and be bound by these Anti-Doping Rules, and to have submitted to the</p>	<p>はリーグを含む。)の会員又はライセンス保持者であるすべての競技者又はサポートスタッフ</p> <p>(ii) 競技大会、競技会その他日本の国内競技連盟若しくは日本の国内競技連盟の会員機関・関連機関(クラブ、チーム、団体又はリーグを含む。)により主催、開催、授権若しくは承認された活動(開催地を問わない。)に、競技者又はサポートスタッフの立場において参加する、すべての競技者及びサポートスタッフ</p> <p>(iii) 認定、ライセンスその他契約上の取り決めにより、アンチ・ドーピングの目的のために、日本の国内競技連盟又は日本の国内競技連盟の会員機関・関連機関(クラブ、チーム、団体又はリーグを含む。)の権限に服する、その他の競技者、サポートスタッフ又は人、並びに</p> <p>(iv)国内競技連盟に関連性を有さない国内競技大会又は国内リーグの主催者により主催、開催又は授権された活動に参加するすべての競技者及びサポートスタッフ(いかなる立場において参加するかを問わない。)</p> <p>[iv]の解説:これらの主催組織は、国内のアンチ・ドーピング・プログラムに組み込まれるものとする。]</p> <p>(v)レクリエーション競技者。すなわち、当該競技者についてアンチ・ドーピング規則違反が発生する前の5年間に、以下のいずれにも該当したことのない競技者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際レベル若しくは国内レベルの競技者 ・ 国際競技大会において年齢又は資格制限のない区分でいずれかの国を代表した競技者 ・ 国際競技連盟又は国内アンチ・ドーピング機関による登録検査対象者リストに含まれていた競技者 ・ 国内競技大会及びそれに類するレベルの競技会に参加したことがある者 <p>本規程においては、上記の基準を満たす競技者が同時に(i)から(iv)までのいずれかに該当する場合であっても、レクリエーション競技者として扱うものとする。</p> <p>(e) 世界規程がJADAに権限を付与する他のすべての人。日本の国民又は居住者であるすべての競技者、及び競技目的、訓練目的等を問わず、日本に所在するすべての競技者を含む。</p> <p>上記の各人は、日本におけるスポーツへの参加又は関与の条件として、本規程を受諾し、これに同意し、かつ本規程(その違反のための措置を含む)を</p>
---	---

authority of JADA to enforce these Anti-Doping Rules, including any *Consequences* for the breach thereof, and to the jurisdiction of the hearing panels specified in Article 8 and Article 13 to hear and determine cases and appeals brought under these Anti-Doping Rules.

[*Comment: Where the Code requires a Person other than an Athlete or Athlete Support Person to be bound by the Code, such Person would of course not be subject to Sample collection or Testing, and would not be subject to an anti-doping rule violation under the Code for Use or Possession of a Prohibited Substance or Prohibited Method. Rather, such Person would only be subject to discipline for a violation of Code Articles 2.5 (Tampering), 2.7 (Trafficking), 2.8 (Administration), 2.9 (Complicity), 2.10 (Prohibited Association) and 2.11 (Retaliation). Furthermore, such Person would be subject to the additional roles and responsibilities according to Code Article 21.3. Also, the obligation to require an employee to be bound by the Code is subject to applicable law.*

JADA shall ensure that, as per Article 19 of these Anti-Doping Rules, any arrangements with their board members, directors, officers, and specified employees and volunteers, as well as with the Delegated Third Parties and their employees – either employment, contractual or otherwise – have explicit provisions incorporated according to which such Persons are bound by, agree to comply with these Anti-Doping Rules, and agree on the JADA's authority to solve the anti-doping cases.]

Within the overall pool of *Athletes* set out above who are bound by and required to comply with these Anti-Doping Rules, the following *Athletes* shall be considered to be *National-Level Athletes* for the purposes of these Anti-Doping Rules, and, therefore, the specific provisions in these Anti-Doping Rules applicable to *National-Level Athletes* (e.g., *Testing*, *TUEs*, whereabouts, and *Results Management*) shall apply to such *Athletes*:

For purposes of these Anti-Doping Rules, *National-Level Athletes* shall mean any *Athlete* who falls under any of the following:

- *Athlete(s)* who is included in *Registered Testing Pool* or *Testing Pool* by JADA
- *Athlete(s)* selected as national team member of Japan without age or qualification restrictions

However, if any such *Athletes* are classified by their respective International Federations as *International-Level Athletes* then they shall be considered to be *International-Level Athletes* (and not *National-Level Athletes*) for purposes of these Anti-Doping Rules.

執行する JADA の権限に服したものとみなされ、また、本規程に基づき提起された事案及び不服申立てを聴聞し、決定する上で第 8 条及び第 13 条が規定する聴聞パネルの管轄に服したものとみなされる。

[解説：世界規程が、競技者又はサポートスタッフ以外の人について、世界規程に拘束されることを義務づける場合には、かかる人は当然検体採取又は検査の対象とならず、また禁止物質又は禁止方法の使用又は保有のために世界規程に基づくアンチ・ドーピング規則違反の対象とならない。むしろ、かかる人は世界規程の第 2.5 項 (不正干渉)、第 2.7 項 (不正取引)、第 2.8 項 (投与)、第 2.9 項 (違反関与)、第 2.10 項 (特定の対象者との関わり) 及び第 2.11 項 (報復) の違反のために制裁の対象となるに過ぎない。また、職員が世界規程に拘束されることを義務づけるか否かは適用法次第である。]

JADA は、本規程の第 19 条に従い、その理事会構成員、理事、役員、並びに特定の職員及びボランティア、そして委託された第三者及びその職員との取決めが、当該人のうち誰が本規程に拘束され、本規程を遵守することに合意し、そして、アンチ・ドーピング事案を解決する JADA の権限に合意するのかということに従って組み込まれる明示的な条項を有することを確保するものとする。]

上記に定める競技者のプール全体において、本規程に拘束されこれを遵守することが義務づけられる者のうち、次の競技者は本規程の目的において国内レベルの競技者とみなされ、よって国内レベルの競技者に適用される本規程の具体的な規定 (例えば、検査、TUE、居場所、及び結果管理) が当該競技者に適用される。

本規程において、国内レベルの競技者とは、以下のいずれかに該当する競技者をいう。

- JADA によって登録検査対象者リスト又は検査対象者リストに登録された競技者
- 年齢又は資格制限のない日本代表メンバーに選出されている競技者

但し、当該競技者がそれぞれの自己の国際競技連盟により国際レベルの競技者に分類されている場合には、当該競技者は、本規程において (国内レベルの競技者ではなく) 国際レベルの競技者とみなされるものとする。

<p>ARTICLE 1 DEFINITION OF DOPING</p>	<p>第1条 ドーピングの定義</p>
<p>Doping is defined as the occurrence of one or more of the anti-doping rule violations set forth in Article 2.1 through Article 2.11 of these Anti-Doping Rules.</p>	<p>ドーピングとは、本規程の第2.1項から第2.11項に定められている一又は二以上のアンチ・ドーピング規則に対する違反が発生することをいう。</p>
<p>ARTICLE 2 ANTI-DOPING RULE VIOLATIONS</p>	<p>第2条 アンチ・ドーピング規則違反</p>
<p>The purpose of Article 2 is to specify the circumstances and conduct which constitute anti-doping rule violations. Hearings in doping cases will proceed based on the assertion that one or more of these specific rules have been violated.</p>	<p>第2条は、アンチ・ドーピング規則違反が成立する状況及び行為を明記することを目的とする。ドーピング事案の聴聞会は、一又は二以上のこれらの個別の規則に対する違反の主張に基づき開始されることになる。</p>
<p><i>Athletes</i> or other <i>Persons</i> shall be responsible for knowing what constitutes an anti-doping rule violation and the substances and methods which have been included on the <i>Prohibited List</i>.</p>	<p>競技者又はその他の人は、アンチ・ドーピング規則違反の構成要件、禁止表に掲げられた物質及び方法を 知る責任を負わなければならない。</p>
<p>The following constitute anti-doping rule violations:</p>	<p>次に掲げる事項が、アンチ・ドーピング規則違反を構成する。</p>
<p>2.1 Presence of a <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolites</i> or <i>Markers</i> in an <i>Athlete's Sample</i></p>	<p>2.1 競技者の検体に、禁止物質又はその代謝物若しくはマーカーが存在すること</p>
<p>2.1.1 It is the <i>Athletes'</i> personal duty to ensure that no <i>Prohibited Substance</i> enters their bodies. <i>Athletes</i> are responsible for any <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolites</i> or <i>Markers</i> found to be present in their <i>Samples</i>. Accordingly, it is not necessary that intent, <i>Fault</i>, negligence or knowing <i>Use</i> on the <i>Athlete's</i> part be demonstrated in order to establish an anti-doping rule violation under Article 2.1.¹</p>	<p>2.1.1 禁止物質が体内に入らないようにすることは、競技者が自ら取り組まなければならない責務である。自己の検体に禁止物質又はその代謝物若しくはマーカーが存在した場合には、競技者はその責任を負う。ゆえに、第2.1項に基づくアンチ・ドーピング規則違反を証明するためには、競技者側の使用に関しての意図、過誤、過失又は使用を知っていたことが証明される必要はない。</p>
<p>[<i>Comment to Article 2.1.1: An anti-doping rule violation is committed under this Article without regard to an Athlete's Fault. This rule has been referred to in various CAS decisions as "Strict Liability". An Athlete's Fault is taken into consideration in determining the Consequences of this anti-doping rule violation under Article 10. This principle has consistently been upheld by CAS.</i>]</p>	<p>[第2.1.1項の解説：本項に基づくアンチ・ドーピング規則違反は、競技者の過誤にかかわらず行われる。この規則は、多くのCASの決定で「厳格責任」と呼ばれている。競技者の過誤は、第10条に基づくアンチ・ドーピング規則違反の措置を判断するにあたり考慮される。CASはこの原則を一貫して支持してきた。]</p>
<p>2.1.2 Sufficient proof of an anti-doping rule violation under Article 2.1 is established by any of the following: presence of a <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolites</i> or <i>Markers</i> in the <i>Athlete's A Sample</i> where the <i>Athlete</i> waives analysis of the <i>B Sample</i> and the <i>B Sample</i> is not analysed; or, where the <i>Athlete's B Sample</i> is analysed and the analysis of the <i>Athlete's B Sample</i> confirms the presence of the <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolites</i> or <i>Markers</i> found in the <i>Athlete's A Sample</i>; or, where the <i>Athlete's A or B Sample</i> is split into two (2) parts and the analysis of the confirmation part of the split <i>Sample</i> confirms the</p>	<p>2.1.2 次のいずれかが証明された場合には、上記第2.1項に基づくアンチ・ドーピング規則違反の十分な証拠となる。 競技者のA検体に禁止物質又はその代謝物若しくはマーカーが存在した場合であって、当該競技者がB検体の分析を放棄し、B検体の分析が行われない場合、競技者のB検体が分析され、B検体が、A検体で発見された禁止物質若しくはその代謝物若しくはマーカーの存在を追認した場合、競技者のA検体若しくはB検体が二つの部分に分けられ、分けられた検体のうちの追認部分の分析が、分けられた検体の第一の部分において発見された</p>

¹

<p>presence of the <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolites</i> or <i>Markers</i> found in the first part of the split Sample or the <i>Athlete</i> waives analysis of the confirmation part of the split Sample.²</p> <p>[<i>Comment to Article 2.1.2: The Anti-Doping Organisation with Results Management responsibility may, at its discretion, choose to have the B Sample analysed even if the Athlete does not request the analysis of the B Sample.</i>]</p> <p>2.1.3 Excepting those substances for which a <i>Decision Limit</i> is specifically identified in the <i>Prohibited List</i> or a <i>Technical Document</i>, the presence of any reported quantity of a <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolites</i> or <i>Markers</i> in an <i>Athlete's Sample</i> shall constitute an anti-doping rule violation.</p> <p>2.1.4 As an exception to the general rule of Article 2.1, the <i>Prohibited List</i>, <i>International Standards</i>, or <i>Technical Documents</i> may establish special criteria for reporting or the evaluation of certain <i>Prohibited Substances</i>.</p> <p>2.2 <i>Use or Attempted Use by an Athlete of a Prohibited Substance or a Prohibited Method</i>³</p> <p>[<i>Comment to Article 2.2: It has always been the case that Use or Attempted Use of a Prohibited Substance or Prohibited Method may be established by any reliable means. As noted in the Comment to Article 3.2, unlike the proof required to establish an anti-doping rule violation under Article 2.1, Use or Attempted Use may also be established by other reliable means such as admissions by the Athlete, witness statements, documentary evidence, conclusions drawn from longitudinal profiling, including data collected as part of the Athlete Biological Passport, or other analytical information which does not otherwise satisfy all the requirements to establish "Presence" of a Prohibited Substance under Article 2.1.</i></p> <p><i>For example, Use may be established based upon reliable analytical data from the analysis of an A Sample (without confirmation from an analysis of a B Sample) or from the analysis of a B Sample alone where the Anti-Doping Organisation provides a satisfactory explanation for the lack of confirmation in the other Sample.</i>]</p> <p>2.2.1 It is the <i>Athletes'</i> personal duty to ensure that no <i>Prohibited Substance</i> enters their bodies and that no <i>Prohibited Method</i> is Used. Accordingly, it is not necessary that intent, <i>Fault</i>, negligence or knowing <i>Use</i> on the <i>Athlete's</i> part be demonstrated in order to</p>	<p>禁止物質又はその代謝物若しくはマーカールの存在を追認した場合、又は競技者が分けられた検体の確認部分の分析を放棄した場合。</p> <p>[第2.1.2 項の解説：結果管理に責任を有するアンチ・ドーピング機関は、競技者がB 検体の分析を要求しない場合であっても、その裁量によりB 検体の分析を実施させることができる。]</p> <p>2.1.3 禁止表又はテクニカルドキュメントに判断限界が明記されている物質を除き、競技者の検体に禁止物質又はその代謝物若しくはマーカールの存在が検出されたことが報告された場合、その量の多寡にかかわらず、アンチ・ドーピング規則違反が成立する。</p> <p>2.1.4 第2.1 項における一般原則の例外として、特定の禁止物質についての報告又は評価に関する特別な基準を禁止表、国際基準又はテクニカルドキュメントにおいて定めることができる。</p> <p>2.2 競技者が禁止物質若しくは禁止方法を使用すること又はその使用を企てること</p> <p>[第2.2 項の解説：信頼できる方法により、禁止物質若しくは禁止方法を使用すること、又、はその使用を企てることが証明されてきた。第3.2 項に対する解説に記載するように、第2.1 項に基づくアンチ・ドーピング規則違反に該当することを証明するために求められる証拠と異なり、禁止物質若しくは禁止方法を使用すること又はその使用を企てることは、競技者の自認、証人の証言、書証、アスリート・バイオロジカル・パスポートの一環として収集された長期間のプロファイリングから得られた結論、又は、第2.1 項に基づく禁止物質の存在そのものを証明するための要件すべてを満たしているわけではない分析情報等、信頼できる方法により証明される可能性がある。</p> <p>例えば、アンチ・ドーピング機関から、他方の検体による追認がないことについて納得できる説明がなされた場合には、A 検体の分析 (B 検体の分析による追認がなくても) 又は B 検体のみの分析から得られた信頼できる分析データにより禁止物質の使用が証明されることもある。]</p> <p>2.2.1 禁止物質が体内に入らないようにすること及び禁止方法を使用しないようにすることは、競技者が自ら取り組まなければならない責務である。ゆえに、禁止物質又は禁止方法の使用についてのアンチ・ドーピング規則違反を証明するために</p>
--	---

2

3

<p>establish an anti-doping rule violation for <i>Use of a Prohibited Substance</i> or a <i>Prohibited Method</i>.</p> <p>2.2.2 The success or failure of the <i>Use</i> or <i>Attempted Use</i> of a <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i> is not material. It is sufficient that the <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i> was <i>Used</i> or <i>Attempted</i> to be <i>Used</i> for an anti-doping rule violation to be committed.⁴</p> <p>[Comment to Article 2.2.2: Demonstrating the “Attempted Use” of a Prohibited Substance or a Prohibited Method requires proof of intent on the Athlete’s part. The fact that intent may be required to prove this particular anti-doping rule violation does not undermine the Strict Liability principle established for violations of Article 2.1 and violations of Article 2.2 in respect of Use of a Prohibited Substance or Prohibited Method.</p> <p>An Athlete’s Use of a Prohibited Substance constitutes an anti-doping rule violation unless such substance is not prohibited Out-of-Competition and the Athlete’s Use takes place Out-of-Competition. (However, the presence of a Prohibited Substance or its Metabolites or Markers in a Sample collected In-Competition is a violation of Article 2.1 regardless of when that substance might have been administered.)]</p> <p>2.3 Evading, Refusing or Failing to Submit to Sample Collection by an Athlete</p> <p>Evading Sample collection; or refusing or failing to submit to Sample collection without compelling justification after notification by a duly authorised Person.⁵</p> <p>[Comment to Article 2.3: For example, it would be an anti-doping rule violation of “evading Sample collection” if it were established that an Athlete was deliberately avoiding a Doping Control official to evade notification or Testing. A violation of “failing to submit to Sample collection” may be based on either intentional or negligent conduct of the Athlete, while “evading” or “refusing” Sample collection contemplates intentional conduct by the Athlete.]</p> <p>2.4 Whereabouts Failures by an Athlete</p> <p>Any combination of three (3) missed tests and/or filing failures, as defined in the <i>International Standard for Results Management</i>, within a twelve (12) month</p>	<p>は、競技者側の使用に関しての意図、過誤、過失又は使用を知っていたことが証明される必要はない。</p> <p>2.2.2 禁止物質若しくは禁止方法の使用又は使用の企てが成功したか否かは重要ではない。アンチ・ドーピング規則違反は、禁止物質若しくは禁止方法を使用したこと、又はその使用を企てたことにより成立する。</p> <p>[第2.2.2 項の解説：禁止物質又は禁止方法の「使用を企てたこと」の証明には、競技者側に意図があったことの証明が求められる。特定のアンチ・ドーピング規則違反を証明するために意図が求められるという事実は、禁止物質又は禁止方法の使用に関する第2.1 項及び第2.2 項の違反の証明における厳格責任原則を損なうものではない。</p> <p>使用した物質が競技会外において禁止されておらず、かつ、競技者の禁止物質の使用が競技会外でなされたという場合でない限り、競技者の禁止物質の使用は、アンチ・ドーピング規則違反を構成する（但し、禁止物質又はその代謝物若しくはマーカーが競技会（時）において採取された検体に存在した場合には、いつの時点において当該物質が投与されていたかに関係なく、第 2.1 項に違反する。）]</p> <p>2.3 競技者による検体の採取の回避、拒否又は不履行</p> <p>検体の採取を回避し、又は適式に授權された人から通告を受けた後にやむを得ない理由によることなく検体の採取を拒否し若しくはこれを履行しないこと。</p> <p>[第2.3 項の解説：例えば、競技者が、通告又は検査を回避するために、ドーピング・コントロール役員を意図的に避けていたことが証明された場合には、当該行為はアンチ・ドーピング規則における「検体の採取の回避」の違反となる。「検体採取の不履行」という違反は競技者の意図的な又は過誤による行為に基づくことがあるが、検体採取の「回避」又は「拒否」の場合には競技者の意図的な行為に基づく。]</p> <p>2.4 競技者による居場所情報関連義務違反</p> <p>登録検査対象者リストに含まれる競技者による12ヶ月間の期間内における、「結果管理に関する国際基準」に定義されたとおりの3回の検査未了及</p>
--	--

4

5

<p>period by an <i>Athlete</i> in a <i>Registered Testing Pool</i>.</p>	<p>び／又は提出義務違反の組み合わせ。</p>
<p>2.5 Tampering or Attempted Tampering with any part of Doping Control by an Athlete or Other Person</p>	<p>2.5 競技者又はその他の人が、ドーピング・コントロールの一部に不正干渉を行い、又は不正干渉を企てること</p>
<p>2.6 Possession of a Prohibited Substance or a Prohibited Method by an Athlete or Athlete Support Person</p>	<p>2.6 競技者又はサポートスタッフが禁止物質又は禁止方法を保有すること</p>
<p>2.6.1 Possession by an Athlete In-Competition of any Prohibited Substance or any Prohibited Method, or Possession by an Athlete Out-of-Competition of any Prohibited Substance or any Prohibited Method which is prohibited Out-of-Competition unless the Athlete establishes that the Possession is consistent with a Therapeutic Use Exemption (“TUE”) granted in accordance with Article 4.4 or other acceptable justification.</p>	<p>2.6.1 競技会(時)において禁止物質若しくは禁止方法を競技者が保有し、又は競技会外において競技会外における禁止物質若しくは禁止方法を競技者が保有すること。但し、当該保有が第4.4項の規定に従って付与された治療使用特例(以下「TUE」という。)又はその他の正当な理由に基づくものであることを競技者が証明した場合は、この限りではない。</p>
<p>2.6.2 Possession by an Athlete Support Person In-Competition of any Prohibited Substance or any Prohibited Method, or Possession by an Athlete Support Person Out-of-Competition of any Prohibited Substance or any Prohibited Method which is prohibited Out-of-Competition in connection with an Athlete, Competition or training, unless the Athlete Support Person establishes that the Possession is consistent with a TUE granted to an Athlete in accordance with Article 4.4 or other acceptable justification.⁶</p>	<p>2.6.2 競技者、競技会、又はトレーニングに関して、禁止物質若しくは禁止方法を競技会(時)においてサポートスタッフが保有し、又は競技会外で禁止されている禁止物質若しくは禁止方法を競技会外においてサポートスタッフが保有すること。但し、当該保有が第4.4項の規定に従って競技者に付与されたTUE又はその他の正当な理由に基づくものであることをサポートスタッフが証明した場合は、この限りではない。</p>
<p>[Comment to Articles 2.6.1 and 2.6.2: Acceptable justification would not include, for example, buying or Possessing a Prohibited Substance for purposes of giving it to a friend or relative, except under justifiable medical circumstances where that Person had a physician’s prescription, e.g., buying Insulin for a diabetic child.]</p>	<p>[第2.6.1項及び第2.6.2項の解説：例えば、医師の処方箋に基づき、糖尿病の子供のためにインスリンを購入する場合のように、医療上の正当な事由がある場合を除き、友人や親戚に与えることを目的として禁止物質を購入又は保有しているような場合には、正当な理由があるものとは認められない。]</p>
<p>[Comment to Article 2.6.1 and 2.6.2: Acceptable justification may include, for example, (a) an Athlete or a team doctor carrying Prohibited Substances or Prohibited Methods for dealing with acute and emergency situations (e.g., an epinephrine auto-injector), or (b) an Athlete Possessing a Prohibited Substance or Prohibited Method for therapeutic reasons shortly prior to applying for and receiving a determination on a TUE.]</p>	<p>[第2.6.1項及び第2.6.2項の解説：例えば、(a)競技者又はチームドクターが急性又は緊急の場合に処置を行うために禁止物質又は禁止方法(例えば、エピネフリン自己注射器)を保有しているような場合、(b)競技者がTUEに関する決定の申請又は受領の少し前に治療上の理由により禁止物質又は禁止方法を保有する場合には、正当な理由があるものと認められる可能性がある。]</p>
<p>2.7 Trafficking or Attempted Trafficking in any Prohibited Substance or Prohibited Method by an Athlete or Other Person</p>	<p>2.7 競技者又はその他の人が、禁止物質若しくは禁止方法の不正取引を実行し、又は不正取引を企てること</p>
<p>2.8 Administration or Attempted Administration by an Athlete or Other Person to any Athlete In-Competition of any Prohibited Substance or Prohibited Method, or Administration or Attempted Administration</p>	<p>2.8 競技者又はその他の人が、競技会(時)において、競技者に対して禁止物質若しくは禁止方法を投与すること、若しくは投与を企てること、又は競技会外において、競技者に対して競技会外で禁</p>

<p>to any <i>Athlete Out-of-Competition</i> of any <i>Prohibited Substance</i> or any <i>Prohibited Method</i> that is <i>Prohibited Out-of-Competition</i></p>	<p>止されている禁止物質若しくは禁止方法を投与すること、若しくは投与を企てること</p>
<p>2.9 Complicity or Attempted Complicity by an Athlete or Other Person</p>	<p>2.9 競技者又はその他の人が、違反関与を行い、又は違反関与を企てること</p>
<p>Assisting, encouraging, aiding, abetting, conspiring, covering up or any other type of intentional complicity or <i>Attempted</i> complicity involving an anti-doping rule violation, <i>Attempted</i> anti-doping rule violation or violation of Article 10.14.1 by another <i>Person</i>.⁷</p>	<p>他の人によるアンチ・ドーピング規則違反、アンチ・ドーピング規則違反の企て又は第 10.14.1 項の違反に関する、支援、助長、援助、教唆、共謀、隠蔽その他のあらゆる意図的な違反への関与又は関与の企て。</p>
<p>[<i>Comment to Article 2.9: Complicity or Attempted Complicity may include either physical or psychological assistance.</i>]</p>	<p>[第 2.9 項の解説：違反関与又は違反関与の企ては、物理的な支援と心理的な支援とを含む。]</p>
<p>2.10 Prohibited Association by an Athlete or Other Person</p>	<p>2.10 競技者又はその他の人が特定の対象者と関わること</p>
<p>2.10.1 Association by an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> subject to the authority of an <i>Anti-Doping Organisation</i> in a professional or sport-related capacity with any <i>Athlete Support Person</i> who:</p>	<p>2.10.1 アンチ・ドーピング機関の管轄に服する競技者又はその他の人による、職務上又はスポーツと関連する立場での以下の事項に該当するサポートスタッフとの関わり。</p>
<p>2.10.1.1 If subject to the authority of an <i>Anti-Doping Organisation</i>, is serving a period of <i>Ineligibility</i>; or</p>	<p>2.10.1.1 アンチ・ドーピング機関の管轄に服するサポートスタッフであって、資格停止期間中であるもの。</p>
<p>2.10.1.2 If not subject to the authority of an <i>Anti-Doping Organisation</i>, and where <i>Ineligibility</i> has not been addressed in a <i>Results Management</i> process pursuant to the <i>Code</i>, has been convicted or found in a criminal, disciplinary or professional proceeding to have engaged in conduct which would have constituted a violation of anti-doping rules if <i>Code</i>-compliant rules had been applicable to such <i>Person</i>. The disqualifying status of such <i>Person</i> shall be in force for the longer of six (6) years from the criminal, professional or disciplinary decision or the duration of the criminal, disciplinary or professional sanction imposed; or</p>	<p>2.10.1.2 アンチ・ドーピング機関の管轄に服しておらず、世界規程に基づく結果管理手続において資格停止の問題が取り扱われていないサポートスタッフであって、仮にかかると世界規程に準拠した規則が適用されたならばアンチ・ドーピング規則違反を構成したであろう行為について、刑事手続、懲戒手続若しくは職務上の手続において有罪判決を受け、又はかかる事実が認定されたもの。かかる人の関わりが禁止される状態は、刑事、職務上若しくは懲戒の決定から 6 年間、又は課された刑事、懲戒若しくは職務上の制裁措置の存続期間のいずれか長い方の期間、有効とする。又は、</p>
<p>2.10.1.3 Is serving as a front or intermediary for an individual described in Article 2.10.1.1 or 2.10.1.2.</p>	<p>2.10.1.3 第 2.10.1.1 項又は第 2.10.1.2 項に記載される個人のための窓口又は仲介者として行動しているサポートスタッフ。</p>
<p>2.10.2 To establish a violation of Article 2.10, an <i>Anti-Doping Organisation</i> must establish that the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> knew of the <i>Athlete Support Person</i>'s disqualifying status.</p>	<p>2.10.2 第 2.10 項の違反を立証するためには、アンチ・ドーピング機関は、競技者又はその他の人が、当該サポートスタッフが関わりを禁止される状態にあることを知っていたことを立証しなければならない。</p>
<p>The burden shall be on the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> to establish that any association with an <i>Athlete Support</i></p>	<p>第 2.10.1.1 項又は第 2.10.1.2 項に記載されたサポートスタッフとの関わりが、職務上又はスポーツと</p>

6

7

<p>Person described in Article 2.10.1.1 or 2.10.1.2 is not in a professional or sport-related capacity and/or that such association could not have been reasonably avoided.</p>	<p>関連する立場においてなされたものではないこと及び／又は当該関わりが合理的に回避不能であったことの挙証責任は、競技者又はその他の人がこれを負う。</p>
<p>Anti-Doping Organisations that are aware of Athlete Support Personnel who meet the criteria described in Article 2.10.1.1, 2.10.1.2, or 2.10.1.3 shall submit that information to WADA.⁸</p>	<p>第 2.10.1.1 項、第 2.10.1.2 項又は第 2.10.1.3 項に記載された基準に該当するサポートスタッフを認識したアンチ・ドーピング機関は、当該情報を WADA に提出するものとする。</p>
<p><i>[Comment to Article 2.10: Athletes and other Persons must not work with coaches, trainers, physicians or other Athlete Support Personnel who are Ineligible on account of an anti-doping rule violation or who have been criminally convicted or professionally disciplined in relation to doping. This also prohibits association with any other Athlete who is acting as a coach or Athlete Support Person while serving a period of Ineligibility. Some examples of the types of association which are prohibited include: obtaining training, strategy, technique, nutrition or medical advice; obtaining therapy, treatment or prescriptions; providing any bodily products for analysis; or allowing the Athlete Support Person to serve as an agent or representative. Prohibited association need not involve any form of compensation.</i></p> <p><i>While Article 2.10 does not require the Anti-Doping Organisation to notify the Athlete or other Person about the Athlete Support Person's disqualifying status, such notice, if provided, would be important evidence to establish that the Athlete or other Person knew about the disqualifying status of the Athlete Support Person.]</i></p>	<p><i>[第 2.10 項の解説：競技者又はその他の人は、アンチ・ドーピング規則違反を理由として資格停止の対象となっており、又はドーピングに関連して刑事上有罪とされ若しくは職務上において懲戒処分を受けているコーチ、トレーナー、医師その他のサポートスタッフとともに活動してはならない。これは、資格停止期間中にコーチ又はサポートスタッフとして行動する他の競技者と関わることも禁止している。禁止の対象とされる関わりの中のいくつかの事例として、以下の事項がある。トレーニング、戦術、技術、栄養若しくは医療上の助言を得ること、セラピー、治療若しくは処方を受けること、体内生成物を分析のために提供すること、又はサポートスタッフが代理人若しくは代表者となることを認めること。禁止される特定の対象者との関わりの成立には、いかなる対価の提供も要さない。</i></p> <p><i>第 2.10 項は、アンチ・ドーピング機関が、サポートスタッフに関わりを禁止されている状態にあることを競技者又はその他の人に通知することを義務づけのないものの、当該通知が提供された場合には、競技者又はその他の人が、当該サポートスタッフに関わりを禁止されている状態にあることを知っていたことを立証する上で重要な証拠となる。]</i></p>
<p>2.11 Acts by an Athlete or Other Person to Discourage or Retaliate Against Reporting to Authorities</p>	<p>2.11 競技者又はその他の人が、当局への報告を阻止し、又は当局への通報に対して報復する行為</p>
<p>Where such conduct does not otherwise constitute a violation of Article 2.5:</p>	<p>当該行為が別途第 2.5 項の違反を構成しない場合において：</p>
<p>2.11.1 Any act which threatens or seeks to intimidate another Person with the intent of discouraging the Person from the good-faith reporting of information that relates to an alleged anti-doping rule violation or alleged non-compliance with the Code to WADA, an Anti-Doping Organisation, law enforcement, regulatory or professional disciplinary body, hearing body or Person conducting an investigation for WADA or an Anti-Doping Organisation.</p>	<p>2.11.1 他人が、主張されたアンチ・ドーピング規則違反又は主張された世界規程の不遵守に関する情報を、WADA、アンチ・ドーピング機関、法執行機関、取締・専門規律組織、聴聞機関又はWADA 若しくはアンチ・ドーピング機関のための調査を遂行している人に誠実に通報することを阻止する意図をもって、かかる人を脅迫し、又は威嚇しようとする行為</p>
<p>2.11.2 Retaliation against a Person who, in good faith, has provided evidence or information that relates</p>	<p>2.11.2 主張されたアンチ・ドーピング規則違反又は主張された世界規程の不遵守に関する証拠又は</p>

<p>to an alleged anti-doping rule violation or alleged non-compliance with the <i>Code to WADA</i>, an <i>Anti-Doping Organisation</i>, law enforcement, regulatory or professional disciplinary body, hearing body or <i>Person</i> conducting an investigation for <i>WADA</i> or an <i>Anti-Doping Organisation</i>.</p> <p>For purposes of Article 2.11, retaliation, threatening and intimidation include an act taken against such <i>Person</i> either because the act lacks a good faith basis or is a disproportionate response.⁹</p> <p><i>[Comment to Article 2.11.2: This Article is intended to protect Persons who make good faith reports, and does not protect Persons who knowingly make false reports.]</i> <i>[Comment to Article 2.11.2: Retaliation would include, for example, actions that threaten the physical or mental well-being or economic interests of the reporting Persons, their families or associates. Retaliation would not include an Anti-Doping Organisation asserting in good faith an anti-doping rule violation against the reporting Person. For purposes of Article 2.11, a report is not made in good faith where the Person making the report knows the report to be false.]</i></p>	<p>情報を、WADA、アンチ・ドーピング機関、法執行機関、取締・専門規律組織、聴聞機関又は WADA 若しくはアンチ・ドーピング機関のための調査を遂行している人に誠実に提供した人に対して報復すること</p> <p>第 2.11 項において、報復、脅迫及び威嚇とは、人の行為が誠実さを欠き又は不相当な対応であるという理由で、当該人に対して行われる行為を含む。</p> <p><i>[第 2.11.2 項の解説: 本項は、誠実に通報する人を保護する意図を有し、故意に虚偽の通報を行う人を保護しない。]</i></p> <p><i>[第 2.11.2 項の解説: 報復とは、例えば、通報する人、その家族又は懇意とする人の身体的若しくは精神的健康又は経済的利益を脅かす行為を含む。報復とは、通報する人に対し、アンチ・ドーピング機関が誠実にアンチ・ドーピング規則違反を主張することを含まない。第 2.11 項において、通報する人が当該通報が虚偽であることを知っている場合には、当該通報は誠実に行われたものとはいえない。]</i></p>
<p>ARTICLE 3 PROOF OF DOPING</p> <p>3.1 Burdens and Standards of Proof</p> <p><i>JADA</i> shall have the burden of establishing that an anti-doping rule violation has occurred. The standard of proof shall be whether <i>JADA</i> has established an anti-doping rule violation to the comfortable satisfaction of the hearing panel, bearing in mind the seriousness of the allegation which is made. This standard of proof in all cases is greater than a mere balance of probability but less than proof beyond a reasonable doubt. Where these Anti-Doping Rules place the burden of proof upon the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> alleged to have committed an anti-doping rule violation to rebut a presumption or establish specified facts or circumstances, except as provided in Articles 3.2.2 and 3.2.3, the standard of proof shall be by a balance of probability.¹⁰</p> <p><i>[Comment to Article 3.1: This standard of proof required to be met by JADA is comparable to the standard which is applied in most countries to cases involving professional misconduct.]</i></p> <p>3.2 Methods of Establishing Facts and</p>	<p>第 3 条 ドーピングの証明</p> <p>3.1 挙証責任及び証明の程度</p> <p>アンチ・ドーピング規則違反が発生したことを証明する責任は、<i>JADA</i> が負うものとする。証明の程度は、聴聞パネルが <i>JADA</i> の主張が真摯に行われているという心証を持ち、納得できる程度にアンチ・ドーピング規則違反を <i>JADA</i> が証明できたか否かとする。当該証明の程度は、すべての事案について単なる証拠の優越の程度は超えるべきであるが、合理的疑いの余地がない程度に証明される必要はない。一方、アンチ・ドーピング規則に違反したと主張された競技者又はその他の人が推定事項に反論し、又は特定の事実や事情を証明するためには、第 3.2.2 項及び第 3.2.3 項に定める場合を除き、証明の程度は、証拠の優越とする。</p> <p><i>[第 3.1 項の解説: 本項にいう <i>JADA</i> 側に求められる証明の程度は、職務上の不正行為に関する事案においてほとんどの国で適用されている基準とほぼ同一である。]</i></p> <p>3.2 事実の証明方法及び推定の方法</p>

9

10

Presumptions

Facts related to anti-doping rule violations may be established by any reliable means, including admissions.¹¹ The following rules of proof shall be applicable in doping cases:

[Comment to Article 3.2: For example, JADA may establish an anti-doping rule violation under Article 2.2 based on the Athlete's admissions, the credible testimony of third Persons, reliable documentary evidence, reliable analytical data from either an A or B Sample as provided in the Comments to Article 2.2, or conclusions drawn from the profile of a series of the Athlete's blood or urine Samples, such as data from the Athlete Biological Passport.]

3.2.1 Analytical methods or Decision Limits approved by WADA after consultation within the relevant scientific community or which have been the subject of peer review are presumed to be scientifically valid. Any Athlete or other Person seeking to challenge whether the conditions for such presumption have been met or to rebut this presumption of scientific validity shall, as a condition precedent to any such challenge, first notify WADA of the challenge and the basis of the challenge. The initial hearing body, appellate body or CAS, on its own initiative, may also inform WADA of any such challenge. Within ten (10) days of WADA's receipt of such notice and the case file related to such challenge, WADA shall also have the right to intervene as a party, appear as amicus curiae or otherwise provide evidence in such proceeding. In cases before CAS, at WADA's request, the CAS panel shall appoint an appropriate scientific expert to assist the panel in its evaluation of the challenge.¹²

[Comment to Article 3.2.1: For certain Prohibited Substances, WADA may instruct WADA-accredited laboratories not to report Samples as an Adverse Analytical Finding if the estimated concentration of the Prohibited Substance or its Metabolites or Markers is below a Minimum Reporting Level. WADA's decision in determining that Minimum Reporting Level or in determining which Prohibited Substances should be subject to Minimum Reporting Levels shall not be subject to challenge. Further, the laboratory's estimated concentration of such Prohibited Substance in a Sample may only be an estimate. In no event shall the possibility that the exact concentration of the Prohibited Substance in the Sample may be below the Minimum Reporting Level constitute a defence to an anti-doping rule violation based on the presence of that Prohibited Substance in the Sample.]

アンチ・ドーピング規則違反に関する事実は、自認を含むあらゆる信頼性における手段により証明される。ドーピング事案においては、次の証明原則が適用される。

[第3.2項の解説：例えば、JADAは、第2.2項におけるアンチ・ドーピング規則違反を、競技者の自認、第三者による信頼できる証言、信頼できる書証、第2.2項の解説に規定されているような信頼できるA検体若しくはB検体に基づく分析データ、又はアスリート・バイオロジカル・パスポートから得られたデータ等、競技者の血液や尿の検体から得られた検査結果により証明することができる。]

3.2.1 関係する科学コミュニティ内における協議を経た後 WADA により承認され、又はピアレビューを経た分析方法及び判断限界の設定は、科学的に有効なものであると推定される。当該推定の条件が充足されていることに対して異議を申し述べ、又は当該科学的有効性の推定に異議を述べようとする競技者又はその他の人は、当該異議の前提条件として、まず当該異議及び当該異議の根拠につき WADA に通知することを要する。第一審の聴聞機関、不服申立機関、又は CAS も独自の判断に基づき、当該反論につき WADA に通知することができる。WADA は、WADA による当該通知の受領及び当該異議に関連する案件記録の受領から 10 日以内に、当該手続において当事者として介入し、法廷助言人として参加し、又は、別途証拠を提供することができるものとする。CAS の面前における事案では、CAS パネルは、WADA からの要請があった場合、当該パネルによる当該反論の評価作業につき補助を受けるために、適切な科学的専門家を任命するものとする。

[第3.2.1項の解説：特定の禁止物質について、禁止物質又はその代謝物若しくはマーカーの推定濃度が最低報告レベルを下回る場合には、WADA は WADA 認定分析機関に対し、検体を違反が疑われる分析報告として報告しないよう指示することができる。当該最低報告レベルの決定又はいずれの禁止物質が最低報告レベルの対象であるかの決定にあたっての WADA の判断は、異議の対象とはならないものとする。さらに、検体における禁止物質の分析機関による推定濃度は推定に過ぎない。検体における禁止物質の正確な濃度が最低報告レベルを下回る可能性があるということは、いかなる場合であっても、検体において当該禁止物質が存在することにに基づくアンチ・ドーピング規則違反に対する抗弁を構成しないものとする。]

3.2.2 WADA-accredited laboratories, and other laboratories approved by WADA, are presumed to have conducted *Sample* analysis and custodial procedures in accordance with the *International Standard for Laboratories*. The *Athlete* or other *Person* may rebut this presumption by establishing that a departure from the *International Standard for Laboratories* occurred which could reasonably have caused the *Adverse Analytical Finding*.

If the *Athlete* or other *Person* rebuts the preceding presumption by showing that a departure from the *International Standard for Laboratories* occurred which could reasonably have caused the *Adverse Analytical Finding*, then JADA shall have the burden to establish that such departure did not cause the *Adverse Analytical Finding*.¹³

[Comment to Article 3.2.2: The burden is on the *Athlete* or other *Person* to establish, by a balance of probability, a departure from the *International Standard for Laboratories* that could reasonably have caused the *Adverse Analytical Finding*. Thus, once the *Athlete* or other *Person* establishes the departure by a balance of probability, the *Athlete* or other *Person*'s burden on causation is the somewhat lower standard of proof—“could reasonably have caused.” If the *Athlete* or other *Person* satisfies these standards, the burden shifts to JADA to prove to the comfortable satisfaction of the hearing panel that the departure did not cause the *Adverse Analytical Finding*.]

3.2.3 Departures from any other *International Standard* or other anti-doping rule or policy set forth in the *Code* or these Anti-Doping Rules shall not invalidate analytical results or other evidence of an anti-doping rule violation, and shall not constitute a defense to an anti-doping rule violation;¹⁴ provided, however, if the *Athlete* or other *Person* establishes that a departure from one of the specific *International Standard* provisions listed below could reasonably have caused an anti-doping rule violation based on an *Adverse Analytical Finding* or whereabouts failure, then JADA shall have the burden to establish that such departure did not cause the *Adverse Analytical Finding* or the whereabouts failure:

[Comment to Article 3.2.3: Departures from an *International Standard* or other rule unrelated to *Sample* collection or handling, *Adverse Passport Finding*, or *Athlete* notification relating to whereabouts failure or B

3.2.2 WADA 認定の分析機関その他 WADA の承認する分析機関では、「分析機関に関する国際基準」に基づいて検体の分析及び管理の手続を実施しているものと推定される。競技者又はその他の人は、違反が疑われる分析報告の合理的な原因となりうるような、「分析機関に関する国際基準」からの乖離が発生したことを証明することにより上記の推定に反論できる。

競技者又はその他の人が、違反が疑われる分析報告の合理的な原因となりうるような「分析機関に関する国際基準」からの乖離が発生したことを提示することによって上記の推定に反論しようとする場合には、JADA は、当該乖離が、違反が疑われる分析報告の原因ではないことを証明する責任を負うものとする。

[第3.2.2 項の解説：違反が疑われる分析報告の合理的な原因となりうるような「分析機関に関する国際基準」からの乖離を証拠の優越により証明する責任は、競技者又はその他の人が負う。よって、一旦、競技者又はその他の人が乖離の事実を証拠の優越により証明した場合、因果関係に関する競技者又はその他の人の举证責任は若干低い—「合理的に引き起こされる可能性があったか」というものになる。競技者又はその他の人がこれらの基準を充足した場合には、举证責任はJADA に移り、当該乖離が、違反が疑われる分析報告の原因ではなかった旨を、聴聞パネルが納得できる程度に証明する責任をJADA が負うことになる。]

3.2.3 その他の何らかの国際基準、又は世界規程若しくは本規程に定める他のアンチ・ドーピング規則若しくは規範からの乖離があっても、分析結果その他アンチ・ドーピング規則違反の証拠を無効化せず、アンチ・ドーピング規則違反に対する抗弁を構成しないものとする。但し、競技者又はその他の人が、以下に列挙する特定の国際基準の規定からの乖離が、違反が疑われる分析報告又は居場所情報関連義務違反に基づくアンチ・ドーピング規則違反の合理的な原因となり得たことを証明した場合には、JADA は、当該乖離が、違反が疑われる分析報告又は居場所情報関連義務違反を発生させたものではなかったことを証明する責任を負うものとする。

[第3.2.3 項の解説：国際基準その他検体の採取又は取扱いに関連しない規則からの乖離、アスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく違反が疑われる報告、又は居場所情報関連義務違反若しく

11
12
13
14

Sample opening – e.g., the International Standards for Education, Data Privacy or TUEs – may result in compliance proceedings by WADA but are not a defence in an anti-doping rule violation proceeding and are not relevant on the issue of whether the Athlete committed an anti-doping rule violation. Similarly, JADA’s violation of the document referenced in Article 20.7.7 of the Code shall not constitute a defence to an anti-doping rule violation.]

(i) a departure from the *International Standard for Testing and Investigations* related to *Sample* collection or *Sample* handling which could reasonably have caused an anti-doping rule violation based on an *Adverse Analytical Finding*, in which case JADA shall have the burden to establish that such departure did not cause the *Adverse Analytical Finding*;

(ii) a departure from the *International Standard for Results Management* or *International Standard for Testing and Investigations* related to an *Adverse Passport Finding* which could reasonably have caused an anti-doping rule violation, in which case JADA shall have the burden to establish that such departure did not cause the anti-doping rule violation;

(iii) a departure from the *International Standard for Results Management* related to the requirement to provide notice to the *Athlete* of the *B Sample* opening which could reasonably have caused an anti-doping rule violation based on an *Adverse Analytical Finding*, in which case JADA shall have the burden to establish that such departure did not cause the *Adverse Analytical Finding*;¹⁵

[Comment to Article 3.2.3 (iii): JADA would meet its burden to establish that such departure did not cause the Adverse Analytical Finding by showing that, for example, the B Sample opening and analysis were observed by an independent witness and no irregularities were observed.]

(iv) a departure from the *International Standard for Results Management* related to *Athlete* notification which could reasonably have caused an anti-doping rule violation based on a whereabouts failure, in which case JADA shall have the burden to establish that such departure did not cause the whereabouts failure.

3.2.4 The facts established by a decision of a court or professional disciplinary tribunal of competent

は B 検体の開封に関する競技者への通知—例えば、教育、データ・プライバシー又はTUEに関する国際基準—からの乖離の結果、WADA によるコンプライアンス手続が講じられる可能性があるが、アンチ・ドーピング規則違反の手続における抗弁とはならず、また、競技者がアンチ・ドーピング規則違反を行ったか否かという論点に関連性を有しない。同様に、JADA による第20.7.7 項において言及される文書の違反は、アンチ・ドーピング規則違反に対する抗弁を構成しないものとする。]

(i) 検体の採取又は検体の取扱いに関する「検査及びドーピング調査に関する国際基準」からの乖離であって、違反が疑われる分析報告に基づくアンチ・ドーピング規則違反を合理的に発生させた可能性のあるもの。かかる場合には、JADA が、当該乖離が違反が疑われる分析報告を発生させたものではなかったことを証明する責任を負う。

(ii) アスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく違反が疑われる分析報告に関する「結果管理に関する国際基準」又は「検査及びドーピング調査に関する国際基準」からの乖離であって、アンチ・ドーピング規則違反を合理的に発生させた可能性のあるもの。かかる場合には、JADA が、当該乖離がアンチ・ドーピング規則違反を発生させたものではなかったことを証明する責任を負う。

(iii) B 検体の開封において競技者に通知する要件に関する「結果管理に関する国際基準」からの乖離であって、違反が疑われる分析報告に基づくアンチ・ドーピング規則違反を合理的に発生させた可能性のあるもの。かかる場合には、JADA が、当該乖離が違反が疑われる分析報告を発生させたものではなかったことを証明する責任を負う。

[第3.2.3 項(iii)の解説: JADA は、例えば、B 検体の開封及び分析が独立の証人により観察されており、不規則性が観察されなかったことを示すことによって、当該乖離が違反が疑われる分析報告を発生させたものではなかったことを証明する責任を果たしたことになる。]

(iv) 競技者への通知に関する「結果管理に関する国際基準」からの乖離であって、居場所情報関連義務違反に基づきアンチ・ドーピング規則違反を合理的に発生させた可能性のあるもの。かかる場合には、JADA が、当該乖離が居場所情報関連義務違反を発生させたものではなかったことを証明する責任を負う。

3.2.4 管轄権を有する裁判所又は職務上の懲戒の裁決機関により下され、それについて不服申

<p>jurisdiction which is not the subject of a pending appeal shall be irrebuttable evidence against the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> to whom the decision pertained of those facts unless the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> establishes that the decision violated principles of natural justice.</p> <p>3.2.5 The hearing panel in a hearing on an anti-doping rule violation may draw an inference adverse to the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who is asserted to have committed an anti-doping rule violation based on the <i>Athlete's</i> or other <i>Person's</i> refusal, after a request made in a reasonable time in advance of the hearing, to appear at the hearing (either in person or telephonically as directed by the hearing panel) and to answer questions from the hearing panel or <i>JADA</i>.</p>	<p>立てがなされていない決定によって証明された事実については、その事実に関する決定の名宛人である <i>競技者</i>又はその他の人において、当該決定が自然的正義の原則に反するものであることを証明しない限り、その <i>競技者</i>又はその他の人にとって反証できない証拠となる。</p> <p>3.2.5 聴聞会までに合理的な時間的余裕を与えた上での要請の後に、(直接又は聴聞パネルの指示に基づき電話により) 聴聞会に出頭し、かつ、聴聞パネル又は <i>JADA</i> からの質問に対して回答することについて、<i>競技者</i>又はその他の人がこれを拒絶した場合には、聴聞パネルは、アンチ・ドーピング規則違反の聴聞会において、その事実を根拠として、アンチ・ドーピング規則に違反した旨を主張された <i>競技者</i>又はその他の人に対して不利益となる推定を行うことができる。</p>

ARTICLE 4 THE PROHIBITED LIST

4.1 Incorporation of the Prohibited List

These Anti-Doping Rules incorporate the *Prohibited List* which is published and revised by WADA as described in Article 4.1 of the *Code*.

Unless provided otherwise in the *Prohibited List* or a revision, the *Prohibited List* and revisions shall go into effect under these Anti-Doping Rules three (3) months after publication by WADA without requiring any further action by JADA. All *Athletes* and other *Persons* shall be bound by the *Prohibited List*, and any revisions thereto, from the date they go into effect, without further formality. It is the responsibility of all *Athletes* and other *Persons* to familiarise themselves with the most up-to-date version of the *Prohibited List* and all revisions thereto.¹⁶

[Comment to Article 4.1: The current *Prohibited List* is available on WADA's website at <https://www.wada-ama.org>. The *Prohibited List* will be revised and published on an expedited basis whenever the need arises. However, for the sake of predictability, a new *Prohibited List* will be published every year whether or not changes have been made.]

4.2 Prohibited Substances and Prohibited Methods Identified on the Prohibited List

4.2.1 Prohibited Substances and Prohibited Methods

The *Prohibited List* shall identify those *Prohibited Substances* and *Prohibited Methods* which are prohibited as doping at all times (both *In-Competition* and *Out-of-Competition*) because of their potential to enhance performance in future *Competitions* or their masking potential, and those substances and methods which are prohibited *In-Competition* only. The *Prohibited List* may be expanded by WADA for a particular sport. *Prohibited Substances* and *Prohibited Methods* may be included in the *Prohibited List* by general category (e.g., anabolic agents) or by specific reference to a particular substance or method.¹⁷

[Comment to Article 4.2.1: *Out-of-Competition Use of a substance which is only prohibited In-Competition is not an anti-doping rule violation unless an Adverse Analytical Finding for the substance or its Metabolites or Markers is reported for a Sample collected In-Competition.*]

4.2.2 Specified Substances or Specified Methods

For purposes of the application of Article 10, all *Prohibited Substances* shall be *Specified Substances* except as identified on the *Prohibited List*. No *Prohibited*

第4条 禁止表

4.1 禁止表の組み込み

本規程は、*世界規程*第 4.1 項に規定されており、WADA により公表され、改定される禁止表を組み込んでいる。

禁止表又は改定において別段の定めがない限り、禁止表及びその改定は、WADA により公表された 3 ヶ月後に、JADA による特別の行為を要せずに、本規程のもとで有効となる。競技者及びその他の人は、禁止表及びその改定事項の効力発生日以降、更なる形式要件を要することなく、禁止表及びその改定事項に拘束されるものとする。競技者及びその他の人全員は、最新版の禁止表及びそのすべての改定事項を認識しておくことについて責任を負う。

[第4.1 項の解説：現行の禁止表は、WADA のホームページ (www.wada-ama.org) より入手可能である。禁止表は、必要が生じた場合に迅速に改定され、公表される。但し、予見可能性を確保するため、変更の有無にかかわらず、新しい禁止表の公表は毎年行われる。]

4.2 禁止表において特定される禁止物質及び禁止方法

4.2.1 禁止物質及び禁止方法

禁止表は、将来実施される競技において競技力を向上するおそれ又は隠蔽のおそれがあるため、常に（競技会（時）及び競技会外において）ドーピングとして禁止される禁止物質及び禁止方法並びに競技会（時）においてのみ禁止される物質及び方法を特定する。禁止表は特定のスポーツに関しては WADA により拡充される場合がある。禁止物質及び禁止方法は、一般的区分（例、蛋白同化薬）又は個々の物質若しくは方法についての個別の引用という形で禁止表に掲げられる場合がある。

[第4.2.1 項の解説：競技会（時）においてのみ禁じられている物質を競技会外において使用することは、競技会（時）に採取された検体に、当該物質又はその代謝物若しくはマーカーについて違反が疑われる分析報告が報告されない限り、アンチ・ドーピング規則に違反するものではない。]

4.2.2 特定物質又は特定方法

第10条の適用にあたり、すべての禁止物質は、禁止表に明示されている場合を除き、「特定物質」とされるものとする。いかなる禁止方法も、禁止表

<p>Method shall be a Specified Method unless it is specifically identified as a Specified Method on the Prohibited List.¹⁸</p> <p>[Comment to Article 4.2.2: The Specified Substances and Methods identified in Article 4.2.2 should not in any way be considered less important or less dangerous than other doping substances or methods. Rather, they are simply substances and methods which are more likely to have been consumed or used by an Athlete for a purpose other than the enhancement of sport performance.]</p> <p>4.2.3 Substances of Abuse</p> <p>For purposes of applying Article 10, Substances of Abuse shall include those Prohibited Substances which are specifically identified as Substances of Abuse on the Prohibited List because they are frequently abused in society outside of the context of sport.</p> <p>4.3 WADA's Determination of the Prohibited List</p> <p>WADA's determination of the Prohibited Substances and Prohibited Methods that will be included on the Prohibited List, the classification of substances into categories on the Prohibited List, the classification of a substance as prohibited at all times or In-Competition only, the classification of a substance or method as a Specified Substance, Specified Method or Substance of Abuse is final and shall not be subject to any challenge by an Athlete or other Person including, but not limited to, any challenge based on an argument that the substance or method was not a masking agent or did not have the potential to enhance performance, represent a health risk or violate the spirit of sport.</p> <p>4.4 Therapeutic Use Exemptions ("TUEs")</p> <p>4.4.1 The presence of a Prohibited Substance or its Metabolites or Markers, and/or the Use or Attempted Use, Possession or Administration or Attempted Administration of a Prohibited Substance or Prohibited Method shall not be considered an anti-doping rule violation if it is consistent with the provisions of a TUE granted in accordance with the International Standard for Therapeutic Use Exemptions.</p> <p>4.4.2 TUE Application Process</p> <p>4.4.2.1 Any Athlete who is not an International-Level Athlete shall apply to JADA for a TUE as soon as</p>	<p>で「特定方法」であると具体的に明示されている場合を除き、特定方法ではないものとする。</p> <p>[第4.2.2 項の解説：第4.2.2 項において特定される特定物質及び特定方法は、いかなる意味においても、その他のドーピング物質又は方法と比べ重要性が低い、又は危険性が低いと判断されるべきではない。むしろ、これらの物質及び方法は、単に、競技力向上以外の目的のために競技者により摂取又は使用される可能性が高いというに過ぎないものである。]</p> <p>4.2.3 濫用物質</p> <p>第10条の適用にあたり、濫用物質とは、スポーツの文脈外で頻繁に濫用されるため禁止表において濫用物質であると具体的に特定される禁止物質を含むものとする。なぜなら、これらはスポーツの文脈外において頻繁に社会で濫用されるからである。</p> <p>4.3 禁止表の WADA による判断</p> <p>禁止表に掲げられる禁止物質及び禁止方法、禁止表の区分への物質の分類、常に若しくは競技会(時)のみににおいて禁止される物質の分類、特定物質、特定方法若しくは濫用物質としての物質又は方法の分類に関する WADA の判断は終局的なものであり、競技者又はその他の人は、いかなる異議(当該物質若しくは方法が隠蔽薬ではないこと、又は競技力向上効果がなく、健康被害を及ぼさず、若しくはスポーツの精神に反するおそれがないことに基づく異議を含むが、これらに限られない。)を唱えることもできないものとする。</p> <p>4.4 治療使用特例 (TUE)</p> <p>4.4.1 禁止物質若しくはその代謝物、マーカ存在、及び/又は禁止物質若しくは禁止方法の使用、使用の企て、保有若しくは投与、投与の企ては、「治療使用特例に関する国際基準」に基づき付与された TUE の条項に適合する場合には、アンチ・ドーピング規則違反とは判断されないものとする。</p> <p>4.4.2 TUE 申請手続</p> <p>4.4.2.1 国際レベルの競技者ではない競技者は、「治療使用特例に関する国際基準」の第 4.1 項又</p>
--	---

16

17

18

<p>possible, save where Articles 4.1 or 4.3 of the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i> apply. The application shall be made in accordance with Article 6 of the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i> as posted on JADA's website.</p> <p>4.4.2.2 JADA shall establish a panel TUE Committee (“TUEC”) to consider applications for the grant or recognition of TUEs in accordance with Article 4.4.2.2(a)-(d) below: In accordance with Article 5.3 of the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i>, <i>National Anti-Doping Organisations</i> are recommended to include provisions outlining the composition/procedure of their TUECs to facilitate the understanding of the TUE application process for <i>Athletes</i> (e.g. as to the number of TUEC members, the length of term, the impartiality requirements etc.). Below are example provisions which a <i>National Anti-Doping Organisation</i> could include in this regard.</p> <p>(a) The TUEC shall consist of a Chair and nine (9) other members with experience in the care and treatment of <i>Athletes</i> and sound knowledge of clinical, sports and exercise medicine. Each appointed member shall serve a term of four (4) years.</p> <p>(b) Before serving as a member of the TUEC, each member must sign a conflict of interest and confidentiality declaration. The appointed members shall not be employees of JADA.</p> <p>(c) When an application to JADA for the grant or recognition of a TUE is made, the Chair of the TUEC shall appoint three (3) members (which may include the Chair) to consider the application.</p> <p>(d) Before considering a TUE application, each member shall disclose to the Chair any circumstances likely to affect their impartiality with respect to the <i>Athlete</i> making the application. If a member appointed by the Chair to consider an application is unwilling or unable to assess the <i>Athlete's</i> TUE application, for any reason, the Chair may appoint a replacement or appoint a new TUEC (e.g., from the pre-established pool of candidates). The Chair cannot serve as a member of the TUEC if there are any circumstances which are likely to affect the impartiality of the TUE decision.</p> <p>4.4.2.3 The TUEC shall promptly evaluate and decide upon the application in accordance with the relevant provisions of the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i> and usually (i.e., unless exceptional circumstances apply) within no more than twenty-one (21) days of receipt of a complete application. Where the application is made in a reasonable time prior to an <i>Event</i>, the TUEC must use</p>	<p>は第 4.3 項が適用される場合を除き、可能な限り早く JADA に TUE を申請するものとする。申請は、JADA のウェブサイトに掲示されるとおり、「治療使用特例に関する国際基準」の第 6 条に従い行われるものとする。</p> <p>4.4.2.2 JADA は、下記第 4.4.2.2 項(a)から(d)までに従い、TUE の付与又は承認の申請を検討するためのパネルである TUE 委員会（以下「TUE 委員会」という。）を組成するものとする。 「治療使用特例に関する国際基準」の第 5.3 項に従い、国内アンチ・ドーピング機関は、競技者のための TUE 申請手続の理解を促進するために、自己の TUE 委員会の構成／手続の概要（例えば、TUE 委員会の委員数、就任期間、公平要件等）を示す条項を含めることが推奨される。下記は、国内アンチ・ドーピング機関がこの観点から含めることのできる条項の例である。</p> <p>(a) TUE 委員会は、競技者のケア及び治療について経験を有し、臨床、スポーツ及び運動医学について確実な知識を有する、審査長及び他の 9 名の委員により構成されるものとする。任命された各委員の任期は 4 年間とする。</p> <p>(b) TUE 委員会の委員となる前に、各委員は利益相反及び秘密保持の宣言書に署名しなければならない。任命された委員は JADA の職員であってはならない。</p> <p>(c) TUE の付与又は承認のために JADA に申請が行われた場合には、TUE 委員会の審査長は当該申請を検討するために 3 名の委員（審査長を含みうる）を任命するものとする。</p> <p>(d) TUE 申請を検討する前に、各委員は、申請を行う競技者に対する自己の公平性に影響を与える可能性のある事情を審査長に開示するものとする。申請を検討するために審査長に任命された委員が理由を問わず競技者の TUE 申請を評価したがらず又は評価することができない場合には、審査長は代替者又は新しい TUE 委員会を（例えば既存の候補者リストから）任命することができる。TUE の決定の公平性に影響を与える可能性のある事情がある場合には、審査長は TUE 委員会の委員となることはできない。</p> <p>4.4.2.3 TUE 委員会は、「治療使用特例に関する国際基準」の関連条項に従い、通常（例外的な事情がある場合を除き）、完成された申請を受領してから 21 日以内に、申請を速やかに評価し決定を下すものとする。申請が競技大会の合理的な時間前に行われた場合には、TUE 委員会は競技大会が開始する前に決定を下すよう最大の努力を払わなければならない。</p>
--	---

<p>its best endeavours to issue its decision before the start of the <i>Event</i>.</p> <p>4.4.2.4 The TUEC decision shall be the final decision of JADA and may be appealed in accordance with Article 4.4.6. JADA TUEC decision shall be notified in writing to the <i>Athlete</i>, and to WADA and other <i>Anti-Doping Organisations</i> in accordance with the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i>. It shall also promptly be reported into ADAMS.¹⁹</p> <p><i>[Comment to Article 4.4.2: In accordance with Article 5.1 of the International Standard for Therapeutic Use Exemptions, JADA may decline to consider advance applications for TUEs from National-Level Athletes in sports that are not prioritised by JADA in its test distribution planning. In that case it must permit any such Athlete who is subsequently tested to apply for a retroactive TUE. Additionally, JADA shall publicise such a policy on its website for the benefit of affected Athletes.</i></p> <p><i>he submission of falsified documents to a TUEC or JADA, offering or accepting a bribe to a Person to perform or fail to perform an act, procuring false testimony from any witness, or committing any other fraudulent act or any other similar intentional interference or Attempted interference with any aspect of the TUE process shall result in a charge of Tampering or Attempted Tampering under Article 2.5.</i></p> <p><i>An Athlete should not assume that their application for the grant or recognition of a TUE (or for renewal of a TUE) will be granted. Any Use or Possession or Administration of a Prohibited Substance or Prohibited Method before an application has been granted is entirely at the Athlete's own risk.]</i></p> <p>4.4.3 Retroactive TUE Applications</p> <p>If JADA chooses to test an <i>Athlete</i> who is not an <i>International-Level</i> or a <i>National-Level Athlete</i>, JADA must permit that <i>Athlete</i> to apply for a retroactive TUE for any <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i> that he or she is <i>Using</i> for therapeutic reasons.</p> <p>4.4.4 TUE Recognition</p> <p>A TUE granted by JADA is valid at any national level in any country and does not need to be formally recognised by any other <i>National Anti-Doping Organisation</i>.</p>	<p>4.4.2.4 TUE 委員会の決定は JADA の終局的な決定であるものとし、第 4.4.6 項に従いこれに対し不服申立てを行うことができる。TUE 委員会の決定は「治療使用特例に関する国際基準」に従い、<i>競技者</i>、WADA 及び他のアンチ・ドーピング機関に書面により通知されるものとする。また当該決定は ADAMS に速やかに報告されなければならない。</p> <p><i>[第 4.4.2 項の解説：「治療使用特例に関する国際基準」第 5.1 項に従い、JADA は、JADA の検査配分計画において JADA により優先的に扱われていない競技における国内レベルの競技者による TUE の事前申請を検討することを差し控えることができる。その場合には、JADA は、後日検査を受けた競技者につき、遡及的 TUE の申請を行うことを認めるものとする。加えて、JADA は影響を受ける競技者のために、自己のウェブサイト当該方針を公表するものとする。</i></p> <p>TUE 委員会若しくは JADA に虚偽の文書を提出すること、作為若しくは不作為を求めて人に賄賂を贈り又は受領すること、証人から虚偽の証言を確保すること、又は TUE 手続の側面に関して他の詐欺的行為、類似の意図的介入若しくは介入の企てを行った場合には、第 2.5 項に基づく不正干渉又は不正干渉の企ての請求がなされるものとする。</p> <p><i>競技者は、TUE の付与若しくは承認の申請（又は TUE の更新の申請）が認められることを当然と考えるべきではない。申請が認められる前の禁止物質又は禁止方法の使用、保有又は投与は、競技者が完全にリスクを負う。]</i></p> <p>4.4.3 遡及的 TUE 申請</p> <p>JADA が、<i>国際レベルの競技者</i>又は<i>国内レベルの競技者</i>ではない競技者を検査しようとする場合には、JADA は、当該競技者について、当該競技者が治療目的で使用している禁止物質又は禁止方法について遡及的 TUE を申請することを認めなければならない。</p> <p>4.4.4 TUE 承認</p> <p>JADA の付与した TUE はあらゆる国の<i>国内レベル</i>において有効であり、他の<i>国内アンチ・ドーピング機関</i>により正式に承認される必要はない。</p>
---	---

<p>However, it is not automatically valid if the <i>Athlete</i> becomes an <i>International-Level Athlete</i> or competes in an <i>International Event</i>, unless it is recognised by the relevant International Federation or <i>Major Event Organisation</i> in accordance with the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i> as follows:</p> <p>4.4.4.1 Where the <i>Athlete</i> already has a <i>TUE</i> granted by <i>JADA</i> for the substance or method in question, unless their <i>TUE</i> will be automatically recognised by the International Federation or <i>Major Event Organisation</i>, the <i>Athlete</i> shall apply to their International Federation or to the <i>Major Event Organisation</i> to recognise that <i>TUE</i>. If that <i>TUE</i> meets the criteria set out in the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i>, then the International Federation or <i>Major Event Organisation</i> must recognise it.</p> <p>If the International Federation or <i>Major Event Organisation</i> considers that the <i>TUE</i> granted by <i>JADA</i> does not meet those criteria and so refuses to recognise it, the International Federation shall promptly notify the <i>Athlete</i> and <i>JADA</i> with reasons. The <i>Athlete</i> and/or <i>JADA</i> shall have twenty-one (21) days from such notification to refer the matter to <i>WADA</i> for review in accordance with Article 4.4.6.</p> <p>If the matter is referred to <i>WADA</i> for review in accordance with Article 4.4.6, the <i>TUE</i> granted by <i>JADA</i> remains valid for national-level <i>Competition</i> and <i>Out-of-Competition Testing</i> (but is not valid for international-level <i>Competition</i>) pending <i>WADA</i>'s decision.</p> <p>If the matter is not referred to <i>WADA</i> for review within the twenty-one (21) day deadline, <i>JADA</i> must determine whether the original <i>TUE</i> that it granted should nevertheless remain valid for national-level <i>Competition</i> and <i>Out-of-Competition Testing</i> (provided that the <i>Athlete</i> ceases to be an <i>International-Level Athlete</i> and does not participate in international-level <i>Competition</i>). Pending <i>JADA</i>'s decision, the <i>TUE</i> remains valid for national-level <i>Competition</i> and <i>Out-of-Competition Testing</i> (but is not valid for international-level <i>Competition</i>).²⁰</p> <p>[Comment to Article 4.4.4.1: Further to Articles 5.7 and 7.1 of the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i>, an International Federation must publish and keep updated a notice on its website that sets out clearly (1) which Athletes under its authority are required to apply to it for a <i>TUE</i>, (2) which <i>TUE</i></p>	<p>但し、次のとおり「治療使用特例に関する国際基準」に従い、関連する国際競技連盟又は主要競技大会機関により承認される場合を除き、当該競技者が国際レベルの競技者となった場合又は国際競技大会において競技した場合には、当該 <i>TUE</i> は自動的に有効ではない。</p> <p>4.4.4.1 競技者が、対象となる物質又は方法につき、<i>JADA</i> により既に <i>TUE</i> を付与されている場合には、自己の <i>TUE</i> が国際競技連盟又は主要競技大会機関により自動的に承認される場合を除き、当該競技者は当該 <i>TUE</i> の承認のために自己の国際競技連盟又は主要競技大会機関に申請するものとする。当該 <i>TUE</i> が「治療使用特例に関する国際基準」に定められている基準を満たすときには、国際競技連盟又は主要競技大会機関は、これを認めなければならない。</p> <p>当該国際競技連盟又は主要競技大会機関が、<i>JADA</i> の付与した <i>TUE</i> がこれらの基準を満たさないと判断し、これを承認しない場合には、国際競技連盟は、当該競技者及び <i>JADA</i> に速やかにその旨を理由とともに通知しなければならない。当該競技者及び/又は <i>JADA</i> は、第 4.4.6 項に従い、当該通知から 21 日以内に、当該案件について審査を受けるために <i>WADA</i> に回付することができる。</p> <p>第 4.4.6 項に従いこの案件が審査のために <i>WADA</i> に回付された場合には、<i>JADA</i> が付与した <i>TUE</i> は、<i>WADA</i> による決定が下されるまでは、国内の競技会 (時) 及び競技会外の検査において引き続き有効となる (但し、国際レベルの競技会においては無効となる)。</p> <p>この案件が審査のために 21 日間の期限内に <i>WADA</i> に回付されなかった場合には、<i>JADA</i> は、当該国内アンチ・ドーピング機関の付与した元の <i>TUE</i> が国内レベルの競技会 (時) 及び競技会外の検査について依然有効であり続けるべきか判断しなければならない (但し、競技者が国際レベルの競技者ではなくなり、国際レベルの競技会に参加しないことを条件とする)。<i>JADA</i> の判断を待っている間は、<i>TUE</i> は国内レベルの競技会 (時) 及び競技会外の検査について有効であり続けるものとする (しかし、国際レベルの競技会については無効とする)。</p> <p>[第 4.4.4.1 項の解説: 「治療使用特例に関する国際基準」第 5.7 項及び第 7.1 項に従い、国際競技連盟は、(1) 自己の権限下にあるどの競技者が自己に <i>TUE</i> の申請を行わなければならないのか、(2) 自己が他のアンチ・ドーピング機関のどの <i>TUE</i> 決定を当該申請に代わり自動的に承認するのか、また(3)</p>
--	---

<p><i>decisions of other Anti-Doping Organisations it will automatically recognise in lieu of such application and (3) which TUE decisions of other Anti-Doping Organisations will have to be submitted to it for recognition. If an Athlete's TUE falls into a category of automatically recognised TUEs, then the Athlete does not need to apply to his/her International Federation for recognition of that TUE.</i></p> <p><i>In accordance with the requirements of the International Standard for Therapeutic Use Exemptions, JADA will help Athletes determine when they need to submit TUEs granted by JADA to an International Federation or Major Event Organisation for recognition and will guide and support those Athletes through the recognition process.</i></p> <p><i>If an International Federation refuses to recognise a TUE granted by JADA only because medical records or other information are missing that are needed to demonstrate satisfaction of the criteria in the International Standard for Therapeutic Use Exemptions, the matter should not be referred to WADA. Instead, the file should be completed and re-submitted to the International Federation.]</i></p> <p>4.4.4.2 <i>If the Athlete does not already have a TUE granted by JADA for the substance or method in question, the Athlete must apply directly to the International Federation for a TUE in accordance with the process set out in the International Standard for Therapeutic Use Exemptions as soon as the need arises.</i></p> <p><i>If the International Federation denies the Athlete's application, it shall notify the Athlete promptly, with reasons.</i></p> <p><i>If the International Federation grants the Athlete's application, it shall notify the Athlete and JADA. If JADA considers that the TUE granted by the International Federation does not meet the criteria set out in the International Standard for Therapeutic Use Exemptions, it has twenty-one (21) days from such notification to refer the matter to WADA for review.</i></p> <p><i>If JADA refers the matter to WADA for review, the TUE granted by the International Federation remains valid for international-level Competition and Out-of-Competition Testing (but is not valid for national-level Competition) pending WADA's decision.</i></p> <p><i>If JADA does not refer the matter to WADA for review, the TUE granted by the International Federation becomes valid for national-level Competition as well when the twenty-one (21) day review deadline</i></p>	<p>他のアンチ・ドーピング機関のどのTUE 決定が承認のために自己に提出されなければならないのかを明確に示す通知を自己のウェブサイトにおいて公表し、更新し続けなければならない。競技者のTUE が、自動的に承認されるTUE の類型に該当する場合には、当該競技者は当該TUE の承認を求めて自己の国際競技連盟に申請を行うことを要しない。</p> <p>JADA は、「治療使用特例に関する国際基準」の要件に従って、競技者がJADA の付与したTUE を承認のために国内競技連盟又は主要競技大会機関に提出する時期を決定する上で、競技者を助け、承認過程において当該競技者を指導し、支援する。</p> <p>国際競技連盟が、「治療使用特例に関する国際基準」における基準が充足されていることを証明するために必要な医療情報又はその他の情報が欠如していることのみを理由として、国内アンチ・ドーピング機関の付与した TUE を承認しない場合には、当該案件をWADA に回付すべきではない。代わりに、TUE 申請のために必要な書類が整えられた上で、国際競技連盟に再提出されるべきである。]</p> <p>4.4.4.2 競技者が、対象となる物質又は方法につき、JADA よりまだ TUE を付与されていない場合には、当該競技者は、必要性が生じてからすぐに、「治療使用特例に関する国際基準」に定める過程に従い、その国際競技連盟に TUE を直接申請しなければならない。</p> <p>当該国際競技連盟が競技者の申請を却下する場合には、当該国際競技連盟は、速やかに競技者に理由とともに通知するものとする。</p> <p>当該国際競技連盟が競技者の申請を承認する場合には、当該国際競技連盟は、当該競技者及びJADA に通知するものとする。JADA が、国際競技連盟により付与された TUE が「治療使用特例に関する国際基準」に定められた基準を充足しないと考える場合には、当該通知から 21 日以内に、この案件について審査してもらうために WADA に回付することができる。</p> <p>JADA がこの案件を審査のために WADA に回付した場合には、国際競技連盟が付与した TUE は、WADA による決定が下されるまでは、国際レベルの競技会及び競技会外の検査において引き続き有効となる（但し、国内レベルの競技会においては無効となる。）。</p> <p>JADA がこの案件を審査のために WADA に回付しなかった場合には、国際競技連盟の付与した TUE は、21 日間の審査期限の経過とともに国内レベルの競技会について有効となる。</p>
---	---

<p>expires.²¹ [Comment to Article 4.4.4.2: The International Federation and JADA may agree that JADA will consider TUE applications on behalf of the International Federation.]</p> <p>4.4.5 Expiration, Withdrawal or Reversal of a TUE</p> <p>4.4.5.1 A TUE granted pursuant to these Anti-Doping Rules: (a) shall expire automatically at the end of any term for which it was granted, without the need for any further notice or other formality; (b) will be withdrawn if the <i>Athlete</i> does not promptly comply with any requirements or conditions imposed by the TUEC upon grant of the TUE; (c) may be withdrawn by the TUEC if it is subsequently determined that the criteria for grant of a TUE are not in fact met; or (d) may be reversed on review by WADA or on appeal.</p> <p>4.4.5.2 In such event, the <i>Athlete</i> shall not be subject to any <i>Consequences</i> based on their <i>Use</i> or <i>Possession</i> or <i>Administration</i> of the <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i> in question in accordance with the TUE prior to the effective date of expiry, withdrawal, or reversal of the TUE. The review pursuant to Article 5.1.1.1 of the <i>International Standard for Results Management</i> of an <i>Adverse Analytical Finding</i>, reported shortly after the TUE expiry, withdrawal, or reversal, shall include consideration of whether such finding is consistent with <i>Use</i> of the <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i> prior to that date, in which event no anti-doping rule violation shall be asserted.</p> <p>4.4.6 Reviews and Appeals of TUE Decisions</p> <p>4.4.6.1 If JADA denies an application for a TUE, the <i>Athlete</i> may appeal exclusively to the national-level appeal body described in Article 13.2.2.</p> <p>4.4.6.2 WADA must review an International Federation's decision not to recognise a TUE granted by JADA that is referred to WADA by the <i>Athlete</i> or JADA. In addition, WADA must review an International Federation's decision to grant a TUE that is referred to WADA by JADA. WADA may review any other TUE decisions at any time, whether upon request by those affected or on its own initiative. If the TUE decision being reviewed meets the criteria set out in the <i>International Standard for Therapeutic Use Exemptions</i>, WADA will not interfere with it. If the TUE decision does not meet those criteria, WADA will</p>	<p>[第4.4.4.2項の解説:国際競技連盟及びJADAは、JADAが国際競技連盟に代わってTUE申請を検討することができる旨を合意することができる。]</p> <p>4.4.5 TUEの終了、撤回又は取消し</p> <p>4.4.5.1 本規程に従い付与されたTUEは、(a)更なる通知その他形式要件を要することなく、付与された期間の末日において自動的に終了するものとし、(b)TUEの付与にあたりTUE委員会が賦課した要件又は条件を競技者が速やかに遵守しない場合には、撤回され、(c)TUEを付与する基準を事実上充足しない旨後日判断された場合には、TUE委員会はこれを撤回することができ、又は(d)WADAによる審査若しくは不服申立てにあたり、取り消されることができる。</p> <p>4.4.5.2 かかる場合には、競技者は、TUEの終了、撤回又は取消しの効力発生日に先立つ、TUEに従った、対象となる禁止物質又は禁止方法の使用、保有又は投与に基づく措置の対象とはならないものとする。TUEの終了、撤回又は取消しのすぐ後に報告された、違反が疑われる分析報告の、「結果管理に関する国際基準」第5.1.1.1項に基づく審査は、当該報告が、当該日付に先立つ禁止物質又は禁止方法の使用に合致するか否かの検討も含むものとし、合致する場合には、アンチ・ドーピング規則違反の主張はなされない。</p> <p>4.4.6 TUE決定の審査及び不服申立て</p> <p>4.4.6.1 JADAがTUEの申請を却下した場合には、競技者は第13.2.2に記載される国内レベルの不服申立機関にのみ不服申立てを提起することができる。</p> <p>4.4.6.2 WADAは、競技者又はJADAがWADAに回付した、JADAが付与したTUEを承認しない旨の国際競技連盟による決定を審査しなければならない。また、WADAは、JADAがWADAに回付した、TUEを付与する旨の国際競技連盟による決定を審査しなければならない。WADAは、影響を受ける者による要請又は自らの主導により、他のTUE決定をいつでも審査することができる。審査を受けているTUE決定が「治療使用特例に関する国際基準」の定める基準を充足する場合には、WADAはこれに干渉しない。TUE決定が当該基準を充足しない場合には、WADAはこれを取り消す。</p>
---	--

<p>reverse it.²² <i>[Comment to Article 4.4.6.2: WADA shall be entitled to charge a fee to cover the costs of: (a) any review it is required to conduct in accordance with Article 4.4.8; and (b) any review it chooses to conduct, where the decision being reviewed is reversed.]</i></p> <p>4.4.6.3 Any TUE decision by an International Federation (or by JADA where it has agreed to consider the application on behalf of an International Federation) that is not reviewed by WADA, or that is reviewed by WADA but is not reversed upon review, may be appealed by the Athlete and/or JADA, exclusively to CAS.²³</p> <p><i>[Comment to Article 4.4.6.3: In such cases, the decision being appealed is the International Federation's TUE decision, not WADA's decision not to review the TUE decision or (having reviewed it) not to reverse the TUE decision. However, the time to appeal the TUE decision does not begin to run until the date that WADA communicates its decision. In any event, whether the decision has been reviewed by WADA or not, WADA shall be given notice of the appeal so that it may participate if it sees fit.]</i></p> <p>4.4.6.4 A decision by WADA to reverse a TUE decision may be appealed by the Athlete, JADA and/or the International Federation affected, exclusively to CAS.</p> <p>4.4.6.5 A failure to render a decision within a reasonable time on a properly submitted application for grant/recognition of a TUE or for review of a TUE decision shall be considered a denial of the application thus triggering the applicable rights of review/appeal.</p> <p>ARTICLE 5 TESTING AND INVESTIGATIONS</p> <p>5.1 Purpose of Testing and Investigations²⁴</p> <p>5.1.1 Testing and investigations by JADA may be undertaken for any anti-doping purpose. They shall be conducted in conformity with the provisions of the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>. JSC may independently undertake doping investigations in accordance with the laws and regulations of Japan, in which case it shall make efforts to respect these Anti-Doping Rules and the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>.</p>	<p><i>[第4.4.6.2項の解説：WADAは、(a)第4.4.8項に基づきTUEの審査の実施が義務づけられるとき、及び(b)審査されている決定が取り消された場合において独自に審査を行うときに、その費用をカバーするために、手数料を課す権利を有する。]</i></p> <p>4.4.6.3 国際競技連盟（又はJADAが国際競技連盟に代わって申請を検討する旨を合意した場合には、JADA）によるTUE決定のうち、WADAが審査していないもの、又はWADAが審査したが取り消さなかったものは、競技者及び/又はJADAがこれをCASにのみ不服申立てを提起することができる。</p> <p><i>[第4.4.6.3項の解説：かかる場合には、不服申立ての対象となっている決定は、国際競技連盟のTUE決定であって、TUE決定を審査しない旨のWADAの決定又は（TUEを審査した上で）TUE決定を取り消さない旨のWADAの決定ではない。但し、TUE決定の不服申立期間は、WADAがその決定を通知した日から開始する。いずれにせよ、当該決定がWADAにより審査されたか否かを問わず、WADAは不服申立ての通知を受けるものとし、WADAが適切と判断する場合には、当該不服申立てに参加することができる。]</i></p> <p>4.4.6.4 TUE決定を取り消す旨のWADAによる決定は、影響を受ける競技者、JADA及び/又は国際競技連盟によって、CASのみに不服申立てを提起することができる。</p> <p>4.4.6.5 TUEの付与/承認又はTUE決定の審査を求める、適切に提出された申請に対して、合理的な期間内に判断を下さなかった場合には、当該申請は却下され、よって適用される審査/不服申立ての該当する権利が発動されるものとされる。</p> <p>第5条 検査及びドーピング調査</p> <p>5.1 検査及びドーピング調査の目的</p> <p>5.1.1 JADAによる検査及びドーピング調査は、いかなるアンチ・ドーピングの目的のためにも行われうる。これらは、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に従って行われるものとする。JSCは、日本の法令に従い、独立して、独自にドーピング調査を行うことができ、その際には本規程及び「検査及びドーピング調査に関する国際基準」を尊重するよう努めるものとする。</p>
---	---

22
23
24

<p>5.1.2 <i>Testing</i> shall be undertaken to obtain analytical evidence as to whether the <i>Athlete</i> has violated Article 2.1 (Presence of a <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolites</i> or <i>Markers</i> in an <i>Athlete's Sample</i>) or Article 2.2 (<i>Use or Attempted Use</i> by an <i>Athlete</i> of a <i>Prohibited Substance</i> or a <i>Prohibited Method</i>).</p> <p>5.2 Authority to Test</p> <p>5.2.1 Subject to the limitations for <i>Event Testing</i> set out in Article 5.3, <i>JADA</i> shall have <i>In-Competition</i> and <i>Out-of-Competition Testing</i> authority over all <i>Athletes</i> specified in the Introduction to these Anti-Doping Rules (Section “Scope of these Anti-Doping Rules”).</p> <p>5.2.2 <i>JADA</i> may require any <i>Athlete</i> over whom it has <i>Testing</i> authority (including any <i>Athlete</i> serving a period of <i>Ineligibility</i>) to provide a <i>Sample</i> at any time and at any place.²⁵</p> <p>[<i>Comment to Article 5.2.2: JADA may obtain additional authority to conduct Testing by means of bilateral or multilateral agreements with other Signatories. Unless the Athlete has identified a sixty (60) minute Testing window between the hours of 11:00 p.m. and 6:00 a.m., or has otherwise consented to Testing during that period, JADA will not test an Athlete during that period unless it has a serious and specific suspicion that the Athlete may be engaged in doping. A challenge to whether JADA had sufficient suspicion for Testing during this time period shall not be a defence to an anti-doping rule violation based on such test or attempted test.</i>]</p> <p>5.2.3 <i>WADA</i> shall have <i>In-Competition</i> and <i>Out-of-Competition Testing</i> authority as set out in Article 20.7.10 of the <i>Code</i>.</p> <p>5.2.4 If an International Federation or <i>Major Event Organisation</i> delegates or contracts any part of <i>Testing</i> to <i>JADA</i> directly or through a <i>National Sports Federation</i>, <i>JADA</i> may collect additional <i>Samples</i> or direct the laboratory to perform additional types of analysis at <i>JADA's</i> expense. If additional <i>Samples</i> are collected or additional types of analysis are performed, the International Federation or <i>Major Event Organisation</i> shall be notified.</p> <p>5.3 Event Testing</p> <p>5.3.1 Except as otherwise provided below, only a single organisation shall have authority to conduct <i>Testing</i> at <i>Event Venues</i> during an <i>Event Period</i>. At</p>	<p>5.1.2 検査は、競技者が世界規程の第2.1項（競技者の検体に、禁止物質又はその代謝物若しくはマーカーが存在すること）又は第2.2項（競技者が禁止物質若しくは禁止方法を使用すること又はその使用を企てること）に違反したか否かに関する分析証拠を得るために行われるものとする。</p> <p>5.2 検査を行う権限</p> <p>5.2.1 JADA は、第5.3項に定める競技大会時の検査の制限に従い、本規程の序論（「本規程の適用範囲」の項）において特定されるすべての競技者に対し、競技会（時）検査権限及び競技会外検査権限を有するものとする。</p> <p>5.2.2 JADA は、自己が検査権限を有する競技者（資格停止期間中の競技者を含む。）に対し、時間又は場所を問わず、検体を提供することを要請することができる。</p> <p>[第5.2.2項の解説：競技者が、午後11時から午前6時までの間に60分間の検査時間枠を特定しない限り、又は、別途当該時間内に検査を受けることに同意しない限り、JADA は、当該競技者がドーピングを行った旨の重大かつ具体的な疑義を有する場合を除き、当該時間内に競技者を検査しない。JADA が当該時間内に検査を実施するにあたり十分な疑義を有していなかったのではないかという反論は、当該検査又は検査の企てに基づくアンチ・ドーピング規則違反に対する抗弁とはならないものとする。]</p> <p>5.2.3 WADA は、世界規程の第20.7.10項に定めるとおり、競技会（時）検査権限及び競技会外検査権限を有するものとする。</p> <p>5.2.4 国際競技連盟又は主要競技大会機関が検査の一部を直接又は国内競技連盟を経由して国内アンチ・ドーピング機関に委託し、又は請け負わせる場合には、JADA は、追加の検体を採取し、若しくは国内アンチ・ドーピング機関の費用負担において追加の種類の分析を行うよう分析機関に指示を与えることができる。追加の検体が採取され、又は、追加の種類の分析が行われた場合には、国際競技連盟又は主要競技大会機関はその旨の通知を受けるものとする。</p> <p>5.3 競技大会時の検査</p> <p>5.3.1 別途下記に定める場合を除き、単一の機関のみが、競技大会の期間中に競技大会会場において検査を行う権限を有するものとする。日本にお</p>
---	--

<p><i>International Events</i> held in <i>Japan</i>, the international organisation which is the ruling body for the <i>Event</i> shall have authority to conduct <i>Testing</i>. At <i>National Events</i> held in <i>Japan</i>, <i>JADA</i> shall have authority to conduct <i>Testing</i>. At the request of the ruling body for an <i>Event</i>, any <i>Testing</i> conducted during the <i>Event Period</i> outside of the <i>Event Venues</i> shall be coordinated with the ruling body of the <i>Event</i>.</p> <p>5.3.2 If an <i>Anti-Doping Organisation</i>, which would otherwise have <i>Testing</i> authority but is not responsible for initiating and directing <i>Testing</i> at an <i>Event</i>, desires to conduct <i>Testing</i> of <i>Athletes</i> at the <i>Event Venues</i> during the <i>Event Period</i>, the <i>Anti-Doping Organisation</i> shall first confer with the ruling body of the <i>Event</i> to obtain permission to conduct and coordinate such <i>Testing</i>. If the <i>Anti-Doping Organisation</i> is not satisfied with the response from the ruling body of the <i>Event</i>, the <i>Anti-Doping Organisation</i> may, in accordance with procedures described in the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>, ask <i>WADA</i> for permission to conduct <i>Testing</i> and to determine how to coordinate such <i>Testing</i>. <i>WADA</i> shall not grant approval for such <i>Testing</i> before consulting with and informing the ruling body for the <i>Event</i>. <i>WADA</i>'s decision shall be final and not subject to appeal. Unless otherwise provided in the authorisation to conduct <i>Testing</i>, such tests shall be considered <i>Out-of-Competition</i> tests. <i>Results Management</i> for any such test shall be the responsibility of the <i>Anti-Doping Organisation</i> initiating the test unless provided otherwise in the rules of the ruling body of the <i>Event</i>.²⁶</p> <p>[<i>Comment to Article 5.3.2: Before giving approval to JADA to initiate and conduct Testing at an International Event, WADA shall consult with the international organisation which is the ruling body for the event. Before giving approval to an International Federation to initiate and conduct Testing at a National Event, WADA shall consult with JADA. The Anti-Doping Organisation "initiating and directing Testing" may, if it chooses, enter into agreements with a Delegated Third Party to which it delegates responsibility for Sample collection or other aspects of the Doping Control process.</i>]</p> <p>5.4 Testing Requirements</p> <p>5.4.1 <i>JADA</i> shall conduct test distribution planning and <i>Testing</i> as required by the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>.</p> <p>5.4.2 Where reasonably feasible, <i>Testing</i> shall be coordinated through <i>ADAMS</i> in order to maximise the</p>	<p>いて開催される国際競技大会では、当該競技大会の所轄組織である国際機関が検査を行う権限を有する。日本において開催される国内競技大会では、<i>JADA</i> が検査を行う権限を有する。競技大会の所轄組織の要請に基づき、競技大会の期間中における競技大会会場の外での検査は、当該所轄組織と連携して行われるものとする。</p> <p>5.3.2 検査権限を有するが、競技大会において検査を主導し、指示する責任を負わないアンチ・ドーピング機関が、競技大会の期間中に競技大会会場にて競技者の検査の実施を希望する場合には、当該アンチ・ドーピング機関は当該検査を実施し、調整するための許可を取得するため、まず当該競技大会の所轄組織と協議するものとする。もしアンチ・ドーピング機関が、当該競技大会の所轄組織からの回答に満足しない場合には、当該アンチ・ドーピング機関は「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に規定された手続に従い、検査を実施し、調整するための方法を決定することを許可するよう <i>WADA</i> に要請することができる。<i>WADA</i> は、当該検査の承認をするに先立ち、事前に当該競技大会の所轄組織と協議し、連絡を行わなければならない。<i>WADA</i> による決定は終局的なものとし、これに対し不服を申し立てることはできないものとする。別途検査権限が付与された場合を除き、当該検査は競技会外の検査として扱われるものとする。当該検査の結果管理は、別途当該競技大会の所轄組織の規則に定める場合を除き、当該検査を主導するアンチ・ドーピング機関が、これにつき責任を負うものとする。</p> <p>[第5.3.2項の解説：<i>WADA</i> は、国際競技大会において検査を主導し、実施する承認を <i>JADA</i> に付与するのに先立ち、当該競技大会の所轄組織である国際機関と協議するものとする。<i>WADA</i> は、国内競技大会において検査を主導し、実施する承認を国際競技連盟に付与するのに先立ち、<i>JADA</i> と協議するものとする。「検査を主導し、指示する」アンチ・ドーピング機関は、検体の採取その他ドーピング・コントロールの手続に関連する責任を委譲する委託された第三者と合意を締結することもできる。]</p> <p>5.4 検査要件</p> <p>5.4.1 <i>JADA</i> は、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」が要求するとおり、検査配分計画及び検査を行うものとする。</p> <p>5.4.2 実行可能な場合には、検査は、検査に関する様々な取り組みを最大限に活用し、かつ、無駄な</p>
--	--

<p>effectiveness of the combined <i>Testing</i> effort and to avoid unnecessary repetitive <i>Testing</i>.</p> <p>5.5 Athlete Whereabouts Information</p> <p>5.5.1 <i>JADA</i> has established a <i>Registered Testing Pool</i> of those <i>Athletes</i> who are required to provide whereabouts information in the manner specified in the <i>International Standard for Testing and Investigations</i> and who shall be subject to <i>Consequences</i> for Article 2.4 violations as provided in Article 10.3.2. <i>JADA</i> shall coordinate with International Federations to identify such <i>Athletes</i> and to collect their whereabouts information.</p> <p>5.5.2 <i>JADA</i> shall make available through <i>ADAMS</i> a list which identifies those <i>Athletes</i> included in its <i>Registered Testing Pool</i> by name. <i>JADA</i> shall regularly review and update as necessary its criteria for including <i>Athletes</i> in its <i>Registered Testing Pool</i>, and shall periodically (but not less than quarterly) review the list of <i>Athletes</i> in its <i>Registered Testing Pool</i> to ensure that each listed <i>Athlete</i> continues to meet the relevant criteria. <i>Athletes</i> shall be notified before they are included in the <i>Registered Testing Pool</i> and when they are removed from that pool. The notification shall contain the information set out in the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>.</p> <p>5.5.3 Where an <i>Athlete</i> is included in an international <i>Registered Testing Pool</i> by their International Federation and in a national <i>Registered Testing Pool</i> by <i>JADA</i>, <i>JADA</i> and the International Federation shall agree between themselves which of them shall accept that <i>Athlete's</i> whereabouts filings; in no case shall an <i>Athlete</i> be required to make whereabouts filings to more than one of them.</p> <p>5.5.4 In accordance with the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>, each <i>Athlete</i> in the <i>Registered Testing Pool</i> shall do the following: (a) advise <i>JADA</i> of his/her whereabouts on a quarterly basis; (b) update that information as necessary so that it remains accurate and complete at all times; and (c) make himself or herself available for <i>Testing</i> at such whereabouts.</p> <p>5.5.5 For purposes of Article 2.4, an <i>Athlete's</i> failure to comply with the requirements of the <i>International Standard for Testing and Investigations</i> shall be deemed a filing failure or a missed test, as defined in Annex B of the <i>International Standard for Results Management</i>, where the conditions set forth in Annex B are met.</p>	<p>検査の重複が無いように、<i>ADAMS</i> を通して調整されるものとする。</p> <p>5.5 競技者の居場所情報</p> <p>5.5.1 <i>JADA</i> は、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」において特定される方法で居場所情報を提供することが求められ、第 10.3.2 項において定めるとおり第 2.4 項の違反について措置の対象となる競技者についての登録検査対象者リストを策定した。<i>JADA</i> は当該競技者の特定及びその居場所情報を収集につき、国際競技連盟と連携するものとする。</p> <p>5.5.2 <i>JADA</i> は、氏名又は明確に定義された具体的な基準のいずれかに基づき登録検査対象者リストに含まれる競技者を特定するリストを <i>ADAMS</i> を通して利用可能な状態に置くものとする。<i>JADA</i> は自己の登録検査対象者リストにおいて競技者を含めるための基準を定期的に検討し必要に応じ更新するものとし、列挙された各競技者が該当する基準を充足し続けることを確保するために自己の登録検査対象者リストにおける競技者のリストを定期的に（但し四半期毎以上の頻度で）検討するものとする。競技者は登録検査対象者リストに含まれる前及び当該リストから除外されるときに通知を受けるものとする。当該通知は「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に定める情報を含むものとする。</p> <p>5.5.3 競技者が自己の国際競技連盟により国際的な登録検査対象者リスト及び <i>JADA</i> により国内の登録検査対象者リストに含まれる場合には、<i>JADA</i> 及び国際競技連盟は、いずれかが当該競技者の居場所情報提出を受諾するか、その間で合意するものとし、いかなる場合においても競技者はそれらの 2 つ以上に対し居場所情報提出を行うことを要さない。</p> <p>5.5.4 「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に従い、登録検査対象者リストにおける各競技者は、(a)四半期毎に自己の居場所について <i>JADA</i> に連絡し、(b)当該情報が常時正確かつ完全であり続けるよう当該情報を必要に応じ更新し、かつ、(c)当該居場所において自己が検査を受けられるようにするものとする。</p> <p>5.5.5 第 2.4 項において、競技者が「検査及びドーピング調査に関する国際基準」の要件に従わなかったことは、居場所情報提出義務違反又は検査未了を宣言するための「結果管理に関する国際基準」付属文書 B の定める条件が充足される場合には、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」付属文書 B において定義されるとおり居場所情報提出義務違反又は検査未了とみなされるものとする。</p>
--	---

<p>5.5.6 An Athlete in JADA's Registered Testing Pool shall continue to be subject to the obligation to comply with the whereabouts requirements set in the <i>International Standard for Testing and Investigations</i> unless and until (a) the Athlete gives written notice to JADA that he or she has retired or (b) JADA has informed him or her that he or she no longer satisfies the criteria for inclusion in JADA's Registered Testing Pool.</p> <p>5.5.7 Whereabouts information provided by an Athlete while in the Registered Testing Pool will be accessible through ADAMS to WADA and to other Anti-Doping Organisations having authority to test that Athlete as provided in Article 5.2. Whereabouts information shall be maintained in strict confidence at all times; it shall be used exclusively for purposes of planning, coordinating or conducting Doping Control, providing information relevant to the Athlete Biological Passport or other analytical results, to support an investigation into a potential anti-doping rule violation, or to support proceedings alleging an anti-doping rule violation; and shall be destroyed after it is no longer relevant for these purposes in accordance with the <i>International Standard for the Protection of Privacy and Personal Information</i>.</p> <p>5.5.8 In accordance with the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>, JADA establishes a Testing Pool.</p> <p>5.5.8.1 JADA shall notify Athletes when they are included in the Testing Pool and when they are removed.</p> <p>5.5.8.2 Athletes included in the Testing Pool shall bear the same obligations with regard to their whereabouts information as are imposed upon each Athletes who are included in the Registered Testing Pool in accordance with Article 5.5.4 of these Anti-Doping Rules.</p> <p>5.5.8.3 Any failure by an Athlete who is included in Testing Pool to fulfil an obligation regarding whereabouts information will not trigger any consequences pursuant to Code Article 2.4, provided, however, JADA shall consider whether such Athlete shall be elevated to JADA's Registered Testing Pool.</p> <p>5.5.9 JADA may, in accordance with the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>, collect whereabouts information from Athletes and/or team not included within a Registered Testing Pool or Testing Pool.</p> <p>5.6 Retired Athletes Returning to Competition</p>	<p>5.5.6 (a) 競技者が引退した旨 JADA に書面により通知し、又は(b)JADA が当該競技者が登録検査対象者リストに含まれるための基準をもちや充足しない旨を当該競技者に通知しない限り、かつ、その時点まで、JADA の登録検査対象者リストに含まれる競技者は「検査及びドーピング調査に関する国際基準」の居場所情報関連義務に従う義務を負い続けるものとする。</p> <p>5.5.7 競技者が登録検査対象者リストに含まれている間に提供した居場所情報は、WADA 及び第 5.2 項において定めるとおり当該競技者を検査する権限を有する他のアンチ・ドーピング機関が ADAMS を通してアクセスすることができるものとする。居場所情報は常に厳格に機密として保持され、ドーピング・コントロールを計画、調整若しくは遂行し、アスリート・バイオロジカル・パスポートに関連する情報その他の分析結果を提供し、アンチ・ドーピング規則違反の可能性に対する調査を補助し、又はアンチ・ドーピング規則違反を主張する手続を補助する目的のみのために使用され、これらの目的のためにもはや不要となった場合には「プライバシー及び個人情報の保護に関する国際基準」に従い破棄されるものとする。</p> <p>5.5.8 「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に従い、JADA は、検査対象者リストを策定する。</p> <p>5.5.8.1 JADA は、検査対象者リストに登録される時及び除外される時に競技者に通知するものとする。</p> <p>5.5.8.2 検査対象者リストに登録された競技者は、本規程 5.5.4 項で定められる登録検査対象者リストに登録された各競技者が居場所情報に関して負う義務と同じ義務を負う。</p> <p>5.5.8.3 検査対象者リストに登録された競技者居場所情報に関する義務を果たさなかった場合であっても、世界規程第 2.4 項に定められる措置は課されない。但し、JADA は当該競技者を JADA の登録検査対象者リストに引き上げることを検討するものとする。</p> <p>5.5.9 JADA は、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に従い、登録検査対象者リスト又は検査対象者リストに含まれていない競技者及び／又はチームから必要な居場所情報を収集することができる。</p> <p>5.6 引退した競技者の競技会への復帰</p>
--	---

<p>5.6.1 If an <i>International-Level Athlete</i> or <i>National-Level Athlete</i> in JADA's Registered Testing Pool retires and then wishes to return to active competition in sport, the <i>Athlete</i> shall not compete in <i>International Events</i> or <i>National Events</i> until the <i>Athlete</i> has made himself or herself available for <i>Testing</i>, by giving six (6) months prior written notice to their International Federation and JADA.</p> <p>WADA, in consultation with JADA and the <i>Athlete's</i> International Federation, may grant an exemption to the six (6) month written notice rule where the strict application of that rule would be unfair to the <i>Athlete</i>. This decision may be appealed under Article 13.</p> <p>Any competitive results obtained in violation of this Article 5.6.1 shall be <i>Disqualified</i> unless the <i>Athlete</i> can establish that he or she could not have reasonably known that this was an <i>International Event</i> or a <i>National Event</i>.</p> <p>5.6.2 If an <i>Athlete</i> retires from sport while subject to a period of <i>Ineligibility</i>, the <i>Athlete</i> must notify the <i>Anti-Doping Organisation</i> that imposed the period of <i>Ineligibility</i> in writing of such retirement. If the <i>Athlete</i> then wishes to return to active competition in sport, the <i>Athlete</i> shall not compete in <i>International Events</i> or <i>National Events</i> until the <i>Athlete</i> has made himself or herself available for <i>Testing</i> by giving six (6) months prior written notice (or notice equivalent to the period of <i>Ineligibility</i> remaining as of the date the <i>Athlete</i> retired, if that period was longer than six (6) months) to JADA and to their <i>International Federation</i>.</p> <p>5.7 <i>Independent Observer Programme</i></p> <p>JADA and any organising committees for <i>National Events</i> in Japan, shall authorise and facilitate the <i>Independent Observer Programme</i> at such Events.</p>	<p>5.6.1 JADA の登録検査対象者リストに含まれる国際レベルの競技者又は国内レベルの競技者が引退し、その後競技へ現役復帰しようとする場合には、当該競技者は、その国際競技連盟及びJADAに対し、6ヶ月前に事前の書面による通知をし、検査を受けられるようにするまで、国際競技大会又は国内競技大会において競技してはならないものとする。</p> <p>WADA は、該当する国際競技連盟及びJADA と協議の上、6ヶ月前の事前の書面による通知の要件の厳格な適用が競技者にとって不公平である場合には、その通知要件を適用しないことができる。当該決定に対しては、第13条に基づき不服申立てを提起することができる。</p> <p>本第5.6.1項に違反して得られた競技結果は失効するものとする。但し、競技者が、これが国際競技大会又は国内競技大会であることを自己が合理的に知ることができなかったことを立証することができた場合には、この限りでない。</p> <p>5.6.2 競技者が資格停止期間中に競技から引退する場合には、当該競技者は、資格停止期間を賦課したアンチ・ドーピング機関に対し、当該引退について書面で通知しなければならない。競技者がその後競技へ現役復帰しようとする場合には、当該競技者は、JADA 及び当該競技者の国際競技連盟に対し、6ヶ月前に事前の書面による通知（又は当該競技者の引退した日において残存する資格停止期間が6ヶ月を超える場合、当該残存期間に相当する期間前の通知）をし、検査を受けられるようにするまで、国際競技大会又は国内競技大会において競技してはならないものとする。</p> <p>5.7 インディペンデント・オブザーバー・プログラム</p> <p>JADA 及び日本における国内競技大会の組織委員会は、当該競技大会におけるインディペンデント・オブザーバー・プログラムを授権し、促進するものとする。</p>
---	---

<p>ARTICLE 6 ANALYSIS OF SAMPLES</p> <p><i>Samples</i> shall be analysed in accordance with the following principles:</p> <p>6.1 Use of Accredited, Approved Laboratories and Other Laboratories</p> <p>6.1.1 For purposes of directly establishing an <i>Adverse Analytical Finding</i> under Article 2.1, <i>Samples</i> shall be analysed only in <i>WADA-accredited laboratories</i> or laboratories otherwise approved by <i>WADA</i>. The choice of the <i>WADA-accredited</i> or <i>WADA-approved</i> laboratory used for the <i>Sample</i> analysis shall be determined exclusively by <i>JADA</i>.²⁷</p> <p><i>[Comment to Article 6.1: Violations of Article 2.1 may be established only by Sample analysis performed by a WADA-accredited laboratory or another laboratory approved by WADA. Violations of other Articles may be established using analytical results from other laboratories so long as the results are reliable.]</i></p> <p>6.1.2 As provided in Article 3.2, facts related to anti-doping rule violations may be established by any reliable means. This would include, for example, reliable laboratory or other forensic testing conducted outside of <i>WADA-accredited</i> or approved laboratories.</p> <p>6.2 Purpose of Analysis of Samples and Data</p> <p>6.2.1 <i>Samples</i> and related analytical data or <i>Doping Control</i> information shall be analysed to detect <i>Prohibited Substances</i> and <i>Prohibited Methods</i> identified on the <i>Prohibited List</i> and other substances as may be directed by <i>WADA</i> pursuant to the monitoring programme described in Article 4.5 of the <i>Code</i>, or to assist <i>JADA</i> in profiling relevant parameters in an <i>Athlete's</i> urine, blood or other matrix, including for DNA or genomic profiling, or for any other legitimate anti-doping purpose.²⁸</p> <p><i>[Comment to Article 6.2.1: For example, relevant Doping Control-related information could be used to direct Target Testing or to support an anti-doping rule violation proceeding under Article 2.2, or both.]</i></p> <p>6.3 Research on Samples and Data</p> <p><i>Samples</i>, related analytical data and <i>Doping Control</i> information may be used for anti-doping research purposes, although no <i>Sample</i> may be used for research without the <i>Athlete's</i> written consent. <i>Samples</i> and related analytical data or <i>Doping Control</i> information used for research purposes shall first be processed in</p>	<p>第6条 検体の分析</p> <p>検体は、次に掲げる原則に基づいて分析されるものとする。</p> <p>6.1 認定分析機関、承認分析機関その他の分析機関の使用</p> <p>6.1.1 第2.1項に基づき違反が疑われる分析報告を直接立証する目的において、検体は、WADA 認定分析機関、又は WADA により承認されたその他の分析機関によってのみ分析される。検体分析のために使用される WADA 認定分析機関又は WADA 承認分析機関の選択は、JADA のみが決定するものとする。</p> <p><i>[第6.1項の解説: 第2.1項に対する違反は、WADA 認定分析機関又は WADA によって承認された他の分析機関による検体の分析のみにより証明される。かかる条項以外の条項に対する違反については、その他の分析機関の分析結果であっても、その結果が信頼に足りる限り、その違反の証明に用いることができる。]</i></p> <p>6.1.2 第3.2項に定めるとおり、アンチ・ドーピング規則違反に関連する事実は、いかなる信頼のおける方法によっても立証することができる。これは、例えば、WADA 認定分析機関又は承認分析機関の外で、信頼のおける分析機関その他法医学の検査を含む。</p> <p>6.2 検体及びデータの分析の目的</p> <p>6.2.1 検体及び関連する分析データ又はドーピング・コントロール情報の分析は、禁止表において特定されている禁止物質及び禁止方法の検出、並びに世界規程第4.5項に記載される監視プログラムに従って WADA が定めるその他の物質の検出、又は JADA による競技者の尿、血液若しくはその他の基質に含まれる関係するパラメーターについて、DNA 及びゲノム解析を含む分析の支援又はその他正当なアンチ・ドーピング上の目的のために行われるものとする。</p> <p><i>[第6.2項の解説: 例えば、関係するドーピング・コントロール関連情報は、特定対象検査を実施するため、若しくは、第2.2項に基づくアンチ・ドーピング規則違反を裏づけるため、又はその双方のために使用される。]</i></p> <p>6.3 検体及びデータの研究</p> <p>競技者から書面による同意を得ない限り、研究目的のために検体を使用することはできないものの、検体、関連する分析データ及びドーピング・コントロール情報は、アンチ・ドーピング研究目的でこれを使用することができる。研究目的で使用される検体、関連する分析データ又はドーピング・</p>
--	--

<p>such a manner as to prevent <i>Samples</i> and related analytical data or <i>Doping Control</i> information being traced back to a particular <i>Athlete</i>. Any research involving <i>Samples</i> and related analytical data or <i>Doping Control</i> information shall adhere to the principles set out in Article 19 of the <i>Code</i>.²⁹</p> <p>[<i>Comment to Article 6.3: As is the case in most medical or scientific contexts, use of Samples and related information for quality assurance, quality improvement, method improvement and development or to establish reference populations is not considered research. Samples and related information used for such permitted non-research purposes must also first be processed in such a manner as to prevent them from being traced back to the particular Athlete, having due regard to the principles set out in Article 19 of the Code, as well as the requirements of the International Standard for Laboratories and International Standard for the Protection of Privacy and Personal Information.</i>]</p> <p>6.4 Standards for Sample Analysis and Reporting</p> <p>In accordance with Article 6.4, <i>JADA</i> shall ask laboratories to analyse <i>Samples</i> in conformity with the <i>International Standard</i> for Laboratories and Article 4.7 of the <i>International Standard</i> for Testing and Investigations.</p> <p>Laboratories at their own initiative and expense may analyse <i>Samples</i> for <i>Prohibited Substances</i> or <i>Prohibited Methods</i> not included on the standard <i>Sample</i> analysis menu, or as requested by <i>JADA</i>. Results from any such analysis shall be reported to <i>JADA</i> and have the same validity and <i>Consequences</i> as any other analytical result.³⁰</p> <p>[<i>Comment to Article 6.4: The objective of this Article is to extend the principle of “Intelligent Testing” to the Sample analysis menu so as to most effectively and efficiently detect doping. It is recognised that the resources available to fight doping are limited and that increasing the Sample analysis menu may, in some sports and countries, reduce the number of Samples which can be analysed.</i>]</p> <p>6.5 Further Analysis of a Sample Prior to or During Results Management or Hearing Process</p>	<p>コントロール情報は、まず、検体、関連する分析データ又はドーピング・コントロール情報から特定の競技者にたどり着くことができない方法で処理されるものとする。検体及び関連する分析データ又はドーピング・コントロール情報に関する研究は、世界規程の第19条に定める原則に従うものとする。</p> <p>[第6.3項の解説:多くの医療上又は科学的な文脈でみられるように、品質保証、品質改善、方法の改善及び開発、又は基準値の設定を目的とした、又は参照集団を確立するための、検体及び関連情報の使用は、研究とはみなされない。このような、許可された研究以外の目的のために使用される検体及び関連情報も、まず、世界規程の第19条に定める原則、並びに「分析機関に関する国際基準」及び「プライバシー及び個人情報の保護に関する国際基準」を尊重した上で、そこから特定の競技者にたどり着くことができない方法で処理されなければならない。]</p> <p>6.4 検体分析及び報告の基準</p> <p>第6.4項に従い、<i>JADA</i> は、分析機関に対し、「分析機関に関する国際基準」及び「検査及びドーピング調査に関する国際基準」第4.7項に適合する形で検体を分析するよう求めるものとする。</p> <p>分析機関は、独自の判断及び費用負担において、標準的な検体分析項目には含まれていない禁止物質又は禁止方法を検出する目的で、又は <i>JADA</i> の要求するとおりに、検体を分析することができる。このような分析の結果は <i>JADA</i> に報告されるものとし、その他のすべての分析結果と同様の有効性及び結果を有するものとする。</p> <p>[第6.4項の解説:本項の目的は、検体分析項目に「インテリジェンスを活用した検査」の原則を拡充し、これにより最大限に効果的かつ効率的にドーピングを検出するためである。ドーピングとの戦いのためのリソースは限られており、検体分析項目を増やすことは、特定のスポーツ及び国において、分析される検体数を減らすことに繋がる可能性もある。]</p> <p>6.5 結果管理又は聴聞手続の前又はその間における検体の更なる分析</p>
---	---

27

28

29

30

There shall be no limitation on the authority of a laboratory to conduct repeat or additional analysis on a *Sample* prior to the time *JADA* notifies an *Athlete* that the *Sample* is the basis for an Article 2.1 anti-doping rule violation charge. If after such notification *JADA* wishes to conduct additional analysis on that *Sample*, it may do so with the consent of the *Athlete* or approval from a hearing body.

6.6 Further Analysis of a Sample After it has been Reported as Negative or has Otherwise not Resulted in an Anti-Doping Rule Violation Charge

After a laboratory has reported a *Sample* as negative, or the *Sample* has not otherwise resulted in an anti-doping rule violation charge, it may be stored and subjected to further analyses for the purpose of Article 6.2 at any time exclusively at the direction of either the *Anti-Doping Organisation* that initiated and directed *Sample* collection or *WADA*. Any other *Anti-Doping Organisation* with authority to test the *Athlete* that wishes to conduct further analysis on a stored *Sample* may do so with the permission of the *Anti-Doping Organisation* that initiated and directed *Sample* collection or *WADA*, and shall be responsible for any follow-up *Results Management*. Any *Sample* storage or further analysis initiated by *WADA* or another *Anti-Doping Organisation* shall be at *WADA*'s or that organisation's expense. Further analysis of *Samples* shall conform with the requirements of the *International Standard* for Laboratories.

6.7 Split of A or B Sample

Where *WADA*, an *Anti-Doping Organisation* with *Results Management* authority, and/or a *WADA*-accredited laboratory (with approval from *WADA* or the *Anti-Doping Organisation* with *Results Management* authority) wishes to split an A or B *Sample* for the purpose of using the first part of the split *Sample* for an A *Sample* analysis and the second part of the split *Sample* for confirmation, then the procedures set forth in the *International Standard* for Laboratories shall be followed.

6.8 WADA's Right to Take Possession of Samples and Data

WADA may, in its sole discretion at any time, with or without prior notice, take physical possession of any *Sample* and related analytical data or information in the possession of a laboratory or *Anti-Doping Organisation*. Upon request by *WADA*, the laboratory or *Anti-Doping Organisation* in possession of the *Sample* shall immediately grant access to and enable *WADA* to take physical possession of the *Sample*. If *WADA* has not provided prior notice to the laboratory

JADA が *競技者* に対し、*検体* が、第 2.1 項のアンチ・ドーピング規則違反の責任追及の根拠であると通知する前に、分析機関が *検体* について繰り返し又は追加の分析を行う権限には制限がないものとする。*JADA* が、当該通知の後に当該 *検体* について追加の分析を行うことを希望する場合には、*JADA* は、*競技者* の同意又は聴聞機関の承認をもってこれを行うことができる。

6.6 *検体* が陰性と報告された後、又は別途アンチ・ドーピング規則違反の責任追及の結果に至らなかった後の、*検体* の更なる分析

分析機関が *検体* を陰性と報告した後、又は当該 *検体* がアンチ・ドーピング規則違反の責任追及の結果に至らなかった後に、当該 *検体* は、第 6.2 項の目的のため、*検体* の採取を主導し、指示したアンチ・ドーピング機関又は *WADA* のいずれかの指示があった場合に限り、いつでも保管され、更なる分析の対象とされる場合がある。保管された *検体* について更なる分析を行うことを希望する *競技者* を検査する権限を有する他のアンチ・ドーピング機関は、*検体* の採取を主導し、指示したアンチ・ドーピング機関又は *WADA* の許可をもってこれを行うことができ、追加の結果管理について責任を負うものとする。*WADA* 又は他のアンチ・ドーピング機関の主導による *検体* の保管又は更なる分析は、*WADA* 又は当該機関の費用負担によるものとする。*検体* の更なる分析は、「分析機関に関する国際基準」の要件に適合するものとする。

6.7 A *検体* 又は B *検体* の分割

WADA、結果管理について権限を有するアンチ・ドーピング機関、及び/又は (*WADA* 若しくは結果管理について権限を有するアンチ・ドーピング機関の承認を取得した) *WADA* 認定分析機関が、分割された *検体* の第一の部分を A *検体* 分析に使用し、分割された *検体* の第二の部分を確認のために使用する目的で A *検体* 又は B *検体* を分割することを希望する場合には、「分析機関に関する国際基準」に定める手続が遵守されるものとする。

6.8 *検体* 及びデータを保有する *WADA* の権利

WADA は、いつでもその単独の裁量により、事前の通知を行うか否かにかかわらず、分析機関又はアンチ・ドーピング機関が保有する *検体* 及び関連分析データ又は情報を物理的に入手することができる。*WADA* が要求した場合には、*検体* を保有している分析機関又はアンチ・ドーピング機関は、*WADA* が直ちに *検体* にアクセスし、当該 *検体* を物理的に入手することができるようにするものとする。*WADA* が *検体* を入手する前に分析機関又はア

<p>or <i>Anti-Doping Organisation</i> before taking possession of a <i>Sample</i>, it shall provide such notice to the laboratory and each <i>Anti-Doping Organisation</i> whose <i>Samples</i> have been taken by WADA within a reasonable time after taking possession. After analysis and any investigation of a seized <i>Sample</i>, WADA may direct another <i>Anti-Doping Organisation</i> with authority to test the <i>Athlete</i> to assume <i>Results Management</i> responsibility for the <i>Sample</i> if a potential anti-doping rule violation is discovered.³¹</p> <p><i>[Comment to Article 6.8: Resistance or refusal to WADA taking physical possession of Samples could constitute Tampering, Complicity or an act of non-compliance as provided in the International Standard for Code Compliance by Signatories, and could also constitute a violation of the International Standard for Laboratories. Where necessary, the laboratory and/or the Anti-Doping Organisation shall assist WADA in ensuring that the seized Sample and related data are not delayed in exiting the applicable country.]</i></p> <p><i>WADA would not, of course, unilaterally take possession of Samples or analytical data without good cause related to a potential anti-doping rule violation, non-compliance by a Signatory or doping activities by another Person. However, the decision as to whether good cause exists is for WADA to make in its discretion and shall not be subject to challenge. In particular, whether there is good cause or not shall not be a defence against an anti-doping rule violation or its Consequences.]</i></p> <p>ARTICLE 7 RESULTS MANAGEMENT: RESPONSIBILITY, INITIAL REVIEW, NOTICE AND PROVISIONAL SUSPENSIONS</p> <p><i>Results Management</i> under these Anti-Doping Rules establishes a process designed to resolve anti-doping rule violation matters in a fair, expeditious and efficient manner.</p> <p>7.1 Responsibility for Conducting Results Management</p> <p>7.1.1 Except as otherwise provided in Articles 6.6, 6.8 and Code Article 7.1, <i>Results Management</i> shall be the responsibility of, and shall be governed by, the procedural rules of the <i>Anti-Doping Organisation</i> that initiated and directed <i>Sample</i> collection (or, if no <i>Sample</i> collection is involved, the <i>Anti-Doping Organisation</i> which first provides notice to an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> of a potential anti-doping rule violation and then diligently pursues that anti-doping rule violation).</p>	<p>アンチ・ドーピング機関に事前の通知を行わなかった場合には、WADA は入手した後合理的な時間内に、WADA が入手した検体を有していた分析機関及び各アンチ・ドーピング機関に対し当該通知を行うものとする。潜在的なアンチ・ドーピング規則違反が発見された場合には、獲得された検体の分析及び調査の後、WADA は、競技者を検査する権限を有する別のアンチ・ドーピング機関に対し、当該検体について結果管理責任を引き受けるよう指示することができる。</p> <p><i>[第 6.8 項の解説：WADA が検体を物理的に入手することへの抵抗又は拒否は、不正干渉、違反関与、又は「署名当事者の規程遵守に関する国際基準」に定める不遵守の行為を構成する可能性があり、また、「分析機関に関する国際基準」の違反を構成する可能性もある。必要な場合には、分析機関及び／又はアンチ・ドーピング機関は、獲得された検体及び関連データの該当国からの出国に遅延が生じないよう確保することについてWADA を支援するものとする。]</i></p> <p>WADA は、勿論、潜在的なアンチ・ドーピング規則違反、署名当事者による不遵守、又は他の人によるドーピング活動に関連する正当な理由なく、検体又は分析データを一方的に入手しない。しかし、正当な理由が存在するか否かに関する判断は、WADA がその裁量により下すものであり、異議の対象とならないものとする。とりわけ、正当な理由の有無は、アンチ・ドーピング規則違反又はその措置に対する抗弁とはならないものとする。]</p> <p>第 7 条 結果管理：責任、初期審査、通知及び暫定的資格停止</p> <p>本規程に基づく結果管理は、公平、迅速かつ効率的な方法によりアンチ・ドーピング規則違反案件を解決するために設計された手続を策定するものとする。</p> <p>7.1 結果管理を実施する責任</p> <p>7.1.1 第 6.6 項、第 6.8 項及び世界規程の第 7.1 項に別途定める場合を除き、結果管理は、検体の採取を主導し、指示したアンチ・ドーピング機関（又は、検体の採取が行われない場合には、アンチ・ドーピング規則違反の可能性につき競技者又はその他の人に最初に通知を付与し、その後当該アンチ・ドーピング規則違反を余念なく追及したアンチ・ドーピング機関）の責任とし、当該アンチ・ドーピング機関の手続上の規則に準拠するものとする。</p>
---	---

<p>7.1.2 In circumstances where the rules of a <i>National Anti-Doping Organisation</i> do not give the <i>National Anti-Doping Organisation</i> authority over an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who is not a national, resident, licence holder, or member of a sport organisation of that country, or the <i>National Anti-Doping Organisation</i> declines to exercise such authority, <i>Results Management</i> shall be conducted by the applicable International Federation or by a third party with authority over the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> as directed by the rules of the applicable International Federation.</p> <p>7.1.3 <i>Results Management</i> in relation to a potential whereabouts failure (a filing failure or a missed test) shall be administered by the International Federation or <i>JADA</i> with whom the <i>Athlete</i> in question files whereabouts information, as provided in the <i>International Standard for Results Management</i>. If <i>JADA</i> determines a filing failure or a missed test, it shall submit that information to <i>WADA</i> through <i>ADAMS</i>, where it will be made available to other relevant <i>Anti-Doping Organisations</i>.</p> <p>7.1.4 Other circumstances in which <i>JADA</i> shall take responsibility for conducting <i>Results Management</i> in respect of anti-doping rule violations involving <i>Athletes</i> and other <i>Persons</i> under its authority shall be determined by reference to and in accordance with Article 7 of the <i>Code</i>.</p> <p>7.1.5 <i>WADA</i> may direct <i>JADA</i> to conduct <i>Results Management</i> in particular circumstances. If <i>JADA</i> refuses to conduct <i>Results Management</i> within a reasonable deadline set by <i>WADA</i>, such refusal shall be considered an act of non-compliance, and <i>WADA</i> may direct another <i>Anti-Doping Organisation</i> with authority over the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i>, that is willing to do so, to take <i>Results Management</i> responsibility in place of <i>JADA</i> or, if there is no such <i>Anti-Doping Organisation</i>, any other <i>Anti-Doping Organisation</i> that is willing to do so. In such case, <i>JADA</i> shall reimburse the costs and attorney's fees of conducting <i>Results Management</i> to the other <i>Anti-Doping Organisation</i> designated by <i>WADA</i>, and a failure to reimburse costs and attorney's fees shall be considered an act of non-compliance.</p> <p>7.2 Review and Notification Regarding Potential Anti-Doping Rule Violations</p> <p><i>JADA</i> shall carry out the review and notification with respect to any potential anti-doping rule violation in accordance with the <i>International Standard for Results Management</i>.</p>	<p>7.1.2 国内アンチ・ドーピング機関の規則が、当該国の国民、居住者、ライセンス保持者若しくは当該国のスポーツ団体の加盟者ではない競技者若しくはその他の人に対する権限を国内アンチ・ドーピング機関に付与しない場合、又は、国内アンチ・ドーピング機関が当該権限を行使しない場合には、結果管理は、該当する国際競技連盟又は国際競技連盟の規則において指示されるとおり、当該競技者又はその他の人について権限を有する第三者により行われる。</p> <p>7.1.3 潜在的な居場所情報関連義務違反（提出義務違反又は検査未了）に関する結果管理は、「結果管理に関する国際基準」に定めるとおり、違反を問われる競技者による居場所情報の提出先である国際競技連盟又は <i>JADA</i> により処理されるものとする。<i>JADA</i> が提出義務違反又は検査未了を認定した場合には、<i>ADAMS</i> を経由して <i>WADA</i> に当該情報を提出するものとし、当該情報は、当該システムからその他の関連アンチ・ドーピング機関により利用可能なものとされる。</p> <p>7.1.4 <i>JADA</i> が、自己の権限下にある競技者及びその他の人に関するアンチ・ドーピング規則違反に関して結果管理を実施する上で責任を負う他の状況は、<i>世界規程</i>第 7 条を参照しこれに従い決定されるものとする。</p> <p>7.1.5 <i>WADA</i> は、特定の状況において <i>JADA</i> が結果管理を実施するよう指示することができる。<i>JADA</i> が、<i>WADA</i> の設定した合理的な期限内に結果管理を行うことを拒否した場合には、当該拒否は不遵守行為と捉えられるものとし、<i>WADA</i> は、当該競技者又はその他の人について権限を有する他のアンチ・ドーピング機関であって結果管理責任を引き受けようとする意思のあるものに対し、<i>JADA</i> に代わって結果管理責任を引き受けることを指示することができる。また、そのようなアンチ・ドーピング機関が存在しない場合には、かかる意思を有する他のいかなるアンチ・ドーピング機関に対しても指示することができる。かかる場合には、<i>JADA</i> は、<i>WADA</i> の指定した他のアンチ・ドーピング機関に、結果管理を行うコスト及び弁護士費用を償還するものとし、コスト及び弁護士費用を償還しないことは不遵守行為とみなされるものとする。</p> <p>7.2 アンチ・ドーピング規則違反の可能性に関する審査及び通知</p> <p><i>JADA</i> は、アンチ・ドーピング規則違反の可能性に関する審査及び通知を、「結果管理に関する国際基準」に従い行うものとする。</p>
--	---

<p>7.3 Identification of Prior <i>Anti-Doping Rule Violations</i></p> <p>Before giving an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> notice of a potential anti-doping rule violation as provided above, <i>JADA</i> shall refer to <i>ADAMS</i> and contact <i>WADA</i> and other relevant <i>Anti-Doping Organisations</i> to determine whether any prior anti-doping rule violation exists.</p> <p>7.4 <i>Provisional Suspensions</i>³²</p> <p>[<i>Comment to Article 7.4: Before a Provisional Suspension can be unilaterally imposed by JADA, the internal review specified in these Anti-Doping Rules and the International Standard for Results Management must first be completed.</i>]</p> <p>7.4.1 Mandatory <i>Provisional Suspension</i> after an <i>Adverse Analytical Finding</i> or <i>Adverse Passport Finding</i></p> <p>If <i>JADA</i> receives an <i>Adverse Analytical Finding</i> or an <i>Adverse Passport Finding</i> (upon completion of the <i>Adverse Passport Finding</i> review process) for a <i>Prohibited Substance</i> or a <i>Prohibited Method</i> that is not a <i>Specified Substance</i> or a <i>Specified Method</i>, it shall impose a <i>Provisional Suspension</i> on the <i>Athlete</i> promptly upon or after the review and notification required by Article 7.2.</p> <p>A mandatory <i>Provisional Suspension</i> may be eliminated if: (i) the <i>Athlete</i> demonstrates to the <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> that the violation is likely to have involved a <i>Contaminated Product</i>, or (ii) the violation involves a <i>Substance of Abuse</i> and the <i>Athlete</i> establishes entitlement to a reduced period of <i>Ineligibility</i> under Article 10.2.4.1.</p> <p>The <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel's</i> decision not to eliminate a mandatory <i>Provisional Suspension</i> on account of the <i>Athlete's</i> assertion regarding a <i>Contaminated Product</i> shall not be appealable.</p> <p>7.4.2 Optional <i>Provisional Suspension</i> Based on an <i>Adverse Analytical Finding</i> for <i>Specified Substances</i>, <i>Specified Methods</i>, <i>Contaminated Products</i>, or Other <i>Anti-Doping Rule Violations</i></p> <p><i>JADA</i> may impose a <i>Provisional Suspension</i> for anti-doping rule violations not covered by Article 7.4.1 prior to the analysis of the <i>Athlete's</i> <i>B Sample</i> or final hearing as described in Article 8.</p> <p>An optional <i>Provisional Suspension</i> may be lifted at the</p>	<p>7.3 従前のアンチ・ドーピング規則違反の特定</p> <p><i>JADA</i> は、上記の定めのとおり、アンチ・ドーピング規則違反の可能性を競技者又はその他の人に通知するのに先立ち、従前のアンチ・ドーピング規則違反が存在するか否か判断するために、<i>ADAMS</i> を参照し、<i>WADA</i> その他の関連アンチ・ドーピング機関に連絡を取るものとする。</p> <p>7.4 暫定的資格停止</p> <p>[第7.4 項の解説 : <i>JADA</i> によって暫定的資格停止が一方的に賦課される前に、本規程及び「結果管理に関する国際基準」に定められた内部的な審査が、まず完了されなければならない。</p> <p>7.4.1 違反が疑われる分析報告又はアスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく違反が疑われる報告の後の強制的な暫定的資格停止</p> <p><i>JADA</i> は、特定物質又は特定方法以外の禁止物質又は禁止方法につき違反が疑われる分析報告又は（アスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく違反が疑われる報告の審査手続の完了にあたって）アスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく違反が疑われる報告を受領した場合には、第 7.2 項により要求される審査及び通知の後速やかに競技者に対し暫定的資格停止を賦課するものとする。</p> <p>(i) 競技者が、当該違反が汚染製品に関するものである可能性があることを日本アンチ・ドーピング規律パネルに対し立証した場合、又は(ii)違反が濫用物質に関するものであり、競技者が第 10.2.4.1 項に基づく短縮された資格停止期間について権利を有することを立証した場合には、強制的な暫定的資格停止は取り消される場合がある。汚染製品に関する競技者の主張を理由として強制的な暫定的資格停止を取り消さない旨の日本アンチ・ドーピング規律パネルの決定に対しては、不服申立てを行うことはできないものとする。</p> <p>7.4.2 特定物質、特定方法、汚染製品又はその他のアンチ・ドーピング規則違反に関する、違反が疑われる分析報告に基づく任意の暫定的資格停止</p> <p><i>JADA</i> は、第 7.4.1 項の適用対象外であるアンチ・ドーピング規則違反に関して、競技者の B 検体の分析又は第 8 条に定める終局的な聴聞会に先立って、暫定的資格停止を賦課することができる。</p> <p>「結果管理に関する国際基準」において別段の定</p>
---	--

<p>discretion of <i>JADA</i> at any time prior to the <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel's</i> decision under Article 8, unless provided otherwise in the <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>7.4.3 Opportunity for Hearing or Appeal</p> <p>Notwithstanding Articles 7.4.1 and 7.4.2, a <i>Provisional Suspension</i> may not be imposed unless the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> is given: (a) an opportunity for a <i>Provisional Hearing</i>, either before or on a timely basis after imposition of the <i>Provisional Suspension</i>; or (b) an opportunity for an expedited hearing in accordance with Article 8 on a timely basis after imposition of the <i>Provisional Suspension</i>.</p> <p>The imposition of a <i>Provisional Suspension</i>, or the decision not to impose a <i>Provisional Suspension</i>, may be appealed in an expedited process in accordance with Article 13.2.</p> <p>7.4.4 Voluntary Acceptance of Provisional Suspension</p> <p><i>Athletes</i> on their own initiative may voluntarily accept a <i>Provisional Suspension</i> if done so prior to the later of: (i) the expiration of ten (10) days from the report of the <i>B Sample</i> (or waiver of the <i>B Sample</i>) or ten (10) days from the notice of any other anti-doping rule violation, or (ii) the date on which the <i>Athlete</i> first competes after such report or notice.</p> <p>Other <i>Persons</i> on their own initiative may voluntarily accept a <i>Provisional Suspension</i> if done so within ten (10) days from the notice of the anti-doping rule violation.</p> <p>Upon such voluntary acceptance, the <i>Provisional Suspension</i> shall have the full effect and be treated in the same manner as if the <i>Provisional Suspension</i> had been imposed under Article 7.4.1 or 7.4.2; provided, however, at any time after voluntarily accepting a <i>Provisional Suspension</i>, the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> may withdraw such acceptance, in which event the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> shall not receive any credit for time previously served during the <i>Provisional Suspension</i>.</p> <p>7.4.5 If a <i>Provisional Suspension</i> is imposed based on an <i>A Sample Adverse Analytical Finding</i> and a subsequent <i>B Sample</i> analysis (if requested by the <i>Athlete</i> or International Federation) does not confirm the <i>A Sample</i> analysis, then the <i>Athlete</i> shall not be subject to any further <i>Provisional Suspension</i> on account of a violation of Article 2.1. In circumstances where the <i>Athlete</i> has been removed from an <i>Event</i> based on a violation of Article 2.1 and the subsequent <i>B Sample</i> analysis does not confirm the <i>A Sample</i> finding,</p>	<p>めがある場合を除き、第 8 条に基づく日本アンチ・ドーピング規律パネルの決定に先立って、任意の暫定的資格停止は、<i>JADA</i> の裁量によりいつでも取り消される場合がある。</p> <p>7.4.3 聴聞又は不服申立ての機会</p> <p>第 7.4.1 項及び第 7.4.2 項にかかわらず、暫定的資格停止は、競技者又はその他の人が、(a) 暫定的資格停止が賦課される前、若しくは賦課された後適時に暫定聴聞会の機会を与えられ、又は、(b) 暫定的資格停止を賦課された後適時に第 8 条に基づく緊急聴聞会の機会を与えられない限り、賦課されない。</p> <p>暫定的資格停止の賦課、又は暫定的資格停止を賦課しない旨の決定は、第 13.2 項に従い迅速な手続においてこれに対し不服申立てをすることができる。</p> <p>7.4.4 暫定的資格停止の自発的な受諾</p> <p>競技者は、(i) B 検体の報告 (又は B 検体の放棄) から 10 日間又は他のアンチ・ドーピング規則違反の通知から 10 日間の期間満了、又は(ii) 競技者が当該報告又は通知の後に最初に競技する日のいずれか遅い方に先立ち、独自の判断により、暫定的資格停止を自発的に受諾することができる。</p> <p>その他の人は、アンチ・ドーピング規則違反の通知から 10 日以内に、独自の判断により、暫定的資格停止を自発的に受諾することができる。</p> <p>当該自発的な受諾にあたり、当該暫定的資格停止は完全な効力を有し、当該暫定的資格停止があたかも第 7.4.1 項又は第 7.4.2 項に基づき賦課されたとした場合と同じ方法で取り扱われるものとする。但し、競技者又はその他の人は、暫定的資格停止を自発的に受諾した後いつでも当該受諾を撤回することができるが、かかる場合において競技者又はその他の人は当該暫定的資格停止中に従前服した時間について何ら控除を受けないものとする。</p> <p>7.4.5 A 検体の違反が疑われる分析報告に基づき暫定的資格停止が賦課されたが、それに続く B 検体の分析 (競技者又は国際競技連盟の要請がある場合) が A 検体の分析結果を追認しない場合には、競技者は第 2.1 項の違反を理由としてそれ以上の暫定的資格停止を賦課されないものとする。競技者が第 2.1 項の違反により競技大会の出場資格を失ったが、続く B 検体の分析結果が A 検体の分析結果を追認しないという状況において、その時点で当該競技大会にその他の影響を与えることなく</p>
--	--

<p>then, if it is still possible for the <i>Athlete</i> to be reinserted, without otherwise affecting the <i>Event</i>, the <i>Athlete</i> may continue to take part in the <i>Event</i>.</p> <p>7.5 Results Management Decisions</p> <p><i>Results Management</i> decisions or adjudications by JADA must not purport to be limited to a particular geographic area or sport and shall address and determine without limitation the following issues: (i) whether an anti-doping rule violation was committed or a <i>Provisional Suspension</i> should be imposed, the factual basis for such determination, and the specific Articles that have been violated, and (ii) all <i>Consequences</i> flowing from the anti-doping rule violation(s), including applicable <i>Disqualifications</i> under Articles 9 and 10.10, any forfeiture of medals or prizes, any period of <i>Ineligibility</i> (and the date it begins to run) and any <i>Financial Consequences</i>.³³</p> <p>[<i>Comment to Article 7.5: Results Management decisions include Provisional Suspensions.</i></p> <p><i>Each decision by JADA should address whether an anti-doping rule violation was committed and all Consequences flowing from the violation, including any Disqualifications other than Disqualification under Article 10.1 (which is left to the ruling body for an Event). Pursuant to Article 15, such decision and its imposition of Consequences shall have automatic effect in every sport in every country. For example, for a determination that an Athlete committed an anti-doping rule violation based on an Adverse Analytical Finding for a Sample taken In-Competition, the Athlete's results obtained in the Competition would be Disqualified under Article 9 and all other competitive results obtained by the Athlete from the date the Sample was collected through the duration of the period of Ineligibility are also Disqualified under Article 10.10; if the Adverse Analytical Finding resulted from Testing at an Event, it would be the Major Event Organisation's responsibility to decide whether the Athlete's other individual results in the Event prior to Sample collection are also Disqualified under Article 10.1.]</i></p> <p>7.6 Notification of Results Management Decisions</p> <p>JADA shall notify <i>Athletes</i>, other <i>Persons</i>, <i>Signatories</i> and <i>WADA</i> of <i>Results Management</i> decisions as provided in Article 14.2 and in the <i>International Standard for Results Management</i>.</p>	<p>当該競技者が当該競技大会に出場することが可能な場合には、当該競技者は、当該競技大会に出場できるものとする。</p> <p>7.5 結果管理に関する決定</p> <p>JADA の結果管理に関する決定又は裁定は、特定の地理的地域又は競技に限定されることが意図されてはならず、以下を含むがこれらに限られない事項を取り扱い、決定するものとする。(i)アンチ・ドーピング規則違反が行われたか、又は暫定的資格停止が賦課されるべきか、当該決定の事実的根拠、及び違反があった本規程の具体的な条項、並びに(ii)第9条及び第10.10項に基づく該当する失効、メダル又は褒賞の剥奪、資格停止期間及び当該期間の開始日、並びに金銭的措置を含むアンチ・ドーピング違反に由来するすべての措置。</p> <p>[第7.5項の解説：結果管理に関する決定は、暫定的資格停止を含む。</p> <p>JADA による各決定は、アンチ・ドーピング規則違反が行われたか、及び、第10.1項に基づく失効(それは競技大会の所轄組織に任される。)以外の失効を含む、当該違反に由来するすべての措置を取り扱うべきである。第15条に従い、当該決定及びその措置の賦課は、すべての国においてすべての競技について自動的な効果を有するものとする。例えば、競技会(時)に採取された検体について違反が疑われる分析報告に基づく、競技者がアンチ・ドーピング規則違反を行った旨の決定については、競技会で獲得された競技者の成績は第9条に基づき失効し、検体が採取された日から資格停止期間の存続期間を通して競技者が取得した他の競技成績も、第10.10項に基づき失効する。違反が疑われる分析報告が競技大会における検査の結果である場合には、検体の採取前の競技者の当該競技大会における他の個人成績も第10.1項に基づき失効するか否かは、主要競技大会機関が決定する責任を負う。]</p> <p>7.6 結果管理に関する決定の通知</p> <p>JADA は、第14.2項及び「結果管理に関する国際基準」に定めるとおり、結果管理に関する決定について、競技者、その他の人、署名当事者及びWADAに通知するものとする。</p>
---	---

<p>7.7 Retirement from Sport³⁴</p> <p><i>[Comment to Article 7.7: Conduct by an Athlete or other Person before the Athlete or other Person was subject to the authority of any Anti-Doping Organisation would not constitute an anti-doping rule violation but could be a legitimate basis for denying the Athlete or other Person membership in a sports organisation.]</i></p> <p>If an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> retires while the <i>JADA's Results Management</i> process is underway, <i>JADA</i> retains authority to complete its <i>Results Management</i> process. If an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> retires before any <i>Results Management</i> process has begun, and <i>JADA</i> would have had <i>Results Management</i> authority over the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> at the time the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> committed an anti-doping rule violation, <i>JADA</i> has authority to conduct <i>Results Management</i>.</p>	<p>7.7 競技からの引退</p> <p><i>[第 7.7 項の解説： 競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング機関の権限に服する前に行った行為は、アンチ・ドーピング規則違反を構成しないが、スポーツ団体のメンバーから除外する正当な根拠たりうる。]</i></p> <p><i>JADA</i> の結果管理手続の進行中に競技者又はその他の人が引退する場合には、<i>JADA</i> は、当該結果管理手続を完了させる権限を保有し続ける。仮に、競技者又はその他の人が結果管理手続の開始前に引退する場合であって、競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング規則に違反した時点において <i>JADA</i> が当該競技者又はその他の人について結果管理権限を有していたであろうときには、<i>JADA</i> は結果管理を実施する権限を有する。</p>
---	---

<p>ARTICLE 8 RESULTS MANAGEMENT: RIGHT TO A FAIR HEARING AND NOTICE OF HEARING DECISION</p> <p>For any <i>Person</i> who is asserted to have committed an anti-doping rule violation, <i>JADA</i> shall provide a fair hearing within a reasonable time by a fair, impartial and <i>Operationally Independent</i> hearing panel in compliance with the <i>Code</i> and the <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>8.1 Fair Hearings</p> <p>8.1.1 Fair, Impartial and <i>Operationally Independent</i> Hearing Panel</p> <p>8.1.1.1 <i>JSC</i> shall establish <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> which has jurisdiction to hear and determine whether an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i>, subject to these Anti-Doping Rules, has committed an anti-doping rule violation and, if applicable, to impose relevant <i>Consequences</i>.</p> <p>8.1.1.2 <i>JSC</i> shall ensure that the <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> is free of conflict of interest and that its composition, term of office, professional experience, <i>Operational Independence</i> and adequate financing comply with the requirements of <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>8.1.1.3 Board members, staff members, commission members, consultants and officials of <i>JADA</i> or its bodies, as well as any <i>Person</i> involved in the investigation and pre-adjudication of the matter, cannot be appointed as members and/or clerks (to the extent that such clerk is involved in the deliberation process and/or drafting of any decision) of <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i>. In particular, no member shall have previously considered any <i>TUE</i> application, <i>Results Management</i> decision, or appeals in the same given case.</p> <p>8.1.1.4 The <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> shall consist of a Chair and multiple Vice-Chairs, each of whom shall be a qualified lawyer, multiple medical practitioners; and multiple additional members, each of whom shall be, or has previously been, a sports administrator or an <i>Athlete</i>, all of whom will be appointed on the basis that they are in a position to hear the cases fairly, impartially and independently.</p>	<p>第 8 条：結果管理：公正な聴聞を受ける権利及び聴聞会における決定の通知</p> <p>アンチ・ドーピング規則違反を行ったと主張された人につき、<i>JADA</i> は、合理的な期間内に、<i>世界規程</i>及び「結果管理に関する国際基準」を遵守している、公正かつ公平で運営上の独立性を有する聴聞パネルによる公正な聴聞会を提供するものとする。</p> <p>8.1 公正な聴聞会</p> <p>8.1.1 公正かつ公平で運営上の独立性を有する聴聞パネル</p> <p>8.1.1.1 <i>JSC</i> は、本規程に従い競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング規則違反を行ったかについて聴聞を行い、これを決定し、また、該当する場合には適用される措置を賦課する、管轄権を有する日本アンチ・ドーピング規律パネルを設立するものとする。</p> <p>8.1.1.2 <i>JSC</i> は、日本アンチ・ドーピング規律パネルに利益相反がなく、その構成、任期、職業経験、運営上の独立性及び適切な財政基盤が「結果管理に関する国際基準」の要件を充足することを確保するものとする。</p> <p>8.1.1.3 <i>JADA</i> 又はその団体の理事会構成員、職員、委員会構成員、コンサルタント及び担当者、並びに案件の調査及び裁定前段階に関与する人は、日本アンチ・ドーピング規律パネルのパネル委員及び／又は事務局（当該事務局が協議過程及び／又は決定の起案に関与している限りにおいて）に任命されてはならない。特に、いかなるパネル委員も、配点された事案において、従前に <i>TUE</i> 申請、結果管理に関する決定又は不服申立てを検討してはならない。</p> <p>8.1.1.4 日本アンチ・ドーピング規律パネルは、法律家である 1 名の委員長及び複数名の副委員長、複数名の医師、並びに更なる複数名の委員（現役のスポーツ関連団体の役職員若しくは競技者又は過去に当該役職員若しくは競技者であった者とする。）により構成される。 すべての委員は、公正に、偏りなく、独立して聴聞が行える者として任命される。</p>
--	---

<p>8.1.1.5 Each member shall be appointed by taking into consideration their requisite anti-doping experience including their legal, sports, medical and/or scientific expertise. Each member shall be appointed for renewable term of four (4) years.</p> <p>8.1.1.6 If a panel member dies or resigns, JSC may appoint an independent person to be a panel member to fill the resultant vacancy. The person so appointed shall be appointed for the remainder of the term of the member who occasioned the vacancy.</p> <p>8.1.1.7 <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> shall be in a position to conduct the hearing and decision-making process without interference from <i>JADA</i> or any third party.</p> <p>8.1.2 Hearing Process</p> <p>8.1.2.1 When <i>JADA</i> sends a notice to an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> notifying them of a potential anti-doping rule violation, and the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> does not waive a hearing in accordance with Article 8.3.1 or Article 8.3.2, then the case shall be referred to the <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> for hearing and adjudication, which shall be conducted in accordance with the principles described in Articles 8 and 9 of the <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>8.1.2.2 The Chair of <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> shall appoint three (3) members from the panel to hear and determine each case. Each such hearing panel shall comprise the chair of such hearing panel (i.e. Chair or Vice-Chairs of <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i>), one medical practitioner member and one sports administrator or <i>Athlete</i> (or previous sports administrator or <i>Athlete</i>) member. The panel which conducts hearings and consists of members appointed under this Article 8.3.2 is hereinafter referred to as the “hearing panel”.</p> <p>8.1.2.3 Upon appointment by the Chair as a member of <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i>, each member must declare that there are no facts or circumstances known to him or her which might call into question their impartiality in the eyes of any of the parties</p> <p>8.1.2.4 <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> shall have the power, at its absolute discretion, to appoint an expert to assist or advise the hearing panel as required by the panel.</p> <p>8.1.2.5 Subject to the provisions of these Anti-</p>	<p>8.1.1.5 各委員は、その法的な、スポーツの、医学的及び／又は科学的知見を含む、必要なアンチ・ドーピング経験を考慮に入れた上で、任命されるものとする。各委員の任期は4年とし、任期は更新することができるものとする。</p> <p>8.1.1.6 委員が死亡又は退任した場合には、<i>JSC</i>は、独立した者を委員として任命し、その欠員を補充することができる。任命された当該委員の任期は、欠員の原因となった元の委員の任期の残期間とする。</p> <p>8.1.1.7 <i>日本アンチ・ドーピング規律パネル</i>は、<i>JADA</i> 又は第三者から介入されることなく聴聞及び意思決定手続を行う地位にあるものとする。</p> <p>8.1.2 聴聞手続</p> <p>8.1.2.1 <i>JADA</i> が、アンチ・ドーピング規則違反の可能性について競技者又はその他の人に通知を付与し、当該競技者又はその他の人が第 8.3.1 項又は第 8.3.2 項に従い聴聞会を放棄しない場合には、当該事案は日本アンチ・ドーピング規律パネルに委ねられ、日本アンチ・ドーピング規律パネルは、「結果管理に関する国際基準」の第 8 条及び第 9 条に記載される原則に従い、聴聞会及び裁定を実施するものとする。</p> <p>8.1.2.2 <i>日本アンチ・ドーピング規律パネル</i>の委員長は、個別事案につき聴聞を行い、判断を下すために 3 名の委員を日本アンチ・ドーピング規律パネルの委員の中から任命する。当該 3 名の委員は、長として聴聞会の議事を進行させる者（すなわち、日本アンチ・ドーピング規律パネルの委員長又は副委員長）、1 名の医師、及び 1 名のスポーツ関連団体の役職員又は競技者（過去に役職員若しくは競技者であった者も含む。）により構成される。聴聞会を実施する委員（本第 8.3.2 項の規定に従い構成される委員）から構成されるパネルを以下「聴聞パネル」という。</p> <p>8.1.2.3 委員長に日本アンチ・ドーピング規律パネルの委員に任命された場合には、各委員は、事案の当事者から見て自己の公平性が問題となりうる事実又は事情について自己が認識していないことを宣言しなければならない。</p> <p>8.1.2.4 <i>日本アンチ・ドーピング規律パネル</i>は、聴聞パネルの必要に応じて、当該聴聞パネルを支援させ又はこれに対し助言させるために専門家を任命する完全な裁量権を有する。</p> <p>8.1.2.5 <i>日本アンチ・ドーピング規律パネル</i>及び</p>
--	--

<p>Doping Rules and <i>International Standard for Results Management, Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> and its hearing panels shall have the power to regulate their procedures.</p>	<p>その聴聞パネルは、本規程及び「結果管理に関する国際基準」の規定に従い、自己の手続を定める権限を有するものとする。</p>
<p>8.1.2.6 Hearings of <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> shall be private, unless the <i>Athlete</i> or the other <i>Person</i> against whom the case is brought request a public hearing. JADA may also request a public hearing provided that the <i>Person</i> has provided his/her written consent to the same in accordance with the provisions of <i>International Standard for Results Management</i>. Notwithstanding the above, the request of the <i>Athlete</i> or the other <i>Person</i> may be denied by the hearing panel in the interest of morals, public order, national security, where the interests of <i>Protected Persons</i> or the protection of the private life of the parties so require, where publicity would prejudice the interests of justice or where the proceedings are exclusively related to questions of law. For the avoidance of any doubt, the deliberations of the hearing panel on its decision shall be private.</p>	<p>8.1.2.6 日本アンチ・ドーピング規律パネルの聴聞会は、当該取り扱われている事案の当事者である競技者又はその他の人が公開で行われることを要請しない限り、非公開で実施されるものとする。また、「結果管理に関する国際基準」の規定に従い、当該人が書面の同意を提供したことを条件として、JADAは、公開の聴聞会を要請することができる。上記にかかわらず、要保護者の利益若しくは当事者の私生活の保護が要請される場合、公開することが正義を損なう場合、又は手続が専ら法的問題にのみ関連する場合には、聴聞パネルは、道徳、公的秩序、国家安全の観点から、当該競技者又はその他の人の要請を却下することができる。疑義を避けるために付言するに、聴聞パネルの自己による決定に関する協議は非公開とする。</p>
<p>8.1.2.7 JADA shall present the case against the <i>Person</i> before hearing panel of <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> and, where requested by JADA, the <i>National Sports Federation</i> of the <i>Person</i> concerned shall assist JADA.</p>	<p>8.1.2.7 JADAは、日本アンチ・ドーピング規律パネルの聴聞パネルの前で、当事者である人に対する事案について主張を行うものとし、JADAが要請した場合には、当該人の国内競技連盟は、JADAを支援するものとする。</p>
<p>8.1.2.8 The <i>Person</i>, against whom the case is brought, has the right to respond to the asserted anti-doping rule violation and resulting <i>Consequences</i>.</p>	<p>8.1.2.8 当該取り扱われている事案の当事者である人は、主張されたアンチ・ドーピング規則違反及びその措置に関して意見を述べる権利を有する。</p>
<p>8.1.2.9 A failure by any party or its representative to attend a hearing after notification will be deemed to be an abandonment of its right to a hearing. This right may be reinstated on reasonable grounds.</p>	<p>8.1.2.9 通知受領後に当事者又はその代理人が聴聞会に参加しなかった場合には、当該当事者又はその代理人は、聴聞会に参加する権利を放棄したとみなされる。合理的理由がある場合には、当該権利は復活させることができる。</p>
<p>8.1.2.10 Each party shall have the right to be represented at a hearing, at that party's own expense.</p>	<p>8.1.2.10 各当事者は、自己の費用負担において聴聞会に代理人を立てる権利を有するものとする。</p>
<p>8.1.2.11 Every party shall have the right to an interpreter at the hearing, if deemed necessary by the hearing panel. The hearing panel shall determine the identity and responsibility for the cost of any interpreter.</p>	<p>8.1.2.11 各当事者は、聴聞パネルが必要と認める場合には、通訳を入れる権利を有するものとする。聴聞パネルは、通訳者の身元を確認し、その費用の負担につき判断するものとする。</p>
<p>8.1.2.12 Each party to the proceedings has the right to present evidence, including the right to call and question witnesses (subject to the hearing panel's discretion to accept testimony by telephone, written statement or submission, whether by fax, email or other means).</p>	<p>8.1.2.12 聴聞手続の各当事者は、証人を召喚し尋問する権利を含め、証拠を提示する権利を有する（電話による証言、又はファクシミリ、電子メール若しくはその他の手段により送付された陳述書若しくは意見提示を承認するか否かは、聴聞パネルの自由裁量による。）。</p>
<p>8.1.2.13 Facts related to anti-doping rule violations may be established by any reliable means, including admissions. The hearing panel may receive evidence,</p>	<p>8.1.2.13 アンチ・ドーピング規則違反に関する事実は、自認を含む信頼性のある手段により証明されることができる。聴聞パネルは、伝聞証拠を含む</p>

<p>including hearsay, as it thinks fit and shall be entitled to attach such weight to that evidence as it deems appropriate.</p> <p>8.1.2.14 The hearing panel may postpone or adjourn a hearing.</p> <p>8.1.2.15 The hearing panel, at the request of one of the parties to the proceedings or on its own initiative, may require one or more parties to the proceedings, prior to the hearing, to supply it and/or the other parties to the proceedings with further particulars of the case to be presented by that party at the hearing, including what witnesses they intend to call and that party shall comply with that direction.</p> <p>8.1.2.16 Any failure by the <i>Person</i> concerned to comply with any requirement or direction of the hearing panel shall not prevent the hearing panel from proceeding and such failure may be taken into consideration by the hearing panel when making its decision.</p> <p>8.1.3 Hearings held in connection with <i>Events</i> in respect to <i>Athletes</i> and other <i>Persons</i> who are subject to these Anti-Doping Rules may be conducted by an expedited process where permitted by the <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i>.³⁵</p> <p>[<i>Comment to Article 8.1.3: For example, a hearing could be expedited on the eve of a major Event where the resolution of the anti-doping rule violation is necessary to determine the Athlete's eligibility to participate in the Event or during an Event where the resolution of the case will affect the validity of the Athlete's results or continued participation in the Event.</i>]</p> <p>8.1.4 WADA, the International Federation, the National Sports Federation of the Athlete or other Person, and JSPO may attend the hearing as observers. In any event, JADA shall keep them fully apprised as to the status of pending cases and the result of all hearings.</p> <p>8.2 Notice of Decisions</p> <p>8.2.1 At the end of the hearing, or within a reasonable period thereafter, the <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> shall issue a written decision that conforms with Article 9 of the International Standard for Results Management and which includes the full reasons for the decision, the period of <i>Ineligibility</i> imposed, the <i>Disqualification</i> of results under Article 10.10 and, if applicable, a justification for why the</p>	<p>適切と考えられる証拠を受審することができ、自由心証により証拠を評価する権利を有する。</p> <p>8.1.2.14 聴聞パネルは、聴聞会を延会又は休会とすることができる。</p> <p>8.1.2.15 聴聞パネルは、聴聞手続の当事者の要求により、又は自己の発意に基づいて、聴聞手続の一又は二以上の当事者に対して、聴聞会開催前に、召喚予定の証人を含む、当該当事者が聴聞会で提示する予定の、当該事案の更なる詳細を、聴聞パネル及び/又は他当事者に対して提示することを要求することができ、当該要求を受けた当事者は、当該指示に従うものとする。</p> <p>8.1.2.16 当事者である人が聴聞パネルの要請又は指示に従わなかったとしても、聴聞パネルによる聴聞会進行が妨げられることはないものとする。当該指示等に従わなかったという事情は、聴聞パネルが決定を下す上での判断材料とすることができる。</p> <p>8.1.3 本規程の対象である競技者及びその他の人に関して、競技大会に関連して開催される聴聞会は、日本アンチ・ドーピング規律パネルが許容する場合には、簡易な手続の方式で開催することができる。</p> <p>[第8.1.3項の解説：例えば、アンチ・ドーピング規則違反の問題が解決されなければ競技者の競技大会参加資格を判断できない場合には、主要競技大会の前日に緊急聴聞会が開催される可能性がある。また、事案の判断内容によって競技大会における競技者の成績の有効性や継続参加資格が左右される場合、競技大会開催期間中に緊急聴聞会が開催される可能性がある。]</p> <p>8.1.4 WADA、国際競技連盟、競技者又はその他の人の国内競技連盟及び公益財団法人日本スポーツ協会は、オブザーバーとして聴聞会に参加することができる。いかなる場合であっても、JADAは係争中の事案及びすべての聴聞会の結果についてこれらに完全に情報提供し続けるものとする。</p> <p>8.2 決定の通知</p> <p>8.2.1 聴聞会の終了時又はその後合理的な期間内において、日本アンチ・ドーピング規律パネルは、「結果管理に関する国際基準」の第9条に適合し、決定の完全な理由、賦課される資格停止期間、第10.10項に基づく成績の失効、及び、該当する場合には、賦課可能な最大の措置が賦課されなかったことの正当な理由を含む、決定書面を発行するものとする。</p>
--	---

<p>greatest potential <i>Consequences</i> were not imposed.</p> <p>8.2.2 <i>JADA</i> shall notify that decision to the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> and to other <i>Anti-Doping Organisations</i> with a right to appeal under Article 13.2.3, the <i>Japan Sports Arbitration Agency</i>, and Sports Agency of <i>Japan</i>, and shall promptly report it into <i>ADAMS</i>. The decision may be appealed as provided in Article 13.</p> <p>8.3 Waiver of Hearing</p> <p>8.3.1 An <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> against whom an anti-doping violation is asserted may admit that violation at any time, waive a hearing and accept the <i>Consequences</i> proposed by <i>JADA</i> and may, if applicable, benefit from a <i>Results Management</i> agreement under the conditions set out in Article 10.8.</p> <p>8.3.2 However, if the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> against whom an anti-doping rule violation is asserted fails to dispute that assertion within the deadline otherwise specified in the notice sent by the <i>JADA</i> asserting the violation, then they shall be deemed to have admitted the violation, to have waived a hearing, and to have accepted the proposed <i>Consequences</i>.</p> <p>8.3.3 In cases where Article 8.3.1 or 8.3.2 applies, a hearing before <i>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel</i> shall not be required. Instead <i>JADA</i> shall promptly issue a written decision that conforms with Article 9 of the <i>International Standard for Results Management</i> and which includes the full reasons for the decision, the period of <i>Ineligibility</i> imposed, the <i>Disqualification</i> of results under Article 10.10 and, if applicable, a justification for why the greatest potential <i>Consequences</i> were not imposed.</p> <p>8.4 Single Hearing Before CAS</p> <p>Anti-doping rule violations asserted against <i>International-Level Athletes</i>, <i>National-Level Athletes</i> or other <i>Persons</i> may, with the consent of the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i>, <i>JADA</i> (where it has <i>Results Management</i> responsibility in accordance with Article 7) and <i>WADA</i>, be heard in a single hearing directly at <i>CAS</i>.³⁶</p> <p>[Comment to Article 8.4: In some cases, the combined cost of holding a hearing in the first instance at the international or national level, then rehearing the case de novo before <i>CAS</i> can be very substantial. Where all of the parties identified in this Article are satisfied that</p>	<p>8.2.2 <i>JADA</i> は、当該決定を競技者又はその他の人、及び第 13.2.3 項に基づき不服申立てを提起する権利を有する他のアンチ・ドーピング機関、日本スポーツ仲裁機構及び日本のスポーツ庁に通知するものとし、速やかに <i>ADAMS</i> に報告するものとする。当該決定に対しては、第 13 条に定めるとおり不服申立てを提起することができる。</p> <p>8.3 聴聞を受ける権利の放棄</p> <p>8.3.1 アンチ・ドーピング規則違反が主張された競技者又はその他の人は、いつでも当該違反を自認し、聴聞を放棄し <i>JADA</i> の提案する措置を受諾し、該当する場合には第 10.8 項の定める条件に基づく結果管理に関する合意の利益を享受することができる。</p> <p>8.3.2 但し、アンチ・ドーピング規則違反が主張された競技者又はその他の人が違反を主張する <i>JADA</i> が送付する通知において別途特定される期限内に当該主張に対して異議を申し立てなかった場合には、当該競技者又はその他の人は当該違反を自認し、聴聞を放棄し、提案された措置を受諾したものとみなされるものとする。</p> <p>8.3.3 第 8.3.1 項又は第 8.3.2 項が適用される場合には、日本アンチ・ドーピング規律パネルの前の聴聞は不要であるものとする。代わりに <i>JADA</i> は、「結果管理に関する国際基準」の第 9 条に適合し、決定の完全な理由、賦課される資格停止期間、第 10.10 項に基づく成績の失効、及び該当する場合には最大限の潜在的な措置が賦課されなかった根拠を含む、決定書面を速やかに発行するものとする。</p> <p>8.4 <i>CAS</i> における一審制の聴聞会</p> <p>国際レベルの競技者、国内レベルの競技者又はその他の人に対し主張されたアンチ・ドーピング規則違反は、競技者又はその他の人、<i>JADA</i> (第 7 条に従い、結果管理を行う責任を負う。) 及び <i>WADA</i> の同意をもって、直接 <i>CAS</i> において 1 回限りの聴聞の対象とすることができる。</p> <p>[第 8.4 項の解説: 国際レベル又は国内レベルで第一審の聴聞会を行い、その後 <i>CAS</i> にて新規に再度聴聞会を行うために要する費用の合計は、多額である場合がある。本条において特定される全当事</p>
---	--

<p><i>their interests will be adequately protected in a single hearing, there is no need for the Athlete or Anti-Doping Organisations to incur the extra expense of two (2) hearings. An Anti-Doping Organisation that wants to participate in the CAS hearing as a party or as an observer may condition its approval of a single hearing on being granted that right.]</i></p>	<p>者が、自己の利益が一審制の聴聞会で適切に保護される旨を納得する場合には、競技者又はアンチ・ドーピング機関は2回の聴聞会にかかる追加費用を負担する必要がない。当事者又はオブザーバーとしてCASの聴聞に参加することを希望するアンチ・ドーピング機関は、一審制の聴聞会を、当該利益が保護されることを条件として承認することができる。]</p>
--	---

ARTICLE 9 AUTOMATIC DISQUALIFICATION OF INDIVIDUAL RESULTS

An anti-doping rule violation in *Individual Sports* in connection with an *In-Competition* test automatically leads to *Disqualification* of the result obtained in that *Competition* with all resulting *Consequences*, including forfeiture of any medals, points and prizes.³⁷

[*Comment to Article 9: For Team Sports, any awards received by individual players will be Disqualified. However, Disqualification of the team will be as provided in Article 11. In sports which are not Team Sports but where awards are given to teams, Disqualification or other disciplinary action against the team when one or more team members have committed an anti-doping rule violation shall be as provided in the applicable rules of the International Federation.*]

ARTICLE 10 SANCTIONS ON INDIVIDUALS

10.1 Disqualification of Results in the Event during which an Anti-Doping Rule Violation Occurs

10.1.1 An anti-doping rule violation occurring during or in connection with an *Event* may, upon the decision of the ruling body of the *Event*, lead to *Disqualification* of all of the *Athlete's* individual results obtained in that *Event* with all *Consequences*, including forfeiture of all medals, points and prizes, except as provided in Article 10.1.2.

Factors to be included in considering whether to *Disqualify* other results in an *Event* might include, for example, the seriousness of the *Athlete's* anti-doping rule violation and whether the *Athlete* tested negative in the other *Competitions*.³⁸

[*Comment to Article 10.1.1: Whereas Article 9 Disqualifies the result in a single Competition in which the Athlete tested positive (e.g., the 100 meter backstroke), this Article may lead to Disqualification of all results in all races during the Event (e.g., the swimming World Championships).*]

10.1.2 If the *Athlete* establishes that he or she bears *No Fault* or *Negligence* for the violation, the *Athlete's* individual results in the other *Competitions* shall not be *Disqualified*, unless the *Athlete's* results in *Competitions* other than the *Competition* in which the anti-doping rule violation occurred were likely to have been affected by the *Athlete's* anti-doping rule violation.

10.2 Ineligibility for Presence, Use or Attempted

第9条 個人の成績の自動的失効

個人スポーツにおける競技会(時)検査に関してアンチ・ドーピング規則違反があった場合には、当該競技会において得られた個人の成績は、自動的に失効し、その結果として、当該競技会において獲得されたメダル、得点、及び褒賞の剥奪を含む措置が課される。

[第9条の解説：チームスポーツについては、個人の選手が受領した賞は失効する。但し、チームの失効は第11条に定めるとおりとする。チームスポーツではないがチームに対して賞が与えられるスポーツにおいては、一人又は二人以上のチームメンバーがアンチ・ドーピング規則に違反した際におけるチームに対する失効又はその他の制裁措置は、国際競技連盟の適用される規則に従って課されることになる。]

第10条 個人に対する制裁措置

10.1 アンチ・ドーピング規則違反が発生した競技大会における成績の失効

10.1.1 競技大会開催期間中又は競技大会に関連してアンチ・ドーピング規則違反が発生した場合、当該競技大会の所轄組織である組織の決定により、当該競技大会において得られた個人の成績は失効し、当該競技大会において獲得されたメダル、得点、及び褒賞の剥奪を含む措置が課される。但し、第10.1.2項に定める場合は、この限りではない。

競技大会における他の成績を失効させるか否かを検討する際の要素としては、例えば、競技者によるアンチ・ドーピング規則違反の重大性の程度や、他の競技会において競技者に陰性の検査結果が出たか否かなどが挙げられる。

[第10.1.1項の解説：第9条によって、競技者に陽性検査結果が出た競技会(例、100メートル背泳ぎ)においては、その結果が失効するが、本項により、競技大会(例世界水泳選手権大会)の開催期間中に実施された全レースの結果がすべて失効する可能性がある。]

10.1.2 競技者が当該違反に関して自己に「過誤又は過失がないこと」を証明した場合には、アンチ・ドーピング規則違反が発生した競技会以外の競技会における競技者の個人の成績は失効しないものとする。但し、アンチ・ドーピング規則違反が発生した競技会以外の競技会における当該競技者の成績が、当該違反による影響を受けていると考えられる場合は、この限りではない。

10.2 禁止物質及び禁止方法の存在、使用若しくは

<p>Use or Possession of a Prohibited Substance or Prohibited Method</p>	<p>使用の企て、又は、保有に関する資格停止</p>
<p>The period of <i>Ineligibility</i> for a violation of Article 2.1, 2.2 or 2.6 shall be as follows, subject to potential reduction or suspension pursuant to Article 10.5, 10.6 or 10.7:</p>	<p>第 2.1 項、第 2.2 項又は第 2.6 項の違反による資格停止期間は、第 10.5 項、第 10.6 項又は第 10.7 項に基づく短縮又は猶予の可能性を条件として、以下のとおりとする。</p>
<p>10.2.1 The period of <i>Ineligibility</i>, subject to Article 10.2.4, shall be four (4) years where:</p>	<p>10.2.1 第 10.2.4 項を条件として、資格停止期間は、次に掲げる場合には 4 年間とする。</p>
<p>10.2.1.1 The anti-doping rule violation does not involve a <i>Specified Substance</i>, unless the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> can establish that the anti-doping rule violation was not intentional.³⁹</p>	<p>10.2.1.1 アンチ・ドーピング規則違反が特定物質に関連しない場合。但し、競技者又はその他の人が、当該アンチ・ドーピング規則違反が意図的ではなかった旨を立証できた場合を除く。</p>
<p>[Comment to Article 10.2.1.1: While it is theoretically possible for an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> to establish that the anti-doping rule violation was not intentional without showing how the <i>Prohibited Substance</i> entered one's system, it is highly unlikely that in a doping case under Article 2.1 an <i>Athlete</i> will be successful in proving that the <i>Athlete</i> acted unintentionally without establishing the source of the <i>Prohibited Substance</i>.]</p>	<p>[第 10.2.1.1 項の解説：競技者又はその他の人が、禁止物質がどのように体内に入ったかを示すことなく、アンチ・ドーピング規則違反が意図的ではなかったことを証明することは理論的には可能である一方で、第 2.1 項に基づくドーピング事案で、競技者が、禁止物質の出所 (source) を証明することなく当該競技者が意図的でなく行動したことを証明することができる可能性は極めて低い。]</p>
<p>10.2.1.2 The anti-doping rule violation involves a <i>Specified Substance</i> and <i>JADA</i> can establish that the anti-doping rule violation was intentional.</p>	<p>10.2.1.2 アンチ・ドーピング規則違反が特定物質に関連し、<i>JADA</i> が、当該アンチ・ドーピング規則違反が意図的であった旨立証できた場合。</p>
<p>10.2.2 If Article 10.2.1 does not apply, subject to Article 10.2.4.1, the period of <i>Ineligibility</i> shall be two (2) years.</p>	<p>10.2.2 第 10.2.1 項が適用されない場合には、第 10.2.4.1 項を条件として、資格停止期間は 2 年間とする。</p>
<p>10.2.3 As used in Article 10.2, the term "intentional" is meant to identify those <i>Athletes</i> or other <i>Persons</i> who engage in conduct which they knew constituted an anti-doping rule violation or knew that there was a significant risk that the conduct might constitute or result in an anti-doping rule violation and manifestly disregarded that risk. An anti-doping rule violation resulting from an <i>Adverse Analytical Finding</i> for a substance which is only prohibited <i>In-Competition</i> shall be rebuttably presumed to be not "intentional" if the substance is a <i>Specified Substance</i> and the <i>Athlete</i> can establish that the <i>Prohibited Substance</i> was <i>Used Out-of-Competition</i>. An anti-doping rule violation resulting from an <i>Adverse Analytical Finding</i> for a substance which is only prohibited <i>In-Competition</i> shall not be considered "intentional" if the substance is not a <i>Specified Substance</i> and the <i>Athlete</i> can establish that the <i>Prohibited Substance</i> was <i>Used Out-of-Competition</i> in a context</p>	<p>10.2.3 「意図的」という用語は、第 10.2 項において用いられる場合には、自らの行為がアンチ・ドーピング規則違反を構成することを認識した上でその行為を行ったか、又は、当該行為がアンチ・ドーピング規則違反を構成し若しくはアンチ・ドーピング規則違反の結果に至りうる重大なリスクがあることを認識しつつ、当該リスクを明白に無視した競技者又はその他の人を指す。競技会(時)においてのみ禁止された物質についての違反が疑われる分析報告の結果としてのアンチ・ドーピング規則違反は、当該物質が特定物質である場合であって、競技者が、禁止物質が競技会外で使用された旨を立証できるときは、「意図的」ではないものと推定されるものとする。競技会(時)においてのみ禁止された物質による違反が疑われる分析報告の結果としてのアンチ・ドーピング規則違反は、当該物質が特定物質ではない場合であって、競技者が、禁止物質が競技力とは無関係に競技会外で使用された旨立証できるときは、「意</p>

37
38
39

<p>unrelated to sport performance.⁴⁰</p> <p>[Comment to Article 10.2.3: Article 10.2.3 provides a special definition of “intentional” which is to be applied solely for purposes of Article 10.2.]</p> <p>10.2.4 Notwithstanding any other provision in Article 10.2, where the anti-doping rule violation involves a <i>Substance of Abuse</i>:</p> <p>10.2.4.1 If the <i>Athlete</i> can establish that any ingestion or <i>Use</i> occurred <i>Out-of-Competition</i> and was unrelated to sport performance, then the period of <i>Ineligibility</i> shall be three (3) months <i>Ineligibility</i>.</p> <p>In addition, the period of <i>Ineligibility</i> calculated under this Article 10.2.4.1 may be reduced to one (1) month if the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> satisfactorily completes a <i>Substance of Abuse</i> treatment programme approved by JADA. The period of <i>Ineligibility</i> established in this Article 10.2.4.1 is not subject to any reduction based on any provision in Article 10.6.⁴¹</p> <p>[Comment to Article 10.2.4.1: The determinations as to whether the treatment programme is approved and whether the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> has satisfactorily completed the programme shall be made in the sole discretion of JADA. This Article is intended to give JADA the leeway to apply their own judgment to identify and approve legitimate and reputable, as opposed to “sham”, treatment programmes. It is anticipated, however, that the characteristics of legitimate treatment programmes may vary widely and change over time such that it would not be practical for WADA to develop mandatory criteria for acceptable treatment programmes.]</p> <p>10.2.4.2 If the ingestion, <i>Use</i> or <i>Possession</i> occurred <i>In-Competition</i>, and the <i>Athlete</i> can establish that the context of the ingestion, <i>Use</i> or <i>Possession</i> was unrelated to sport performance, then the ingestion, <i>Use</i> or <i>Possession</i> shall not be considered intentional for purposes of Article 10.2.1 and shall not provide a basis for a finding of <i>Aggravating Circumstances</i> under Article 10.4.</p> <p>10.3 Ineligibility for Other Anti-Doping Rule Violations</p> <p>The period of <i>Ineligibility</i> for anti-doping rule violations other than as provided in Article 10.2 shall be as follows, unless Article 10.6 or 10.7 are applicable:</p> <p>10.3.1 For violations of Article 2.3 or 2.5, the period of <i>Ineligibility</i> shall be four (4) years except: (i) in the</p>	<p>「意図的」であったと判断してはならない。</p> <p>[第10.2.3項の解説：第10.2.3項は、第10.2項との関係のみにおいて適用される、「意図的」の特別な定義を規定している。]</p> <p>10.2.4 第10.2項の他の規定にかかわらず、アンチ・ドーピング規則違反が濫用物質に関するものである場合。</p> <p>10.2.4.1 競技者が、摂取、使用又は保有が競技会外で発生したものであること、及び、競技力とは無関係であったことを立証することができた場合には、資格停止期間は3ヶ月間とする。</p> <p>加えて、競技者又はその他の人が、JADAが承認した濫用物質治療プログラムを十分に完了した場合には、本第10.2.4.1項に基づき算定された資格停止期間は、1ヶ月間に短縮される場合がある。本第10.2.4.1項で確定された資格停止期間は、第10.6項のいかなる規定によっても短縮されない。</p> <p>[第10.2.4.1項の解説：治療プログラムが承認されたか否か及び競技者又はその他の人がプログラムを十分に完了したか否かの判断は、JADAの単独の裁量により行われるものとする。本項は、JADAが、「偽物」の治療プログラムではない、適法かつ高評価のプログラムを特定し、承認するために自己の判断を行う余地を付与することを意図している。しかし、適法な治療プログラムの特徴は広く多様で、時間の経過に従い変化する可能性があるため、受諾可能な治療プログラムのためにWADAが義務的な基準を策定することは実際的ではないことが予想されている。]</p> <p>10.2.4.2 摂取、使用又は保有が競技会（時）に発生したものであり、かつ、競技者が、摂取、使用又は保有の文脈が競技力とは無関係であったことを立証することができた場合には、当該摂取、使用又は保有は第10.2.1項において意図的とは捉えられないものとし、また、第10.4項に基づき加重事情の存在を認定する根拠とはならないものとする。</p> <p>10.3 その他のアンチ・ドーピング規則違反に関する資格停止</p> <p>第10.2項に定められた以外のアンチ・ドーピング規則違反に関する資格停止期間は、第10.6項又は第10.7項が適用される場合を除き、次のとおりとする。</p> <p>10.3.1 第2.3項又は第2.5項の違反の場合には、資格停止期間は4年間とする。但し、(i)競</p>
--	---

40

41

case of failing to submit to *Sample* collection, if the *Athlete* can establish that the commission of the anti-doping rule violation was not intentional, the period of *Ineligibility* shall be two (2) years; (ii) in all other cases, if the *Athlete* or other *Person* can establish exceptional circumstances that justify a reduction of the period of *Ineligibility*, the period of *Ineligibility* shall be in a range from two (2) years to four (4) years depending on the *Athlete* or other *Person's* degree of *Fault*; or (iii) in a case involving a *Protected Person* or *Recreational Athlete*, the period of *Ineligibility* shall be in a range between a maximum of two (2) years and, at a minimum, a reprimand and no period of *Ineligibility*, depending on the *Protected Person* or *Recreational Athlete's* degree of *Fault*.

10.3.2 For violations of Article 2.4, the period of *Ineligibility* shall be two (2) years, subject to reduction down to a minimum of one (1) year, depending on the *Athlete's* degree of *Fault*. The flexibility between two (2) years and one (1) year of *Ineligibility* in this Article is not available to *Athletes* where a pattern of last-minute whereabouts changes or other conduct raises a serious suspicion that the *Athlete* was trying to avoid being available for *Testing*.

10.3.3 For violations of Article 2.7 or 2.8, the period of *Ineligibility* shall be a minimum of four (4) years up to lifetime *Ineligibility*, depending on the seriousness of the violation. An Article 2.7 or Article 2.8 violation involving a *Protected Person* shall be considered a particularly serious violation and, if committed by *Athlete Support Personnel* for violations other than for *Specified Substances*, shall result in lifetime *Ineligibility* for *Athlete Support Personnel*. In addition, significant violations of Article 2.7 or 2.8 which may also violate non-sporting laws and regulations, shall be reported to the competent administrative, professional or judicial authorities.⁴²

[Comment to Article 10.3.3: Those who are involved in doping Athletes or covering up doping should be subject to sanctions which are more severe than the Athletes who test positive. Since the authority of sport organisations is generally limited to *Ineligibility* for accreditation, membership and other sport benefits, reporting Athlete Support Personnel to competent authorities is an important step in the deterrence of doping.]

10.3.4 For violations of Article 2.9, the period of *Ineligibility* imposed shall be a minimum of two (2) years, up to lifetime *Ineligibility*, depending on the seriousness of the violation.

10.3.5 For violations of Article 2.10, the period of

技者が検体の採取に応じない場合に、アンチ・ドーピング規則違反が意図的に行われたものではない旨を立証できたときはこの限りではなく、資格停止期間は2年間とするものとし、(ii)他のすべての事案において、競技者又はその他の人が、資格停止期間の短縮を正当化する例外的な状況を立証することができた場合には、資格停止期間は、競技者又はその他の人の過誤の程度により、2年間から4年間の範囲内とし、(iii)要保護者又はレクリエーション競技者に関する事案においては、資格停止期間は、要保護者又はレクリエーション競技者の過誤の程度により、最長で2年間、最短で資格停止期間を伴わない譴責の範囲内とする。

10.3.2 第2.4項の違反の場合には、資格停止期間は2年間とするものとする。但し競技者の過誤の程度により最短1年間となるまで短縮することができる。本項における2年間から1年間までの間の資格停止期間の柔軟性は、直前の居場所情報変更パターン又はその他の行為により、競技者が検査の対象となることを避けようとしていた旨の重大な疑義が生じる場合には、当該競技者にはこれを適用しない。

10.3.3 第2.7項又は第2.8項の違反の場合には、資格停止期間は、違反の重大性の程度により、最短で4年間、最長で永久資格停止とするものとする。要保護者に関連する第2.7項又は第2.8項の違反は、特に重大な違反であると考えられ、サポートスタッフによる違反が特定物質に関する違反以外のものであった場合には、当該サポートスタッフに対して永久資格停止が課されるものとする。さらに、第2.7項又は第2.8項の重大な違反がスポーツに関連しない法令違反にも及ぶ場合には、権限のある行政機関、専門機関又は司法機関に対して報告がなされるものとする。

[第10.3.3項の解説：ドーピングを行っている競技者に関与し、又はドーピングの隠蔽に関与した者には、陽性検査結果が出た競技者本人よりも、厳しい制裁措置が適用されるべきである。スポーツ団体の権限は、一般に、認定、加盟その他の競技上の恩典に関する資格の停止に限定されていることから、サポートスタッフを権限のある機関に告発することは、ドーピングを抑止するための重要な措置である。]

10.3.4 第2.9項の違反につき、賦課される資格停止期間は、違反の重大性の程度により、最短で2年、最長で永久資格停止とするものとする。

10.3.5 第2.10項の違反につき、資格停止期間は

Ineligibility shall be two (2) years, subject to reduction down to a minimum of one (1) year, depending on the *Athlete* or other *Person's* degree of *Fault* and other circumstances of the case.⁴³

[*Comment to Article 10.3.5: Where the "other Person" referenced in Article 2.10 is an entity and not an individual, that entity may be disciplined as provided in Article 12.*]

10.3.6 For violations of Article 2.11, the period of *Ineligibility* shall be a minimum of two (2) years, up to lifetime *Ineligibility*, depending on the seriousness of the violation by the *Athlete* or other *Person*.⁴⁴

[*Comment to Article 10.3.6: Conduct that is found to violate both Article 2.5 (Tampering) and Article 2.11 (Acts by an Athlete or Other Person to Discourage or Retaliate Against Reporting to Authorities) shall be sanctioned based on the violation that carries the more severe sanction.*]

10.4 Aggravating Circumstances which may Increase the Period of Ineligibility

If *JADA* establishes in an individual case involving an anti-doping rule violation other than violations under Article 2.7 (*Trafficking or Attempted Trafficking*), 2.8 (*Administration or Attempted Administration*), 2.9 (*Complicity*) or 2.11 (*Acts by an Athlete or Other Person to Discourage or Retaliate Against Reporting*) that *Aggravating Circumstances* are present which justify the imposition of a period of *Ineligibility* greater than the standard sanction, then the period of *Ineligibility* otherwise applicable shall be increased by an additional period of *Ineligibility* of up to two (2) years depending on the seriousness of the violation and the nature of the *Aggravating Circumstances*, unless the *Athlete* or other *Person* can establish that he or she did not knowingly commit the anti-doping rule violation.⁴⁵

[*Comment to Article 10.4: Violations under Articles 2.7 (Trafficking or Attempted Trafficking), 2.8 (Administration or Attempted Administration), 2.9 (Complicity or Attempted Complicity) and 2.11 (Acts by an Athlete or Other Person to Discourage or Retaliate Against Reporting) are not included in the application of Article 10.4 because the sanctions for these violations already build in sufficient discretion up to a lifetime ban to allow consideration of any aggravating circumstance.*]

2年間とするものとする。但し、*競技者*又はその他の人の過誤の程度及び当該事案のその他の事情により、最短1年間となるまで短縮することができる。

[第10.3.5項の解説：第2.10項に引用される「その他の人」が個人でなく団体である場合には、当該団体は第12条の定めに従い制裁の対象となる場合がある。]

10.3.6 第2.11項の違反について、*競技者*又はその他の人の違反の重大性の程度により、資格停止期間は最短で2年、最長で永久資格停止とする。

[第10.3.6項の解説：第2.5項（不正干渉）及び第2.11項（*競技者*又はその他の人が、当局への報告を阻止し、又は当局への通報に対して報復する行為）の両方に違反すると判断される行為は、より厳しい制裁措置を有する違反に基づき制裁が課されるものとする。

10.4 資格停止期間を加重する可能性のある加重事情

*JADA*が、第2.7項（不正取引又は不正取引の企て）、第2.8項（投与又は投与の企て）、第2.9項（違反関与）又は第2.11項（*競技者*又はその他の人が、当局への通報を阻止し、又は当局への通報に対して報復する行為）に基づく違反以外のアンチ・ドーピング規則違反に関する個別の事案において、標準的な制裁措置よりも長い資格停止期間の賦課を正当化する加重事情が存在することを立証した場合には、その立証がない場合には適用されたであろう資格停止期間は、違反の重大性及び加重事情の性質により、2年を上限とする追加の資格停止期間の分加重されるものとする。但し、*競技者*又はその他の人が、自分が故意に当該アンチ・ドーピング規則違反を行ったわけではないことを立証することができた場合には、この限りでない。

[第10.4項の解説：第2.7項（不正取引又は不正取引の企て）、第2.8項（投与又は投与の企て）、第2.9項（違反関与又は違反関与の企て）又は第2.11項（*競技者*又はその他の人が、当局への通報を阻止し、又は当局への通報に対して報復する行為）に基づく違反は、これらの違反に対する制裁措置が、加重すべき事情を考慮に入れることを許容した上で、既に永久資格停止を上限とする十分な裁量を有していることから、第10.4項の適用に含まれない。]

43

44

45

10.5 Elimination of the Period of Ineligibility where there is No Fault or Negligence

If an Athlete or other Person establishes in an individual case that he or she bears No Fault or Negligence, then the otherwise applicable period of Ineligibility shall be eliminated.⁴⁶

[Comment to Article 10.5: This Article and Article 10.6.2 apply only to the imposition of sanctions; they are not applicable to the determination of whether an anti-doping rule violation has occurred. They will only apply in exceptional circumstances, for example, where an Athlete could prove that, despite all due care, he or she was sabotaged by a competitor. Conversely, No Fault or Negligence would not apply in the following circumstances: (a) a positive test resulting from a mislabelled or contaminated vitamin or nutritional supplement (Athletes are responsible for what they ingest (Article 2.1) and have been warned against the possibility of supplement contamination); (b) the Administration of a Prohibited Substance by the Athlete's personal physician or trainer without disclosure to the Athlete (Athletes are responsible for their choice of medical personnel and for advising medical personnel that they cannot be given any Prohibited Substance); and (c) sabotage of the Athlete's food or drink by a spouse, coach or other Person within the Athlete's circle of associates (Athletes are responsible for what they ingest and for the conduct of those Persons to whom they entrust access to their food and drink). However, depending on the unique facts of a particular case, any of the referenced illustrations could result in a reduced sanction under Article 10.6 based on No Significant Fault or Negligence.]

10.6 Reduction of the Period of Ineligibility based on No Significant Fault or Negligence

10.6.1 Reduction of Sanctions in Particular Circumstances for Violations of Article 2.1, 2.2 or 2.6.

All reductions under Article 10.6.1 are mutually exclusive and not cumulative.

10.6.1.1 Specified Substances or Specified Methods

Where the anti-doping rule violation involves a Specified Substance (other than a Substance of Abuse) or Specified Method, and the Athlete or other Person can establish No Significant Fault or Negligence, then the period of Ineligibility shall be, at a minimum, a reprimand and no period of Ineligibility, and at a maximum, two (2) years

10.5 過誤又は過失がない場合における資格停止期間の取消し

個別事案において、競技者が「過誤又は過失がないこと」を証明した場合には、その証明がなければ適用されたであろう資格停止期間は取り消されるものとする。

[第10.5項の解説：本項及び第10.6.2項は、制裁の賦課に対してのみ適用され、アンチ・ドーピング規則違反が発生したか否かの決定には適用されない。また、例えば、十分な注意を払ったにもかかわらず競技相手から妨害を受けた旨を競技者が証明できる場合等の例外的状況においてのみ適用される。逆に、「過誤又は過失がないこと」は、次の場合には適用されない。

- (a) ビタミンや栄養補助食品の誤った表記や汚染が原因となって検査結果が陽性になった場合（競技者は自らが摂取する物に関して責任を負う（第2.1項）とともに、サプリメントの汚染の可能性に関しては競技者に対して既に注意喚起がなされている。）。
 - (b) 競技者本人に開示することなく競技者の主治医又はトレーナーが禁止物質を投与した場合（競技者は医療従事者の選定について責任を負うとともに、自らに対する禁止物質の投与が禁止されている旨を医療従事者に対して伝達しなければならない。）。
 - (c) 競技者が懇意とする集団の中において、配偶者、コーチその他の人が競技者の飲食物に手を加えた場合（競技者は自らが摂取する物について責任を負うとともに、自己の飲食物への接触を許している人の行為についても責任を負う。）。
- 但し、個々の事案の具体的な事実によっては、上記のような事案であっても、「重大な過誤又は過失がないこと」として、第10.6項に基づき、制裁措置が短縮される可能性がある。]

10.6 「重大な過誤又は過失がないこと」に基づく資格停止期間の短縮

10.6.1 第2.1項、第2.2項又は第2.6項の違反に対する特定の状況における制裁措置の短縮

第10.6.1項に基づく短縮の一切は、相互に排他的であり、累積的ではない。

10.6.1.1 特定物質又は特定方法

アンチ・ドーピング規則違反が特定物質（濫用物質を除く。）又は特定方法に関連する場合において、競技者又はその他の人が「重大な過誤又は過失がないこと」を立証できるときには、資格停止期間は、競技者又はその他の人の過誤の程度により、最短で資格停止期間を伴わない譴責とし、最

of *Ineligibility*, depending on the *Athlete's* or other *Person's* degree of *Fault*.

10.6.1.2 Contaminated Products

In cases where the *Athlete* or other *Person* can establish both *No Significant Fault* or *Negligence* and that the detected *Prohibited Substance* (other than a *Substance of Abuse*) came from a *Contaminated Product*, then the period of *Ineligibility* shall be, at a minimum, a reprimand and no period of *Ineligibility*, and at a maximum, two (2) years *Ineligibility*, depending on the *Athlete* or other *Person's* degree of *Fault*.⁴⁷

[*Comment to Article 10.6.1.2: In order to receive the benefit of this Article, the Athlete or other Person must establish not only that the detected Prohibited Substance came from a Contaminated Product, but must also separately establish No Significant Fault or Negligence. It should be further noted that Athletes are on notice that they take nutritional supplements at their own risk. The sanction reduction based on No Significant Fault or Negligence has rarely been applied in Contaminated Product cases unless the Athlete has exercised a high level of caution before taking the Contaminated Product. In assessing whether the Athlete can establish the source of the Prohibited Substance, it would, for example, be significant for purposes of establishing whether the Athlete actually Used the Contaminated Product, whether the Athlete had declared the product which was subsequently determined to be contaminated on the Doping Control form.*

This Article should not be extended beyond products that have gone through some process of manufacturing. Where an Adverse Analytical Finding results from environment contamination of a "non-product" such as tap water or lake water in circumstances where no reasonable person would expect any risk of an anti-doping rule violation, typically there would be No Fault or Negligence under Article 10.5.]

10.6.1.3 Protected Persons or Recreational Athletes

Where the anti-doping rule violation not involving a *Substance of Abuse* is committed by a *Protected Person* or *Recreational Athlete*, and the *Protected Person* or *Recreational Athlete* can establish *No Significant Fault* or *Negligence*, then the period of *Ineligibility* shall be, at a minimum, a reprimand and no period of *Ineligibility*, and at a maximum, two (2) years *Ineligibility*, depending on the *Protected Person* or *Recreational Athlete's* degree of *Fault*.

10.6.2 Application of *No Significant Fault* or *Negligence* beyond the Application of Article 10.6.1

長で2年間の資格停止期間とする。

10.6.1.2 汚染製品

競技者又はその他の人が「重大な過誤又は過失がないこと」を立証できる場合において、検出された禁止物質（濫用物質を除く。）が汚染製品に由来したときには、資格停止期間は、競技者又はその他の人の過誤の程度により、最短で資格停止期間を伴わない譴責とし、最長で2年間の資格停止期間とするものとする。

[第10.6.1.2項の解説:本項の利益を受けるためには、競技者又はその他の人は、検出された禁止物質が汚染製品に由来することを立証するのみならず、「重大な過誤又は過失がないこと」も別途証明しなければならない。また、競技者は栄養補助食品を自己のリスクにおいて摂取することを告知されていることにも留意すべきである。「重大な過誤又は過失がないこと」に基づく制裁措置の短縮は、競技者が汚染製品を摂取する前に高度な注意を払った場合を除き、汚染製品の事案で適用されたことはほとんどない。競技者が禁止物質の出所(source)を立証することができるか否かを評価するのにあたり、例えば、当該競技者が当該汚染製品を実際に使用したことを立証するために、当該競技者がドーピング・コントロール・フォームにおいて後日汚染されていると判断された製品を申告していたかどうかは重要である。

本項は、何らかの製造過程を経た製品以外にまで適用されるべきではない。違反が疑われる分析報告が、合理的な人がアンチ・ドーピング規則違反のリスクを予期しない状況における水道水や池の水などの「非製品」の環境汚染の結果である場合には、通常は、第10.5項に基づき、過誤又は過失は存在しない。]

10.6.1.3 要保護者又はレクリエーション競技者

濫用物質に関連しないアンチ・ドーピング規則違反が要保護者又はレクリエーション競技者により行われた場合であって、要保護者又はレクリエーション競技者が「重大な過誤又は過失がないこと」を立証することができたときは、資格停止期間は、要保護者又はレクリエーション競技者の過誤の程度により、最短で資格停止期間を伴わない譴責とし、最長で2年間とする。

10.6.2 第10.6.1項の適用を超えた「重大な過誤又は過失がないこと」の適用

If an *Athlete* or other *Person* establishes in an individual case where Article 10.6.1 is not applicable, that he or she bears *No Significant Fault or Negligence*, then, subject to further reduction or elimination as provided in Article 10.7, the otherwise applicable period of *Ineligibility* may be reduced based on the *Athlete* or other *Person's* degree of *Fault*, but the reduced period of *Ineligibility* may not be less than one-half of the period of *Ineligibility* otherwise applicable. If the otherwise applicable period of *Ineligibility* is a lifetime, the reduced period under this Article may be no less than eight (8) years.⁴⁸

[*Comment to Article 10.6.2: Article 10.6.2 may be applied to any anti-doping rule violation except, those Articles where intent is an element of the anti-doping rule violation (e.g., Article 2.5, 2.7, 2.8, 2.9 or 2.11) or an element of a particular sanction (e.g., Article 10.2.1) or a range of Ineligibility is already provided in an Article based on the Athlete or other Person's degree of Fault.*]

10.7 Elimination, Reduction, or Suspension of Period of *Ineligibility* or other Consequences for Reasons other than *Fault*

10.7.1 Substantial Assistance in Discovering or Establishing Code Violations⁴⁹

[*Comment to Article 10.7.1: The cooperation of Athletes, Athlete Support Personnel and other Persons who acknowledge their mistakes and are willing to bring other anti-doping rule violations to light is important to clean sport.*]

10.7.1.1 *JADA* may, prior to an appellate decision under Article 13 or the expiration of the time to appeal, suspend a part of the *Consequences* (other than *Disqualification* and mandatory *Public Disclosure*) imposed in an individual case where the *Athlete* or other *Person* has provided *Substantial Assistance* to an *Anti-Doping Organisation*, criminal authority or professional disciplinary body which results in: (i) the *Anti-Doping Organisation* discovering or bringing forward an anti-doping rule violation by another *Person*; or (ii) which results in a criminal or disciplinary body discovering or bringing forward a criminal offense or the breach of professional rules committed by another *Person* and the information provided by the *Person* providing *Substantial Assistance* is made available to *JADA* or other *Anti-Doping Organisation* with *Results Management* responsibility; or (iii) which results in

競技者又はその他の人が、第 10.6.1 項が適用されない個別の事案において、自らが「重大な過誤又は過失がないこと」を立証した場合には、立証がなかった場合に適用されたであろう資格停止期間は、第 10.7 項に該当した場合の更なる短縮又は取消しに加え、競技者又はその他の人の過誤の程度により、短縮される場合がある。但し、かかる場合において、短縮された後の資格停止期間は、立証がなかった場合に適用されたであろう資格停止期間の 2 分の 1 を下回ってはならない。別段適用されたであろう資格停止期間が永久に亘る場合には、本項に基づく短縮された後の資格停止期間は 8 年を下回ってはならない。

[第 10.6.2 項の解説：第 10.6.2 項は、意図がアンチ・ドーピング規則違反の構成要件である条項（例えば、第 2.5 項、第 2.7 項、第 2.8 項、第 2.9 項又は第 2.11 項）、意図が特定の制裁措置の構成要件である条項（例えば、第 10.2.1 項）又は競技者若しくはその他の人の過誤の程度に基づき資格停止の範囲が定められている条項を除き、いかなるアンチ・ドーピング規則違反にも適用される場合がある。]

10.7 資格停止期間の取消し、短縮若しくは猶予又は過誤以外を理由とするその他の措置

10.7.1 アンチ・ドーピング規則違反を発見又は立証する際の実質的な支援

[第 10.7.1 項の解説：自己の過ちを認め、他のアンチ・ドーピング規則違反を明るみに出そうとする意思を有する競技者、サポートスタッフ又はその他の人の協力は、クリーンなスポーツのために重要である。]

10.7.1.1 *JADA* は、第 13 条に基づく不服申立てに対する決定、又は不服申立期間の満了に先立ち、競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング機関、刑事司法機関又は懲戒機関に対して、実質的な支援を提供し、その結果、(i) アンチ・ドーピング機関が他の人によるアンチ・ドーピング規則違反を発見し若しくは該当手続を提起し、(ii) 刑事司法機関若しくは懲戒機関が他の人により犯された刑事犯罪若しくは職務規程に対する違反を発見し若しくは該当手続を提起するに至り、実質的な支援を提供した人により提供された情報が、*JADA* 又は結果管理責任を負う他のアンチ・ドーピング機関により利用可能となり、(iii) 世界規程、国際基準又はテクニカルドキュメントを遵守していないことに基づき、*WADA* が、署名当事者、*WADA* 認定分析機関又は（「検査及びドーピング調査に関する国際基準」において定義される）アスリート・パスポー

48

49

WADA initiating a proceeding against a Signatory, WADA-accredited laboratory, or Athlete passport management unit (as defined in the *International Standard for Testing and Investigations*) for non-compliance with the *Code*, *International Standard* or *Technical Document*; or (iv) with the approval by WADA, which results in a criminal or disciplinary body bringing forward a criminal offense or the breach of professional or sport rules arising out of a sport integrity violation other than doping. After an appellate decision under Article 13 or the expiration of time to appeal, JADA may only suspend a part of the otherwise applicable *Consequences* with the approval of WADA and the applicable International Federation.

The extent to which the otherwise applicable period of *Ineligibility* may be suspended shall be based on the seriousness of the anti-doping rule violation committed by the *Athlete* or other *Person* and the significance of the *Substantial Assistance* provided by the *Athlete* or other *Person* to the effort to eliminate doping in sport, non-compliance with the *Code* and/or sport integrity violations. No more than three-quarters of the otherwise applicable period of *Ineligibility* may be suspended. If the otherwise applicable period of *Ineligibility* is a lifetime, the non-suspended period under this Article must be no less than eight (8) years. For purposes of this paragraph, the otherwise applicable period of *Ineligibility* shall not include any period of *Ineligibility* that could be added under Article 10.9.3.2 of these Anti-Doping Rules.

If so requested by an *Athlete* or other *Person* who seeks to provide *Substantial Assistance*, JADA shall allow the *Athlete* or other *Person* to provide the information to it subject to a *Without Prejudice Agreement*.

If the *Athlete* or other *Person* fails to continue to cooperate and to provide the complete and credible *Substantial Assistance* upon which a suspension of *Consequences* was based, JADA shall reinstate the original *Consequences*. If JADA decides to reinstate suspended *Consequences* or decides not to reinstate suspended *Consequences*, that decision may be appealed by any *Person* entitled to appeal under Article 13.

10.7.1.2 To further encourage *Athletes* and other *Persons* to provide *Substantial Assistance* to *Anti-Doping Organisations*, at the request of JADA or at the request of the *Athlete* or other *Person* who has, or has been asserted to have, committed an anti-doping rule violation, or other violation of the *Code*, WADA may agree at any stage of the *Results Management* process, including after an appellate decision under Article 13, to what it considers to be an appropriate suspension of the otherwise-applicable period of *Ineligibility* and other *Consequences*. In exceptional circumstances, WADA

ト・マネジメント・ユニットに対して手続を提起し、又は、(iv)刑事司法機関又は懲戒機関が WADA の承認をもってドーピング以外のスポーツのインテグリティの違反に起因する犯罪又はプロフェッショナル若しくはスポーツの規則の違反を問うに至った場合には、その事案において課される措置（失効及び義務的な一般開示を除く。）の一部を猶予することができる。

第 13 条による不服申立てに対する決定又は不服申立ての期間満了の後においては、JADA は、WADA 及び該当する国際競技連盟の承認を得た場合にのみ、実質的な支援及びそれに伴う結果がなければ適用された措置の一部を猶予することができる。

実質的な支援及びそれに伴う結果がなければ適用されたであろう資格停止期間が猶予される程度は、競技者又はその他の人により行われたアンチ・ドーピング規則違反の重大性及び競技者又はその他の人により提供されたスポーツにおけるドーピング並びに世界規程の不遵守及び／又はスポーツのインテグリティの違反の根絶のための実質的な支援の重要性により定まるものとする。資格停止期間は、実質的な支援及びそれに伴う結果がなければ適用された資格停止期間の 4 分の 3 を超えては猶予されない。実質的な支援及びそれに伴う結果がなければ適用されたであろう資格停止期間が永久である場合には、本項に基づき猶予されない期間は 8 年間を下回らないものとする。本項において、実質的な支援及びそれに伴う結果がなければ適用された資格停止期間は、第 10.9.3.2 項に基づき加算されることのできた資格停止期間を含まないものとする。実質的な支援を提供しようとする競技者又はその他の人が要求した場合には、JADA は、競技者又はその他の人が、条件付合意に従って JADA に情報を提供することを認めるものとする。

競技者又はその他の人が、協力を継続せず、措置の猶予の根拠となった完全かつ信頼性を有する実質的な支援を行わない場合には、JADA は、元の措置を復活させるものとする。JADA が、猶予された措置を復活させ、又は猶予された措置を復活させない旨決定した場合には、第 13 条に基づき不服申立てを提起する権利を有するいかなる人も、当該決定に対して不服申立てを提起することができる。

10.7.1.2 WADA は、競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング機関に更に実質的な支援を提供することを促すために、JADA の要請又はアンチ・ドーピング規則違反若しくは他の世界規程違反を行った（若しくは行ったと主張される）競技者若しくはその他の人の要請により、第 13 条に基づく不服申立ての決定の後を含む、結果管理手続のいかなる段階においても、本来適用されたであろう資格停止期間その他の措置に関して適切な猶予となると判断する内容について承認することができる。WADA は、例外的な状況においては、実質的

may agree to suspensions of the period of *Ineligibility* and other *Consequences* for *Substantial Assistance* greater than those otherwise provided in this Article, or even no period of *Ineligibility*, no mandatory *Public Disclosure* and/or no return of prize money or payment of fines or costs. *WADA's* approval shall be subject to reinstatement of *Consequences*, as otherwise provided in this Article. Notwithstanding Article 13, *WADA's* decisions in the context of this Article 10.7.1.2 may not be appealed.

10.7.1.3 If *JADA* suspends any part of an otherwise applicable sanction because of *Substantial Assistance*, then notice providing justification for the decision shall be provided to the other *Anti-Doping Organisations* with a right to appeal under Article 13.2.3 as provided in Article 14.2. In unique circumstances where *WADA* determines that it would be in the best interest of anti-doping, *WADA* may authorise *JADA* to enter into appropriate confidentiality agreements limiting or delaying the disclosure of the *Substantial Assistance* agreement or the nature of *Substantial Assistance* being provided.

10.7.2 Admission of an Anti-Doping Rule Violation in the Absence of Other Evidence

Where an *Athlete* or other *Person* voluntarily admits the commission of an anti-doping rule violation before having received notice of a *Sample* collection which could establish an anti-doping rule violation (or, in the case of an anti-doping rule violation other than Article 2.1, before receiving first notice of the admitted violation pursuant to Article 7) and that admission is the only reliable evidence of the violation at the time of admission, then the period of *Ineligibility* may be reduced, but not below one-half of the period of *Ineligibility* otherwise applicable.⁵⁰

[*Comment to Article 10.7.2: This Article is intended to apply when an Athlete or other Person comes forward and admits to an anti-doping rule violation in circumstances where no Anti-Doping Organisation is aware that an anti-doping rule violation might have been committed. It is not intended to apply to circumstances where the admission occurs after the Athlete or other Person believes he or she is about to be caught. The amount by which Ineligibility is reduced should be based on the likelihood that the Athlete or other Person would have been caught had he or she not come forward voluntarily.*]

な支援があった場合、資格停止期間その他措置に関し、本項に定める期間・措置を上回ってこれを猶予することのみならず、資格停止期間を設けないこと、義務的な一般開示がないこと並びに／又は賞金の返還若しくは罰金・費用の支払を命じないことについても承認することができる。*WADA*による承認は、本項で別途定めるとおり、措置の復活に服するものとする。第13条にかかわらず、本第10.7.1.2項の文脈における*WADA*の決定は、不服申立ての対象とはならないものとする。

10.7.1.3 *JADA*が、実質的な支援を理由として、実質的な支援がなければ適用されたであろう制裁措置の一部を猶予した場合には、当該決定を根拠づける正当な理由を記載する通知を、第14.2項の定めに従い、第13.2.3項に基づき不服申立てを行う権利を有する他のアンチ・ドーピング機関に対して提供するものとする。*WADA*は、アンチ・ドーピングの最善の利益に適合すると判断する特殊な状況においては、実質的な支援に関する合意又は提供されている実質的な支援の性質についての開示を制限し又は遅延させる適切な機密保持契約を締結する権限を*JADA*に授権することができる。

10.7.2 その他の証拠がない場合におけるアンチ・ドーピング規則違反の自認

アンチ・ドーピング規則違反を証明しうる検体の採取の通知を受け取る前に（又は、第2.1項以外のアンチ・ドーピング規則違反事案において、第7条に従って自認された違反に関する最初の通知を受け取る前に）、競技者又はその他の人が自発的にアンチ・ドーピング規則違反を自認し、当該自認が、自認の時点で当該違反に関する唯一の信頼できる証拠である場合には、資格停止期間が短縮されることがある。但し、短縮された後の資格停止期間は、当該事情がなければ適用されたであろう資格停止期間の2分の1を下回することはできない。

[第10.7.2項の解説：本項は、いずれのアンチ・ドーピング機関もアンチ・ドーピング規則違反の発生の可能性を認識していないという状況において、競技者又はその他の人が、アンチ・ドーピング規則に違反したことを名乗り出て、自認する場合に適用されることが意図されている。競技者又はその他の人が、自己の違反行為がまさに発覚するであろうとの認識を有した後に自認がなされたという場合に適用されることを意図してはいない。資格停止が短縮されるべき程度は、競技者又はその他の人が自発的に申し出なかったとしても発覚したであろう可能性の程度に基づいて決せられるべきである。]

<p>10.7.3 Application of Multiple Grounds for Reduction of a Sanction</p> <p>Where an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> establishes entitlement to reduction in sanction under more than one provision of Article 10.5, 10.6 or 10.7, before applying any reduction or suspension under Article 10.7, the otherwise applicable period of <i>Ineligibility</i> shall be determined in accordance with Articles 10.2, 10.3, 10.5, and 10.6. If the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> establishes entitlement to a reduction or suspension of the period of <i>Ineligibility</i> under Article 10.7, then the period of <i>Ineligibility</i> may be reduced or suspended, but not below one-fourth of the otherwise applicable period of <i>Ineligibility</i>.</p>	<p>10.7.3 制裁措置の短縮に関する複数の根拠の適用</p> <p>競技者又はその他の人が、第 10.5 項、第 10.6 項又は第 10.7 項における 2 つ以上の規定に基づき、制裁措置の短縮について権利を有することを証明した場合には、当該事情がなければ適用されたであろう資格停止期間は、第 10.7 項に基づく短縮又は猶予の適用前に、第 10.2 項、第 10.3 項、第 10.5 項及び第 10.6 項に従って決定されるものとする。競技者又はその他の人が資格停止期間の短縮又は猶予の権利を第 10.7 項に基づき証明した場合には、資格停止期間は、短縮又は猶予されることがある。但し、短縮又は猶予された後の資格停止期間は、当該事情がなければ適用されたであろう資格停止期間の 4 分の 1 を下回ることはいできない。</p>
<p>10.8 Results Management Agreements</p> <p>10.8.1 One (1) Year Reduction for Certain Anti-Doping Rule Violations Based on Early Admission and Acceptance of Sanction</p> <p>Where an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i>, after being notified by <i>JADA</i> of a potential anti-doping rule violation that carries an asserted period of <i>Ineligibility</i> of four (4) or more years (including any period of <i>Ineligibility</i> asserted under Article 10.4), admits the violation and accepts the asserted period of <i>Ineligibility</i> no later than twenty (20) days after receiving notice of an anti-doping rule violation charge, the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> may receive a one (1) year reduction in the period of <i>Ineligibility</i> asserted by <i>JADA</i>. Where the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> receives the one (1) year reduction in the asserted period of <i>Ineligibility</i> under this Article 10.8.1, no further reduction in the asserted period of <i>Ineligibility</i> shall be allowed under any other Article.⁵¹</p> <p>[<i>Comment to Article 10.8.1: For example, if JADA alleges that an Athlete has violated Article 2.1 for Use of an anabolic steroid and asserts the applicable period of Ineligibility is four (4) years, then the Athlete may unilaterally reduce the period of Ineligibility to three (3) years by admitting the violation and accepting the three (3) year period of Ineligibility within the time specified in this Article, with no further reduction allowed. This resolves the case without any need for a hearing.</i>]</p>	<p>10.8 結果管理に関する合意</p> <p>10.8.1 早期の自認及び制裁措置の受諾に基づく特定のアンチ・ドーピング規則違反に対する 1 年間の短縮</p> <p>競技者又はその他の人が、<i>JADA</i> により、4 年以上の資格停止期間（第 10.4 項に基づき主張された資格停止期間を含む。）の主張を伴う、第 10.2.1 項に基づくアンチ・ドーピング規則違反の可能性について通知を受けた後に、<i>B 検体</i>の分析の通知を受領してから（若しくは当該分析を放棄してから）20 日後、又は他の主張されたアンチ・ドーピング規則違反責任の通知後 20 日以内に、違反を自認し、かつ、主張された資格停止期間を受け入れた場合には、競技者又はその他の人は、<i>JADA</i> が主張する資格停止期間について、1 年間の短縮を受ける場合がある。競技者又はその他の人が本第 10.8.1 項に基づき主張された資格停止期間について 1 年間の短縮を受けた場合には、他の条項に基づき、当該主張された資格停止期間について更なる短縮を受けることは認められないものとする。</p> <p>[第 10.8.1 項の解説：例えば、<i>JADA</i> が、競技者が蛋白同化ステロイド薬を使用して第 2.1 項に違反したと主張し、適用される資格停止期間が 4 年間であると主張した場合には、競技者は、本項で特定される期間内に、違反を自認し 3 年間の資格停止を受け入れることによって、一方的に資格停止期間を 3 年間に短縮することができ、その場合更なる短縮は認められない。これにより、聴聞会を開催する必要なく事案が解決する。]</p>

10.8.2 Case Resolution Agreement

Where the *Athlete* or other *Person* admits an anti-doping rule violation after being confronted with the anti-doping rule violation by *JADA* and agrees to *Consequences* acceptable to *JADA* and *WADA*, at their sole discretion, then: (a) the *Athlete* or other *Person* may receive a reduction in the period of *Ineligibility* based on an assessment by *JADA* and *WADA* of the application of Articles 10.1 through 10.7 to the asserted anti-doping rule violation, the seriousness of the violation, the *Athlete* or other *Person*'s degree of *Fault* and how promptly the *Athlete* or other *Person* admitted the violation; and (b) the period of *Ineligibility* may start as early as the date of *Sample* collection or the date on which another anti-doping rule violation last occurred. In each case, however, where this Article is applied, the *Athlete* or other *Person* shall serve at least one-half of the agreed-upon period of *Ineligibility* going forward from the earlier of the date the *Athlete* or other *Person* accepted the imposition of a sanction or a *Provisional Suspension* which was subsequently respected by the *Athlete* or other *Person*. The decision by *WADA* and *JADA* to enter or not enter into a case resolution agreement, and the amount of the reduction to, and the starting date of the period of *Ineligibility*, are not matters for determination or review by a hearing body and are not subject to appeal under Article 13.

If so requested by an *Athlete* or other *Person* who seeks to enter into a case resolution agreement under this Article, *JADA* shall allow the *Athlete* or other *Person* to discuss an admission of the anti-doping rule violation with it subject to a *Without Prejudice Agreement*.⁵²

[*Comment to Article 10.8: Any mitigating or aggravating factors set forth in this Article 10 shall be considered in arriving at the Consequences set forth in the case resolution agreement, and shall not be applicable beyond the terms of that agreement.*]

10.9 Multiple Violations

10.9.1 Second or Third Anti-Doping Rule Violation

10.9.1.1 For an *Athlete* or other *Person*'s second anti-doping rule violation, the period of *Ineligibility* shall be the greater of:

- (a) A six (6) month period of *Ineligibility*; or
- (b) A period of *Ineligibility* in the range between:
 - (i) the sum of the period of *Ineligibility* imposed for the first anti-doping rule violation plus the period of *Ineligibility* otherwise applicable to the second anti-doping rule violation treated as if it were a first

10.8.2 事案解決合意

競技者又はその他の人が、*JADA* によりアンチ・ドーピング規則違反について責任を問われてからアンチ・ドーピング規則違反を自認し、*JADA* 及び *WADA* がその裁量により受諾可能と判断する措置に合意した場合には、(a) 競技者又はその他の人は、*JADA* 及び *WADA* による、主張されたアンチ・ドーピング規則違反に対する第 10.1 項から第 10.7 項までの適用、違反の重大性、競技者又はその他の人の過誤の程度、及び競技者又はその他の人が違反を自認した迅速さの評価に基づき、資格停止期間の短縮を受けることができ、(b) 資格停止期間の開始日は、検体の採取の日又は直近のその他のアンチ・ドーピング規則違反の発生日のいずれかまで遡及させることができる。但し、いずれの事案においても、本項が適用される場合には、競技者又はその他の人は、競技者又はその他の人が制裁措置の賦課を受け入れた日又は暫定的資格停止の賦課（競技者又はその他の人が後続的にこれを尊重したもの。）を受け入れた日のいずれか早い方から起算して、少なくとも合意された資格停止期間の2分の1について、これに服するものとする。事案解決合意を締結するか否かの *WADA* 及び *JADA* の判断、並びに資格停止期間の短縮期間及び開始日は、聴聞機関の決定又は審査の対象ではなく、第 13 条に基づく不服申立ての対象とはならない。

競技者又はその他の人が本項に基づき事案解決合意を締結することを要求した場合には、*JADA* は、競技者又はその他の人が、条件付合意に従ってアンチ・ドーピング機関と当該アンチ・ドーピング規則違反の自認について協議することを認めるものとする。

[第 10.8 項の解説：本第 10 条に定める軽減要因又は加重要因は、事案解決合意に定める措置にたどり着く上で考慮されるものとし、当該合意の条件を超えて適用されないものとする。]

10.9 複数回の違反

10.9.1 2 回目又は 3 回目のアンチ・ドーピング規則違反

10.9.1.1 競技者又はその他の人による 2 回目のアンチ・ドーピング規則違反につき、資格停止期間は、以下に掲げる事項のうち、最も長い期間とする。

- (a) 6 ヶ月の資格停止期間、又は
- (b) 以下の範囲内の資格停止期間
 - (i) 1 回目のアンチ・ドーピング規則違反につき課された資格停止期間と、当該 2 回目のアンチ・ドーピング規則違反を、あたかも 1 回目の違反であるかのように取り扱った上で、それに適用

<p>violation, and</p> <p>(ii) twice the period of <i>Ineligibility</i> otherwise applicable to the second anti-doping rule violation treated as if it were a first violation, with the period of <i>Ineligibility</i> within this range to be determined based on the entirety of the circumstances and the <i>Athlete</i> or other <i>Person's</i> degree of <i>Fault</i> with respect to the second violation.</p> <p>10.9.1.2 A third anti-doping rule violation will always result in a lifetime period of <i>Ineligibility</i>, except if the third violation fulfils the condition for elimination or reduction of the period of <i>Ineligibility</i> under Article 10.5 or 10.6, or involves a violation of Article 2.4. In these particular cases, the period of <i>Ineligibility</i> shall be from eight (8) years to lifetime <i>Ineligibility</i>.</p> <p>10.9.1.3 The period of <i>Ineligibility</i> established in Articles 10.9.1.1 and 10.9.1.2 may then be further reduced by the application of Article 10.7.</p> <p>10.9.2 An anti-doping rule violation for which an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> has established <i>No Fault</i> or <i>Negligence</i> shall not be considered a violation for purposes of this Article 10.9. In addition, an anti-doping rule violation sanctioned under Article 10.2.4.1 shall not be considered a violation for purposes of Article 10.9.</p> <p>10.9.3 Additional Rules for Certain Potential Multiple Violations</p> <p>10.9.3.1 For purposes of imposing sanctions under Article 10.9, except as provided in Articles 10.9.3.2 and 10.9.3.3, an anti-doping rule violation will only be considered a second violation if <i>JADA</i> can establish that the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> committed the additional anti-doping rule violation after the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> received notice pursuant to Article 7, or after <i>JADA</i> made reasonable efforts to give notice of the first anti-doping rule violation. If <i>JADA</i> cannot establish this, the violations shall be considered together as one single first violation, and the sanction imposed shall be based on the violation that carries the more severe sanction, including the application of <i>Aggravating Circumstances</i>. Results in all <i>Competitions</i> dating back to the earlier anti-doping rule violation will be <i>Disqualified</i> as provided in Article 10.10.⁵³</p>	<p>されたであろう資格停止期間との合計、並びに</p> <p>(ii) 2回目のアンチ・ドーピング規則違反を、あたかも1回目の違反であるかのように取り扱った上で、それに適用されたであろう資格停止期間の2倍。この範囲内で、資格停止期間は、全体の状況及び2回目の違反に関する競技者又はその他の人の過誤の程度に基づき判断される。</p> <p>10.9.1.2 3回目のアンチ・ドーピング規則違反は常に永久の資格停止となる。但し、3回目のアンチ・ドーピング規則違反が第10.5項若しくは第10.6項の資格停止期間の取消し若しくは短縮の要件を満たす場合、又は、第2.4項に対する違反に関するものである場合にはこの限りではない。上記但書の場合には、資格停止期間は8年から永久資格停止までとする。</p> <p>10.9.1.3 第10.9.1.1項及び第10.9.1.2項により確定された資格停止期間は、第10.7項の適用により、更に短縮されることがある。</p> <p>10.9.2 競技者又はその他の人が過誤又は過失がないことを立証したアンチ・ドーピング規則違反は、本第10.9項において従前の違反とは判断されないものとする。さらに、第10.2.4.1項に基づき制裁を賦課されたアンチ・ドーピング規則違反は、第10.9項の目的において違反とは判断されないものとする。</p> <p>10.9.3 潜在的な複数違反に関する追加的なルール</p> <p>10.9.3.1 第10.9項に基づいて制裁措置を課すことにおいて、第10.9.3.2項及び第10.9.3.3項に定める場合を除き、競技者若しくはその他の人が第7条に基づくアンチ・ドーピング規則違反の通知を受けた後に、又は <i>JADA</i> が1回目のアンチ・ドーピング規則違反の通知をするために合理的な努力を行った後に、当該競技者又はその他の人が追加のアンチ・ドーピング規則違反を行ったことを <i>JADA</i> が証明できた場合にのみ、当該アンチ・ドーピング規則違反は2回目のアンチ・ドーピング規則違反であると判断される。<i>JADA</i> が当該事実を証明することができない場合には、当該2回の違反は、全体として一つの1回目の違反として扱われ、加重事情の適用を含めてより厳しい制裁措置が課される方の違反に基づき、制裁措置が課されるものとする。複数のアンチ・ドーピング規則違反のうちより早い方のアンチ・ドーピング規則違反まで遡ったすべての競技会における結果は、第10.10項に規定されているとおりに失効する。</p>
--	--

[Comment to Article 10.9.3.1: The same rule applies where, after the imposition of a sanction, JADA discovers facts involving an anti-doping rule violation that occurred prior to notification for a first anti-doping rule violation – e.g., JADA shall impose a sanction based on the sanction that could have been imposed if the two (2) violations had been adjudicated at the same time, including the application of Aggravating Circumstances.]

10.9.3.2 If JADA establishes that an *Athlete* or other *Person* committed an additional anti-doping rule violation prior to notification, and that the additional violation occurred twelve (12) months or more before or after the first-noticed violation, then the period of *Ineligibility* for the additional violation shall be calculated as if the additional violation were a stand-alone first violation and this period of *Ineligibility* is served consecutively, rather than concurrently, with the period of *Ineligibility* imposed for the earlier-noticed violation. Where this Article 10.9.3.2 applies, the violations taken together shall constitute a single violation for purposes of Article 10.9.1.

10.9.3.3 If JADA establishes that an *Athlete* or other *Person* committed a violation of Article 2.5 in connection with the *Doping Control* process for an underlying asserted anti-doping rule violation, the violation of Article 2.5 shall be treated as a stand-alone first violation and the period of *Ineligibility* for such violation shall be served consecutively, rather than concurrently, with the period of *Ineligibility*, if any, imposed for the underlying anti-doping rule violation. Where this Article 10.9.3.3 is applied, the violations taken together shall constitute a single violation for purposes of Article 10.9.1.

10.9.3.4 If JADA establishes that a *Person* has committed a second or third anti-doping rule violation during a period of *Ineligibility*, the periods of *Ineligibility* for the multiple violations shall run consecutively, rather than concurrently.

10.9.4 Multiple Anti-Doping Rule Violations during Ten (10) Year Period

For purposes of Article 10.9, each anti-doping rule violation must take place within the same ten (10) year period in order to be considered multiple violations.

10.10 Disqualification of Results in Competitions Subsequent to Sample Collection or Commission of an Anti-Doping Rule Violation

In addition to the automatic *Disqualification* of the results in the *Competition* which produced the positive *Sample* under Article 9, all other competitive results of

[第10.9.3.1項の解説: 制裁措置の賦課の後、JADAが1回目のアンチ・ドーピング規則違反に関する通知以前に発生したアンチ・ドーピング規則違反の事実を発見した場合には、同じルールが適用される。すなわち、JADAは、加重事情の適用を含め、仮に2つの違反が同時に裁定されていたならば課されたであろう制裁措置に基づいて制裁措置を課すものとする。]

10.9.3.2 JADAが、競技者又はその他の人が通知前に追加のアンチ・ドーピング規則違反を行ったこと、及び当該追加の違反が1回目に通知された違反の12ヶ月以上前12ヶ月以上後に発生したものであることを立証した場合、当該追加の違反に関する資格停止期間は、当該追加の違反が単独の1回目の違反であるかのように算定され、当該資格停止期間は、前に通知された違反について賦課された資格停止期間と同時ではなく連続的に服されるものとする。本第10.9.3.2項が適用される場合には、これらの併せて取り扱われた違反は、第10.9.1項の目的において単一の違反を構成するものとする。

10.9.3.3 JADAが、競技者又はその他の人が、主張されているアンチ・ドーピング規則違反についてのドーピング・コントロール手続に関連して第2.5項の違反を行ったことを立証した場合には、当該第2.5項の違反は単独の1回目の違反として取り扱われ、当該違反に関する資格停止期間は、その基にあるアンチ・ドーピング規則違反について賦課された資格停止期間(もしあれば)と同時にではなく連続的に服されるものとする。本第10.9.3.3項が適用される場合には、これらの併せて取り扱われた違反は、第10.9.1項の目的において単一の違反を構成するものとする。

10.9.3.4 JADAが、人が資格停止期間中に2回目又は3回目のアンチ・ドーピング規則違反を行ったことを立証した場合には、これら複数回の違反に関する資格停止期間は同時にではなく連続的に服されるものとする。

10.9.4 10年以内の複数回のアンチ・ドーピング規則違反

第10.9項の適用において、各アンチ・ドーピング規則違反を複数回の違反とみなすためには、当該各違反が10年以内に発生していなければならない。

10.10 検体の採取又はアンチ・ドーピング規則違反後の競技会における成績の失効

第9条に基づき、検体が陽性となった競技会における成績が自動的に失効することに加えて、陽性検体が採取された日(競技会(時))であるか競技会

the *Athlete* obtained from the date a positive *Sample* was collected (whether *In-Competition* or *Out-of-Competition*), or other anti-doping rule violation occurred, through the commencement of any *Provisional Suspension* or *Ineligibility* period, shall, unless fairness requires otherwise, be *Disqualified* with all of the resulting *Consequences* including forfeiture of any medals, points and prizes.⁵⁴

[*Comment to Article 10.10: Nothing in these Anti-Doping Rules precludes clean Athletes or other Persons who have been damaged by the actions of a Person who has committed an anti-doping rule violation from pursuing any right which they would otherwise have to seek damages from such Person.*]

10.11 Forfeited Prize Money

If *JADA* recovers prize money forfeited as a result of an anti-doping rule violation, it shall take reasonable measures to allocate and distribute this prize money to the *Athletes* who would have been entitled to it had the forfeiting *Athlete* not competed.⁵⁵

[*Comment to Article 10.11: This Article is not intended to impose an affirmative duty on JADA to take any action to collect forfeited prize money. If JADA elects not to take any action to collect forfeited prize money, it may assign its right to recover such money to the Athlete(s) who should have otherwise received the money. "Reasonable measures to allocate and distribute this prize money" could include using collected forfeited prize money as agreed upon by JADA and its Athletes.*]

10.12 Financial Consequences

10.12.1 Where an *Athlete* or other *Person* commits an anti-doping rule violation, *JADA* may, in its discretion and subject to the principle of proportionality, elect to (a) recover from the *Athlete* or other *Person* costs associated with the anti-doping rule violation, regardless of the period of *Ineligibility* imposed and/or (b) fine the *Athlete* or other *Person* in an amount which shall be deemed appropriate and not higher than one million JPY (¥1,000,000), only in cases where the maximum period of *Ineligibility* otherwise applicable has already been imposed.

10.12.2 The imposition of a financial sanction or the *JADA's* recovery of costs shall not be considered a basis for reducing the *Ineligibility* or other sanction which

外であるかは問わない。) から、又はその他のアンチ・ドーピング規則違反の発生の日から、暫定的資格停止又は資格停止期間の開始日までに獲得された競技者のすべての競技成績は、公平性の観点から別途要請される場合を除き、失効するものとし、その結果として、メダル、得点、及び褒賞の剥奪を含む措置が課される。

[第10.10 項の解説：本規程は、アンチ・ドーピング規則に違反した人の行為により損害を受けたクリーンな競技者又はその他の人が、当該人に対して損害賠償を請求する権利の行使を妨げるものではない。]

10.11 剥奪された賞金

JADA は、アンチ・ドーピング規則違反の結果として剥奪された賞金を回収した場合には、剥奪された競技者が競技しなかったならば当該賞金の権利を有していたであろう競技者に当該賞金を割り当て、分配するための合理的な手段を講じるものとする。

[第10.11 項の解説：本項は、*JADA* に、剥奪された賞金を回収する行動をとる積極的な義務を負わせることを意図しているわけではない。*JADA* が剥奪された賞金を回収する行動をとらないことを選択した場合には、*JADA* は、剥奪された競技者が競技しなかったならば当該賞金を受け取っていたであろう競技者に対し、当該賞金を回収する自己の権利を譲渡する場合がある。「賞金を割り当て、分配する合理的な手段」とは、回収された剥奪された賞金を、*JADA* 及びその競技者が合意するとおりに使用することを含む場合もある。]

10.12 金銭的措置

10.12.1 競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング規則違反を行った場合には、*JADA* はその裁量により、かつ、比例性の原則に基づき、(a)賦課された資格停止期間にかかわらず、当該アンチ・ドーピング規則違反に関連するコストを競技者又はその他の人から回復すること、及び/又は(b)別段適用される資格停止期間の上限期間が既に賦課された場合に限り、当該競技者又はその他の人に 100万円を上限とする適切な金額の制裁金を課することができる。

10.12.2 金銭的制裁措置は、比例性の原則が充足された場合に限り、課すことができる。費用の回復又は金銭的制裁措置も、別途本規程に基づき適用

54

55

would otherwise be applicable under these Anti-Doping Rules.

10.13 Commencement of *Ineligibility* Period

Where an *Athlete* is already serving a period of *Ineligibility* for an anti-doping rule violation, any new period of *Ineligibility* shall commence on the first day after the current period of *Ineligibility* has been served. Otherwise, except as provided below, the period of *Ineligibility* shall start on the date of the final hearing decision providing for *Ineligibility* or, if the hearing is waived or there is no hearing, on the date *Ineligibility* is accepted or otherwise imposed.

10.13.1 Delays Not Attributable to the *Athlete* or other *Person*

Where there have been substantial delays in the hearing process or other aspects of *Doping Control*, and the *Athlete* or other *Person* can establish that such delays are not attributable to the *Athlete* or other *Person*, JADA or Japan Anti-Doping Disciplinary Panel, if applicable, may start the period of *Ineligibility* at an earlier date commencing as early as the date of *Sample* collection or the date on which another anti-doping rule violation last occurred. All competitive results achieved during the period of *Ineligibility*, including retroactive *Ineligibility*, shall be *Disqualified*.⁵⁶

[*Comment to Article 10.13.1: In cases of anti-doping rule violations other than under Article 2.1, the time required for an Anti-Doping Organisation to discover and develop facts sufficient to establish an anti-doping rule violation may be lengthy, particularly where the Athlete or other Person has taken affirmative action to avoid detection. In these circumstances, the flexibility provided in this Article to start the sanction at an earlier date should not be used.*]

10.13.2 Credit for *Provisional Suspension* or Period of *Ineligibility* Served

10.13.2.1 If a *Provisional Suspension* is respected by the *Athlete* or other *Person*, then the *Athlete* or other *Person* shall receive a credit for such period of *Provisional Suspension* against any period of *Ineligibility* which may ultimately be imposed. If the *Athlete* or other *Person* does not respect a *Provisional Suspension*, then the *Athlete* or other *Person* shall receive no credit for any period of *Provisional Suspension* served. If a period of *Ineligibility* is served pursuant to a decision that is subsequently appealed,

される資格停止その他制裁措置を短縮する根拠とは判断されない。

10.13 資格停止期間の開始

競技者がアンチ・ドーピング規則違反に関する資格停止期間に既に服している場合には、新規の資格停止期間は、進行中の資格停止期間が終了した後の1日目に開始するものとする。その他の場合には、以下に定める場合を除き、資格停止期間は、資格停止を定める聴聞会の最終的な決定の日、又は聴聞会に参加する権利が放棄され若しくは聴聞会が行われない場合には、資格停止を受け入れた日若しくは別途資格停止措置が課された日を起算日として開始するものとする。

10.13.1 競技者又はその他の人の責に帰すべきではない遅延

聴聞手続又はドーピング・コントロールの各局面において大幅な遅延が発生した場合であって、競技者又はその他の人が当該遅延が当該競技者又はその他の人の責に帰すべきものではないことを立証することができたときは、JADA 又は日本アンチ・ドーピング規律パネル(該当する場合)は、最大で、検体の採取の日又は直近のその他のアンチ・ドーピング規則違反の発生日のいずれかまで、資格停止期間の開始日を遡及させることができる。資格停止期間(遡及的な資格停止を含む。)の間に獲得された一切の競技成績は、失効するものとする。

[第10.13.1項の解説: 第2.1項に基づく場合以外のアンチ・ドーピング規則違反の事案につき、アンチ・ドーピング機関が、アンチ・ドーピング規則違反を立証するのに十分な事実を積み上げ、立証する上で、長時間を要する可能性がある。特に、競技者又はその他の人が発覚されるのを回避するために自ら行動を起こした場合には、これが当てはまる。これらの状況においては、より早くから制裁措置の賦課を開始するという、本項の認める柔軟性は、適用されるべきではない。]

10.13.2 服した暫定的資格停止又は資格停止期間の控除

10.13.2.1 競技者又はその他の人が暫定的資格停止を遵守した場合、当該競技者又はその他の人は最終的に課されうる資格停止期間から、当該暫定的資格停止期間の控除を受けるものとする。競技者又はその他の人が暫定的資格停止を遵守しなかった場合には、当該競技者又はその他の人は、服した暫定的資格停止期間について何ら控除を受けないものとする。決定に従い資格停止期間に服した場合で、当該決定に対し後日不服申立てが提起されたときには、当該競技者又はその他の人は、

<p>then the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> shall receive a credit for such period of <i>Ineligibility</i> served against any period of <i>Ineligibility</i> which may ultimately be imposed on appeal.</p>	<p>不服申立て後に最終的に課される資格停止期間から、服した資格停止期間の控除を受けるものとする。</p>
<p>10.13.2.2 If an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> voluntarily accepts a <i>Provisional Suspension</i> in writing from <i>JADA</i> and thereafter respects the <i>Provisional Suspension</i>, the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> shall receive a credit for such period of voluntary <i>Provisional Suspension</i> against any period of <i>Ineligibility</i> which may ultimately be imposed. A copy of the <i>Athlete</i> or other <i>Person's</i> voluntary acceptance of a <i>Provisional Suspension</i> shall be provided promptly to each party entitled to receive notice of an asserted anti-doping rule violation under Article 14.1.⁵⁷</p>	<p>10.13.2.2 競技者又はその他の人が、書面により、<i>JADA</i> からの暫定的資格停止を自発的に受け入れ、その後暫定的資格停止を遵守した場合には、当該競技者又はその他の人は最終的に課される資格停止期間から、自発的な暫定的資格停止期間の控除を受けるものとする。競技者又はその他の人の自発的な暫定的資格停止の受け入れを証する書面の写しは、第 14.1 項に基づき速やかに、主張されたアンチ・ドーピング規則違反の通知を受ける資格を有する各当事者に対して提出されるものとする。</p>
<p>[<i>Comment to Article 10.13.2.2: An Athlete's voluntary acceptance of a Provisional Suspension is not an admission by the Athlete and shall not be used in any way as to draw an adverse inference against the Athlete.</i>]</p>	<p>[第 10.13.2.2 項の解説：競技者の自発的な暫定的資格停止の受け入れは、競技者による自認ではなく、いかなる形でも競技者に不利な推定を導くために使われてはならない。]</p>
<p>10.13.2.3 No credit against a period of <i>Ineligibility</i> shall be given for any time period before the effective date of the <i>Provisional Suspension</i> or voluntary <i>Provisional Suspension</i> regardless of whether the <i>Athlete</i> elected not to compete or was suspended by a team.</p>	<p>10.13.2.3 資格停止期間に対する控除は、競技者が競技に参加せず、又はチームから参加を停止させられていたか否かにかかわらず、暫定的資格停止又は自発的な暫定的資格停止の発効日以前の期間に対しては与えられないものとする。</p>
<p>10.13.2.4 In <i>Team Sports</i>, where a period of <i>Ineligibility</i> is imposed upon a team, unless fairness requires otherwise, the period of <i>Ineligibility</i> shall start on the date of the final hearing decision providing for <i>Ineligibility</i> or, if the hearing is waived, on the date <i>Ineligibility</i> is accepted or otherwise imposed. Any period of team <i>Provisional Suspension</i> (whether imposed or voluntarily accepted) shall be credited against the total period of <i>Ineligibility</i> to be served.</p>	<p>10.13.2.4 チームスポーツにおいて、資格停止期間がチームに課される場合には、公平性の観点から別段の要請がなされる場合を除き、資格停止期間は資格停止を賦課した聴聞会による終局的決定日に開始するものとし、又は聴聞を受ける権利が放棄されたときには、資格停止期間が受諾された日若しくは別途賦課された日に開始するものとする。チームに対する暫定的資格停止期間は（賦課されたか、自発的に受諾されたかを問わず）、服すべき合計資格停止期間から控除されるものとする。</p>
<p>10.14 Status During <i>Ineligibility</i> or <i>Provisional Suspension</i></p>	<p>10.14 資格停止又は暫定的資格停止中の地位</p>
<p>10.14.1 Prohibition Against Participation During <i>Ineligibility</i> or <i>Provisional Suspension</i></p>	<p>10.14.1 資格停止又は暫定的資格停止中の参加の禁止</p>
<p>No <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who has been declared <i>Ineligible</i> or is subject to a <i>Provisional Suspension</i> may, during a period of <i>Ineligibility</i> or <i>Provisional Suspension</i>, participate in any capacity in a <i>Competition</i> or activity (other than authorised anti-doping <i>Education</i> or rehabilitation programmes) authorised or organised by any <i>Signatory</i>, <i>Signatory's</i> member organisation, or</p>	<p>資格停止を宣言され、又は暫定的資格停止の対象である競技者又はその他の人は、当該資格停止又は暫定的資格停止期間中、署名当事者、署名当事者の加盟機関、又は署名当事者の加盟機関のクラブ若しくは他の加盟機関が認定し、若しくは主催する競技会若しくは活動（但し、認定されたアンチ・ドーピング関連の教育プログラム若しくははリ</p>

a club or other member organisation of a Signatory's member organisation, or in Competitions authorised or organised by any professional league or any international- or national-level Event organisation or any elite or national-level sporting activity funded by a governmental agency.

An Athlete or other Person subject to a period of Ineligibility longer than four (4) years may, after completing four (4) years of the period of Ineligibility, participate as an Athlete in local sport events not sanctioned or otherwise under the authority of a Code Signatory or member of a Code Signatory, but only so long as the local sport event is not at a level that could otherwise qualify such Athlete or other Person directly or indirectly to compete in (or accumulate points toward) a national championship or International Event, and does not involve the Athlete or other Person working in any capacity with Protected Persons.

An Athlete or other Person subject to a period of Ineligibility shall remain subject to Testing and any requirement by JADA to provide whereabouts information.⁵⁸

[Comment to Article 10.14.1: For example, subject to Article 10.14.2 below, Ineligible Athletes cannot participate in a training camp, exhibition or practice organised by their National Sports Federation or a club which is a member of that National Sports Federation or which is funded by a governmental agency. Further, an Ineligible Athlete may not compete in a non-Signatory professional league (e.g., the National Hockey League, the National Basketball Association, etc.), Events organised by a non-Signatory International Event organisation or a non-Signatory national-level Event organisation without triggering the Consequences set forth in Article 10.14.3. The term "activity" also includes, for example, administrative activities, such as serving as an official, director, officer, employee, or volunteer of the organisation described in this Article. Ineligibility imposed in one sport shall also be recognised by other sports (see Article 15.1, Automatic Binding Effect of Decisions). An Athlete or other Person serving a period of Ineligibility is prohibited from coaching or serving as an Athlete Support Person in any other capacity at any time during the period of Ineligibility, and doing so could also result in a violation of Article 2.10 by another Athlete. Any performance standard accomplished during a period of Ineligibility shall not be recognised by JADA or National Sports Federations in Japan for any purpose.]

ハビリテーション・プログラムは除く。)、又は、プロフェッショナルリーグ、国際レベル若しくは国内レベルの競技大会機関が認定し、若しくは主催する競技会、又は、政府機関から資金拠出を受けるエリート若しくは国内レベルのスポーツ活動には、いかなる立場においても参加できない。

課された資格停止期間が4年間より長い競技者又はその他の人は、4年間の資格停止期間経過後、別途世界規程署名当事者若しくは世界規程署名当事者の一員から公認されておらず、又はその他これらの権限の下にない国内スポーツ行事に競技者として参加することができる。但し、当該国内スポーツ行事は、資格停止期間でなければ当該競技者又はその他の人が、国内選手権大会又は国際競技大会への出場資格を直接的又は間接的に取得できる（又は国内選手権大会若しくは国際競技大会に向けて得点を累積できた）水準の大会であってはならず、また、いかなる立場においても、要保護者と共に活動する競技者又はその他の人に関連する大会であってはならない。資格停止期間が課された競技者又はその他の人は、引き続き検査及び居場所情報の提供に係るJADAの要請の対象となるものとする。

[第10.14.1項の解説：例えば、下記第10.14.2項を条件として、資格停止中の競技者は、自己の所属する国内競技連盟が主催するトレーニングキャンプ、エキシビション若しくは練習、又は自身の国内競技連盟の加盟クラブ若しくは政府機関から資金拠出を受けるクラブが開催するトレーニングキャンプ、エキシビション若しくは練習に参加することができない。さらに、資格停止中の競技者は、第10.14.3項に定められた措置を招来することなくして、非署名当事者のプロフェッショナルリーグ（例、NHL、NBA他）又は非署名当事者である国際競技大会機関若しくは国内レベルの競技大会機関が主催する競技会に参加することもできない。また「活動」という用語は、例えば本項に記載する機関のオフィシャル、取締役、役員、職員又はボランティアとしての役務提供などの事務活動も含む。ある競技種目に課される資格停止は、他の競技種目においても承認されるものとする（第15.1項 決定の自動的な拘束力ある効果を参照すること）。資格停止期間に服している競技者又はその他の人は、資格停止期間中のいかなる時もコーチをしたり他の資格においてサポートスタッフとして行動したりすることを禁止されており、そのようなことを行った場合には、他の競技者による第2.10項の違反につながる可能性がある。資格停止期間中に達成された記録は、いかなる目的においてもJADA又は日本の国内競技連盟により承認されることはない。]

<p>10.14.2 Return to Training</p> <p>As an exception to Article 10.14.1, an <i>Athlete</i> may return to train with a team or to use the facilities of a club or other member organisation of JADA's or other <i>Signatory's</i> member organisation during the shorter of: (1) the last two months of the <i>Athlete's</i> period of <i>Ineligibility</i>, or (2) the last one-quarter of the period of <i>Ineligibility</i> imposed.⁵⁹</p> <p>[<i>Comment to Article 10.14.2: In many Team Sports and some individual sports (e.g., ski jumping and gymnastics), Athletes cannot effectively train on their own so as to be ready to compete at the end of the Athlete's period of Ineligibility. During the training period described in this Article, an Ineligible Athlete may not compete or engage in any activity described in Article 10.14.1 other than training.</i>]</p> <p>10.14.3 Violation of the Prohibition of Participation During <i>Ineligibility</i> or <i>Provisional Suspension</i></p> <p>Where an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who has been declared <i>Ineligible</i> violates the prohibition against participation during <i>Ineligibility</i> described in Article 10.14.1, the results of such participation shall be <i>Disqualified</i> and a new period of <i>Ineligibility</i> equal in length to the original period of <i>Ineligibility</i> shall be added to the end of the original period of <i>Ineligibility</i>. The new period of <i>Ineligibility</i>, including a reprimand and no period of <i>Ineligibility</i>, may be adjusted based on the <i>Athlete</i> or other <i>Person's</i> degree of <i>Fault</i> and other circumstances of the case. The determination of whether an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> has violated the prohibition against participation, and whether an adjustment is appropriate, shall be made by the <i>Anti-Doping Organisation</i> whose <i>Results Management</i> led to the imposition of the initial period of <i>Ineligibility</i>. This decision may be appealed under Article 13.</p> <p>An <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who violates the prohibition against participation during a <i>Provisional Suspension</i> described in Article 10.14.1 shall receive no credit for any period of <i>Provisional Suspension</i> served and the results of such participation shall be <i>Disqualified</i>.</p> <p>Where an <i>Athlete Support Person</i> or other <i>Person</i> assists a <i>Person</i> in violating the prohibition against participation during <i>Ineligibility</i> or a <i>Provisional Suspension</i>, JADA shall impose sanctions for a violation of Article 2.9 for such assistance.</p>	<p>10.14.2 トレーニングへの復帰</p> <p>第 10.14.1 項の例外として、<i>競技者</i>は(1)当該 <i>競技者</i>の資格停止期間の最後の 2 ヶ月間、又は(2)賦課された資格停止期間の最後の 4 分の 1 の期間のうちいずれか短い方の間に、チームとトレーニングするために、又は JADA 若しくは他の署名当事者の加盟機関の加盟クラブ若しくは他の加盟機関の施設を利用するために、復帰することができる。</p> <p>[第 10.14.2 項の解説: 多くのチームスポーツ及び一部の個人スポーツ (例えば、スキージャンプや体操) においては、<i>競技者</i>は、当該 <i>競技者</i>の資格停止期間の終了時に競技できる準備が整うよう、<i>競技者</i>自身のみで効果的にトレーニングすることができない。本項で記載されたトレーニング期間中、資格停止の対象となっている <i>競技者</i>は、トレーニング以外に、第 10.14.1 に記載されたいかなる競技や活動にも従事してはならない。]</p> <p>10.14.3 資格停止又は暫定的資格停止中の参加の禁止の違反</p> <p>資格停止の宣告を受けた <i>競技者</i>又はその他の人が、資格停止期間中に第 10.14.1 項の参加の禁止に違反した場合には、当該参加に伴う結果は失効し、元の資格停止期間と同じ長さの新たな資格停止期間が元の資格停止期間の終わりに追加されるものとする。新たな資格停止期間 (資格停止期間を伴わない譴責を含む) は <i>競技者</i>又はその他の人の過誤の程度及び当該事案のその他の状況に基づき調整される場合がある。<i>競技者</i>又はその他の人が参加の禁止に違反したか否か、及び、調整が妥当であるか否かは、当初の資格停止期間の賦課に至った結果管理を行ったアンチ・ドーピング機関により決定されなければならない。当該決定に対しては、第 13 条に基づき不服申立てを提起することができる。</p> <p>第 10.14.1 項に記載する暫定的資格停止中に参加の禁止に違反した <i>競技者</i>又はその他の人は、服した暫定的資格停止期間について控除を受けないものとし、当該参加の成績は失効するものとする。</p> <p>サポートスタッフ又はその他の人が、資格停止又は暫定的資格停止中の参加禁止に違反した人を支援した場合には、JADA は、当該支援につき、第 2.9 項違反に基づく制裁措置を課すものとする。</p>
---	--

<p>10.14.4 Withholding of Financial Support during Ineligibility</p> <p>In addition, for any anti-doping rule violation not involving a reduced sanction as described in Article 10.5 or 10.6, some or all sport-related financial support or other sport-related benefits received by such <i>Person</i> will be withheld by <i>JADA</i>, the Government of <i>Japan</i>, the <i>National Olympic Committee of Japan</i>, the <i>National Paralympic Committee of Japan</i> and the <i>National Sports Federations</i>.</p> <p>10.15 Automatic Publication of Sanction</p> <p>A mandatory part of each sanction shall include automatic publication, as provided in Article 14.3.</p>	<p>10.14.4 資格停止中の補助金の停止</p> <p>加えて、第 10.5 項又は第 10.6 項のとおり制裁措置が短縮される場合を除き、アンチ・ドーピング規則違反については、当該人が受けていたスポーツ関係の補助金又はその他のスポーツ関係の便益の全部又は一部は、<i>JADA</i>、日本国政府、<i>JOC</i>、<i>JPC</i> 及び国内競技連盟により停止される。</p> <p>10.15 制裁措置の自動公開</p> <p>各制裁措置のうちの義務的事項として、第 14.3 項に定めるとおり、自動公開が含まれるものとする。</p>
--	--

ARTICLE 11 CONSEQUENCES TO TEAMS

11.1 Testing of Team Sports

Where more than one (1) member of a team in a *Team Sport* has been notified of an anti-doping rule violation under Article 7 in connection with an *Event*, the ruling body for the *Event* shall conduct appropriate *Target Testing* of the team during the *Event Period*.

11.2 Consequences for Team Sports

If more than two (2) members of a team in a *Team Sport* are found to have committed an anti-doping rule violation during an *Event Period*, the ruling body of the *Event* shall impose an appropriate sanction on the team (e.g., loss of points, *Disqualification* from a *Competition* or *Event*, or other sanction) in addition to any *Consequences* imposed upon the individual *Athletes* committing the anti-doping rule violation.

11.3 Event Ruling Body may Establish Stricter Consequences for Team Sports

The ruling body for an *Event* may elect to establish rules for the *Event* which impose *Consequences for Team Sports* stricter than those in Article 11.2 for purposes of the *Event*.⁶⁰

[*Comment to Article 11.3: For example, the International Olympic Committee could establish rules which would require Disqualification of a team from the Olympic Games based on a lesser number of anti-doping rule violations during the period of the Games.*]

ARTICLE 12 SANCTIONS BY JADA AGAINST OTHER SPORTING BODIES

When *JADA* becomes aware that a *National Sports Federation* in *Japan* or any other sporting body in *Japan* over which it has authority has failed to comply with, implement, uphold, and enforce these Anti-Doping Rules within that organisation's or body's area of competence, *JADA* may elect to request *JOC* or *International Federations* to take the following additional disciplinary actions, or, where it has the authority, may itself take the following additional disciplinary actions:

12.1 Exclude all, or some group of, members of that organisation or body from specified future *Events* or all *Events* conducted within a specified period of time.

第 11 条 チームに対する措置

11.1 チームスポーツの検査

チームスポーツのチーム構成員の 2 名以上が競技大会に関連して、第 7 条のアンチ・ドーピング規則違反の通知を受けた場合には、当該競技大会の所轄組織は、当該競技大会の期間中に、当該チームに対し適切な特定対象検査を実施するものとする。

11.2 チームスポーツに対する措置

チームスポーツのチーム構成員の 3 名以上が競技大会の期間中にアンチ・ドーピング規則に違反したことが明らかになった場合には、当該競技者個人に対するアンチ・ドーピング規則違反の措置に加え、当該競技大会の所轄組織は、当該チームに対しても、適切な制裁措置（例、得点の剥奪、競技会又は競技大会における失効その他の制裁措置）を課すものとする。

11.3 競技大会の所轄組織はチームスポーツに関してより厳格な措置を定めることができる

競技大会の所轄組織は、当該競技大会について、チームスポーツに対し第 11.2 項よりも厳格な措置を課す競技大会の規則を定めることを選択できる。

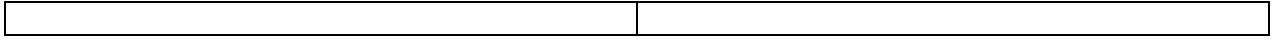
[第 11.3 項の解説：例えば、国際オリンピック委員会は、オリンピック大会の期間中において、アンチ・ドーピング規則違反の数がより少ない場合にもオリンピック大会におけるチームの参加資格剥奪を義務付ける規則を定めることができる。]

第 12 条 他のスポーツ関係団体に対する JADA の制裁措置

JADA が、日本の国内競技連盟又は自己が権限を有する他のスポーツ関係団体が当該組織又は団体の能力範囲内で本規程を遵守し、実施し、支持し、執行しなかったことを知ったときには、*JADA* は、*JOC* 又は国際競技連盟に対し、次の追加的な規律処分を講じることを要請することを選択することができ、又は自己が権限を有する場合には、自己が次の追加的な懲戒処分を講じることができる。

12.1 特定の将来の競技大会又は特定の期間内に実施される競技大会の一切から当該組織のメンバーの全部又は一部を排除すること。

<p>12.2 Take additional disciplinary actions with respect to that organisation's or body's recognition, the eligibility of their members to participate in the <i>JADA</i>'s activities, and/or fine that organisation or body based on the following:</p> <p>12.2.1 Four (4) or more violations of these Anti-Doping Rules (other than violations involving Article 2.4) are committed by <i>Athletes</i> or other <i>Persons</i> affiliated with that organisation or body during a twelve (12) month period. In such event: (a) all or some group of members of that organisation or body may be banned from participation in any <i>JADA</i> activities for a period of up to two (2) years and/or (b) that organisation or body may be fined in an amount which shall be deemed appropriate and not higher than one million JPY (¥1,000,000).</p> <p>12.2.2 Four (4) or more violations of these Anti-Doping Rules (other than violations involving Article 2.4) are committed in addition to the violations described in Article 12.2.1 by <i>Athletes</i> or other <i>Persons</i> affiliated with that organisation or body during a twelve (12) month period. In such event, that organisation or body may be suspended for a period of up to four (4) years.</p> <p>12.2.3 More than one <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> affiliated with that organisation or body commits an anti-doping rule violation during an <i>International Event</i>. In such event, that organisation or body may be fined in an amount which shall be deemed appropriate and not higher than one million JPY (¥1,000,000).</p> <p>12.2.4 That organisation or body has failed to make diligent efforts to keep <i>JADA</i> informed about an <i>Athlete's</i> whereabouts after receiving a request for that information from <i>JADA</i>. In such event, that organisation or body may be fined in an amount which shall be deemed appropriate and not higher than one million JPY (¥1,000,000) per <i>Athlete</i>, in addition to reimbursement of all of the <i>JADA</i> costs incurred in <i>Testing</i> that organisation's or body's <i>Athletes</i>.</p> <p>12.3 Withhold some or all funding or other financial and non-financial support to that organisation or body.</p> <p>12.4 Get that organisation or body to reimburse <i>JADA</i> for all costs (including but not limited to laboratory fees, hearing expenses, and travel) related to a violation of these Anti-Doping Rules committed by an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> affiliated with that organisation or body.</p>	<p>12.2 以下の事項に従い、当該組織又は団体の承認、そのメンバーによる <i>JADA</i> の活動への参加資格、並びに罰金に関して、追加的な懲戒処分を講じること。</p> <p>12.2.1 当該組織又は団体との関連を有する <i>競技者</i>又はその他の人が、12ヶ月間の期間において、本規程に4回以上違反した場合（第2.4項に関連する違反を除く。）。かかる場合において、(a)当該組織又は団体のメンバーの全部又は一部は2年を上限として <i>JADA</i> の活動に参加することを禁止される場合があり、及び/又は(b)当該組織又は団体は100万円を上限とする適切な金額の制裁金を賦課される場合がある。</p> <p>12.2.2 当該組織又は団体との関連を有する <i>競技者</i>又はその他の人が、第12.2.1項に記載する違反に加えて、12ヶ月間の期間において、本規程に4回以上違反した場合（第2.4項に関連する違反を除く。）。かかる場合において、当該組織又は団体は4年を上限として資格停止される場合がある。</p> <p>12.2.3 当該組織又は団体との関連を有する複数の <i>競技者</i>又はその他の人が <i>国際競技大会</i>中にアンチ・ドーピング規則違反を行った場合。かかる場合において、当該組織又は団体は100万円を上限とする適切な金額の制裁金を賦課される場合がある。</p> <p>12.2.4 当該組織又は団体が、<i>競技者</i>の居場所情報に関する要請を <i>JADA</i> から受けた後に、<i>JADA</i> が当該情報を認識することが可能な状態に置くための真摯な努力を怠った場合。かかる場合において、当該組織又は団体は、当該組織又は団体の <i>競技者</i>を <i>検査</i>するために <i>JADA</i> が被ったコストを償還することに加え、<i>競技者</i>1名あたり100万円を上限とする適切な金額の制裁金を賦課される場合がある。</p> <p>12.3 当該組織又は団体に対する融資その他金銭的及び非金銭的支援を留保すること。</p> <p>12.4 当該組織又は団体との関連を有する <i>競技者</i>又はその他の人が行ったアンチ・ドーピング規則違反に関するコストの一切（分析機関の費用、聴聞費用及び旅費を含むが、これらに限られない。）について、当該組織又は団体に、<i>JADA</i> に対して償還させること。</p>
---	--



ARTICLE 13 RESULTS MANAGEMENT: APPEALS ⁶¹

[Comment to Article 13: The object of the Code is to have anti-doping matters resolved through fair and transparent internal processes with a final appeal. Anti-doping decisions by Anti-Doping Organisations are made transparent in Article 14. Specified Persons and organisations, including WADA, are then given the opportunity to appeal those decisions. Note that the definition of interested Persons and organisations with a right to appeal under Article 13 does not include Athletes, or their federations, who might benefit from having another competitor Disqualified.]

13.1 Decisions Subject to Appeal

Decisions made under the Code or these Anti-Doping Rules may be appealed as set forth below in Articles 13.2 through 13.7 or as otherwise provided in these Anti-Doping Rules, the Code or the International Standards. Such decisions shall remain in effect while under appeal unless the appellate body orders otherwise.

13.1.1 Scope of Review Not Limited

The scope of review on appeal includes all issues relevant to the matter and is expressly not limited to the issues or scope of review before the initial decision maker. Any party to the appeal may submit evidence, legal arguments and claims that were not raised in the first instance hearing so long as they arise from the same cause of action or same general facts or circumstances raised or addressed in the first instance hearing.⁶²

[Comment to Article 13.1.1: The revised language is not intended to make a substantive change to the 2015 Code, but rather for clarification. For example, where an Athlete was charged in the first instance hearing only with Tampering but the same conduct could also constitute Complicity, an appealing party could pursue both Tampering and Complicity charges against the Athlete in the appeal.]

13.1.2 CAS Shall Not Defer to the Findings Being Appealed

In making its decision, CAS shall not give deference to the discretion exercised by the body whose decision is being appealed.⁶³

[Comment to Article 13.1.2: CAS proceedings are de novo. Prior proceedings do not limit the evidence or

第13条 不服申立て

[第13条の解説：世界規程の目的は、終局的な不服申立ての途も開かれた、公平かつ透明な内部手続を通じてアンチ・ドーピング関連の諸問題を解決することである。アンチ・ドーピング機関によって下されるアンチ・ドーピング関連の決定は、第14条により透明性が確保されている。そして、特定の人及びWADAを含む団体には、これらの決定に対し不服申立てを行う機会が与えられている。なお、第13条に基づいて不服申立てを行う権利を有する利害関係人及び利害関係団体の定義には、他の競技者に対して失効処分が下された場合に利益を得ることになるであろう競技者本人又はその所属競技連盟は含まれていないことに注意を要する。]

13.1 不服申立ての対象となる決定

世界規程又は本規程に基づいて下された決定については、以下の第13.2項から第13.7項までの規定又は本規程、世界規程若しくは国際基準に従い不服申立てをすることができる。当該決定は、不服申立審査機関が別の命令を下さない限り、不服申立期間中においても引き続き効力を有するものとする。

13.1.1 審査範囲の非限定

不服申立ての審査範囲は、当該案件に関連するすべての論点を含み、当初の決定の審査者が審査した論点又は審査範囲に限定されない。不服申立ての当事者は、第一審の聴聞会で提起され又は取り扱われたのと同じ請求原因又は同じ一般的な事実若しくは状況に起因する限りにおいて、第一審の聴聞会で提起されなかった証拠、法的議論及び主張を提出することができる。

[第13.1.1項の解説：改定された文言は、2015年版の規程を実質的に変更するものではなく、むしろ明確化することを意図している。例えば、競技者が第一審の聴聞会で不正干渉のみについて責任を問われたが、同じ行為が違反関与にも該当しうる場合には、不服申立てを行う当事者は、当該不服申立てにおいて、競技者に対して不正干渉と違反関与の両方の責任を追及することができる。]

13.1.2 CASは不服申立てのなされた判断に拘束されない

CASはその決定を下すにあたり、不服申立ての対象となった決定を下した組織が行使した裁量に拘束されないものとする。

[第13.1.2項の解説：CASの手続は新規 (de novo) である。CASにおける聴聞会において、従前の手

<p><i>carry weight in the hearing before CAS.]</i></p> <p>13.1.3 WADA Not Required to Exhaust Internal Remedies</p> <p>Where WADA has a right to appeal under Article 13 and no other party has appealed a final decision within JADA's process, WADA may appeal such decision directly to CAS without having to exhaust other remedies in JADA's process.⁶⁴</p> <p><i>[Comment to Article 13.1.3: Where a decision has been rendered before the final stage of JADA's process (for example, a first hearing) and no party elects to appeal that decision to the next level of JADA's process, then WADA may bypass the remaining steps in JADA's internal process and appeal directly to CAS.]</i></p> <p>13.2 Appeals from Decisions Regarding Anti-Doping Rule Violations, Consequences, Provisional Suspensions, Implementation of Decisions and Authority</p> <p>A decision that an anti-doping rule violation was committed, a decision imposing <i>Consequences</i> or not imposing <i>Consequences</i> for an anti-doping rule violation, or a decision that no anti-doping rule violation was committed; a decision that an anti-doping rule violation proceeding cannot go forward for procedural reasons (including, for example, prescription); a decision by WADA not to grant an exception to the six (6) months notice requirement for a retired <i>Athlete</i> to return to <i>Competition</i> under Article 5.6.1; a decision by WADA assigning <i>Results Management</i> under Article 7.1 of the <i>Code</i>; a decision by JADA not to bring forward an <i>Adverse Analytical Finding</i> or an <i>Atypical Finding</i> as an anti-doping rule violation, or a decision not to go forward with an anti-doping rule violation after an investigation in accordance with the <i>International Standard for Results Management</i>; a decision to impose, or lift, a <i>Provisional Suspension</i> as a result of a <i>Provisional Hearing</i>; JADA's failure to comply with Article 7.4; a decision that JADA lacks authority to rule on an alleged anti-doping rule violation or its <i>Consequences</i>; a decision to suspend, or not suspend, <i>Consequences</i> or to reinstate, or not reinstate, <i>Consequences</i> under Article 10.7.1; failure to comply with Articles 7.1.4 and 7.1.5 of the</p>	<p>続により証拠が制限されることはなく、また、従前の手続は重要性を有さない。]</p> <p>13.1.3 WADA は内部的救済を尽くすことを義務付けられない</p> <p>第 13 条に基づき WADA が不服申立てを行う権利を有し、かつ、JADA の手続において、その他の当事者が終局的な決定に対し不服申立てをしない場合には、WADA は当該決定に対し、JADA の過程における他の救済措置を尽くすことなく、CAS に対し直接不服申立てを行うことができる。</p> <p><i>[第 13.1.3 項の解説: JADA における手続の最終段階の前 (例、第 1 回目の聴聞会) に決定が下され、当該決定に対し当事者の誰もが上級の JADA の手続 (例、マネージング・ボード) に対する不服申立てを行わなかった場合には、WADA は JADA の内部手続における残存手続を経ることなく、CAS に対して直接不服申立てを行うことができる。]</i></p> <p>13.2 アンチ・ドーピング規則違反、措置、暫定的資格停止、決定の実施、及び権限に関する決定に対する不服申立て</p> <p>アンチ・ドーピング規則に違反した旨の決定、アンチ・ドーピング規則違反の措置を課す又は課さない旨の決定、アンチ・ドーピング規則違反がなかった旨の決定、アンチ・ドーピング規則違反に関する手続が手続上の理由 (例えば、時効を含む。) により進めることができないという決定、引退した競技者が競技に復帰する際の第 5.7.1 項に基づく 6 ヶ月前の通知要件に対し例外を付与しない旨の WADA による決定、第 7.1 項に基づき結果管理を課す WADA による決定、違反が疑われる分析報告又は非定型報告をアンチ・ドーピング規則違反として主張しないこととする JADA による決定、「結果管理に関する国際基準」に従いドーピング調査の後に、アンチ・ドーピング規則違反に関する手続を進めないこととする決定、及び暫定聴聞会の結果として暫定的資格停止を課し、又は取り消す決定、JADA による第 7.4 項の不遵守、JADA が、主張されたアンチ・ドーピング規則違反若しくはその措置につき判断する権限を有さない旨の決定、措置を猶予し若しくは猶予しない旨、又は第 10.6.1 項に基づき猶予された措置を復活し若しくは復活しない旨の決定、第 7.1.4 項及び第 7.1.5 項を遵守しないこと、第 10.14.3 項の決定、第 15 条に基づく別のアンチ・ドーピング機関の決定を実施しない旨の JADA の決定並びに第 27.3 項に基</p>
---	---

61
62
63
64

<p>Code; failure to comply with Article 10.8.1; a decision under Article 10.14.3; a decision by JADA not to implement another <i>Anti-Doping Organisation's</i> decision under Article 15; and a decision under Article 27.3 of the <i>Code</i> may be appealed exclusively as provided in this Article 13.2.</p>	<p>づく決定については、本第 13.2 項の定めに基づいてのみ不服申立てを行うことができる。</p>
<p>13.2.1 Appeals Involving <i>International-Level Athletes</i> or <i>International Events</i></p>	<p>13.2.1 国際レベルの競技者又は国際競技大会に関連する不服申立て</p>
<p>In cases arising from participation in an <i>International Event</i> or in cases involving <i>International-Level Athletes</i>, the decision may be appealed exclusively to CAS.⁶⁵</p>	<p>国際競技大会への参加により発生した事案又は国際レベルの競技者が関係した事案の場合には、当該決定は、CAS にのみ不服申立てを行うことができる。</p>
<p>[<i>Comment to Article 13.2.1: CAS decisions are final and binding except for any review required by law applicable to the annulment or enforcement of arbitral awards.</i>]</p>	<p>[第 13.2.1 項の解説 : CAS の決定は、仲裁判断の取消し又は執行について適用のある法令により審査が義務付けられる場合を除き、終局的なものであり拘束力を有する。]</p>
<p>13.2.2 Appeals Involving Other <i>Athletes</i> or Other <i>Persons</i></p>	<p>13.2.2 その他の競技者又はその他の人が関係する不服申立て</p>
<p>In cases where Article 13.2.1 is not applicable, the decision may be appealed to the <i>Japan Sports Arbitration Agency</i>. Guidelines and rules for the <i>Japan Sports Arbitration Agency</i> shall be separately set down.</p>	<p>第 13.2.1 項が適用されない場合には、当該決定は、日本スポーツ仲裁機構に不服申立てを行うことができる。 日本スポーツ仲裁機構に関する指針及び規則は、別途定めるものとする。</p>
<p>13.2.2.1 Hearings before the Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i></p>	<p>13.2.2.1 日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルの面前の聴聞会</p>
<p>13.2.2.1.1 The Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i> shall consist of an independent Chair and six (6) other independent members.</p>	<p>13.2.2.1.1 日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルは、独立の議長及び他に 6 名の独立のメンバーにより構成されるものとする。</p>
<p>13.2.2.1.2 Each member shall be appointed by taking into consideration their requisite anti-doping experience including their legal, sports, medical and/or scientific expertise. Each member shall be appointed for a once renewable term of four (4) years.</p>	<p>13.2.2.1.2 各メンバーは、自己の法的、スポーツ、医療及び／又は科学的知見を含む、必要なアンチ・ドーピングの経験を考慮に入れて、任命されるものとする。各メンバーは 4 年間の任期について任命され、任期は一回更新することができるものとする。</p>
<p>13.2.2.1.3 The appointed members shall be <i>Operationally</i> and <i>Institutionally Independent</i>. Board members, staff members, commission members, consultants and officials of <i>JADA</i> or its affiliates (such as a <i>Delegated Third Party</i>), as well as any <i>Person</i> involved in the investigation, pre-adjudication or <i>Results Management</i> of the matter, cannot be appointed as members and/or clerks of Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i>. In particular, no member shall have previously considered any <i>TUE</i> application, <i>Results Management</i> decision, first</p>	<p>13.2.2.1.3 任命されたメンバーは、運営上の独立性及び組織上の独立性を有するものとする。<i>JADA</i> 又はその関連機関の理事会構成員、スタッフメンバー、委員会メンバー、コンサルタント及びオフィシャル（委託された第三者等）、並びに当該案件の調査、判断前又は結果管理に関与する人は、日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルのメンバー及び／又は事務局に任命されることはできない。とりわけ、いかなるメンバーも、所定の事案において同じ競技者に関連する <i>TUE</i> 申請、結果管理の決定、第一審又は不服申立てを従前に検討</p>

<p>instance, or appeal involving the same <i>Athlete</i> in a given case.</p> <p>13.2.2.1.4 The Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i> shall be in a position to conduct the hearing and decision-making process without interference from <i>JADA</i> or any third party.</p> <p>13.2.2.1.5 If a member appointed by the Chair to hear a case is unwilling or unable, for whatever reason, to hear the case, the Chair may appoint a replacement or appoint a new hearing panel.</p> <p>13.2.2.1.6 The <i>Japan Sports Arbitration Agency</i> has the power, at its absolute discretion, to appoint an expert to assist or advise the panel.</p> <p>13.2.2.1.7 The International Federation, the <i>National Sports Federation</i> concerned, the <i>National Olympic Committee</i>, if not a party (or parties) to the proceedings, and <i>WADA</i> each have the right to attend hearings of the Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i> as an observer.</p> <p>13.2.2.1.8 Hearings pursuant to this Article should be completed as expeditiously as possible. Hearings held in connection with <i>Events</i> may be conducted on an expedited basis.</p> <p>13.2.2.2 Proceedings of the Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i></p> <p>13.2.2.2.1 The proceedings of the Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i> shall respect the principles described in Articles 8, 9, and 10 of the <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>13.2.2.2.2 The Chair shall appoint three (3) members (which may include the Chair) to hear the appeal. When hearing an appeal, one (1) panel member shall be a qualified lawyer, with no less than three (3) years of relevant legal experience.</p> <p>13.2.2.2.3 Upon appointment by the Chair as a member of an Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i>, each member must also sign a declaration that there are no facts or circumstances known to him or her which might call into question their impartiality in the eyes of any of the parties, other than those circumstances disclosed in the declaration.</p> <p>13.2.2.2.4 The appellant shall present his/her case and the respondent party or parties shall present his/her/their case(s) in reply.</p> <p>13.2.2.2.5 If any party or his/her representative fail to attend a hearing after notification, the hearing may</p>	<p>してはならない。</p> <p>13.2.2.1.4 日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルは、<i>JADA</i> 又は第三者から介入を受けることなく、聴聞及び意思決定手続を行う立場にあるものとする。</p> <p>13.2.2.1.5 議長により事案を聴聞するよう任命されたメンバーが、理由を問わず、当該事案を聴聞する意思がなく又は聴聞することができない場合には、議長は代替りの者を任命し、又は新たな聴聞パネルを任命することができる。</p> <p>13.2.2.1.6 日本スポーツ仲裁機構は、その完全な裁量により、パネルを支援し又はこれに助言を与えるために、専門家を任命する権限を有する。</p> <p>13.2.2.1.7 国際競技連盟、関連する国内競技連盟、国内オリンピック委員会（手続当事者ではない場合）、及び <i>WADA</i> は、それぞれ、オブザーバーとして日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルの聴聞会に出席する権利を有する。</p> <p>13.2.2.1.8 本条に従う聴聞会は、可能な限り迅速に完了されるべきである。競技大会との関連で開催される聴聞会は、迅速に行うことができる。</p> <p>13.2.2.2 日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルの手続</p> <p>13.2.2.2.1 日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルの手続は、「結果管理に関する国際基準」の第8条、第9条及び第10条に記載される原則を尊重するものとする。</p> <p>13.2.2.2.2 議長は、不服申立てを聴聞するために、3名のメンバー（議長を含みうる）を任命するものとする。不服申立てを聴聞する場合には、1名のパネルメンバーは、関連する法的経験を3年以上有する弁護士資格者であるものとする。</p> <p>13.2.2.2.3 議長により日本スポーツ仲裁機構のアンチ・ドーピングパネルのメンバーに任命されるに当たり、各メンバーは、宣言書において開示された事情を除き、いかなる当事者から見ても、自己の公平性が問題視されうる事実又は事情について、自己が何ら知らない旨記載した宣言書に署名しなければならない。</p> <p>13.2.2.2.4 不服申立人は自己の主張を行うものとし、被不服申立当事者はこれに対して自己の主張を行うものとする。</p> <p>13.2.2.2.5 当事者又はその代理人が、通知を受けた後に聴聞会に出席しなかった場合であっても、</p>
---	---

<p>nevertheless proceed.</p> <p>13.2.2.2.6 Each party shall have the right to be represented by counsel at a hearing at that party's own expense.</p> <p>13.2.2.2.7 Each party shall have the right to an interpreter at the hearing at that party's expense.</p> <p>13.2.2.2.8 Each party to the proceedings has the right to access and present relevant evidence, to submit written and oral submissions, and to call and examine witnesses.</p> <p>13.2.2.3 Decisions of the Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i></p> <p>13.2.2.3.1 At the end of the hearing, or promptly thereafter, the Anti-Doping Panel of <i>Japan Sports Arbitration Agency</i> shall issue a written, dated and signed decision that respects the principles of Article 9 of the <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>13.2.2.3.2 The decision shall notably include the full reasons for the decision and for any period of <i>Ineligibility</i> imposed, including (if applicable) a justification for why the maximum potential sanction was not imposed.</p> <p>13.2.2.3.3 <i>JADA</i> shall notify the decision to the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i>, to his or her <i>National Sports Federation</i>, and to <i>Anti-Doping Organisations</i> with a right to appeal under Article 13.2.3, and shall promptly report it into <i>ADAMS</i>.</p> <p>13.2.2.3.4 The decision may be appealed as provided in Article 13.2.3 and <i>Publicly Disclosed</i> as provided in Article 14.3.</p>	<p>聴聞会はそれにもかかわらず進行する場合がある。</p> <p>13.2.2.2.6 各当事者は、当該当事者の費用負担において、聴聞会において弁護士により代理される権利を有するものとする。</p> <p>13.2.2.2.7 各当事者は、当該当事者の費用負担において、聴聞会において通訳を利用する権利を有するものとする。</p> <p>13.2.2.2.8 各手続当事者は、関連する証拠にアクセスしこれを提示し、書面及び口頭の証言を提出し、証人を呼び審問する権利を有する。</p> <p>13.2.2.3 <i>日本スポーツ仲裁機構</i>のアンチ・ドーピングパネルの決定</p> <p>13.2.2.3.1 <i>日本スポーツ仲裁機構</i>のアンチ・ドーピングパネルは、聴聞会の終わり又はそのすぐ後において、「<i>結果管理に関する国際基準</i>」第9条の原則を尊重する、書面の、日付が記載され、署名された決定を、発行するものとする。</p> <p>13.2.2.3.2 当該決定は、最大限賦課されうる制裁措置が賦課されなかった理由（該当する場合）を含む、決定及び賦課された資格停止期間の理由の全てを、特に、含むものとする。</p> <p>13.2.2.3.3 <i>JADA</i>は、<i>競技者</i>又はその他の人、その<i>国内競技連盟</i>、及び、第13.2.3項に基づき不服申立ての権利を有するアンチ・ドーピング機関に対し、当該決定を通知するものとし、速やかに<i>ADAMS</i>に報告するものとする。</p> <p>13.2.2.3.4 当該決定は、第13.2.3項に定めるとおりこれに対し不服申立てすることができ、第14.3項に定めるとおり一般開示することができるものとする。</p>
<p>13.2.3 <i>Persons Entitled to Appeal</i></p> <p>13.2.3.1 Appeals Involving <i>International-Level Athletes</i> or <i>International Events</i></p> <p>In cases under Article 13.2.1, the following parties shall have the right to appeal to <i>CAS</i>:</p> <p>(a) the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who is the subject of the decision being appealed; (b) the other party to the case in which the decision was rendered; (c) the relevant <i>International Federation</i>; (d) <i>JADA</i> and (if different) the <i>National Anti-Doping Organisation</i> of the <i>Person's</i> country of residence or countries where the <i>Person</i> is a national or licence holder; (e) the <i>International Olympic Committee</i> or <i>International Paralympic Committee</i>, as applicable, where the decision may have an effect in relation to the <i>Olympic Games</i> or <i>Paralympic Games</i>,</p>	<p>13.2.3 不服申立てを行う権利を有する人</p> <p>13.2.3.1 <i>国際レベルの競技者</i>又は<i>国際競技大会</i>が関係する不服申立て</p> <p>第13.2.1項に定められている事案の場合、<i>CAS</i>に不服申立てを行う権利を有する当事者は次のとおりとする。</p> <p>(a) 不服申立てを行う決定の対象となった、<i>競技者</i>又はその他の人</p> <p>(b) 当該決定が下された事案の他の当事者</p> <p>(c) 関係する<i>国際競技連盟</i></p> <p>(d) <i>JADA</i>及び（異なる場合には）当該人が国民若しくは市民権者である国の<i>国内アンチ・ドーピング機関</i></p> <p>(e) <i>国際オリンピック委員会</i>又は<i>国際パラリンピック委員会</i>（<i>オリンピック大会</i>又は<i>パラリン</i></p>

<p>including decisions affecting eligibility for the Olympic Games or Paralympic Games; and (f) <i>WADA</i>.</p>	<p>ピック大会の参加資格に影響を及ぼす決定を含む、オリンピック大会又はパラリンピック大会に関して効力を有する決定の場合) (f) <i>WADA</i></p>
<p>13.2.3.2 Appeals Involving Other <i>Athletes</i> or Other <i>Persons</i></p>	<p>13.2.3.2 その他の競技者又はその他の人が関係する不服申立て</p>
<p>In cases under Article 13.2.2, the following parties shall have the right to appeal: (a) the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who is the subject of the decision being appealed; (b) the other party to the case in which the decision was rendered; (c) the relevant International Federation; (d) <i>JADA</i> and (if different) the <i>National Anti-Doping Organisation</i> of the <i>Person</i>'s country of residence or countries where the <i>Person</i> is a national or licence holder; (e) the International Olympic Committee or International Paralympic Committee, as applicable, where the decision may have an effect in relation to the Olympic Games or Paralympic Games, including decisions affecting eligibility for the Olympic Games or Paralympic Games; and (f) <i>WADA</i>.</p>	<p>第 13.2.2 項に定められている事案の場合、次に掲げる当事者は、不服申立てを行う権利を有する。 (a) 不服申立てを行う決定の対象となった、競技者又はその他の人 (b) 当該決定が下された事案の他の当事者 (c) 関係する国際競技連盟 (d) <i>JADA</i> 及び (異なる場合には) 当該人の居住国又は当該人が国民であり若しくはライセンス保持者である国の国内アンチ・ドーピング機関 (e) 国際オリンピック委員会又は国際パラリンピック委員会 (オリンピック大会又はパラリンピック大会の参加資格に影響を及ぼす決定を含む、オリンピック大会又はパラリンピック大会に関して効力を有する決定の場合) (f) <i>WADA</i></p>
<p>For cases under Article 13.2.2, <i>WADA</i>, the International Olympic Committee, the International Paralympic Committee, and the relevant International Federation shall also have the right to appeal to <i>CAS</i> with respect to the decision of the <i>Japan Sports Arbitration Agency</i>. Any party filing an appeal shall be entitled to assistance from <i>CAS</i> to obtain all relevant information from the <i>Anti-Doping Organisation</i> whose decision is being appealed and the information shall be provided if <i>CAS</i> so directs.</p>	<p>第 13.2.2 項に定められている事案の場合、<i>WADA</i>、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会及び関係する国際競技連盟は、<i>日本スポーツ仲裁機構</i>の決定に関して、<i>CAS</i> にも不服申立てを行う権利を有するものとする。不服申立てを行う当事者は、不服申立ての対象となる決定を下したアンチ・ドーピング機関からすべての関係情報を取得するために <i>CAS</i> からの支援を受けることができるものとし、また、<i>CAS</i> が命じた場合には当該情報は提供されるものとする。</p>
<p>13.2.3.3 Duty to Notify</p>	<p>13.2.3.3 通知義務</p>
<p>All parties to any <i>CAS</i> appeal must ensure that <i>WADA</i> and all other parties with a right to appeal have been given timely notice of the appeal.</p>	<p><i>CAS</i> の不服申立ての全当事者は、<i>WADA</i> 及び不服申立てを行う権利を有するすべての当事者が、不服申立てについて適時の通知を付与されたことを確保しなければならない。</p>
<p>13.2.3.4 Appeal from Imposition of <i>Provisional Suspension</i></p>	<p>13.2.3.4 暫定的資格停止の賦課に関する不服申立て</p>
<p>Notwithstanding any other provision herein, the only <i>Person</i> who may appeal from the imposition of a <i>Provisional Suspension</i> is the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> upon whom the <i>Provisional Suspension</i> is imposed.</p>	<p>本規程の他の規定にかかわらず、暫定的資格停止の賦課について不服申立てを行うことができる人は、当該暫定的資格停止が課された、競技者又はその他の人に限られる。</p>
<p>13.2.3.5 Appeal from Decisions under Article 12</p>	<p>13.2.3.5 第 12 条に従って下された決定に対する不服申立て</p>
<p>Decisions of <i>JADA</i> pursuant to Article 12 may be appealed by the <i>National Sports Federation</i> concerned to <i>Japan Sports Arbitration Agency</i>, which is subject to right to appeal to <i>CAS</i> by such <i>National Sports Federation</i> and/or <i>JADA</i>.</p>	<p>関連する国内競技連盟は、第 12 条に従って下された <i>JADA</i> の決定に対し、<i>日本スポーツ仲裁機構</i>に不服申立てを行うことができ、関連する国内競技連盟及び/又は <i>JADA</i> は、<i>日本スポーツ仲裁機構</i>の決定に対し、<i>CAS</i> に不服申立てを行うことができる。</p>

13.2.4 Cross Appeals and other Subsequent Appeals Allowed

Cross appeals and other subsequent appeals by any respondent named in cases brought to CAS under the Code are specifically permitted. Any party with a right to appeal under this Article 13 must file a cross appeal or subsequent appeal at the latest with the party's answer.⁶⁶

[Comment to Article 13.2.4: This provision is necessary because since 2011, CAS rules no longer permit an Athlete the right to cross appeal when an Anti-Doping Organisation appeals a decision after the Athlete's time for appeal has expired. This provision permits a full hearing for all parties.]

13.3 Failure to Render a Timely Decision by JADA

Where, in a particular case, JADA fails to render a decision with respect to whether an anti-doping rule violation was committed within a reasonable deadline set by WADA, WADA may elect to appeal directly to CAS as if JADA had rendered a decision finding no anti-doping rule violation. If the CAS hearing panel determines that an anti-doping rule violation was committed and that WADA acted reasonably in electing to appeal directly to CAS, then WADA's costs and attorney fees in prosecuting the appeal shall be reimbursed to WADA by JADA.⁶⁷

[Comment to Article 13.3: Given the different circumstances of each anti-doping rule violation investigation, Results Management and hearing process, it is not feasible to establish a fixed time period for JADA to render a decision before WADA may intervene by appealing directly to CAS. Before taking such action, however, WADA will consult with JADA and give JADA an opportunity to explain why it has not yet rendered a decision.]

13.4 Appeals Relating to TUEs

TUE decisions may be appealed exclusively as provided in Article 4.4.

13.2.4 交差不服申立て及びその他認められる後続の不服申立て

世界規程に基づき CAS に提起された事案における被不服申立人による交差不服申立てその他後続の不服申立ては、明示的に認められる。本第 13 条に基づき不服申立てを提起する権利を有する当事者は、遅くとも当該当事者の答弁時まで、交差不服申立て又は後続の不服申立てを提起しなければならない。

[第 13.2.4 項の解説：2011 年以降、CAS 規則においては、競技者の不服申立期間の満了後にアンチ・ドーピング機関が決定に対し不服申立てを提起した場合に、競技者が交差不服申立てを提起する権利が認められなくなったため、本条項が必要となる。本条項は、全当事者のために完全な聴聞会を行うことを認めている。]

13.3 JADA による時機に後れた決定

個々の事案におけるアンチ・ドーピング規則違反の有無に関し、WADA が定めた合理的な期間内に JADA が決定を下さなかった場合には、WADA は、JADA がアンチ・ドーピング規則違反がないと判断する決定を下したのとして、CAS に対して直接に不服申立てを行うことを選択できる。CAS の聴聞パネルが、アンチ・ドーピング規則違反があり、かつ、WADA の CAS に対する直接の不服申立ての選択が合理的なものであると判断した場合には、不服申立ての手續遂行に関する WADA の費用及び弁護士報酬は、JADA から WADA に対して償還されるものとする。

[第 13.3 項の解説：個々のアンチ・ドーピング規則違反のドーピング調査、結果管理及び聴聞会の手續における様々な事情に鑑みると、WADA が CAS に対して直接に不服申立てを行うに先立ち JADA が決定を下すための期限を、確定的に定めることは現実的ではない。但し、当該行動が取られる前に、WADA は JADA と協議し、かつ、JADA に対し決定が未だ下されていない理由について説明する機会を与えるものとする。]

13.4 TUE に関連する不服申立て

TUE 決定に対しては、第 4.4 項に定められているとおりのみ、不服申立てを提起することができる。

66

67

<p>13.5 Notification of Appeal Decisions</p> <p>JADA shall promptly provide the appeal decision to the Athlete or other Person and to the other Anti-Doping Organisations that would have been entitled to appeal under Article 13.2.3 as provided under Article 14.2.</p> <p>13.6 Time for Filing Appeals⁶⁸</p> <p>[Comment to Article 13.6: Whether governed by CAS rules or these Anti-Doping Rules, a party's deadline to appeal does not begin running until receipt of the decision. For that reason, there can be no expiration of a party's right to appeal if the party has not received the decision.]</p> <p>13.6.1 Appeals to CAS</p> <p>The time to file an appeal to CAS shall be twenty-one (21) days from the date of receipt of the decision by the appealing party. The above notwithstanding, the following shall apply in connection with appeals filed by a party entitled to appeal but which was not a party to the proceedings that led to the decision being appealed:</p> <p>(a) Within fifteen (15) days from the notice of the decision, such party/ies shall have the right to request a copy of the full case file pertaining to the decision from the Anti-Doping Organisation that had Results Management authority;</p> <p>(b) If such a request is made within the fifteen (15) day period, then the party making such request shall have twenty-one (21) days from receipt of the file to file an appeal to CAS.</p> <p>The above notwithstanding, the filing deadline for an appeal filed by WADA shall be the later of:</p> <p>(a) Twenty-one (21) days after the last day on which any other party having a right to appeal could have appealed, or</p> <p>(b) Twenty-one (21) days after WADA's receipt of the complete file relating to the decision.</p> <p>13.6.2 Appeals Under Article 13.2.2</p> <p>The time to file an appeal to the Japan Sports Arbitration Agency shall be twenty-one (21) days from the date of receipt of the decision by the appealing party. The above notwithstanding, the following shall apply in connection with appeals filed by a party entitled to appeal but which was not a party to the proceedings having led to the decision subject to appeal:</p>	<p>13.5 不服申立決定の通知</p> <p>JADA は、第 14.2 項に定めるとおり、競技者又はその他の人並びに第 13.2.3 項に基づき不服申立てを提起する権利を有する他のアンチ・ドーピング機関に、不服申立決定を速やかに提供するものとする。</p> <p>13.6 不服申立て提起の時期</p> <p>[第 13.6 項の解説 : CAS 規則によるか本規程によるかを問わず、当事者の不服申立て期限は決定を受領するまでは進行しない。かかる理由により、当事者が決定を受領していなかった場合には、当該当事者の不服申立ての権利の期限は満了しない。]</p> <p>13.6.1 CAS に対する不服申立て</p> <p>CAS に対する不服申立ての提起時期は、不服申立てを提起する当事者による決定の受領の日から 21 日以内とする。上記にかかわらず、不服申立て提起権者であるが、決定の不服申立てに至る手続の当事者ではなかった当事者による不服申立ての提起については、以下の事項が適用される。</p> <p>(a) 当該当事者は、決定の通知から 15 日以内に、結果管理権限を有するアンチ・ドーピング機関に当該決定に関連する完全な案件記録の写しを要求する権利を有する。</p> <p>(b) 当該要求が 15 日間の期間内になされた場合には、当該要求を行った当事者は、記録を受領してから 21 日以内に、CAS に不服申立てを提起する権利を有する。</p> <p>上記にかかわらず、WADA の提起する不服申立ての提起期限は、下記のうちいずれか遅い方とする。</p> <p>(a) 当該事案における他の当事者が不服申立てを行うことができる権利を有している最終の日から 21 日後</p> <p>(b) 当該決定に関連する完全な記録の WADA による受領から 21 日後</p> <p>13.6.2 第 13.2.2 項に基づく不服申立て</p> <p>日本スポーツ仲裁機構に対する不服申立ての提起時期は、不服申立て当事者による決定の受領の日から 21 日以内とする。上記にもかかわらず、不服申立て提起権者であるが、決定の不服申立てに至る手続の当事者ではなかった当事者による不服申立ての提起については、以下の事項が適用される。</p>
--	---

<p>(a) Within fifteen (15) days from notice of the decision, such party/ies shall have the right to request a copy of the full case file pertaining to the decision from the <i>Anti-Doping Organisation</i> that had <i>Results Management</i> authority;</p> <p>(b) If such a request is made within the fifteen (15) day period, then the party making such request shall have twenty-one (21) days from receipt of the file to file an appeal to the <i>Japan Sports Arbitration Agency</i>.</p> <p>The above notwithstanding, the filing deadline for an appeal filed by <i>WADA</i> shall be the later of:</p> <p>(a) Twenty-one (21) days after the last day on which any other party having a right to appeal could have appealed, or</p> <p>(b) Twenty-one (21) days after <i>WADA's</i> receipt of the complete file relating to the decision.</p>	<p>(a) 当該当事者は、決定の通知から 15 日以内に、結果管理権限を有するアンチ・ドーピング機関に、当該決定に関連する完全な案件記録の写しを要求する権利を有する。</p> <p>(b) 当該要求が 15 日間の期間内になされた場合には、当該要求を行った当事者は、記録を受領してから 21 日以内に、日本スポーツ仲裁機構に不服申立てを提起する権利を有する。</p> <p>上記にかかわらず、<i>WADA</i> の提起する不服申立ての提起期限は、下記のうちいずれか遅い方とする。</p> <p>(a) 当該事案における他の当事者が不服申立てを行うことができる権利を有している最終の日から 21 日後</p> <p>(b) 当該決定に関連する完全な記録の <i>WADA</i> による受領から 21 日後</p>
--	---

<p>ARTICLE 14 CONFIDENTIALITY AND REPORTING</p> <p>14.1 Information Concerning Adverse Analytical Findings, Atypical Findings, and Other Asserted Anti-Doping Rule Violations</p> <p>14.1.1 Notice of Anti-Doping Rule Violations to <i>Athletes</i> and other <i>Persons</i></p> <p>Notice to <i>Athletes</i> or other <i>Persons</i> of anti-doping rule violations asserted against them shall occur as provided under Articles 7 and 14.</p> <p>If at any point during <i>Results Management</i> up until the anti-doping rule violation charge, <i>JADA</i> decides not to move forward with a matter, it must notify the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> (provided that the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> had been already informed of the ongoing <i>Results Management</i>).</p> <p>14.1.2 Notice of Anti-Doping Rule Violations to <i>National Anti-Doping Organisations</i>, International Federations and <i>WADA</i></p> <p>Notice of the assertion of an anti-doping rule violation to the <i>Athlete's</i> or other <i>Person's National Anti-Doping Organisation</i>, if different from <i>JADA</i>, International Federation and <i>WADA</i> shall occur as provided under Articles 7 and 14, simultaneously with the notice to the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i>.</p> <p>If at any point during <i>Results Management</i> up until the anti-doping rule violation charge, <i>JADA</i> decides not to move forward with a matter, it must give notice (with reasons) to the <i>Anti-Doping Organisations</i> with a right of appeal under Article 13.2.3.</p> <p>14.1.3 Content of an Anti-Doping Rule Violation Notice</p> <p>Notification of an anti-doping rule violation shall include: the <i>Athlete's</i> or other <i>Person's</i> name, country, sport and discipline within the sport, the <i>Athlete's</i> competitive level, whether the test was <i>In-Competition</i> or <i>Out-of-Competition</i>, the date of <i>Sample</i> collection, the analytical result reported by the laboratory and other information as required by the <i>International Standard for Testing and Investigations</i> and <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>Notification of anti-doping rule violations other than under Article 2.1 shall also include the rule violated and the basis of the asserted violation.</p>	<p>第 14 条 守秘義務及び報告</p> <p>14.1 違反が疑われる分析報告、非定型報告、その他の主張されたアンチ・ドーピング規則違反に関する情報</p> <p>14.1.1 競技者又はその他の人に対するアンチ・ドーピング規則違反の通知</p> <p>競技者又はその他の人に対するアンチ・ドーピング規則違反の主張は、第 7 条及び第 14 条に従い、当該競技者又はその他の人に通知するものとする。</p> <p>結果管理中からアンチ・ドーピング規則違反の責任追及までの間、時期を問わず、<i>JADA</i> が案件を進めないことを決定した場合には、<i>JADA</i> は競技者又はその他の人に通知しなければならない（但し、当該競技者又はその他の人が進行中の結果管理について既に連絡を受けていることを条件とする。）。</p> <p>14.1.2 国内アンチ・ドーピング機関、国際競技連盟及び <i>WADA</i> に対するアンチ・ドーピング規則違反の通知</p> <p>アンチ・ドーピング規則違反の主張は、競技者又はその他の人に通知すると同時に、第 7 条及び第 14 条に従い、当該競技者又はその他の人の国内アンチ・ドーピング機関 (<i>JADA</i> とは異なる場合)、国際競技連盟及び <i>WADA</i> に通知するものとする。</p> <p>結果管理中からアンチ・ドーピング規則違反の責任追及までの間、時期を問わず、<i>JADA</i> が案件を進めないことを決定した場合には、第 13.2.3 項に基づき不服申立てを提起することができる他の国内アンチ・ドーピング機関に通知しなければならない。</p> <p>14.1.3 アンチ・ドーピング規則違反の通知の内容</p> <p>アンチ・ドーピング規則違反の通知には、競技者又はその他の人の氏名、出身国、競技及び種目、競技者の競技レベル、検査種別（競技会（時）検査又は競技会外の検査）、検体の採取日、分析機関が報告した分析結果、その他「検査及びドーピング捜査に関する国際基準」及び「結果管理に関する国際基準」により要請されている他の情報が含まれる。</p> <p>第 2.1 項以外のアンチ・ドーピング規則違反の通知には、違反された規則及び主張された違反の根拠の各情報も含まれる。</p>
--	--

<p>14.1.4 Status Reports</p> <p>Except with respect to investigations which have not resulted in a notice of an anti-doping rule violation pursuant to Article 14.1.1, the <i>Athlete's</i> or other <i>Person's National Anti-Doping Organisation</i>, if different from <i>JADA</i>, International Federation and <i>WADA</i> shall be regularly updated on the status and findings of any review or proceedings conducted pursuant to Article 7, 8 or 13 and shall be provided with a prompt written reasoned explanation or decision explaining the resolution of the matter.</p> <p>14.1.5 Confidentiality</p> <p>The recipient organisations shall not disclose this information beyond those <i>Persons</i> with a need to know (which would include the appropriate personnel at the applicable <i>National Olympic Committee</i>, <i>National Sports Federation</i>, and team in a <i>Team Sport</i>) until <i>JADA</i> has made <i>Public Disclosure</i> as permitted by Article 14.3.</p> <p>14.1.6 Protection of Confidential Information by an Employee or Agent of <i>JADA</i></p> <p><i>JADA</i> shall ensure that information concerning <i>Adverse Analytical Findings</i>, <i>Atypical Findings</i>, and other asserted anti-doping rule violations remains confidential until such information is <i>Publicly Disclosed</i> in accordance with Article 14.3.</p> <p>14.2 Notice of Anti-Doping Rule Violation or violations of <i>Ineligibility</i> or <i>Provisional Suspension</i> Decisions and Request for Files</p> <p>14.2.1 Anti-doping rule violation decisions or decisions related to violations of <i>Ineligibility</i> or <i>Provisional Suspension</i> rendered pursuant to Article 7.6, 8.2, 10.5, 10.6, 10.7, 10.14.3 or 13.5 shall include the full reasons for the decision, including, if applicable, a justification for why the maximum potential sanction was not imposed. Where the decision is not in English or French, <i>JADA</i> shall provide an English or French summary of the decision and the supporting reasons.</p> <p>14.2.2 An <i>Anti-Doping Organisation</i> having a right to appeal a decision received pursuant to Article 14.2.1 may, within fifteen (15) days of receipt, request a copy of the full case file pertaining to the decision.</p> <p>14.3 Public Disclosure</p> <p>14.3.1 After notice has been provided to the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> in accordance with the <i>International Standard for Results Management</i>, and to the applicable</p>	<p>14.1.4 状況の報告</p> <p>第 14.1.1 項に従いアンチ・ドーピング規則違反の通知に至らなかったドーピング捜査に関わる場合を除き、<i>競技者</i>又はその他の人の<i>国内アンチ・ドーピング機関</i> (<i>JADA</i> とは異なる場合)、国際競技連盟及び <i>WADA</i> には、第 7 条、第 8 条又は第 13 条に基づき審査又は手続が実施される場合、その状況と結果に関する最新情報が定期的に提供され、また、書面による理由を付した説明文書又は事案の解決につき説明する決定が速やかに提供されるものとする。</p> <p>14.1.5 守秘義務</p> <p><i>JADA</i> が第 14.3 項により許容される一般開示を行うまでは、情報を受領した機関は、当該情報を知る必要がある人 (該当する<i>国内オリンピック委員会</i>、<i>国内競技連盟</i>及び<i>チームスポーツ</i>におけるチーム等の適切な人員を含む。) 以外に当該情報を開示しないものとする。</p> <p>14.1.6 <i>JADA</i> の職員又は代理人による秘密情報の保護</p> <p><i>JADA</i> は、違反が疑われる分析報告、非定型報告その他主張されたアンチ・ドーピング規則違反に関する情報について、当該情報が第 14.3 項に従い一般開示されるまで機密として保持されることを確保するものとする。</p> <p>14.2 アンチ・ドーピング規則違反又は資格停止若しくは暫定的資格停止違反の決定の通知及びファイルに対する要請</p> <p>14.2.1 第 7.6 項、第 8.2 項、第 10.5 項、第 10.6 項、第 10.7 項、第 10.14.3 項又は第 13.5 項に従い下されたアンチ・ドーピング規則違反又は資格停止若しくは暫定的資格停止違反の決定は、当該決定に至る完全な理由を含み、該当する場合には、賦課可能な制裁措置が最大限まで賦課されなかったことの正当な理由も含むものとする。決定が英語又はフランス語のいずれでもない場合には、<i>JADA</i> は当該決定及び決定を裏づける理由の英語又はフランス語での要約を提供するものとする。</p> <p>14.2.2 第 14.2.1 項に従い受領した決定に不服申立てを提起する権利を有するアンチ・ドーピング機関は、受領後 15 日以内に、当該決定に関する完全な案件記録の写しを要請することができる。</p> <p>14.3 一般開示</p> <p>14.3.1 「結果管理に関する国際基準」に従って競技者又はその他の人に対し、また、第 14.1.2 項に従って該当するアンチ・ドーピング機関に対し、</p>
--	---

Anti-Doping Organisations in accordance with Article 14.1.2, the identity of any *Athlete* or other *Person* who is notified of a potential anti-doping rule violation, the *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* and the nature of the violation involved, and whether the *Athlete* or other *Person* is subject to a *Provisional Suspension* may be *Publicly Disclosed* by *JADA*.

14.3.2 No later than twenty (20) days after it has been determined in an appellate decision under Article 13.2.1 or 13.2.2, or such appeal has been waived, or a hearing in accordance with Article 8 has been waived, or the assertion of an anti-doping rule violation has not otherwise been timely challenged, or the matter has been resolved under Article 10.8, or a new period of *Ineligibility*, or reprimand, has been imposed under Article 10.14.3, *JADA* must *Publicly Disclose* the disposition of the anti-doping matter including the sport, the anti-doping rule violated, the name of the *Athlete* or other *Person* committing the violation, the *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* involved (if any) and the *Consequences* imposed. *JADA* must also *Publicly Disclose* within twenty (20) days the results of appellate decisions concerning anti-doping rule violations, including the information described above.⁶⁹

[*Comment to Article 14.3.2: Where Public Disclosure as required by Article 14.3.2 would result in a breach of other applicable laws, JADA's failure to make the Public Disclosure will not result in a determination of non-compliance with Code as set forth in Article 4.1 of the International Standard for the Protection of Privacy and Personal Information.*]

14.3.3 After an anti-doping rule violation has been determined to have been committed in an appellate decision under Article 13.2.1 or 13.2.2 or such appeal has been waived, or in a hearing in accordance with Article 8 or where such hearing has been waived, or the assertion of an anti-doping rule violation has not otherwise been timely challenged, or the matter has been resolved under Article 10.8, *JADA* may make public such determination or decision and may comment publicly on the matter.

14.3.4 In any case where it is determined, after a hearing or appeal, that the *Athlete* or other *Person* did not commit an anti-doping rule violation, the fact that the decision has been appealed may be *Publicly Disclosed*. However, the decision itself and the underlying facts may not be *Publicly Disclosed* except with the consent of the *Athlete* or other *Person* who is the subject of the decision. *JADA* shall use reasonable efforts to obtain such consent, and if consent is obtained, shall *Publicly Disclose* the decision in its entirety or in such redacted form as the *Athlete* or other *Person* may approve.

それぞれ通知が提供された後、潜在的なアンチ・ドーピング規則違反について通知を受けた競技者又はその他の人の身元、禁止物質又は禁止方法及び関連する違反の性質、並びに競技者又はその他の人が暫定的資格停止の対象となっているか否かについては、*JADA*によって一般開示される場合がある。

14.3.2 第 13.2.1 項若しくは第 13.2.2 項に基づく不服申立決定のとき、当該不服申立ての放棄のとき、第 8 条に基づく聴聞を受ける権利の放棄のとき、主張されたアンチ・ドーピング規則違反に対して適切な時期に異議が唱えられなかったとき、当該条件が第 10.8 項に基づき解決されたとき、又は新しい資格停止の期間若しくは譴責処分が第 10.4.3 項に基づき課されたときから 20 日以内に、*JADA* は、競技、違反の対象となったアンチ・ドーピング規則、違反をした競技者又はその他の人の氏名、関係する禁止物質又は禁止方法（もしあれば）及び課せられた措置を含む当該アンチ・ドーピング事案に関する処理について一般開示しなければならない。*JADA* はまた、20 日以内に、上記情報を含む、アンチ・ドーピング規則違反に関する不服申立ての決定の結果についても一般開示しなければならない。

[第 14.3.2 項の解説：第 14.3.2 項の要求する一般開示が他の適用法令の違反となる場合には、*JADA* が一般開示を行わなかったことは、「プライバシー及び個人情報の保護に関する国際基準」の第 4.1 項に定める世界規程の不遵守の決定という結果にはならない。]

14.3.3 第 13.2.1 項若しくは第 13.2.2 項に基づく不服申立決定においてアンチ・ドーピング規則違反が行われたものと判断され、若しくは当該不服申立てが放棄された後、第 8 項に従った聴聞会中、若しくは当該聴聞を受ける権利が放棄された場合、アンチ・ドーピング規則違反の主張に対し別途適時に異議が申し立てられなかった場合、又は当該案件が第 10.8 項に基づき解決された場合には、*JADA* は当該決定又は判断を公開することができ、当該案件につき公に見解を述べることができる。

14.3.4 聴聞会又は不服申立ての後に競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング規則に違反していない旨決定された場合には、当該決定について不服申立てが提起されていた事実は、一般開示される場合がある。しかし、決定自体及びその背景事実は、当該決定の対象となった競技者又はその他の人の同意があった場合を除き、一般開示されるべきではない。*JADA* は、当該同意を得るために合理的な努力を行うものとし、また、同意が得られた場合には、当該決定を完全な形で、又は競技者若しくはその他の人が認める範囲で編集した形で一般開示するものとする。

<p>14.3.5 Publication shall be accomplished at a minimum by placing the required information on the <i>JADA's</i> website and leaving the information up for the longer of one (1) month or the duration of any period of <i>Ineligibility</i>. Furthermore, for <i>Athletes</i> retiring during the period of <i>Ineligibility</i> (if any), publication shall conclude after such <i>Athlete's</i> retirement upon placing the information for at least one (1) month. In the case that such <i>Athlete</i> returns to active competition in sport, publication shall be made again till the elapse of the remainder of the period of <i>Ineligibility</i>, in accordance with Article 5.6.2.</p> <p>14.3.6 Except as provided in Articles 14.3.1 and 14.3.3, no <i>Anti-Doping Organisation</i>, <i>National Sports Federation</i> or <i>WADA</i>-accredited laboratory, or any official of any such body, shall publicly comment on the specific facts of any pending case (as opposed to general description of process and science) except in response to public comments attributed to, or based on information provided by, the <i>Athlete</i>, other <i>Person</i> or their entourage or other representatives.</p> <p>14.3.7 The mandatory <i>Public Disclosure</i> required in Article 14.3.2 shall not be required where the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> who has been found to have committed an anti-doping rule violation is a <i>Minor</i>, <i>Protected Person</i> or <i>Recreational Athlete</i>. Any optional <i>Public Disclosure</i> in a case involving a <i>Minor</i>, <i>Protected Person</i> or <i>Recreational Athlete</i> shall be proportionate to the facts and circumstances of the case.</p> <p>14.4 Statistical Reporting</p> <p><i>JADA</i> shall, at least annually, publish publicly a general statistical report of its <i>Doping Control</i> activities, with a copy provided to <i>WADA</i>. <i>JADA</i> may also publish reports showing the name of each <i>Athlete</i> tested and the date of each <i>Testing</i>.</p> <p>14.5 Doping Control Information Database and Monitoring of Compliance</p> <p>To enable <i>WADA</i> to perform its compliance monitoring role and to ensure the effective use of resources and sharing of applicable <i>Doping Control</i> information among <i>Anti-Doping Organisations</i>, <i>JADA</i> shall report to <i>WADA</i> through <i>ADAMS Doping Control</i>-related information, including, in particular:</p> <p>(a) <i>Athlete Biological Passport</i> data for <i>International-Level Athletes</i> and <i>National-Level Athletes</i>,</p> <p>(b) Whereabouts information for <i>Athletes</i></p>	<p>14.3.5 開示は、少なくとも、義務づけられた情報を <i>JADA</i> のウェブサイトにおいて 1 ヶ月間又は資格停止期間の存続期間のいずれか長い方の期間、掲載することにより、行われるものとする。また、資格停止期間中に引退する <i>競技者</i>（もしあれば）については、最低 1 ヶ月間の掲載を行った上で、引退した後に開示を終了する。当該 <i>競技者</i> が現役復帰する場合、第 5.6.2 項に従い、残存する資格停止期間が経過するまで再度開示を行う。</p> <p>14.3.6 第 14.3.1 項及び第 14.3.3 項に定める場合を除き、アンチ・ドーピング機関、国内競技連盟若しくは <i>WADA</i> 認定分析機関又はそれらの役職員等は、当該 <i>競技者</i> 若しくはその他の人若しくはその随員その他の代理人による公のコメントに対応し、又はこれらの者により提供される情報に基づく場合を除き、（手続及び科学的知見の一般的な説明とは異なる）未決の事案における特定の事実につき公に見解を述べてはならない。</p> <p>14.3.7 第 14.3.2 項において要請される義務的な一般開示は、アンチ・ドーピング規則違反を行ったと判断された <i>競技者</i> 又はその他の人が 18 歳未満の者、要保護者又はレクリエーション <i>競技者</i> の場合には要請されないものとする。18 歳未満の者、要保護者又はレクリエーション <i>競技者</i> に関する事案における任意的な一般開示は、当該事案の事実及び状況に釣り合うものとする。</p> <p>14.4 統計数値の報告</p> <p><i>JADA</i> は、少なくとも年 1 回、ドーピング・コントロール活動の全体的な統計数値の報告書を公表し、その写しを <i>WADA</i> に対して提出するものとする。<i>JADA</i> は、各検査において検査を受けた各 <i>競技者</i> の氏名及び検査の日付に関する報告書についても公表することができる。</p> <p>14.5 ドーピング・コントロール情報データベース及びコンプライアンスの監視</p> <p><i>WADA</i> が自己のコンプライアンス監視の役割を遂行し、アンチ・ドーピング機関間のリソースの効果的な使用及び該当するドーピング・コントロール情報の共有を確保することを可能にするために、<i>JADA</i> は、適用される国際基準が要請するところに従い、とりわけ以下を含む、ドーピング・コントロール関連情報を、<i>ADAMS</i> を通じて <i>WADA</i> に報告するものとする。</p>
---	--

<p>including those in <i>Registered Testing Pools</i>, (c) <i>TUE</i> decisions, and (d) <i>Results Management</i> decisions,</p> <p>as required under the applicable <i>International Standard(s)</i>.</p> <p>14.5.1 To facilitate coordinated test distribution planning, avoid unnecessary duplication in <i>Testing</i> by various <i>Anti-Doping Organisations</i>, and to ensure that <i>Athlete Biological Passport</i> profiles are updated, <i>JADA</i> shall report all <i>In-Competition</i> and <i>Out-of-Competition</i> tests to <i>WADA</i> by entering the <i>Doping Control</i> forms into <i>ADAMS</i> in accordance with the requirements and timelines contained in the <i>International Standard</i> for <i>Testing</i> and Investigations.</p> <p>14.5.2 To facilitate <i>WADA's</i> oversight and appeal rights for <i>TUEs</i>, <i>JADA</i> shall report all <i>TUE</i> applications, decisions and supporting documentation using <i>ADAMS</i> in accordance with the requirements and timelines contained in the <i>International Standard</i> for <i>Therapeutic Use Exemptions</i>.</p> <p>14.5.3 To facilitate <i>WADA's</i> oversight and appeal rights for <i>Results Management</i>, <i>JADA</i> shall report the following information into <i>ADAMS</i> in accordance with the requirements and timelines outlined in the <i>International Standard</i> for <i>Results Management</i>: (a) notifications of anti-doping rule violations and related decisions for <i>Adverse Analytical Findings</i>; (b) notifications and related decisions for other anti-doping rule violations that are not <i>Adverse Analytical Findings</i>; (c) whereabouts failures; and (d) any decision imposing, lifting or reinstating a <i>Provisional Suspension</i>.</p> <p>14.5.4 The information described in this Article will be made accessible, where appropriate and in accordance with the applicable rules, to the <i>Athlete</i>, the <i>Athlete's National Anti-Doping Organisation</i> and International Federation, and any other <i>Anti-Doping Organisations</i> with <i>Testing</i> authority over the <i>Athlete</i>.</p> <p>14.6 Data Privacy</p> <p>14.6.1 <i>JADA</i> may collect, store, process or disclose personal information relating to <i>Athletes</i> and other <i>Persons</i> where necessary and appropriate to conduct its <i>Anti-Doping Activities</i> under the <i>Code</i>, the <i>International Standards</i> (including specifically the <i>International Standard</i> for the Protection of Privacy and Personal Information), these <i>Anti-Doping Rules</i>, and in compliance with applicable law.</p> <p>14.6.2 Without limiting the foregoing, <i>JADA</i> shall:</p>	<p>(a) 国際レベルの競技者及び国内レベルの競技者のためのアスリート・バイオロジカル・パスポートのデータ (b) 登録検査対象者リストに含まれる競技者の居場所情報 (c) <i>TUE</i> 決定、及び (d) 結果管理に関する決定</p> <p>14.5.1 調整された検査配分計画を促進し、複数のアンチ・ドーピング機関による不要な検査重複を回避すると共に、アスリート・バイオロジカル・パスポートのプロフィールが更新されていることを確保するために、<i>JADA</i> は、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に規定される要件及び時間軸に従い、ドーピング・コントロール・フォームを <i>ADAMS</i> に入力することにより、競技会 (時) 及び競技会外の検査の一切を <i>WADA</i> に報告するものとする。</p> <p>14.5.2 <i>TUE</i> に関する <i>WADA</i> の監督及び不服申立ての権利を促進するために、<i>JADA</i> は「治療使用特例に関する国際基準」に含まれる要件及び時間軸に従い、<i>ADAMS</i> を使用して <i>TUE</i> 申請、決定及び関連文書の一切を報告するものとする。</p> <p>14.5.3 結果管理に関する <i>WADA</i> の監督及び不服申立ての権利を促進するために、<i>JADA</i> は「結果管理に関する国際基準」に概要が示される要件及び時間軸に従い、次の情報を <i>ADAMS</i> に報告するものとする。(a)違反が疑われる分析報告に関するアンチ・ドーピング規則違反及び関連決定の通知、(b)違反が疑われる分析報告ではない他のアンチ・ドーピング規則違反に関する通知及び関連決定、(c)居場所情報関連義務違反、並びに(d)暫定的資格停止を賦課し、取り消し、又は復活させる決定。</p> <p>14.5.4 本項に規定される情報は、適切である場合に、適用規則に従い、競技者、競技者の国内アンチ・ドーピング機関及び国際競技連盟、並びに競技者に対して検査権限を有するその他アンチ・ドーピング機関に利用可能なものとされる。</p> <p>14.6 データ・プライバシー</p> <p>14.6.1 <i>JADA</i> は、世界規程、国際基準 (特に「プライバシー及び個人情報の保護に関する国際基準」を含む。) 及び本規程に従い、かつ適用される法を遵守して、各々のアンチ・ドーピング活動を遂行するのに必要かつ適切である場合には、競技者又はその他の人に関する個人情報を収集し、保管し、加工し、又は、開示することができる。</p> <p>14.6.2 上記を制限することなく、<i>JADA</i> は以下</p>
---	---

<p>(a) Only process personal information in accordance with a valid legal ground;</p> <p>(b) Notify any <i>Participant</i> or <i>Person</i> subject to these Anti-Doping Rules, in a manner and form that complies with applicable laws and the <i>International Standard for the Protection of Privacy and Personal Information</i>, that their personal information may be processed by <i>JADA</i> and other <i>Persons</i> for the purpose of the implementation of these Anti-Doping Rules;</p> <p>(c) Ensure that any third-party agents (including any <i>Delegated Third Party</i>) with whom <i>JADA</i> shares the personal information of any <i>Participant</i> or <i>Person</i> is subject to appropriate technical and contractual controls to protect the confidentiality and privacy of such information.</p> <p>ARTICLE 15 IMPLEMENTATION OF DECISIONS</p> <p>15.1 Automatic Binding Effect of Decisions by Signatory Anti-Doping Organisations</p> <p>15.1.1 A decision of an anti-doping rule violation made by a <i>Signatory Anti-Doping Organisation</i>, an appellate body (Article 13.2.2 of the <i>Code</i>) or <i>CAS</i> shall, after the parties to the proceeding are notified, automatically be binding beyond the parties to the proceeding upon <i>JADA</i> and any <i>National Sports Federation in Japan</i>, as well as every <i>Signatory</i> in every sport with the effects described below:</p> <p>15.1.1.1 A decision by any of the above-described bodies imposing a <i>Provisional Suspension</i> (after a <i>Provisional Hearing</i> has occurred or the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> has either accepted the <i>Provisional Suspension</i> or has waived the right to a <i>Provisional Hearing</i>, expedited hearing or expedited appeal offered in accordance with Article 7.4.3) automatically prohibits the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> from participation (as described in Article 10.14.1) in all sports within the authority of any <i>Signatory</i> during the <i>Provisional Suspension</i>.</p> <p>15.1.1.2 A decision by any of the above-described bodies imposing a period of <i>Ineligibility</i> (after a hearing has occurred or been waived) automatically prohibits the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> from participation (as described in Article 10.14.1) in all sports within the authority of any <i>Signatory</i> for the period of <i>Ineligibility</i>.</p> <p>15.1.1.3 A decision by any of the above-described bodies accepting an anti-doping rule violation automatically binds all <i>Signatories</i>.</p>	<p>を行う。</p> <p>(a) 有効な法的根拠に従う場合に限り、個人情報処理する。</p> <p>(b) 適用法令及び「プライバシー及び個人情報の保護に関する国際基準」を遵守する方法及び様式により、本規程の対象となっている参加者又は人に対し、その個人情報が、本規程を実施する目的のために <i>JADA</i> 及びその他の人により処理される可能性があることを通知する。</p> <p>(c) <i>JADA</i> が参加者又は人の個人情報を共有する第三者代理人（委託された第三者を含む）が、当該情報の守秘性及びプライバシーを保護するための適切な技術的及び契約上のコントロールの対象となっていることを確保する。</p> <p>第 15 条 決定の実施</p> <p>15.1 署名当事者であるアンチ・ドーピング機関による決定の自動的な拘束力ある効果</p> <p>15.1.1 署名当事者であるアンチ・ドーピング機関、不服申立機関（世界規程第 13.2.2 項）、又は CAS の行った決定は、当該手続の当事者が通知を受けた後、以下の効果をもって、<i>JADA</i>、日本の国内競技連盟、及びすべての競技における署名当事者に対し、当該手続における当事者以外に対しても自動的に拘束力を有するものとする。</p> <p>15.1.1.1 （暫定聴聞会が行われ、又は競技者若しくはその他の人が暫定的資格停止を受け入れ、若しくは暫定聴聞会、緊急聴聞会若しくは第 7.4.3 項に従い提供される簡易な不服申立てに対する権利を放棄した後に）暫定的資格停止を賦課する旨の上記のいずれかの機関による決定は、当該競技者又はその他の人が、（第 10.14.1 項に定めるとおり）暫定的資格停止中に署名当事者の権限内の競技の一切に参加することを自動的に禁止する。</p> <p>15.1.1.2 （聴聞会が行われ、又は放棄された後に）資格停止期間を賦課する旨の上記のいずれかの機関による決定は、当該競技者又はその他の人が、（第 10.14.1 項に定めるとおり）資格停止期間中に署名当事者の権限内の競技の一切に参加することを自動的に禁止する。</p> <p>15.1.1.3 アンチ・ドーピング規則違反を受け入れる旨の上記のいずれかの機関による決定は、すべての署名当事者に対し自動的に拘束力を有する。</p>
--	---

<p>15.1.1.4 A decision by any of the above-described bodies to <i>Disqualify</i> results under Article 10.10 for a specified period automatically <i>Disqualifies</i> all results obtained within the authority of any <i>Signatory</i> during the specified period.</p> <p>15.1.2 <i>JADA</i> and any <i>National Sports Federation in Japan</i> shall recognise and implement a decision and its effects as required by Article 15.1.1, without any further action required, on the earlier of the date <i>JADA</i> receives actual notice of the decision or the date the decision is placed by <i>WADA</i> into <i>ADAMS</i>.</p> <p>15.1.3 A decision by an <i>Anti-Doping Organisation</i>, an appellate body or <i>CAS</i> to suspend, or lift, <i>Consequences</i> shall be binding upon <i>JADA</i>, and any <i>National Sports Federation in Japan</i>, without any further action required, on the earlier of the date <i>JADA</i> receives actual notice of the decision or the date the decision is placed into <i>ADAMS</i>.</p> <p>15.1.4 Notwithstanding any provision in Article 15.1.1, however, a decision of an anti-doping rule violation by a <i>Major Event Organisation</i> made in an expedited process during an <i>Event</i> shall not be binding on <i>JADA</i> or <i>National Sports Federations in Japan</i> unless the rules of the <i>Major Event Organisation</i> provide the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> with an opportunity to an appeal under non-expedited procedures.⁷⁰</p> <p>[Comment to Article 15.1.4: By way of example, where the rules of the <i>Major Event Organisation</i> give the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> the option of choosing an expedited <i>CAS</i> appeal or a <i>CAS</i> appeal under normal <i>CAS</i> procedure, the final decision or adjudication by the <i>Major Event Organisation</i> is binding on other <i>Signatories</i> regardless of whether the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> chooses the expedited appeal option.]</p>	<p>15.1.1.4 特定の期間について第10.10項に基づき成績を失効させる旨の上記のいずれかの機関による決定は、当該特定の期間中に署名当事者の権限内で獲得された成績の一切を自動的に失効させる。</p> <p>15.1.2 <i>JADA</i> 及び日本の国内競技連盟は、<i>JADA</i> が決定の通知を実際に受けた日又は決定が <i>WADA</i> により <i>ADAMS</i> に記録された日のいずれか早い方に、更なる措置を要求されることなく、第 15.1.1 項により要求される決定及びその効果を承認し、実施するものとする。</p> <p>15.1.3 措置を停止し又は取り消す旨のアンチ・ドーピング機関、不服申立機関又は <i>CAS</i> による決定は、<i>JADA</i> が決定の通知を実際に受けた日又は決定が <i>WADA</i> により <i>ADAMS</i> に記録された日のいずれか早い方に、更なる措置を要求されることなく、<i>JADA</i> 及び日本の国内競技連盟に対し拘束力を有するものとする。</p> <p>15.1.4 但し、第 15.1.1 項の規定にかかわらず、競技大会中の簡易な手続で行われた主要競技大会機関によるアンチ・ドーピング規則違反に関する決定は、当該主要競技大会機関の規則において競技者又はその他の人に対し、簡易な手続ではない手続に基づく不服申立ての機会が提供される場合を除き、<i>JADA</i> 又は日本の国内競技連盟に対し拘束力を有しないものとする。</p> <p>[第 15.1.4 項の解説：例えば、主要競技大会機関の規則において競技者又はその他の人に対し、<i>CAS</i> への簡易な不服申立て又は通常 <i>CAS</i> の手続に基づく <i>CAS</i> への不服申立てを選択する権利が与えられている場合には、当該主要競技大会機関による終局的な決定又は判断は、当該競技者又はその他の人が簡易な不服申立てを選択するか否かにかかわらず、他の署名当事者に対し拘束力を有する。]</p>
<p>15.2 Implementation of Other Decisions by Anti-Doping Organisations</p> <p><i>JADA</i> and any <i>National Sports Federation in Japan</i> may decide to implement other anti-doping decisions rendered by <i>Anti-Doping Organisations</i> not described in Article 15.1.1 above, such as a <i>Provisional Suspension</i> prior to a <i>Provisional Hearing</i> or acceptance by the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i>.⁷¹</p> <p>[Comment to Articles 15.1 and 15.2: <i>Anti-Doping Organisation</i> decisions under Article 15.1 are implemented automatically by other <i>Signatories</i></p>	<p>15.2 アンチ・ドーピング機関による他の決定の実施</p> <p><i>JADA</i> 及び日本の国内競技連盟は、暫定聴聞会又は競技者若しくはその他の人による受諾前の暫定的資格停止等、上記第 15.1.1 項に規定されていない、アンチ・ドーピング機関により言い渡された他のアンチ・ドーピングに関する決定を実施することができる。</p> <p>[第 15.1 項及び第 15.2 項の解説：第 15.1 項に基づくアンチ・ドーピング機関の決定は、署名当事者において何らの決定又は更なる措置を要するこ</p>

70

71

<p>without the requirement of any decision or further action on the Signatories' part. For example, when a National Anti-Doping Organisation decides to Provisionally Suspend an Athlete, that decision is given automatic effect at the International Federation level. To be clear, the "decision" is the one made by the National Anti-Doping Organisation, there is not a separate decision to be made by the International Federation. Thus, any claim by the Athlete that the Provisional Suspension was improperly imposed can only be asserted against the National Anti-Doping Organisation. Implementation of Anti-Doping Organisations' decisions under Article 15.2 is subject to each Signatory's discretion. A Signatory's implementation of a decision under Article 15.1 or Article 15.2 is not appealable separately from any appeal of the underlying decision. The extent of recognition of TUE decisions of other Anti-Doping Organisations shall be determined by Article 4.4 and the International Standard for Therapeutic Use Exemptions.]</p>	<p>となく、他の署名当事者により自動的に実施される。例えば、国内アンチ・ドーピング機関が競技者を暫定的に資格停止することを決定した場合には、当該決定は国際競技連盟のレベルで自動的に効果を付与される。明確化のために述べると、「決定」とは、国内アンチ・ドーピング機関により行われるものであり、国際競技連盟により行われる別個の決定が存在するわけではない。よって、暫定的資格停止が不適切に賦課された旨の競技者による主張は、国内アンチ・ドーピング機関に対してのみ申し立てることができる。第15.2項に基づくアンチ・ドーピング機関の決定の実施は、各署名当事者の裁量による。第15.1項又は第15.2項に基づく署名当事者による決定の実施に対しては、その基にある決定に対する不服申立てとは別個に不服申立てを行うことはできない。他のアンチ・ドーピング機関のTUE決定の承認の範囲は、第4.4項及び「治療使用特例に関する国際基準」により決定されるものとする。]</p>
<p>15.3 Implementation of Decisions by Body that is not a Signatory</p>	<p>15.3 署名当事者ではない機関による決定の実施</p>
<p>An anti-doping decision by a body that is not a Signatory to the Code shall be implemented by JADA and any National Sports Federation in Japan, if JADA finds that the decision purports to be within the authority of that body and the anti-doping rules of that body are otherwise consistent with the Code.⁷²</p>	<p>世界規程の署名当事者ではない機関によるアンチ・ドーピングに関する決定は、JADAが、当該決定が当該機関の権限内であり、当該機関のアンチ・ドーピング規則が世界規程に適合するものであると判断する場合には、JADA及び日本の国内競技連盟により実施されるものとする。</p>
<p>[Comment to Article 15.3: Where the decision of a body that has not accepted the Code is in some respects Code compliant and in other respects not Code compliant, Signatories should attempt to apply the decision in harmony with the principles of the Code. For example, if in a process consistent with the Code a non-Signatory has found an Athlete to have committed an anti-doping rule violation on account of the presence of a Prohibited Substance in the Athlete's body but the period of Ineligibility applied is shorter than the period provided for in the Code, then all Signatories should recognise the finding of an anti-doping rule violation and the Athlete's National Anti-Doping Organisation should conduct a hearing consistent with Article 8 to determine whether the longer period of Ineligibility provided in the Code should be imposed. A Signatory's implementation of a decision or its decision not to implement a decision under Article 15.3, is appealable under Article 13.]</p>	<p>[第15.3項の解説：世界規程を受諾していない機関による決定について、世界規程に準拠している点とそうでない点がある場合には、署名当事者は当該決定について、世界規程の原則に調和するような形で適用するよう試みるべきである。例えば、世界規程と整合する手続において、非署名当事者が、禁止物質が競技者の体内に存在するという理由で、競技者のアンチ・ドーピング規則違反を認定したが、適用される資格停止期間は世界規程において規定された期間よりも短いという場合には、全署名当事者は、アンチ・ドーピング規則違反の事実認定を承認すべきであり、かつ、競技者が所属する国内アンチ・ドーピング機関は、世界規程に定められた、より長い期間の資格停止期間を課すべきか否かを決定するために、第8条に適合する聴聞会を実施すべきである。第15.3項に基づく署名当事者による決定の実施又は決定を実施しない旨の決定に対しては、第13条に基づき不服申立てを行うことができる。]</p>
<p>ARTICLE 16 STATUTE OF LIMITATIONS</p>	<p>第16条 時効</p>
<p>No anti-doping rule violation proceeding may be</p>	<p>アンチ・ドーピング規則違反が発生したと主張さ</p>

<p>commenced against an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> unless he or she has been notified of the anti-doping rule violation as provided in Article 7, or notification has been reasonably attempted, within ten (10) years from the date the violation is asserted to have occurred.</p>	<p>れた日から10年以内に、競技者又はその他の人が第7条の定めに従いアンチ・ドーピング規則違反の通知を受けなかった場合、又は通知の付与が合理的に試みられなかった場合には、当該競技者又はその他の人に対してアンチ・ドーピング規則違反の手続は開始されないものとする。</p>
---	---

<p>ARTICLE 17 EDUCATION</p> <p><i>JADA shall plan, implement, evaluate and promote Education in line with the requirements of Article 18.2 of the Code and the International Standard for Education.</i></p>	<p>第17条 教育</p> <p><i>JADA は、世界規程の第 18.2 項及び「教育に関する国際基準」の要件に沿う形で、教育を実施し、評価し、促進するものとする。</i></p>
<p>ARTICLE 18 RESEARCH</p> <p>18.1 Purpose and Aims of Anti-Doping Research Anti-doping related research contributes to the development and implementation of efficient anti-doping programmes and to the promotion of values-based education programmes. <i>JADA shall, in cooperation with its member organisations and stakeholders, encourage and promote such research and take all reasonable measures to ensure that the results of such research are used for the promotion of goals consistent with the principles of the Code.</i></p> <p>18.2 Types of Research Relevant anti-doping research may include, for example, policy, management sociological, behavioural, juridical and ethical studies in addition to medical, analytical and physiological investigation. Studies on devising and evaluating the efficacy of scientifically-based physiological and psychological training programmes that are consistent with the principles of the <i>Code</i> and respectful of the integrity of the human subjects, as well as studies on the use of emerging substances or methods resulting from scientific developments should be conducted.</p> <p>18.3 Research Practices Anti-doping research shall comply with internationally recognised ethical practices.</p> <p>18.4 Research Using <i>Prohibited Substances</i> and <i>Prohibited Methods</i> Research efforts should avoid the Administration of <i>Prohibited Substances</i> or <i>Prohibited Methods</i> to <i>Athletes</i>.</p> <p>18.5 Misuse of Results Adequate precautions should be taken so that the results of anti-doping research are not misused or applied for doping purposes.</p>	<p>第18条 研究活動</p> <p>18.1 アンチ・ドーピング研究活動の目的 アンチ・ドーピング研究活動は、効率的なアンチ・ドーピング・プログラムの策定、実施に資するとともに、価値に重きを置く教育プログラムの促進にも寄与する。 <i>JADA は、その加盟機関及び関係者と協力して、当該研究活動を奨励及び推進し、また合理的なあらゆる手段を講じて、当該研究活動の成果が世界規程の原則に適合した目的の推進のために用いられるようにする。</i></p> <p>18.2 研究活動の種類 関係するアンチ・ドーピング研究活動には、例えば、医学研究、分析学的研究及び生理学的研究に加えて、政策的研究、マネジメント研究、社会学的研究、行動様式研究、法的研究及び倫理的研究などが含まれる。 <i>世界規程の原則に適合し、かつ、被験者の尊厳を尊重した科学的根拠のある生理学的・心理学的トレーニングプログラムの立案及びその効率性の評価についての研究のほか、科学の発展の結果生じた新たな物質又は方法の使用についての研究も実施されるべきである。</i></p> <p>18.3 研究の実施方法 アンチ・ドーピングのための研究活動は、国際的に認められた倫理的な慣行に従ってなされるものとする。</p> <p>18.4 禁止物質及び禁止方法を用いる研究活動 研究活動においては、<i>競技者</i>に対する禁止物質及び禁止方法の投与を回避すべきである。</p> <p>18.5 成果の悪用 アンチ・ドーピング研究活動の成果がドーピング目的に悪用されないよう十分に注意が払われるべきである。</p>
<p>ARTICLE 19 ROLES AND RESPONSIBILITIES OF JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE (JOC)</p> <p>19.1 To adopt and implement anti-doping policies and rules which conform with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>第19条 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC) の役割と責務</p> <p>19.1 本規程に準拠したアンチ・ドーピング規範及び規則を採択し、実施すること。</p>

<p>19.2 To require as a condition of membership that the policies, rules and programmes of its members are in compliance with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>19.2 加盟組織の規範、規則及びプログラムが本規程を遵守していることを加盟要件として義務付けること。</p>
<p>19.3 To respect JADA's autonomy and not to interfere with its operational decisions or activities.</p>	<p>19.3 JADA の自治を尊重し、その運営上の決定及び活動を妨げないこと。</p>
<p>19.4 To require National Sports Federations to report any information suggesting or relating to an anti-doping rule violation to JADA and International Federation and to cooperate with investigations conducted by any Anti-Doping Organisation with authority to conduct the investigation and JSC.</p>	<p>19.4 国内競技連盟がアンチ・ドーピング規則違反を示し又は関連する情報を JADA 及び国際競技連盟に報告すること、並びにドーピング調査を行う権限を有するアンチ・ドーピング機関及び JSC のドーピング調査に協力することを要請すること。</p>
<p>19.5 To require each of its National Sports Federations to establish rules requiring all Athletes and all Athlete Support Person in a Competition or activity authorised or organised by a National Sports Federation or one of its member organisations to be bound by anti-doping rules and Anti-Doping Organisation's results management authority in conformity with these Anti-Doping Rules as a condition of such participation.</p>	<p>19.5 傘下の国内競技連盟に対し、国内競技連盟若しくはその加盟機関により承認され、又は運営される競技会若しくは活動に参加するすべての競技者及びサポートスタッフに対し、本規程に適合したアンチ・ドーピング規則及びアンチ・ドーピング機関の結果管理権限に拘束されることに同意することを、当該参加の要件として要求する規則を定めることを要請すること。</p>
<p>19.6 To require all Athletes as well as Athlete Support Person who are dispatched to an International Event, to agree to be bound to these Anti-Doping Rules as a condition for such dispatch.</p>	<p>19.6 国際競技大会に派遣するすべての競技者及びサポートスタッフに対し、本規程に拘束されることに同意することを、当該派遣の要件として要請すること。</p>
<p>19.7 To require as a condition for participation in any Event to which JOC dispatches Athletes that, at a minimum, Athletes who are not regular members of a National Sports Federation be available for Sample collection in accordance with International Standards for Testing and Investigations and to file whereabouts information as soon as the Athlete is identified on the long list or subsequent entry document submitted in connection with an Event to which JOC dispatches Athletes.</p>	<p>19.7 国内競技連盟に正式加入していない競技者に対して、JOC が派遣主体となる競技大会との関連で提出された代表候補選手名簿若しくは後日提出される大会派遣名簿において当該競技者が特定されてからすぐに、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」の要請に従い、検体採取を可能にすること、並びに居場所情報を提出することを、JOC が派遣主体となる競技大会への最低限の参加要件として義務付けること。</p>
<p>19.8 To report to JADA, and to ensure the appropriate enforcement of Consequences of, all potential anti-doping rule violations within its jurisdiction including investigation into whether Athlete Support Person or other Persons may have been involved in each case of doping, as well as to implement automatic investigation into anti-doping rule violations related to a Minor or Athlete Support Person assisting one or more Athlete(s) deemed to have committed an anti-doping violation.</p>	<p>19.8 サポートスタッフ又はその他の人が各ドーピング事案に関与しているか否かの調査を含む、自己の管轄内におけるすべてのアンチ・ドーピング規則違反の可能性を JADA に報告すること、結果の適切な執行を確保すること、並びに 18 歳未満の者、又はアンチ・ドーピング規則違反を行ったと判断された一名若しくは二名以上の競技者を支援したサポートスタッフに関連するアンチ・ドーピング規則違反の場合において、サポートスタッフの自動的なドーピング調査を実施すること。</p>
<p>19.9 To place a Person dedicated to Anti-Doping Activities inside its office, to collect and manage latest information, and to organise a system enabling information sharing among relevant parties.</p>	<p>19.9 事務局内にアンチ・ドーピング活動の推進担当者を配置し、最新の情報を収集、管理するとともに、関係者間で情報の共有を可能とする体制を構築すること。</p>
<p>19.10 To establish a committee or otherwise an appropriate division with jurisdiction over Anti-Doping Activities, and to vigorously develop Anti-Doping</p>	<p>19.10 アンチ・ドーピング活動を所管する委員会等を設置し、自己が主体となって実施するアンチ・ドーピング活動を積極的に展開すること。また、ア</p>

<p><i>Activities</i> conducted proactively by itself; and to require a committee, etc. conducting <i>Anti-Doping Activities</i> to collect and share latest information and understand latest rules.</p>	<p>アンチ・ドーピング活動を実施する委員等に対して、最新の情報を収集し常に最新の規則を把握することを要請すること。</p>
<p>19.11 To withhold some or all funding, during any period of his or her Ineligibility, to any Athlete or <i>Athlete Support Person</i> who has violated anti-doping rules.</p>	<p>19.11 アンチ・ドーピング規則に違反した <i>競技者</i> 又は <i>サポートスタッフ</i> に対し、その資格停止期間中、当該 <i>競技者</i> 又は <i>サポートスタッフ</i> に対する資金拠出の全部又は一部を留保すること。</p>
<p>19.12 To withhold some or all funding to its member or recognised <i>National Sports Federations</i> that are not in compliance with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>19.12 本規程を遵守しない加盟団体又は認定 <i>国内競技連盟</i> に対する資金拠出の全部又は一部を停止すること。</p>
<p>19.13 To implement and promote anti-doping information delivery, awareness and education programmes, so that an Athlete, especially who is a <i>Minor</i>, can understand his or her rights and duties, as well as to require <i>National Sports Federations</i> (when necessary, in collaboration with <i>JADA</i>) to conduct such programmes.</p>	<p>19.13 自己の権利と責務を <i>競技者</i>、とりわけ <i>18 歳未満の者</i> である <i>競技者</i> が理解することができるよう、アンチ・ドーピングに関する情報提供、啓発、教育プログラムを実施、推進すると共に、これらのプログラムを（必要な場合には <i>JADA</i> と連携する等して）行うよう <i>国内競技連盟</i> に要請すること。</p>
<p>19.14 To cooperate with relevant national organisations and agencies as well as other <i>Anti-Doping Organisations</i>.</p>	<p>19.14 関係する国内機関及び団体並びに他のアンチ・ドーピング機関と協力すること。</p>
<p>19.15 To have disciplinary rules in place and require <i>National Sports Federations</i> to have disciplinary rules in place to prevent <i>Athlete Support Person</i> who are Using <i>Prohibited Substances</i> or <i>Prohibited Methods</i> without valid justification from providing support to <i>Athletes</i> within its or the <i>National Sports Federation's</i> authority.</p>	<p>19.15 正当な理由なく <i>禁止物質</i> 又は <i>禁止方法</i> を使用する <i>サポートスタッフ</i> が自己の所轄の下の <i>競技者</i> に支援を提供することを防ぐための懲戒規則を設け、かつ <i>国内競技連盟</i> がかかる懲戒規則を設けるよう要請すること。</p>
<p>ARTICLE 20 ROLES AND RESPONSIBILITIES OF JAPANESE PARALYMPIC COMMITTEE (<i>JPC</i>)</p>	<p>第 20 条 日本パラリンピック委員会 (<i>JPC</i>) の役割と責務</p>
<p>20.1 To adopt and implement anti-doping policies and rules which conform with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>20.1 本規程に準拠したアンチ・ドーピング規範及び規則を採択し、実施すること。</p>
<p>20.2 To require as a condition of membership that the policies, rules and programmes of its members are in compliance with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>20.2 加盟組織の規範、規則及びプログラムが本規程を遵守していることを加盟要件として義務付けること。</p>
<p>20.3 To respect <i>JADA's</i> autonomy and not to interfere with its operational decisions or activities.</p>	<p>20.3 <i>JADA</i> の自治を尊重し、その運営上の決定及び活動を妨げないこと。</p>
<p>20.4 To require <i>National Sports Federations</i> to report any information suggesting or relating to an anti-doping rule violation to <i>JADA</i> and International Federation and to cooperate with investigations conducted by any <i>Anti-Doping Organisation</i> with authority to conduct the investigation and <i>JSC</i>.</p>	<p>20.4 <i>国内競技連盟</i> がアンチ・ドーピング規則違反を示し又は関連する情報を <i>JADA</i> 及び国際競技連盟に報告すること、並びにドーピング調査を行う権限を有するアンチ・ドーピング機関及び <i>JSC</i> のドーピング調査に協力することを要請すること。</p>
<p>20.5 To require each of its <i>National Sports Federations</i> to establish rules requiring all <i>Athletes</i> and all <i>Athlete Support Person</i> in a <i>Competition</i> or activity authorised or organised by a <i>National Sports Federation</i></p>	<p>20.5 傘下の <i>国内競技連盟</i> に対し、<i>国内競技連盟</i> 若しくはその加盟機関により承認され、又は運営される <i>競技会</i> 若しくは活動に参加するすべての <i>競技者</i> 及び <i>サポートスタッフ</i> に対し、本規程に適合</p>

<p>or one of its member organisations to be bound by anti-doping rules and <i>Anti-Doping Organisation's</i> results management authority in conformity with these Anti-Doping Rules as a condition of such participation.</p>	<p>したアンチ・ドーピング規則及びアンチ・ドーピング機関の結果管理権限に拘束されることに同意することを、当該参加の要件として要求する規則を定めることを要請すること。</p>
<p>20.6 To require all <i>Athletes</i> as well as <i>Athlete Support Person</i> who are dispatched to an <i>International Event</i>, to agree to be bound to these Anti-Doping Rules as a condition for such dispatch.</p>	<p>20.6 国際競技大会に派遣するすべての競技者及びサポートスタッフに対し、本規程に拘束されることに同意することを、当該派遣の要件として要請すること。</p>
<p>20.7 To require as a condition for participation in any <i>Event</i> (including the Paralympic Games) to which <i>JPC</i> dispatches <i>Athletes</i> that, at a minimum, <i>Athletes</i> who are not regular members of a <i>National Sports Federation</i> be available for <i>Sample</i> collection and to file whereabouts information as soon as the <i>Athlete</i> is identified on the long list or subsequent entry document submitted in connection with an <i>Event</i> to which <i>JOC</i> dispatches <i>Athletes</i>.</p>	<p>20.7 国内競技連盟に正式加入していない競技者に対して、<i>JPC</i> が派遣主体となる競技大会との関連で提出された代表候補選手名簿若しくは後日提出される大会派遣名簿において当該競技者が特定されてからすぐに、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」の要請に従い、検体採取を可能にすること、並びに居場所情報を提出することを、<i>JPC</i> が派遣主体となる競技大会への最低限の参加要件として義務付けること。</p>
<p>20.8 To report to <i>JADA</i>, and to ensure the appropriate enforcement of Consequences of, all potential anti-doping rule violations within its jurisdiction including investigation into whether <i>Athlete Support Person</i> or other <i>Persons</i> may have been involved in each case of doping, as well as to implement automatic investigation into anti-doping rule violations related to a <i>Minor</i> or <i>Athlete Support Person</i> assisting one or more <i>Athlete(s)</i> deemed to have committed an anti-doping violation.</p>	<p>20.8 サポートスタッフ又はその他の人が各ドーピング事案に関与しているか否かの調査を含む、自己の管轄内におけるすべてのアンチ・ドーピング規則違反の可能性を <i>JADA</i> に報告すること、結果の適切な執行を確保すること、並びに18歳未満の者、又はアンチ・ドーピング規則違反を行ったと判断された一名若しくは二名以上の競技者を支援したサポートスタッフに関連するアンチ・ドーピング規則違反の場合において、サポートスタッフの自動的なドーピング調査を実施すること。</p>
<p>20.9 To place a <i>Person</i> dedicated to <i>Anti-Doping Activities</i> inside its office, to collect and manage latest information, and to organise a system enabling information sharing among relevant parties.</p>	<p>20.9 事務局内にアンチ・ドーピング活動の推進担当者を配置し、最新の情報を収集、管理するとともに、関係者間で情報の共有を可能とする体制を構築すること。</p>
<p>20.10 To establish a committee or otherwise an appropriate division ,with jurisdiction over <i>Anti-Doping Activities</i>, and to vigorously develop <i>Anti-Doping Activities</i> conducted proactively by itself; and to require a committee, etc. conducting <i>Anti-Doping Activities</i> to collect and share latest information and understand latest rules.</p>	<p>20.10 アンチ・ドーピング活動を所管する委員会等を設置し、自己が主体となって実施するアンチ・ドーピング活動を積極的に展開すること。また、アンチ・ドーピング活動を実施する委員等に対して、最新の情報を収集し常に最新の規則を把握することを要請すること。</p>
<p>20.11 To withhold some or all funding, during any period of his or her Ineligibility, to any <i>Athlete</i> or <i>Athlete Support Person</i> who has violated anti-doping rules.</p>	<p>20.11 アンチ・ドーピング規則に違反した競技者又はサポートスタッフに対し、その資格停止期間中、当該競技者又はサポートスタッフに対する資金拠出の全部又は一部を留保すること。</p>
<p>20.12 To withhold some or all funding to its member or recognised <i>National Sports Federations</i> that are not in compliance with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>20.12 本規程を遵守しない加盟団体又は認定国内競技連盟に対する資金拠出の全部又は一部を停止すること。</p>
<p>20.13 To implement and promote anti-doping information delivery, awareness and education programmes, so that an <i>Athlete</i>, especially who is a <i>Minor</i>, can understand his or her rights and duties, as well as to require <i>National Sports Federations</i> (when necessary, in collaboration with <i>JADA</i>) to conduct such</p>	<p>20.13 自己の権利と責務を競技者、とりわけ18歳未満の者である競技者が理解することができるよう、アンチ・ドーピングに関する情報提供、啓発、教育プログラムを実施、推進すると共に、これらのプログラムを（必要な場合には <i>JADA</i> と連携する等して）行うよう国内競技連盟に要請すること。</p>

<p>programmes.</p> <p>20.14 To cooperate with relevant national organisations and agencies as well as other <i>Anti-Doping Organisations</i>.</p> <p>20.15 To have disciplinary rules in place and require <i>National Sports Federations</i> to have disciplinary rules in place to prevent <i>Athlete Support Person</i> who are Using <i>Prohibited Substances</i> or <i>Prohibited Methods</i> without valid justification from providing support to <i>Athletes</i> within its or the <i>National Sports Federation's</i> authority.</p> <p>ARTICLE 21 ROLES AND RESPONSIBILITIES OF THE JAPAN SPORT ASSOCIATION (<i>JSP</i>O)</p> <p>21.1 To adopt and implement anti-doping policies and rules which conform with these Anti-Doping Rules.</p> <p>21.2 To promote the compliance of the policies, rules and programmes of the member sport organisations with these Anti-Doping Rules, and make efforts for awareness.</p> <p>21.3 To respect <i>JADA's</i> autonomy and not to interfere with its operational decisions or activities.</p> <p>21.4 To require member sport organisations to report any information suggesting or relating to an anti-doping rule violation to <i>JADA</i> and relevant federation and to cooperate with investigations conducted by any <i>Anti-Doping Organisation</i> with authority to conduct the investigation and <i>JSC</i>.</p> <p>21.5 To require all <i>Athletes</i> and all <i>Athlete Support Person</i> in a National Sports Festival to agree to be bound by these Anti-Doping Rules as a condition of such participation.</p> <p>21.6 With respect to an Athlete who is a <i>Minor</i> and is participating in a National Sports Festival, to obtain the consent in writing of the Person with parental authority and the Athlete himself or herself that such Athlete may be subject to a doping test.</p> <p>21.7 To implement and promote anti-doping information delivery, awareness and education programmes, so that an Athlete, especially who is a <i>Minor</i>, can understand his or her rights and duties, as well as to require its members (when necessary, in collaboration with <i>JADA</i>) to conduct such programmes.</p> <p>21.8 To report to <i>JADA</i>, and to ensure the appropriate enforcement of Consequences of, all potential anti-doping rule violations within its jurisdiction including investigation into whether <i>Athlete Support Person</i> or other <i>Persons</i> may have been</p>	<p>20.14 関係する国内機関及び団体並びに他のアンチ・ドーピング機関と協力すること。</p> <p>20.15 正当な理由なく禁止物質又は禁止方法を使用するサポートスタッフが自己の所轄の下の競技者に支援を提供することを防ぐための懲戒規則を設け、かつ国内競技連盟がかかる懲戒規則を設けるよう要請すること。</p> <p>第21条 公益財団法人日本スポーツ協会 (<i>JSP</i>O) の役割と責務</p> <p>21.1 本規程に準拠したアンチ・ドーピング規範及び規則を採択し、実施すること。</p> <p>21.2 加盟する競技団体の規範、規則及びプログラムが本規程を遵守することを促し、啓発に努めること。</p> <p>21.3 <i>JADA</i> の自治を尊重し、その運営上の決定及び活動を妨げないこと。</p> <p>21.4 加盟する競技団体がアンチ・ドーピング規則違反を示し又は関連する情報を <i>JADA</i> 及び関連する競技連盟に報告すること、並びにドーピング調査を行う権限を有するアンチ・ドーピング機関及び <i>JSC</i> のドーピング調査に協力することを要請すること。</p> <p>21.5 国民体育大会に参加するすべての競技者及びサポートスタッフに対し、本規程に拘束されることに同意することを、当該参加の要件として要請すること。</p> <p>21.6 国民体育大会に参加する18歳未満の競技者について、ドーピング検査の対象となる可能性があることにつき、親権者及び18歳未満の競技者本人の書面による同意を取り付けること。</p> <p>21.7 自己の権利と責務を競技者、とりわけ18歳未満の者である競技者が理解することができるよう、アンチ・ドーピングに関する情報提供、啓発、教育プログラムを実施、推進すると共に、これらのプログラムを(必要な場合には <i>JADA</i> と連携する等して) 行うよう加盟団体に要請すること。</p> <p>21.8 サポートスタッフ又はその他の人が各ドーピング事案に関与しているか否かの調査を含む、自己の管轄内におけるすべてのアンチ・ドーピング規則違反の可能性を <i>JADA</i> に報告すること、結果の適切な執行を確保すること、並びに18歳未満</p>
---	---

<p>involved in each case of doping, as well as to implement automatic investigation into anti-doping rule violations related to a <i>Minor</i> or <i>Athlete Support Person</i> assisting one or more Athlete(s) deemed to have committed an anti-doping violation.</p>	<p>の者、又はアンチ・ドーピング規則違反を行ったと判断された一名若しくは二名以上の <i>競技者</i> を支援した <i>サポートスタッフ</i> に関連するアンチ・ドーピング規則違反の場合において、<i>サポートスタッフ</i> の自動的なドーピング調査を実施すること。</p>
<p>21.9 To place a Person dedicated to <i>Anti-Doping Activities</i> inside its office, to collect and manage latest information, and to organise a system enabling information sharing among relevant parties.</p>	<p>21.9 事務局内にアンチ・ドーピング活動の推進担当者を配置し、最新の情報を収集、管理するとともに、関係者間で情報の共有を可能とする体制を構築すること。</p>
<p>21.10 To establish a committee or otherwise an appropriate division with jurisdiction over <i>Anti-Doping Activities</i>, and to vigorously develop <i>Anti-Doping Activities</i> conducted proactively by itself; and to require a committee, etc. conducting <i>Anti-Doping Activities</i> to collect and share latest information and understand latest rules.</p>	<p>21.10 アンチ・ドーピング活動を所管する委員会等を設置し、自己が主体となって実施するアンチ・ドーピング活動を積極的に展開すること。また、アンチ・ドーピング活動を実施する委員等に対して、最新の情報を収集し常に最新の規則を把握することを要請すること。</p>
<p>21.11 To recommend the implementation of anti-doping education in the authorised sports instructor programme.</p>	<p>21.11 公認スポーツ指導者制度において、アンチ・ドーピング教育を実施することを推奨すること。</p>
<p>21.12 To withhold some or all funding, during any period of his or her Ineligibility, to any Athlete or <i>Athlete Support Person</i> who has violated anti-doping rules.</p>	<p>21.12 アンチ・ドーピング規則に違反した <i>競技者</i> 又は <i>サポートスタッフ</i> に対し、その資格停止期間中、当該 <i>競技者</i> 又は <i>サポートスタッフ</i> に対する資金拠出の全部又は一部を留保すること。</p>
<p>21.13 To withhold some or all funding to its member sport organisations that are not in compliance with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>21.13 本規程を遵守しない加盟競技団体に対する資金拠出の全部又は一部を停止すること。</p>
<p>21.14 To implement and promote anti-doping information delivery, awareness and education programmes including requiring the member sport organisations to conduct such programmes in collaboration with <i>JADA</i>.</p>	<p>21.14 <i>JADA</i> と連携してアンチ・ドーピングに関する情報提供、啓発、教育を行うよう加盟競技団体に要請することを含み、アンチ・ドーピングに関する情報提供、啓発、教育を実施、推進すること。</p>
<p>21.15 To cooperate with relevant national organisations and agencies as well as other <i>Anti-Doping Organisations</i>.</p>	<p>21.15 関係する国内機関及び団体並びに他のアンチ・ドーピング機関と協力すること。</p>
<p>21.16 To have disciplinary rules in place to prevent <i>Athlete Support Person</i> who are Using <i>Prohibited Substances</i> or <i>Prohibited Methods</i> without valid justification from providing support to <i>Athletes</i> within its authority.</p>	<p>21.16 正当な理由なく <i>禁止物質</i> 又は <i>禁止方法</i> を使用する <i>サポートスタッフ</i> が、自己の所轄の下での <i>競技者</i> に支援を提供することを防ぐための懲戒規則を設けること。</p>
<p>ARTICLE 22 ADDITIONAL ROLES AND RESPONSIBILITIES OF <i>NATIONAL FEDERATIONS</i></p>	<p>第 22 条 国内競技連盟の追加的な役割と責務</p>
<p>22.1 All <i>National Sports Federations</i> of Japan and their members shall comply with the <i>Code</i>, <i>International Standards</i>, and these Anti-Doping Rules. All <i>National Sports Federations</i> of Japan and other members shall include in their policies, rules and programmes the provisions necessary to recognise the authority and responsibility of <i>JADA</i> for implementing the <i>Japan's</i> National Anti-Doping Programme and enforcing these</p>	<p>22.1 日本のすべての <i>国内競技連盟</i> 及びその加盟組織は <i>世界規程</i>、<i>国際基準</i> 及び本規程を遵守するものとする。日本のすべての <i>国内競技連盟</i> 及び他の加盟組織は、本規程の序論（「本規程の適用範囲」の項）において特定されるとおり、そのアンチ・ドーピング権限に基づき <i>競技者</i> 及びその他の人に関して直接、日本の国内アンチ・ドーピング・プログラムを実施し、本規程（<i>検査</i>を含む）を執行する</p>

<p>Anti-Doping Rules (including carrying out <i>Testing</i>) directly in respect of <i>Athletes</i> and other <i>Persons</i> under their anti-doping authority as specified in the Introduction to these Anti-Doping Rules (Section “Scope of these Anti-Doping Rules”).</p> <p>22.2 Each <i>National Sports Federation</i> of Japan shall accept and abide by the spirit and terms of Japan’s National Anti-Doping Programme and these Anti-Doping Rules as a condition of receiving financial and/or other assistance from the Government of Japan and/or the JOC.⁷³</p> <p>[Comment to Article 22.2: JADA shall work cooperatively with its Government and National Olympic Committee to ensure that recognition of JADA and acceptance and application of these Anti-Doping Rules represents a pre-condition to a National Sports Federation’s receipt of any financial and/or other assistance from the Government and/or the National Olympic Committee.]</p> <p>22.3 Each <i>National Sports Federation</i> of Japan shall incorporate these Anti-Doping Rules either directly or by reference into its governing documents, constitution and/or rules as part of the rules of sport that bind their members so that the <i>National Sports Federation</i> may enforce them itself directly in respect of <i>Athletes</i> and other <i>Persons</i> under its anti-doping authority.</p> <p>22.4 By adopting these Anti-Doping Rules, and incorporating them into their governing documents and rules of sport, <i>National Sports Federations</i> shall cooperate with and support JADA in that function. They shall also recognise, abide by and implement the decisions made pursuant to these Anti-Doping Rules, including the decisions imposing sanctions on <i>Persons</i> under their authority.</p> <p>22.5 All <i>National Sports Federations</i> of Japan shall take appropriate action to enforce compliance with the <i>Code</i>, <i>International Standards</i>, and these Anti-Doping Rules by <i>inter alia</i>:</p> <p>(i) conducting <i>Testing</i> only under the documented authority of their International Federation and using JADA or other <i>Sample</i> collection authority to collect <i>Samples</i> in compliance with the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>;</p> <p>(ii) recognising the authority of JADA in accordance with Article 5.2.1 of the <i>Code</i> and assisting as appropriate with JADA’s implementation of the national <i>Testing</i> programme for their sport;</p>	<p>上での JADA の権限及び責任を承認するために必要な規定を、その方針、規則及びプログラムの中に含めるものとする。</p> <p>22.2 日本の各国内競技連盟は、日本国政府及び／又は JOC から金銭的及び／又は他の支援を受けるための条件として、日本の国内アンチ・ドーピング・プログラム及び本規程の精神及び条件を受諾し、これらに従うものとする。</p> <p>[第22.2 項の解説 : JADA は、JADA の承認並びに本規程の受諾及び適用が、国内競技連盟の政府及び／又は国内オリンピック委員会からの金銭的及び／又は他の支援の受領の前提条件であることを意味することを確保するために、自己の政府及び国内オリンピック委員会と協力的に作業するものとする。]</p> <p>22.3 日本の各国内競技連盟は、国内競技連盟が自己のアンチ・ドーピング権限に基づき競技者及びその他の人について直接本規程を実施することができるよう、その準拠文書、憲章及び／又は規則に、自己の加盟組織を拘束するスポーツの規則の一部として、直接又は参照の方法により、本規程を組み込むものとする。</p> <p>22.4 本規程を採択し、自己の準拠文書及びスポーツの規則に組み込むことにより、国内競技連盟はその機能において JADA に協力し、これを支援するものとする。また国内競技連盟は、自己の権限に基づき人に対して制裁措置を賦課する決定を含む本規程に従い行われた決定を承認し、遵守し、実施するものとする。</p> <p>22.5 日本のすべての国内競技連盟は、とりわけ以下の事項を行うことにより、世界規程、国際基準及び本規程の遵守を執行するための適切な措置を講じるものとする。</p> <p>(i) 自己の国際競技連盟の文書化された権限に基づいてのみ、また「検査及びドーピング調査に関する国際基準」を遵守して検体を採取するために JADA その他の検体採取機関を利用して、検査を行うこと、</p> <p>(ii) 世界規程第 5.2.1 項に従い JADA の権限を承認し、JADA が自己のスポーツのための国内検査プログラムを実施するにあたり適切にこれを支援すること、</p>
--	--

<p>(iii) analysing all <i>Samples</i> collected using a <i>WADA</i>-accredited or <i>WADA</i>-approved laboratory in accordance with Article 6.1; and</p> <p>(iv) ensuring that any national level anti-doping rule violation cases discovered by <i>National Sports Federations</i> are adjudicated by an <i>Operationally Independent</i> hearing panel in accordance with Article 8.1 and the <i>International Standard for Results Management</i>.</p> <p>22.6 All <i>National Sports Federations</i> shall establish rules requiring all <i>Athletes</i> preparing for or participating in a <i>Competition</i> or activity authorised or organised by a <i>National Sports Federation</i> or one of its member organisations, and all <i>Athlete Support Personnel</i> associated with such <i>Athletes</i> to agree to be bound by these Anti-Doping Rules and to submit to the <i>Results Management</i> authority of the <i>Anti-Doping Organisation</i> in conformity with the <i>Code</i> as a condition of such participation.</p> <p>22.7 All <i>National Sports Federations</i> shall report any information suggesting or relating to an anti-doping rule violation to <i>JADA</i> and to their International Federation and shall cooperate with investigations conducted by any <i>Anti-Doping Organisation</i> with authority to conduct the investigation.</p> <p>22.8 All <i>National Sports Federations</i> shall have disciplinary rules in place to prevent <i>Athlete Support Personnel</i> who are <i>Using Prohibited Substances</i> or <i>Prohibited Methods</i> without valid justification from providing support to <i>Athletes</i> under the authority of <i>JADA</i> or the <i>National Sports Federation</i>.</p> <p>22.9 All <i>National Sports Federations</i> shall conduct anti-doping <i>Education</i> in coordination with <i>JADA</i>.</p> <p>ARTICLE 23 ADDITIONAL ROLES AND RESPONSIBILITIES OF JADA</p> <p>23.1 In addition to the roles and responsibilities described in Article 20.5 of the <i>Code</i> for <i>National Anti-Doping Organisations</i>, <i>JADA</i> shall report to <i>WADA</i> on <i>JADA</i>'s compliance with the <i>Code</i> and <i>International Standards</i> in accordance with Article 24.1.2 of the <i>Code</i>.</p> <p>23.2 Subject to applicable law, and in accordance with Article 20.5.10 of the <i>Code</i>, all <i>JADA</i> board members, directors, officers, employees and appointed <i>Delegated Third Parties</i> who are involved in any aspect of <i>Doping Control</i>, must be bound by these Anti-Doping Rules as <i>Persons</i> in conformity with the <i>Code</i> for direct and intentional misconduct.</p>	<p>(iii) 第 6.1 項に従い <i>WADA</i> 認定分析機関又は <i>WADA</i> 承認分析機関を使用して採取されたすべての検体を分析すること、並びに、</p> <p>(iv) <i>国内競技連盟</i>が発見した国内レベルのアンチ・ドーピング規則違反事案が、第 8.1 項及び「結果管理に関する国際基準」に従い運営上の独立性を有する聴聞パネルにより裁定されることを確保すること。</p> <p>22.6 すべての<i>国内競技連盟</i>は、<i>国内競技連盟</i>若しくはその加盟機関により承認され、又は運営される<i>競技会</i>若しくは活動に参加するすべての<i>競技者</i>、及び当該<i>競技者</i>に関連するすべての<i>サポートスタッフ</i>に対し、本規程に適合したアンチ・ドーピング規則に同意し、アンチ・ドーピング機関の結果管理権限に服することを、当該参加の要件として要求する規則を定めるものとする。</p> <p>22.7 すべての<i>国内競技連盟</i>は、<i>JADA</i> 及び自己の国際競技連盟に対し、アンチ・ドーピング規則違反を示唆し又はこれに関連する情報を報告するものとし、調査を実施する権限を有するアンチ・ドーピング機関が実施する調査に協力するものとする。</p> <p>22.8 すべての<i>国内競技連盟</i>は、正当な理由なく禁止物質又は禁止方法を使用する<i>サポートスタッフ</i>が <i>JADA</i> 又は<i>国内競技連盟</i>の権限の下での<i>競技者</i>に支援を提供することを防ぐための規律規則を設けるものとする。</p> <p>22.9 すべての<i>国内競技連盟</i>は、<i>JADA</i> と連携してアンチ・ドーピング教育を実施するものとする。</p> <p>第 23 条 <i>JADA</i> の追加的な役割と責務</p> <p>23.1 <i>国内アンチ・ドーピング機関</i>のために<i>世界規程</i>第 20.5 項において記載される役割と責務に加えて、<i>JADA</i> は<i>世界規程</i>第 24.1.2 項に従い、<i>JADA</i> による<i>世界規程</i>及び<i>国際基準</i>の遵守状況について<i>WADA</i>に報告するものとする。</p> <p>23.2 適用法令に従い、かつ<i>世界規程</i>第 20.5.10 項に従い、ドーピング・コントロールの側面に関与している<i>JADA</i>の理事会構成員、理事、役員、職員及び任命された委託された第三者は全員、直接かつ意図的な不正行為についての<i>世界規程</i>に適合する人として本規程に拘束される。</p>
--	--

<p>23.3 Subject to applicable law, and in accordance with Article 20.5.11 of the <i>Code</i>, any <i>JADA</i> employee who is involved in <i>Doping Control</i> (other than authorised anti-doping <i>Education</i> or rehabilitation programmes) must confirm that they are not <i>Provisionally Suspended</i> or serving a period of <i>Ineligibility</i> and have not been directly or intentionally engaged in conduct within the previous six (6) years which would have constituted a violation of anti-doping rules if <i>Code-compliant</i> rules had been applicable to them.</p>	<p>23.3 適用法令に従い、かつ世界規程第 20.5.11 項に従い、(授権されたアンチ・ドーピング教育又は更生プログラム以外の) ドーピング・コントロールに関与している <i>JADA</i> の職員は、自己が暫定的資格停止の対象となっておらず、かつ、資格停止期間にも服しておらず、世界規程を遵守した規則が適用されたならばアンチ・ドーピング規則違反を構成したであろう行為に過去 6 年間直接的又は意図的に従事していないことを確認しなければならない。</p>
<p>ARTICLE 24 ADDITIONAL ROLES AND RESPONSIBILITIES OF <i>ATHLETES</i></p>	<p>第 24 条 競技者の追加的な役割と責務</p>
<p>24.1 To be knowledgeable of and comply with these Anti-Doping Rules.</p>	<p>24.1 本規程を理解し、遵守すること。</p>
<p>24.2 To be available for <i>Sample</i> collection at all times.⁷⁴</p>	<p>24.2 いつでも検体採取に応じること。</p>
<p>[<i>Comment to Article 24.2: With due regard to an Athlete's human rights and privacy, legitimate anti-doping considerations sometimes require Sample collection late at night or early in the morning. For example, it is known that some Athletes Use low doses of EPO during these hours so that it will be undetectable in the morning.</i>]</p>	<p>[第 24.2 項の解説：競技者の人権及びプライバシーに配慮して、正当なアンチ・ドーピング上の判断の結果として深夜又は早朝の検体採取が要請される場合がある。例えば、競技者の一部は、朝発覚されないようにするため、当該時間帯に少量の EPO を使用することが知られている。]</p>
<p>24.3 To take responsibility, in the context of anti-doping, for what they ingest and <i>Use</i>.</p>	<p>24.3 アンチ・ドーピングとの関連で、自己の摂取物及び使用物に関して責任を負うこと。</p>
<p>24.4 To inform medical personnel of their obligation not to <i>Use Prohibited Substances</i> and <i>Prohibited Methods</i> and to take responsibility to make sure that any medical treatment received does not violate these Anti-Doping Rules.</p>	<p>24.4 禁止物質及び禁止方法を使用してはならないという義務を負っていることを医療従事者に対して自らが伝達するとともに、自らが受ける医療処置についても、本規程の違反に該当しないようにすること。</p>
<p>24.5 To disclose to <i>JADA</i> and their International Federation any decision by a non-<i>Signatory</i> finding that the <i>Athlete</i> committed an anti-doping rule violation within the previous ten (10) years.</p>	<p>24.5 自身が過去 10 年間の間にアンチ・ドーピング規則違反を行った旨の非署名当事者による発見の決定を <i>JADA</i> 及び自己の国際競技連盟に開示すること。</p>
<p>24.6 To cooperate with <i>Anti-Doping Organisations</i> investigating anti-doping rule violations.</p>	<p>24.6 ドーピング調査を実施するアンチ・ドーピング機関に協力すること。</p>
<p>24.7 To disclose the identity of their <i>Athlete Support Personnel</i> upon request by <i>JADA</i> or a <i>National Sports Federation</i>, or any other <i>Anti-Doping Organisation</i> with authority over the <i>Athlete</i>.</p>	<p>24.7 <i>JADA</i> 若しくは国内競技連盟、又は競技者に対し権限を有する他のアンチ・ドーピング機関が要請した場合には、自己のサポートスタッフの身元を開示すること。</p>
<p>ARTICLE 25 ADDITIONAL ROLES AND RESPONSIBILITIES OF <i>ATHLETE SUPPORT</i></p>	<p>第 25 条 サポートスタッフの追加的な役割と責務</p>

<p>PERSONNEL</p> <p>25.1 To be knowledgeable of and comply with these Anti-Doping Rules.</p> <p>25.2 To cooperate with the <i>Athlete Testing</i> programme.</p> <p>25.3 To use their influence on <i>Athlete</i> values and behaviour to foster anti-doping attitudes.</p> <p>25.4 To disclose to <i>JADA</i> and their International Federation any decision by a non-<i>Signatory</i> finding that they committed an anti-doping rule violation within the previous ten (10) years.</p> <p>25.5 To cooperate with <i>Anti-Doping Organisations</i> investigating anti-doping rule violations.</p> <p>25.6 <i>Athlete Support Personnel</i> shall not <i>Use</i> or <i>Possess</i> any <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i> without valid justification.</p>	<p>25.1 本規程を理解し、遵守すること。</p> <p>25.2 競技者の検査プログラムに協力すること。</p> <p>25.3 ドーピングを行わない態度を醸成するために、競技者の価値観及び行動に対し自らの影響力を行使すること。</p> <p>25.4 サポートスタッフが過去 10 年の間にアンチ・ドーピング規則違反を行った旨の非署名当事者による発見の決定を <i>JADA</i> 及び自己の国際競技連盟に開示すること。</p> <p>25.5 ドーピング調査を実施するアンチ・ドーピング機関に協力すること。</p> <p>25.6 サポートスタッフは、正当な理由なく禁止物質又は禁止方法を使用し又は保有しないものとする。</p>
<p>ARTICLE 26 ADDITIONAL ROLES AND RESPONSIBILITIES OF OTHER PERSONS SUBJECT TO THESE ANTI-DOPING RULES</p> <p>26.1 To be knowledgeable of and comply with these Anti-Doping Rules.</p> <p>26.2 To disclose to <i>JADA</i> and their International Federation any decision by a non-<i>Signatory</i> finding that they committed an anti-doping rule violation within the previous ten (10) years.</p> <p>26.3 To cooperate with <i>Anti-Doping Organisations</i> investigating anti-doping rule violations.</p> <p>26.4 Not to <i>Use</i> or <i>Possess</i> any <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i> without valid justification.</p>	<p>第26条 本規程の対象であるその他の人の追加的な役割と責務</p> <p>26.1 本規程を理解し、遵守すること。</p> <p>26.2 その他の人が過去 10 年の間にアンチ・ドーピング規則違反を行った旨を非署名当事者が認定した決定を <i>JADA</i> 及び自己の国際競技連盟に開示すること。</p> <p>26.3 アンチ・ドーピング規則違反を調査するアンチ・ドーピング機関に協力すること。</p> <p>26.4 正当な理由なく禁止物質又は禁止方法を使用し又は保有しないこと。</p>

ARTICLE 27 INTERPRETATION OF THE CODE

27.1 The official text of the *Code* shall be maintained by WADA and shall be published in English and French. In the event of any conflict between the English and French versions, the English version shall prevail.

27.2 The comments annotating various provisions of the *Code* shall be used to interpret the *Code*.

27.3 The *Code* shall be interpreted as an independent and autonomous text and not by reference to the existing law or statutes of the *Signatories* or governments.

27.4 The headings used for the various Parts and Articles of the *Code* are for convenience only and shall not be deemed part of the substance of the *Code* or to affect in any way the language of the provisions to which they refer.

27.5 Where the term “days” is used in the *Code* or an *International Standard*, it shall mean calendar days unless otherwise specified.

27.6 The *Code* shall not apply retroactively to matters pending before the date the *Code* is accepted by a *Signatory* and implemented in its rules. However, pre-*Code* anti-doping rule violations would continue to count as “First violations” or “Second violations” for purposes of determining sanctions under Article 10 for subsequent post-*Code* violations.

27.7 The Purpose, Scope and Organisation of the World Anti-Doping Programme and the *Code* and Appendix 1, Definitions, and Appendix 2, Examples of the Application of Article 10, shall be considered integral parts of the *Code*.

ARTICLE 28 FINAL PROVISIONS

28.1 Where the term “days” is used in these Anti-Doping Rules, it shall mean calendar days unless otherwise specified.

28.2 These Anti-Doping Rules shall be interpreted as an independent and autonomous text and not by reference to existing law or statutes.

28.3 These Anti-Doping Rules have been adopted pursuant to the applicable provisions of the *Code* and the *International Standards* and shall be interpreted in a manner that is consistent with applicable provisions of the *Code* and the *International Standards*. The *Code* and the *International Standards* shall be considered integral parts of these Anti-Doping Rules and shall prevail in case

第 27 条 世界規程の解釈

27.1 世界規程の正文は WADA が維持するものとし、英語及びフランス語で公表されるものとする。英語版とフランス語版との間に矛盾が生じた場合、英語版が優先するものとする。

27.2 世界規程の各条項に注釈として付された解説は、世界規程の解釈に用いられるものとする。

27.3 世界規程は独立かつ自立した文書として解釈されるものとし、署名当事者又は各国政府の既存の法令を参照して解釈されないものとする。

27.4 世界規程の各部及び各条項の見出しは、便宜上のものであって、世界規程の実体規定の一部とはみなされず、また、当該見出しが言及する規定の文言に対して影響するものであるとはみなされない。

27.5 世界規程又は国際基準において使用される「日」という用語は、別途明示される場合を除き、暦日をいうものとする。

27.6 世界規程は、署名当事者によって受諾され、当該署名当事者の規則にて実施される以前から審理中の事案に対し、遡及して適用されない。但し、世界規程以降に発生した違反について第 10 条に基づいて制裁措置を認定する場合には、世界規程以前におけるアンチ・ドーピング規則違反も「1 回目の違反」又は「2 回目の違反」として数えられる。

27.7 「世界アンチ・ドーピング・プログラム及び世界規程の目的、範囲及び構成」、「付属文書 1—定義」及び「付属文書 2—第 10 条の適用例」は、世界規程の不可分の一部として扱われる。

第 28 条 最終条項

28.1 本規程において使用される「日」という用語は、別途明示される場合を除き、暦日をいうものとする。

28.2 本規程は、独立かつ自立した文書として解釈されるものとし、既存の法令を参照して解釈されないものとする。

28.3 本規程は世界規程及び国際基準の適用される条項に従い採択され、世界規程及び国際基準の適用される条項に合致する方法で解釈されるものとする。世界規程及び国際基準は本規程の不可分の一部とみなされ、矛盾がある場合には優先するものとする。

<p>of conflict.</p> <p>28.4 The Introduction and Appendix 1 shall be considered integral parts of these Anti-Doping Rules.</p> <p>28.5 The comments annotating various provisions of these Anti-Doping Rules shall be used to interpret these Anti-Doping Rules.</p> <p>28.6 These Anti-Doping Rules shall enter into force on 1 January 2021 (the “Effective Date”). They repeal <i>JADA’s</i> Anti-Doping Rules that came into effect on 1 January 2015.</p> <p>28.7 These Anti-Doping Rules shall not apply retroactively to matters pending before the Effective Date. However:</p> <p>28.7.1 Anti-doping rule violations taking place prior to the Effective Date count as “first violations” or “second violations” for purposes of determining sanctions under Article 10 for violations taking place after the Effective Date.</p> <p>28.7.2 Any anti-doping rule violation case which is pending as of the Effective Date and any anti-doping rule violation case brought after the Effective Date based on an anti-doping rule violation which occurred prior to the Effective Date, shall be governed by the substantive anti-doping rules in effect at the time the alleged anti-doping rule violation occurred, and not by the substantive anti-doping rules set out in these Anti-Doping Rules, unless the panel hearing the case determines the principle of “lex mitior” appropriately applies under the circumstances of the case. For these purposes, the retrospective periods in which prior violations can be considered for purposes of multiple violations under Article 10.9.4 and the statute of limitations set forth in Article 16 are procedural rules, not substantive rules, and should be applied retroactively along with all of the other procedural rules in these Anti-Doping Rules (provided, however, that Article 16 shall only be applied retroactively if the statute of limitation period has not already expired by the Effective Date).</p> <p>28.7.3 Any Article 2.4 whereabouts failure (whether a filing failure or a missed test, as those terms are defined in the <i>International Standard for Results Management</i>) prior to the Effective Date shall be carried forward and may be relied upon, prior to expiry, in accordance with the <i>International Standard for Results Management</i>, but it shall be deemed to have expired twelve (12) months after it occurred.</p> <p>28.7.4 With respect to cases where a final decision finding an anti-doping rule violation has been rendered prior to the Effective Date, but the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> is still serving the period of <i>Ineligibility</i> as of the</p>	<p>28.4 序論及び付属文書 1 は本規程の不可分の一部とみなされるものとする。</p> <p>28.5 本規程の各条項に付されている解説は、本規程の解釈に使用されるものとする。</p> <p>28.6 本規程は、2021年1月1日（「効力発生日」）に発効するものとする。本規程は、2015年1月1日に発効した <i>JADA</i> のアンチ・ドーピング規程を失効させる。</p> <p>28.7 本規程は、効力発生日前に審理中であった案件に遡及的に適用されないものとする。</p> <p>28.7.1 効力発生日以降に発生した違反について第10条に基づいて制裁措置を認定する場合には、効力発生日前におけるアンチ・ドーピング規則違反も「1回目の違反」又は「2回目の違反」として数えられる。</p> <p>28.7.2 効力発生日において審理中のアンチ・ドーピング規則違反事案、及び効力発生日以前に発生したアンチ・ドーピング規則違反に基づく効力発生日以降に提起されたアンチ・ドーピング規則違反事案に関しては、当該事案に関する聴聞パネルが、当該事案の状況に基づき、「寛大な法 (lex mitior)」の原則を適用されることが適切である旨を判断しない限り、主張されているアンチ・ドーピング規則違反の発生時に効力を有していた実体的なアンチ・ドーピング規則に準拠するものとし、本規程に定められている実体的なアンチ・ドーピング規則には準拠しないものとする。かかる目的において、第10.9.4項に基づく複数回の違反の認定において従前の違反が考慮される際の遡及的期間及び第16条に定める時効は、実体的な規則ではなく手続規則であり、本規程の他の手続規則と併せて、遡及的に適用されるべきである（但し、第16条は、効力発生日までに時効期間が満了していない場合に限り、遡及的に適用されるものとする。）。</p> <p>28.7.3 効力発生日前の第2.4項の居場所情報関連義務違反（「結果管理に関する国際基準」において用語が定義されるところに従い、提出義務違反又は検査未了のいずれであるかを問わない。）は、「結果管理に関する国際基準」に従い、繰り越され、満了前にこれに依拠することができるが、発生してから12ヶ月後に満了したものとみなされるものとする。</p> <p>28.7.4 アンチ・ドーピング規則違反に対する終局的な決定が効力発生日以前に言い渡されたが、<i>競技者</i>又はその他の人が効力発生日において依然として資格停止期間中である事案に関し、<i>競技者</i>又</p>
--	--

Effective Date, the *Athlete* or other *Person* may apply to *JADA* or other *Anti-Doping Organisation* which had *Results Management* responsibility for the anti-doping rule violation to consider a reduction in the period of *Ineligibility* in light of these Anti-Doping Rules. Such application must be made before the period of *Ineligibility* has expired.

The decision rendered may be appealed pursuant to Article 13.2. These Anti-Doping Rules shall have no application to any case where a final decision finding an anti-doping rule violation has been rendered and the period of *Ineligibility* has expired.

28.7.5 For purposes of assessing the period of *Ineligibility* for a second violation under Article 10.9.1, where the sanction for the first violation was determined based on rules in force prior to the Effective Date, the period of *Ineligibility* which would have been assessed for that first violation had these Anti-Doping Rules been applicable, shall be applied.⁷⁵

[*Comment to Article 28.7.5: Other than the situation described in Article 28.7.5, where a final decision finding an anti-doping rule violation has been rendered prior to the Effective Date and the period of Ineligibility imposed has been completely served, these Anti-Doping Rules may not be used to re-characterize the prior violation.*]

28.7.6 Changes to the *Prohibited List* and *Technical Documents* relating to substances on the *Prohibited List* shall not, unless they specifically provide otherwise, be applied retroactively. As an exception, however, when a *Prohibited Substance* has been removed from the *Prohibited List*, an *Athlete* or other *Person* currently serving a period of *Ineligibility* on account of the formerly *Prohibited Substance* may apply to *JADA* or other *Anti-Doping Organisation* which had *Results Management* responsibility for the anti-doping rule violation to consider a reduction in the period of *Ineligibility* in light of the removal of the substance from the *Prohibited List*.

はその他の人は、*JADA* 又はその他アンチ・ドーピング規則違反の結果管理を行うアンチ・ドーピング機関に対し、本規程を踏まえた資格停止期間の短縮を申請できる。当該申請は資格停止期間が満了する前になされなければならない。

言い渡された決定に対しては、第 13.2 項に従って不服申立てを行うことができる。本規程は、アンチ・ドーピング規則違反があった旨の終局的な決定が言い渡され、課された資格停止期間が満了した事案には適用されない。

28.7.5 第 10.9.1 項に基づき 2 回目の違反につき資格停止期間を査定する際、1 回目の違反の制裁措置が効力発生日前に有効であった規則に基づき決定されている場合には、本規程が適用可能であったならば 1 回目の違反につき査定されたであろう資格停止期間が、適用されるものとする。

[第 28.7.5 項の解説：第 28.7.5 項に記載された状況以外で、アンチ・ドーピング規則違反があった旨の終局的な決定が効力発生日前に言い渡され、課された資格停止期間が満了した事案には、以前の違反を再評価するために本規程を使用することはできない。]

28.7.6 禁止表及び禁止表上の物質に関するテクニカルドキュメントに対する変更は、別途具体的に規定する場合を除き、遡及的に適用してはならない。しかし、例外として、禁止物質が禁止表から除外された場合には、禁止物質であった物質を理由として資格停止期間に現に服している競技者又はその他の人は、*JADA* 又はその他アンチ・ドーピング規則違反について結果管理責任を負っていたアンチ・ドーピング機関に対し、禁止表から当該物質が除外されたことを踏まえた資格停止期間の短縮を検討するよう申請することができる。

APPENDIX 1 DEFINITIONS⁷⁶

[Comment to Definitions: Defined terms shall include their plural and possessive forms, as well as those terms used as other parts of speech.]

ADAMS: The Anti-Doping Administration and Management System is a Web-based database management tool for data entry, storage, sharing, and reporting designed to assist stakeholders and WADA in their anti-doping operations in conjunction with data protection legislation.

Administration: Providing, supplying, supervising, facilitating, or otherwise participating in the Use or Attempted Use by another Person of a Prohibited Substance or Prohibited Method. However, this definition shall not include the actions of bona fide medical personnel involving a Prohibited Substance or Prohibited Method used for genuine and legal therapeutic purposes or other acceptable justification and shall not include actions involving Prohibited Substances which are not prohibited in Out-of-Competition Testing unless the circumstances as a whole demonstrate that such Prohibited Substances are not intended for genuine and legal therapeutic purposes or are intended to enhance sport performance.

Adverse Analytical Finding: A report from a WADA-accredited laboratory or other WADA-approved laboratory that, consistent with the International Standard for Laboratories, establishes in a Sample the presence of a Prohibited Substance or its Metabolites or Markers or evidence of the Use of a Prohibited Method.

Adverse Passport Finding: A report identified as an Adverse Passport Finding as described in the applicable International Standards.

Aggravating Circumstances: Circumstances involving, or actions by, an Athlete or other Person which may justify the imposition of a period of Ineligibility greater than the standard sanction. Such circumstances and actions shall include, but are not limited to: the Athlete or other Person Used or Possessed multiple Prohibited Substances or Prohibited Methods, Used or Possessed a Prohibited Substance or Prohibited Method on multiple occasions or committed multiple other anti-doping rule violations; a normal individual would be likely to enjoy the performance-enhancing effects of the anti-doping rule violation(s) beyond the otherwise applicable period of Ineligibility; the Athlete or Person engaged in deceptive or obstructive conduct to avoid the detection or adjudication of an anti-doping rule violation; or the Athlete or other Person engaged in Tampering during Results Management or the hearing process. For the avoidance of doubt, the examples of circumstances and

付属文書 1 定義

[定義に関する解説: 定義語は、複数形、所有格及び異なる品詞において使用される用語を含む。]

「ADAMS」とは、アンチ・ドーピング管理運営システムであり、データ保護に関する法とあいまって、関係者及びWADAのアンチ・ドーピング業務を支援するように設計された、データの入力、保存、共有、報告をするためのウェブ上のデータベースによる運営手段をいう。

「投与」とは、他の人による、禁止物質又は禁止方法の、提供、供給、管理、促進、その他使用又は使用の企てへの参加をいう。但し、当該定義は、真正かつ適法な治療目的その他認められる正当理由のために使用された禁止物質又は禁止方法に関する誠実な医療従事者の行為を含まないものとし、又、当該禁止物質が真正かつ適法な治療目的のために意図されたものでないこと若しくは競技力を向上させるために意図されたものであることについて状況全体から立証された場合を除き、当該定義は、競技会外の検査において禁止されない禁止物質に関する行為を含まないものとする。

「違反が疑われる分析報告」とは、WADA認定分析機関又は「分析機関に関する国際基準」に適合するWADA承認分析機関からの報告のうち、禁止物質又はその代謝物若しくはマーカーの存在が検体において確立されたもの、又は禁止方法の使用の証拠が検体において確立されたものをいう。

「アスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく違反が疑われる報告」とは、適用のある国際基準において記載されているアスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく違反が疑われる報告として特定された報告をいう。

「加重事情」とは、標準的な制裁措置よりも厳しい資格停止期間の賦課を正当化する可能性のある、競技者若しくはその他の人に関連する状況又は競技者若しくはその他の人の行動をいう。当該状況及び行動は、以下を含むが、これらに限られない。競技者又はその他の人が暫定資格停止を遵守しなかったこと、競技者又はその他の人が複数の禁止物質若しくは禁止方法を使用若しくは保有し、複数の機会において禁止物質若しくは禁止方法を使用若しくは保有し、又は、他の複数のアンチ・ドーピング規則違反を行ったこと、通常の個人であれば当該アンチ・ドーピング規則違反の競技力向上の効果を当該状況又は行動がなかった場合に適用されたとあろう資格停止期間を超えて享受する可能性があること、競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング規則違反の発見又は判断を避けるために詐欺的又は妨害的行為を行ったこと、競技者又はその他の人が結果管理又は聴聞手続中に不正手

conduct described herein are not exclusive and other similar circumstances or conduct may also justify the imposition of a longer period of *Ineligibility*.

Anti-Doping Activities: Anti-doping Education and information, test distribution planning, maintenance of a *Registered Testing Pool*, managing *Athlete Biological Passports*, conducting *Testing*, organising analysis of *Samples*, gathering of intelligence and conduct of investigations, processing of *TUE* applications, *Results Management*, hearings, monitoring and enforcing compliance with any *Consequences* imposed, and all other activities related to anti-doping to be carried out by or on behalf of an *Anti-Doping Organisation*, as set out in the *Code* and/or the *International Standards*.

Anti-Doping Organisation: WADA or a *Signatory* that is responsible for adopting rules for initiating, implementing or enforcing any part of the *Doping Control* process. This includes, for example, the International Olympic Committee, the International Paralympic Committee, other *Major Event Organisations* that conduct *Testing* at their *Events*, International Federations, and *National Anti-Doping Organisations*.

Athlete: Any *Person* who competes in sport at the international level (as defined by each International Federation) or the national level (as defined by each *National Anti-Doping Organisation*). An *Anti-Doping Organisation* has discretion to apply anti-doping rules to an *Athlete* who is neither an *International-Level Athlete* nor a *National-Level Athlete*, and thus to bring them within the definition of “*Athlete*”. In relation to *Athletes* who are neither *International-Level* nor *National-Level Athletes*, an *Anti-Doping Organisation* may elect to: conduct limited *Testing* or no *Testing* at all; analyse *Samples* for less than the full menu of *Prohibited Substances*; require limited or no whereabouts information; or not require advance *TUEs*. However, if an Article 2.1, 2.3 or 2.5 anti-doping rule violation is committed by any *Athlete* over whom an *Anti-Doping Organisation* has elected to exercise its authority to test and who competes below the international or national level, then the *Consequences* set forth in the *Code* must be applied. For purposes of Article 2.8 and Article 2.9 and for purposes of anti-doping information and *Education*, any *Person* who participates in sport under the authority of any *Signatory*, government, or other sports organisation accepting the *Code* is an *Athlete*.⁷⁷

渉を行ったこと。疑義を避けるために付言すると、ここに記載された状況及び行動の例は排他的なものではなく、他の類似の状況又は行動もより長い資格停止期間の賦課を正当化する場合がある。

「アンチ・ドーピング活動」とは、アンチ・ドーピング教育及び情報、検査配分計画、登録検査対象者リストの維持、アスリート・バイオロジカル・パスポートの管理、検査の実施、検体の分析の手配、インテリジェンスの収集及びドーピング調査の実施、*TUE* 申請の処理、結果管理、聴聞会、賦課された措置の遵守の監視及び執行、その他世界規程及び／又は国際基準に定めるとおり、アンチ・ドーピング機関により又はこれに代わって遂行されるアンチ・ドーピングに関連するすべての活動をいう。

「アンチ・ドーピング機関」とは、ドーピング・コントロール手続の開始、実施、又は執行に関する規則を採択する責任を負う WADA 又は署名当事者をいう。具体例としては、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会、その他の自己の競技大会において検査を実施する主要競技大会機関、国際競技連盟、国内アンチ・ドーピング機関が挙げられる。

「競技者」とは、国際レベル（定義については各国国際競技連盟が定める。）又は国内レベル（定義については各国内アンチ・ドーピング機関が定める。）のスポーツにおいて競技するすべての人をいう。アンチ・ドーピング機関は、国際レベルの競技者又は国内レベルの競技者のいずれでもない競技者につき、アンチ・ドーピング規則を適用することによりこれらの者を「競技者」の定義に含める裁量を有する。国際レベルの競技者又は国内レベルの競技者のいずれでもない競技者につき、アンチ・ドーピング機関は以下の事項を行う選択権を有する。限定した検査を行い若しくは検査を行わないこと、すべての禁止物質を対象として網羅的に分析するのではなく、その一部について検体分析を行うこと、限定的な居場所情報を要請し若しくは居場所情報を要請しないこと、又は事前の *TUE* を要請しないこと。但し、アンチ・ドーピング機関が、国際レベル又は国内レベルに至らずに競技する競技者につき検査する権限を行使することを選択し、当該競技者が第 2.1 項、第 2.3 項又は第 2.5 項のアンチ・ドーピング規則違反を行った場合には、世界規程に定める措置が適用されなければならない。第 2.8 項及び第 2.9 項並びにアンチ・ドーピング情報及び教育との関係では、世界規程を受諾している署名当事者、政府その他のスポーツ団体の傘下において競技に参加する人は、競技者に該当する。

[Comment to Athlete: Individuals who participate in sport may fall in one of five categories: 1) International-Level Athlete, 2) National-Level Athlete, 3) individuals who are not International- or National-Level Athletes but over whom the International Federation or National Anti-Doping Organisation has chosen to exercise authority, 4) Recreational Athlete, and 5) individuals over whom no International Federation or National Anti-Doping Organisation has, or has chosen to, exercise authority. All International- and National-Level Athletes are subject to the anti-doping rules of the Code, with the precise definitions of international and national level sport to be set forth in the anti-doping rules of the International Federations and National Anti-Doping Organisations.]

Athlete Biological Passport: The programme and methods of gathering and collating data as described in the *International Standard for Testing and Investigations* and *International Standard for Laboratories*.

Athlete Support Personnel: Any coach, trainer, manager, agent, team staff, official, medical, paramedical personnel, parent or any other *Person* working with, treating or assisting an *Athlete* participating in or preparing for sports competition.

Attempt: Purposely engaging in conduct that constitutes a substantial step in a course of conduct planned to culminate in the commission of an anti-doping rule violation. Provided, however, there shall be no anti-doping rule violation based solely on an *Attempt* to commit a violation if the *Person* renounces the *Attempt* prior to it being discovered by a third party not involved in the *Attempt*.

Atypical Finding: A report from a WADA-accredited laboratory or other WADA-approved laboratory which requires further investigation as provided by the *International Standard for Laboratories* or related *Technical Documents* prior to the determination of an *Adverse Analytical Finding*.

Atypical Passport Finding: A report described as an *Atypical Passport Finding* as described in the applicable *International Standards*.

CAS: The Court of Arbitration for Sport.

Code: The World Anti-Doping Code.

Competition: A single race, match, game or singular sport contest. For example, a basketball game or the finals of the Olympic 100-meter race in athletics. For

「**「競技者」**の解説：スポーツに参加する個人は5つの区分のうち一つに該当すると判断して差支えない。1)国際レベルの競技者、2)国内レベルの競技者、3)国際レベル又は国内レベルではないが国際競技連盟又は国内アンチ・ドーピング機関が権限を行使することを選択した個人、4)レクリエーション競技者、5)国際競技連盟及び国内アンチ・ドーピング機関が権限を行使せず、又は権限を行使することを選択していない個人。すべての国際レベル又は国内レベルの競技者は世界規程のアンチ・ドーピング規則の適用の対象となるが、国際レベル及び国内レベルの競技の厳密な定義は、国際競技連盟及び国内アンチ・ドーピング機関のアンチ・ドーピング規則が各々定める。」

「**「アスリート・バイオロジカル・パスポート」**とは、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」及び「分析機関に関する国際基準」において記載される、データを収集及び照合するプログラム及び方法をいう。

「**「サポートスタッフ」**とは、スポーツ競技会に参加し、又はそのための準備を行う**「競技者」**と共に行動し、治療を行い、又は支援を行うコーチ、トレーナー、監督、代理人、チームスタッフ、オフィシャル、医療従事者、親又はその他の人をいう。

「**「企て」**とは、アンチ・ドーピング規則違反に至ることが企図される行為の過程における実質的な段階を構成する行動に意図的に携わることをいう。但し、企てに関与していない第三者によって察知される前に人が当該企てを放棄した場合には、違反を行おうとした当該違反の企てのみを根拠としてアンチ・ドーピング規則違反があったことにはならない。」

「**「非定型報告」**とは、違反が疑われる分析報告の決定に先立ってなされる、「分析機関に関する国際基準」又はこれに関連するテクニカルドキュメントに規定された更なるドーピング調査を要求する旨の、WADA 認定分析機関又はその他の WADA 承認分析機関からの報告をいう。」

「**「アスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく非定型報告」**とは、該当する**「国際基準」**において、アスリート・バイオロジカル・パスポートに基づく**「非定型報告」**として記載される報告をいう。」

「**「CAS」**とは、スポーツ仲裁裁判所をいう。」

「**「世界規程」**とは、世界アンチ・ドーピング規程をいう。」

「**「競技会」**とは、一つのレース、試合、ゲーム又は単独のスポーツでの競争をいう。具体例としては、バスケットボールの試合又はオリンピックの陸上

stage races and other sport contests where prizes are awarded on a daily or other interim basis the distinction between a *Competition* and an *Event* will be as provided in the rules of the applicable International Federation.

Consequences of Anti-Doping Rule Violations (“*Consequences*”): An *Athlete’s* or other *Person’s* violation of an anti-doping rule may result in one or more of the following: (a) *Disqualification* means the *Athlete’s* results in a particular *Competition* or *Event* are invalidated, with all resulting *Consequences* including forfeiture of any medals, points and prizes;

(b) *Ineligibility* means the *Athlete* or other *Person* is barred on account of an anti-doping rule violation for a specified period of time from participating in any *Competition* or other activity or funding as provided in Article 10.14;

(c) *Provisional Suspension* means the *Athlete* or other *Person* is barred temporarily from participating in any *Competition* or activity prior to the final decision at a hearing conducted under Article 8;

(d) *Financial Consequences* means a financial sanction imposed for an anti-doping rule violation or to recover costs associated with an anti-doping rule violation; and

(e) *Public Disclosure* means the dissemination or distribution of information to the general public or *Persons* beyond those *Persons* entitled to earlier notification in accordance with Article 14. Teams in *Team Sports* may also be subject to *Consequences* as provided in Article 11.

Contaminated Product: A product that contains a *Prohibited Substance* that is not disclosed on the product label or in information available in a reasonable Internet search.

Decision Limit: The value of the result for a threshold substance in a *Sample*, above which an *Adverse Analytical Finding* shall be reported, as defined in the *International Standard for Laboratories*.

Delegated Third Party: Any *Person* to which JADA delegates any aspect of *Doping Control* or anti-doping *Education* programmes including, but not limited to, third parties or other *Anti-Doping Organisations* that conduct *Sample* collection or other *Doping Control* services or anti-doping *Educational* programmes for JADA, or individuals serving as independent contractors who perform *Doping Control* services for JADA (e.g., non-employee *Doping Control* officers or chaperones). This definition does not include *CAS*.

競技 100 メートル走の決勝戦が挙げられる。段階的に進められる競争及びその他のスポーツ競技のうち日々又はその他の中間的な基準で賞が授与されるものについては、適用される国際競技連盟の規則において *競技会* と *競技大会* との区別が定められる。

「アンチ・ドーピング規則違反の措置」（「措置」）とは、*競技者*又はその他の人がアンチ・ドーピング規則違反を行った場合に、次に掲げるもののうちの1又は2以上の措置が講じられることをいう。

(a) 「失効」とは、特定の *競技会* 又は *競技大会* における *競技者* の成績が取り消されることをいい、その結果として、獲得されたメダル、得点、及び褒賞の剥奪を含む措置が課される。

(b) 「資格停止」とは、一定期間にわたって、*競技者* 又はその他の人に対して、アンチ・ドーピング規則違反を理由として、第 10.14 項の規定のとおり、*競技会* 若しくはその他の活動への参加が禁止され、又は資金拠出が停止されることをいう。

(c) 「暫定的資格停止」とは、第 8 条の規定に従って開催される聴聞会において終局的な判断が下されるまで、*競技者* 又はその他の人による *競技会* への参加又は活動が暫定的に禁止されることをいう。

(d) 「金銭的措置」とは、アンチ・ドーピング規則違反を理由として賦課される金銭的制裁措置、又はアンチ・ドーピング規則違反に関連する費用回収をいう。

(e) 「一般開示」とは、一般公衆又は第 14 条に基づき早期通知の権利を有する人以外の人に対する情報の拡散又は伝達をいう。チームスポーツにおけるチームもまた、第 11 条に定めるとおり措置に服する場合がある。

「汚染製品」とは、製品ラベル又は合理的なインターネット上の検索により入手可能な情報において開示されていない *禁止物質* を含む製品をいう。

「判断限界」とは、「分析機関に関する国際基準」において定義されているとおり、検体における閾値物質のための結果の値であって、これを超えた場合に違反が疑われる分析報告がなされるものをいう。

「委託された第三者」とは、JADA が、ドーピング・コントロール又はアンチ・ドーピング教育プログラムの一面を委託する人をいい、JADA のために検体採取その他ドーピング・コントロール・サービス若しくはアンチ・ドーピング教育プログラムを行う第三者若しくは他のアンチ・ドーピング機関、又は、JADA のためにドーピング・コントロール・サービスを行う独立請負人として務める個人（例えば、雇用されていないドーピング・コントロール・オフィサー又はシャペロン）を含むが、これらに限られない。この定義は、CAS を含まない。

Disqualification: See *Consequences of Anti-Doping Rule Violations* above.

Doping Control: All steps and processes from test distribution planning through to ultimate disposition of any appeal and the enforcement of *Consequences*, including all steps and processes in between, including but not limited to, *Testing*, investigations, whereabouts, *TUEs*, *Sample* collection and handling, laboratory analysis, *Results Management*, hearings and appeals, and investigations or proceedings relating to violations of Article 10.14 (Status During *Ineligibility* or *Provisional Suspension*).

Education: The process of learning to instil values and develop behaviours that foster and protect the spirit of sport, and to prevent intentional and unintentional doping.

Event: A series of individual *Competitions* conducted together under one ruling body (e.g., the Olympic Games, World Championships of an International Federation, or Pan American Games).

Event Period: The time between the beginning and end of an *Event*, as established by the ruling body of the *Event*.

Event Venues: Those venues so designated by the ruling body for the *Event*.

Fault: *Fault* is any breach of duty or any lack of care appropriate to a particular situation. Factors to be taken into consideration in assessing an *Athlete's* or other *Person's* degree of *Fault* include, for example, the *Athlete's* or other *Person's* experience, whether the *Athlete* or other *Person* is a *Protected Person*, special considerations such as impairment, the degree of risk that should have been perceived by the *Athlete* and the level of care and investigation exercised by the *Athlete* in relation to what should have been the perceived level of risk. In assessing the *Athlete's* or other *Person's* degree of *Fault*, the circumstances considered must be specific and relevant to explain the *Athlete's* or other *Person's* departure from the expected standard of behaviour. Thus, for example, the fact that an *Athlete* would lose the opportunity to earn large sums of money during a period of *Ineligibility*, or the fact that the *Athlete* only has a short time left in a career, or the timing of the sporting calendar, would not be relevant factors to be considered in reducing the period of *Ineligibility* under Article 10.6.1 or 10.6.2.⁷⁸

[*Comment to Fault:* The criteria for assessing an

「失効」については、上記の「アンチ・ドーピング規則違反の措置」を参照すること。

「ドーピング・コントロール」とは、検査配分計画の立案から、不服申立ての最終的な解決及び措置の執行までのすべての段階及び過程（検査、ドーピング調査、居場所情報、TUE、検体の採取及び取扱い、分析機関における分析、結果管理、聴聞会及び不服申立て、並びに第 10.14 項（資格停止又は暫定的資格停止中の地位）の違反に関する調査又は手続を含むがこれらに限られない。をいう。

「教育」とは、スポーツの精神を育成し保護する価値観を浸透させ、かかる行為を發展させ、また、意図的及び意図的ではないドーピングを防止するための、学習の過程をいう。

「競技大会」とは、単一の所轄組織の下で実施される一連の個別競技会のことをいう（例、オリンピック競技大会、国際競技連盟の世界選手権大会、パンアメリカン大会）。

「競技大会の期間」とは、競技大会の所轄組織により定められた、競技大会の開始と終了の間の時間をいう。

「競技大会会場」とは、競技大会の所轄組織により指定された会場をいう。

「過誤」とは、義務の違反又は特定の状況に対する適切な注意の欠如をいう。競技者又はその他の人の過誤の程度を評価するにあたり考慮すべき要因は、例えば、当該競技者又はその他の人の経験、当該競技者又はその他の人が要保護者であるか否か、障がい等の特別な事情、当該競技者の認識すべきであったリスクの程度、並びに認識されるべきであったリスクの程度との関係で当該競技者が払った注意の程度及び行った調査を含む。競技者又はその他の人の過誤の程度を評価する場合に考慮すべき事情は、競技者又はその他の人による期待される行為水準からの乖離を説明するにあたり、具体的で、関連性を有するものでなければならない。そのため、例えば、競技者が資格停止期間中に多額の収入を得る機会を失うことになるという事実や、競技者に自己のキャリア上僅かな時間しか残されていないという事実、又は競技カレンダー上の時期は、第 10.6.1 項又は第 10.6.2 項に基づき資格停止期間を短縮するにあたり関連性を有する要因とはならない。

[過誤に関する解説：競技者の過誤の程度を評価

<p><i>Athlete's degree of Fault is the same under all Articles where Fault is to be considered. However, under Article 10.6.2, no reduction of sanction is appropriate unless, when the degree of Fault is assessed, the conclusion is that No Significant Fault or Negligence on the part of the Athlete or other Person was involved.]</i></p>	<p>する基準は、過誤が考慮されるすべての条項に共通である。但し、第10.6.2項の場合、過誤の程度を評価する際に、競技者又はその他の人に「重大な過誤又は過失がないこと」が認定される場合を除き、制裁措置を短縮することは適切ではない。]</p>
<p>Financial Consequences: See <i>Consequences of Anti-Doping Rule Violations</i> above.</p>	<p>「金銭的措置」について、上記の「アンチ・ドーピング規則違反の措置」を参照すること。</p>
<p>In-Competition: The period commencing at 11:59 p.m. on the day before a <i>Competition</i> in which the <i>Athlete</i> is scheduled to participate through the end of such <i>Competition</i> and the <i>Sample</i> collection process related to such <i>Competition</i>.</p> <p>Provided, however, <i>WADA</i> may approve, for a particular sport, an alternative definition if an International Federation provides a compelling justification that a different definition is necessary for its sport; upon such approval by <i>WADA</i>, the alternative definition shall be followed by all <i>Major Event Organisations</i> for that particular sport.⁷⁹</p>	<p>「競技会 (時)」とは、競技者が参加する予定の競技会の前日の午後 11 時 59 分に開始され、当該競技会及び競技会に関する検体採取手続の終了までの期間をいう。但し、国際競技連盟が特定の競技のために異なる定義が必要であることの説得力ある正当化事由を提供した場合には、<i>WADA</i> は当該競技のために代替りの定義を承認することができる。<i>WADA</i> が当該承認を行った場合には、当該特定の競技について、すべての主要競技大会機関はかかる代替りの定義に従うものとする。</p>
<p><i>[Comment to In-Competition: Having a universally accepted definition for In-Competition provides greater harmonisation among Athletes across all sports, eliminates or reduces confusion among Athletes about the relevant timeframe for In-Competition Testing, avoids inadvertent Adverse Analytical Findings in between Competitions during an Event and assists in preventing any potential performance enhancement benefits from substances prohibited Out-of-Competition being carried over to the Competition period.]</i></p>	<p>「競技会 (時) の解説: 競技会 (時) について普遍的に受諾された定義を有することは、すべての競技にわたり競技者間のより大きな調和をもたらし、競技会 (時) 検査の該当する時間枠に関する競技者間の混乱を除去し又は減少させ、競技大会中の競技会間における不注意による違反が疑われる分析報告を回避し、競技会外で禁止される物質からもたらされる潜在的な競技力向上の利益が競技会期間に持ち越されることを防ぐのに資するものである。]</p>
<p>Independent Observer Programme: A team of observers and/or auditors, under the supervision of <i>WADA</i>, who observe and provide guidance on the <i>Doping Control</i> process prior to or during certain <i>Events</i> and report on their observations as part of <i>WADA's</i> compliance monitoring programme.</p>	<p>「インディペンデント・オブザーバー・プログラム」とは、オブザーバー及び/又は監査人のチームが、<i>WADA</i> のコンプライアンス監視プログラムの一環として、<i>WADA</i> の監督下で、特定の競技大会の前又はその最中にドーピング・コントロール手続を監視し、ドーピング・コントロール手続について助言を提供し、監視事項に関して報告を行うことをいう。</p>
<p>Individual Sport: Any sport that is not a <i>Team Sport</i>.</p>	<p>「個人スポーツ」とは、チームスポーツ以外のスポーツをいう。</p>
<p>Ineligibility: See <i>Consequences of Anti-Doping Rule Violations</i> above.</p>	<p>「資格停止」については、上記の「アンチ・ドーピング規則違反の措置」を参照すること。</p>
<p>Institutional Independence: Hearing panels on appeal shall be fully independent institutionally from the <i>Anti-Doping Organisation</i> responsible for <i>Results Management</i>. They must therefore not in any way be administered by, connected or subject to the <i>Anti-Doping Organisation</i> responsible for <i>Results Management</i>.</p>	<p>「組織的な独立性」とは、不服申立ての聴聞パネルは、結果管理について責任を負うアンチ・ドーピング機関から機関として完全に独立していなければならないことをいう。よってそれらはいかなる方法によっても、結果管理について責任を負うアンチ・ドーピング機関から機関として完全に独立していなければならないことをいう。よってそれらはいかなる方法によっても、結果管理について責任を負うアンチ・ドーピング機関から機関として完全に独立していなければならないことをいう。</p>

<p>International Event: An Event or Competition where the International Olympic Committee, the International Paralympic Committee, an International Federation, a Major Event Organisation, or another international sport organisation is the ruling body for the Event or appoints the technical officials for the Event.</p>	<p>チ・ドーピング機関により運営され、これに関連し又はその傘下にあってはならない。</p> <p>「国際競技大会」とは、国際オリンピック委員会、国際パラリンピック委員会、国際競技連盟、主要競技大会機関又はその他の国際的スポーツ団体が当該競技大会の所轄組織であるか、又は当該競技大会に関してテクニカルオフィシャルを指名している競技大会又は競技会をいう。</p>
<p>International-Level Athlete: Athletes who compete in sport at the international level, as defined by each International Federation, consistent with the International Standard for Testing and Investigations.⁸⁰</p>	<p>「国際レベルの競技者」とは、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に適合し、各国際競技連盟の定義する、国際レベルにおいて競技する競技者をいう。</p>
<p>[Comment to International-Level Athlete: Consistent with the International Standard for Testing and Investigations, the International Federation is free to determine the criteria it will use to classify Athletes as International-Level Athletes, e.g., by ranking, by participation in particular International Events, by type of licence, etc. However, it must publish those criteria in clear and concise form, so that Athletes are able to ascertain quickly and easily when they will become classified as International-Level Athletes. For example, if the criteria include participation in certain International Events, then the International Federation must publish a list of those International Events.]</p>	<p>[国際レベルの競技者の解説：国際競技連盟は、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に適合する限り、競技者を国際レベルの競技者に分類する上で使用する基準（例えば、ランキング、特定の国際競技大会への参加、ライセンスの種類など）を自由に決定することができる。但し、国際競技連盟は、競技者が国際レベルの競技者に分類されたときは、競技者においてこれを速やかに、かつ容易に確認できるよう、当該基準を明確かつ簡潔な様式で公表しなければならない。例えば、当該基準が特定の国際競技大会への参加を含む場合には、当該国際競技連盟はそれらの国際競技大会の一覧を公開しなければならない。]</p>
<p>International Standard: A standard adopted by WADA in support of the Code. Compliance with an International Standard (as opposed to another alternative standard, practice or procedure) shall be sufficient to conclude that the procedures addressed by the International Standard were performed properly. International Standards shall include any Technical Documents issued pursuant to the International Standard.</p>	<p>「国際基準」とは、世界規程を支持する目的でWADAによって採択された基準をいう。 （他に採りうる基準、慣行又は手続とは対立するものとして）国際基準を遵守しているというためには、国際基準に定められた手続を適切に実施していると判断されることが必要である。国際基準は、国際基準に基づき公表されたテクニカルドキュメントを含むものとする。</p>
<p>JADA: Japan Anti-Doping Agency</p>	<p>「JADA」とは、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構をいう。</p>
<p>Japan Anti-Doping Disciplinary Panel: The panel appointed by JSC to adjudicate on alleged violations of these Anti-Doping Rules.</p>	<p>「日本アンチ・ドーピング規律パネル」とは、本規程に対する違反の主張に対して判断を下す、JSCに任命された組織をいう。</p>
<p>JOC: Japanese Olympic Committee, the National Olympic Committee in Japan. Japan Sports Arbitration Agency: The agency to adjudicate on appeals from decisions of Japan Anti-Doping Disciplinary Panel.</p>	<p>「JOC」とは、公益財団法人日本オリンピック委員会をいい、日本における国内オリンピック委員会である。</p>
<p>Japan Sports Arbitration Agency: The agency to adjudicate on appeals from decisions of Japan Anti-Doping Disciplinary Panel.</p>	<p>「日本スポーツ仲裁機構」とは、日本アンチ・ドーピング規律パネルの決定に対する不服申立てについて判断を下す組織（公益財団法人日本スポーツ仲裁機構）をいう。</p>

<p>JSC: Japan Sport Council.</p>	<p>「JSC」とは、独立行政法人日本スポーツ振興センターをいう。</p>
<p>JSPO: Japan Sport Association.</p>	<p>「JSPO」とは、公益財団法人日本スポーツ協会をいう。</p>
<p>JPC: Japanese Paralympic Committee / Japan Paralympic Association, the <i>National Paralympic Committee</i> in Japan.</p>	<p>「JPC」とは、日本における国内パラリンピック委員会である、日本パラリンピック委員会（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）をいう。</p>
<p>Major Event Organisations: The continental associations of <i>National Olympic Committees</i> and other international multi-sport organisations that function as the ruling body for any continental, regional or other <i>International Event</i>.</p>	<p>「主要競技大会機関」とは、国内オリンピック委員会の大陸別連合及びその他の複数のスポーツを所轄する国際的な機関であって、大陸、地域又はその他の国際競技大会の所轄組織として機能する機関をいう。</p>
<p>Marker: A compound, group of compounds or biological variable(s) that indicates the Use of a <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i>.</p>	<p>「マーカ―」とは、化合物、化合物の集合体又は生物学的変数であって、禁止物質又は禁止方法の使用を示すものをいう。</p>
<p>Metabolite: Any substance produced by a biotransformation process.</p>	<p>「代謝物」とは、生体内変化の過程により生成された物質をいう。</p>
<p>Minimum Reporting Level: The estimated concentration of a <i>Prohibited Substance</i> or its <i>Metabolite(s)</i> or <i>Marker(s)</i> in a <i>Sample</i> below which WADA-accredited laboratories should not report that <i>Sample</i> as an <i>Adverse Analytical Finding</i>.</p>	<p>「最低報告レベル」とは、WADA 認定分析機関が、検体における禁止物質又はその代謝物若しくはマーカ―の推定濃度がこれを下回る場合に、当該検体を違反が疑われる分析報告として報告すべきでない、当該推定濃度をいう。</p>
<p>Minor: A natural <i>Person</i> who has not reached the age of eighteen (18) years.</p>	<p>「18歳未満の者」とは、18歳に達していない自然人をいう。</p>
<p>National Anti-Doping Organisation: The entity(ies) designated by each country as possessing the primary authority and responsibility to adopt and implement anti-doping rules, direct the collection of <i>Samples</i>, the management of test results, and the conduct of hearings at the national level. If this designation has not been made by the competent public authority(ies), the entity shall be the country's <i>National Olympic Committee</i> or its designee. In <i>Japan</i>, the <i>National Anti-Doping Organisation</i> is JADA.</p>	<p>「国内アンチ・ドーピング機関」とは、国内において、アンチ・ドーピング規則の採択及び実施、検体採取の指示、検査結果の管理並びに聴聞会の実施に関して第一位の権限を有し、責任を負うものとして国の指定を受けた団体をいう。関連当局によって当該指定が行われなかった場合には、当該国の国内オリンピック委員会又はその指定を受けた者が国内アンチ・ドーピング機関となる。日本において、国内アンチ・ドーピング機関はJADAである。</p>
<p>National Event: A sport <i>Event</i> or <i>Competition</i> involving <i>International-</i> or <i>National-Level Athletes</i> that is not an <i>International Event</i>.</p>	<p>「国内競技大会」とは、国際レベルの競技者又は国内レベルの競技者が参加する競技大会又は競技会のうち国際競技大会に該当しないものをいう。</p>
<p>National Sports Federation: A national or regional entity in <i>Japan</i> which is a member of or is recognised by an International Federation as the entity governing the International Federation's sport in that nation or region in <i>Japan</i>.</p>	<p>「国内競技連盟」とは、日本の国内又は地域的組織であって、国際競技連盟のメンバーであり、又は日本の当該国若しくは地域における国際競技連盟の競技を支配している実体として国際競技連盟により承認されている実体をいう。</p>
<p>National-Level Athlete: <i>Athletes</i> who compete in sport at the national level, as defined by each <i>National Anti-Doping Organisation</i>, consistent with the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>. In <i>Japan</i>,</p>	<p>「国内レベルの競技者」とは、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に適合する、各国内アンチ・ドーピング機関が定義する、国内レベルで競技する競技者をいう。日本において、国内レベルの競</p>

National-Level Athletes are defined as set out in the Introduction to these Anti-Doping Rules (Section “Scope of these Anti-Doping Rules”).

National Olympic Committee: The organisation recognised by the International Olympic Committee. The term *National Olympic Committee* shall also include the National Sport Confederation in those countries where the National Sport Confederation assumes typical *National Olympic Committee* responsibilities in the anti-doping area. In Japan, the *National Olympic Committee* is JOC.

No Fault or Negligence: The *Athlete* or other *Person's* establishing that he or she did not know or suspect, and could not reasonably have known or suspected even with the exercise of utmost caution, that he or she had *Used* or been administered the *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* or otherwise violated an anti-doping rule. Except in the case of a *Protected Person* or *Recreational Athlete*, for any violation of Article 2.1, the *Athlete* must also establish how the *Prohibited Substance* entered the *Athlete's* system.

No Significant Fault or Negligence: The *Athlete* or other *Person's* establishing that any *Fault* or negligence, when viewed in the totality of the circumstances and taking into account the criteria for *No Fault or Negligence*, was not significant in relationship to the anti-doping rule violation. Except in the case of a *Protected Person* or *Recreational Athlete*, for any violation of Article 2.1, the *Athlete* must also establish how the *Prohibited Substance* entered the *Athlete's* system.

Operational Independence: This means that (1) board members, staff members, commission members, consultants and officials of the *Anti-Doping Organisation* with responsibility for *Results Management* or its affiliates (e.g., member federation or confederation), as well as any *Person* involved in the investigation and pre-adjudication of the matter cannot be appointed as members and/or clerks (to the extent that such clerk is involved in the deliberation process and/or drafting of any decision) of hearing panels of that *Anti-Doping Organisation* with responsibility for *Results Management* and (2) hearing panels shall be in a position to conduct the hearing and decision-making process without interference from the *Anti-Doping Organisation* or any third party. The objective is to ensure that members of the hearing panel or individuals otherwise involved in the decision of the hearing panel, are not involved in the investigation of, or decisions to proceed with, the case.

技者は本規程の序論(「本規程の適用範囲」の【項】)に定めるとおり定義されている。

「国内オリンピック委員会」とは、国際オリンピック委員会公認の組織をいう。国内競技連合体が国内オリンピック委員会のアンチ・ドーピングの分野における典型的な責任を負う国においては、国内オリンピック委員会は、当該国内競技連合体を含むものとする。日本において、国内オリンピック委員会はJOCである。

「過誤又は過失がないこと」とは、競技者又はその他の人が禁止物質若しくは禁止方法の使用若しくは投与を受けたこと、又はその他のアンチ・ドーピング規則に違反したことについて、自己が知らず又は推測もせず、かつ最高度の注意をもってしても合理的には知り得ず、推測もできなかったであろう旨を当該競技者が証明した場合をいう。要保護者又はレクリエーション競技者の場合を除き、第2.1項の違反につき、競技者は禁止物質がどのように競技者の体内に入ったかについても証明しなければならない。

「重大な過誤又は過失がないこと」とは、競技者又はその他の人が、事情を総合的に勘案し、過誤又は過失がないことの基準を考慮するにあたり、アンチ・ドーピング規則違反との関連において、当該競技者又はその他の人の過誤又は過失が重大なものではなかった旨を証明した場合をいう。要保護者又はレクリエーション競技者の場合を除き、第2.1項の違反につき、競技者は禁止物質がどのように競技者の体内に入ったかについても証明しなければならない。

「運営上の独立性」とは、(1)結果管理について責任を負うアンチ・ドーピング機関又はその関連組織(例えば、メンバー連盟又は同盟)の理事会構成員、スタッフメンバー、委員会構成員、コンサルタント及びオフィシャル、並びに、案件のドーピング調査及び裁定前段階に関与している人が、結果管理について責任を負うアンチ・ドーピング機関の聴聞パネルのメンバー及び/又は事務局(当該事務局が判断の協議過程及び/又はドラフティング過程に関与している限りにおいて)に任命されるはならないこと、並びに、(2)聴聞パネルが、アンチ・ドーピング機関その他第三者から干渉を受けることなく聴聞及び判断決定手続を行う地位にあることをいう。その目的は、聴聞パネルのメンバーその他聴聞パネルの判断に別途関与している個人が、事案のドーピング調査又は事案を進行させる判断に関与していないことを確保することにある。

Out-of-Competition: Any period which is not *In-Competition*.

Participant: Any *Athlete* or *Athlete Support Person*.

Person: A natural *Person* or an organisation or other entity.

Possession: The actual, physical *Possession*, or the constructive *Possession* (which shall be found only if the *Person* has exclusive control or intends to exercise control over the *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* or the premises in which a *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* exists); provided, however, that if the *Person* does not have exclusive control over the *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* or the premises in which a *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* exists, constructive *Possession* shall only be found if the *Person* knew about the presence of the *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* and intended to exercise control over it. Provided, however, there shall be no anti-doping rule violation based solely on *Possession* if, prior to receiving notification of any kind that the *Person* has committed an anti-doping rule violation, the *Person* has taken concrete action demonstrating that the *Person* never intended to have *Possession* and has renounced *Possession* by explicitly declaring it to an *Anti-Doping Organisation*. Notwithstanding anything to the contrary in this definition, the purchase (including by any electronic or other means) of a *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* constitutes *Possession* by the *Person* who makes the purchase.⁸¹

[*Comment to Possession: Under this definition, anabolic steroids found in an Athlete's car would constitute a violation unless the Athlete establishes that someone else used the car; in that event, the Anti-Doping Organisation must establish that, even though the Athlete did not have exclusive control over the car, the Athlete knew about the anabolic steroids and intended to have control over them. Similarly, in the example of anabolic steroids found in a home medicine cabinet under the joint control of an Athlete and spouse, the Anti-Doping Organisation must establish that the Athlete knew the anabolic steroids were in the cabinet and that the Athlete intended to exercise control over them. The act of purchasing a Prohibited Substance alone constitutes Possession, even where, for example, the product does not arrive, is received by someone else, or is sent to a third party address.*]

Prohibited List: The List identifying the *Prohibited Substances* and *Prohibited Methods*.

「**競技会外**」とは、**競技会 (時)** 以外の期間をいう。

「**参加者**」とは、**競技者**又は**サポートスタッフ**をいう。

「**人**」とは、**自然人**、又は**組織**その他の**団体**をいう。

「**保有**」とは、実際に物理的に保有している状態、又は**擬制保有**をいう（これに該当するものは、**禁止物質**若しくは**禁止方法**に対して、又は**禁止物質**若しくは**禁止方法**が存在する場所に対して、人が排他的に支配を及ぼし、又は支配を及ぼすことを意図している場合に限られる。）。但し、**禁止物質**若しくは**禁止方法**に対して、又は**禁止物質**若しくは**禁止方法**が存在する場所に対して、人が排他的に支配を及ぼしていない場合には、当該人が**禁止物質**又は**禁止方法**の存在を知っており、かつ、これに対して支配を及ぼす意図があった場合のみが**擬制保有**に該当する。但し、人が、**アンチ・ドーピング規則**に違反した旨の通知（種類は問わない。）を受ける前に、**アンチ・ドーピング機関**に対する明確な表明により、**保有**の意思がなく、**保有**を放棄した旨を証明する具体的な行為を起こしていた場合には、当該**保有**のみを根拠として**アンチ・ドーピング規則違反**があったことにはならない。本定義における異なる記載にかかわらず、**禁止物質**又は**禁止方法**の購入（電子的その他の方法を含む。）は、当該購入者による**保有**を構成する。

[**保有の解説**: 本定義に基づき、**競技者の車内**において**蛋白同化ステロイド薬**が発見された場合、**第三者**がその**自動車**を用いていた旨を当該**競技者**が証明できなければ、**違反**が成立する。この場合、**アンチ・ドーピング機関**は、**競技者本人**が当該**自動車**を排他的に支配できない状態にあったとしても**競技者**は**蛋白同化ステロイド薬**の存在を知っており、**蛋白同化ステロイド薬**に支配を及ぼす意図があったということを証明しなければならない。同様に、**競技者**とその**配偶者**が共同で管理している**自宅の薬棚**に**蛋白同化ステロイド薬**が発見された場合には、**アンチ・ドーピング機関**は、**薬棚**の中に**蛋白同化ステロイド薬**が存在することを**競技者**が知っており、**蛋白同化ステロイド薬**に支配を及ぼす意図があったことを証明しなければならない。**禁止物質**を購入する行為自体は、例えば、**製品**が届かず、**他人**がこれを受領し、又は**第三者**の**住所**に送付された場合でも、**保有**を構成する。]

「**禁止表**」とは、**禁止物質**及び**禁止方法**を特定した表をいう。

Prohibited Method: Any method so described on the *Prohibited List*.

Prohibited Substance: Any substance, or class of substances, so described on the *Prohibited List*.

Protected Person: An *Athlete* or other natural *Person* who at the time of the anti-doping rule violation: (i) has not reached the age of sixteen (16) years; (ii) has not reached the age of eighteen (18) years and is not included in any *Registered Testing Pool* and has never competed in any *International Event* in an open category; or (iii) for reasons other than age has been determined to lack legal capacity under applicable national legislation.⁸²

[*Comment to Protected Person: The Code treats Protected Persons differently than other Athletes or Persons in certain circumstances based on the understanding that, below a certain age or intellectual capacity, an Athlete or other Person may not possess the mental capacity to understand and appreciate the prohibitions against conduct contained in the Code. This would include, for example, a Paralympic Athlete with a documented lack of legal capacity due to an intellectual impairment. The term “open category” is meant to exclude competition that is limited to junior or age group categories.*]

Provisional Hearing: For purposes of Article 7.4.3, an expedited abbreviated hearing occurring prior to a hearing under Article 8 that provides the *Athlete* with notice and an opportunity to be heard in either written or oral form.⁸³

[*Comment to Provisional Hearing: A Provisional Hearing is only a preliminary proceeding which may not involve a full review of the facts of the case. Following a Provisional Hearing, the Athlete remains entitled to a subsequent full hearing on the merits of the case. By contrast, an “expedited hearing”, as that term is used in Article 7.4.3, is a full hearing on the merits conducted on an expedited time schedule.*]

Provisional Suspension: See *Consequences of Anti-Doping Rule Violations* above.

Publicly Disclose: See *Consequences of Anti-Doping Rule Violations* above.

Recreational Athlete: A natural *Person* who is so defined by the relevant *National Anti-Doping Organisation*; provided, however, the term shall not include any *Person* who, within the five (5) years prior to committing any anti-doping rule violation, has been an *International-*

「禁止方法」とは、禁止表に記載された方法をいう。

「禁止物質」とは、禁止表に記載された物質又は物質の分類をいう。

「要保護者」とは、アンチ・ドーピング規則違反の時点において、以下に該当する競技者又はその他の自然人をいう。(i)16歳に達していない者、(ii)18歳に達しておらず、登録検査対象者リストに含まれておらず、オープン・カテゴリーで国際競技大会において競技したことのない者、又は、(iii)年齢以外の理由で、該当する国の法律に従い行為能力が十分でないと判断された者。

[要保護者の解説：本規程は、以下の理解に基づき、保護された人を特定の状況において他の競技者又はその他の人とは異なる扱いをしている。特定の年齢又は知的能力を下回る場合には、競技者又はその他の人は、本規程に含まれる行動禁止を理解し、評価する精神的能力を有しない可能性がある。これは、例えば、知的障がいや理由として行為能力が十分でないことが確認されたパラリンピックの競技者を含む。「オープン・カテゴリー」という用語は、ジュニア又は年齢グループ区分に限定される競技会を除くことを意図している。]

「暫定聴聞会」とは、第 7.4.3 項との関係において、第 8 条に基づく聴聞会に先立って開催される略式の聴聞会であって、競技者に対して通知を交付し書面又は口頭で意見を聴取する機会を与えるものをいう。

[暫定聴聞会の解説：「暫定聴聞会」とは、事案における事実の完全な審査を伴わない可能性のある、予備的な手続にすぎない。競技者は暫定聴聞会の後、事案の本案につき、引き続いて完全な聴聞を受ける権利を有する。これに対し、第 7.4.3 項に当該用語が使用されるところの「緊急聴聞会」とは、迅速な日程に基づき行われる本案に関する完全な聴聞会である。]

「暫定的資格停止」については、上記の「アンチ・ドーピング規則違反の措置」を参照すること。

「一般開示」については、上記の「アンチ・ドーピング規則違反の措置」を参照すること。

「レクリエーション競技者」とは、該当する国内アンチ・ドーピング機関によりレクリエーション競技者として定義される自然人をいう。但し、当該用語は、アンチ・ドーピング規則違反を行う前の 5 年間の内に、（「検査及びドーピング調査に関する国

82

83

<p><i>Level Athlete</i> (as defined by each International Federation consistent with the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>) or <i>National-Level Athlete</i> (as defined by each <i>National Anti-Doping Organisation</i> consistent with the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>), has represented any country in an <i>International Event</i> in an open category or has been included within any <i>Registered Testing Pool</i> or other whereabouts information pool maintained by any International Federation or <i>National Anti-Doping Organisation</i>. In Japan, <i>Recreational Athlete</i> is defined as set out in the Introduction to these Anti-Doping Rules (Section “Scope of these Anti-Doping Rules”).⁸⁴ [Comment to <i>Recreational Athlete</i>: The term “open category” is meant to exclude competition that is limited to junior or age group categories.]</p>	<p>「国際基準」に適合して各国国際競技連盟が定義する) 国際レベルの競技者若しくは(「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に適合して各国アンチ・ドーピング機関が定義する) 国内レベルの競技者であった人、オープン・カテゴリーで国際競技大会においていずれかの国を代表した人、又は、国際競技連盟若しくは国内アンチ・ドーピング機関により維持された登録検査対象者リスト若しくは他の居場所情報リストに含まれた人を含まないものとする。日本において、レクリエーション競技者は本規程の序論(「本規程の適用範囲」の【項】)に定めるとおり定義されている。 [レクリエーション競技者の解説:「オープン・カテゴリー」という用語は、ジュニア又は年齢グループ区分に限定される競技会を除くことを意図している。]</p>
<p>Regional Anti-Doping Organisation: A regional entity designated by member countries to coordinate and manage delegated areas of their national anti-doping programmes, which may include the adoption and implementation of anti-doping rules, the planning and collection of <i>Samples</i>, the management of results, the review of <i>TUEs</i>, the conduct of hearings, and the conduct of <i>Educational</i> programmes at a regional level.</p>	<p>「地域アンチ・ドーピング機関」とは、国内アンチ・ドーピング・プログラムにつき委託された領域を調整し、管理する、加盟国の指定する地域的組織をいう。国内アンチ・ドーピング・プログラムにつき委託された領域とは、アンチ・ドーピング規則の採択及び実施、検体の計画及び採取、結果の管理、<i>TUE</i> の審査、聴聞会の実施、並びに地域レベルにおける教育プログラムの実施を含む場合がある。</p>
<p>Registered Testing Pool: The pool of highest-priority <i>Athletes</i> established separately at the international level by International Federations and at the national level by <i>National Anti-Doping Organisations</i>, who are subject to focused <i>In-Competition</i> and <i>Out-of-Competition Testing</i> as part of that International Federation's or <i>National Anti-Doping Organisation's</i> test distribution plan and therefore are required to provide whereabouts information as provided in Article 5.5 of the <i>Code</i> and the <i>International Standard for Testing and Investigations</i>. In Japan, <i>JADA's Registered Testing Pool</i> is defined as set out in Article 5.5 of these Anti-Doping Rules.</p>	<p>「登録検査対象者リスト」とは、国際競技連盟又は国内アンチ・ドーピング機関の検査配分計画の一環として、重点的な競技会(時)検査及び競技会外の検査の対象となり、またそのため第 5.6 項及び「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に従い居場所情報を提出することを義務付けられる、国際競技連盟が国際レベルの競技者として、また国内アンチ・ドーピング機関が国内レベルの競技者として各々定めた、最優先の競技者群のリストをいう。日本において、登録検査対象者リストは本規程第 5.5 項に定めるとおり定義されている。</p>
<p>Results Management: The process encompassing the timeframe between notification as per Article 5 of the <i>International Standard for Results Management</i>, or in certain cases (e.g., <i>Atypical Finding</i>, <i>Athlete Biological Passport</i>, whereabouts failure), such pre-notification steps expressly provided for in Article 5 of the <i>International Standard for Results Management</i>, through the charge until the final resolution of the matter, including the end of the hearing process at first instance or on appeal (if an appeal was lodged).</p>	<p>「結果管理」とは、「結果管理に関する国際基準」の第 5 条に従った通知又は特定の事案(例えば、非定型報告、アスリート・バイオロジカル・パスポート、居場所情報関連義務違反)において「結果管理に関する国際基準」の第 5 条に明示的に規定される当該通知前手順から、責任追及過程を通じて第一審又は(不服申立てがあった場合には)不服申立て段階における聴聞手続の終了を含む案件の終局的な解決までの時間枠を包含する過程をいう。</p>
<p>Sample or Specimen: Any biological material collected</p>	<p>「検体」又は「標本」とは、ドーピング・コントロールにおいて採取された生体物質をいう。</p>

for the purposes of *Doping Control*.⁸⁵

[*Comment to Sample or Specimen: It has sometimes been claimed that the collection of blood Samples violates the tenets of certain religious or cultural groups. It has been determined that there is no basis for any such claim.*]

Signatories: Those entities accepting the *Code* and agreeing to implement the *Code*, as provided in Article 23 of the *Code*.

Specified Method: See Article 4.2.2.

Specified Substance: See Article 4.2.2.

Strict Liability: The rule which provides that under Article 2.1 and Article 2.2, it is not necessary that intent, *Fault*, negligence, or knowing *Use* on the *Athlete's* part be demonstrated by the *Anti-Doping Organisation* in order to establish an anti-doping rule violation.

Substance of Abuse: See Article 4.2.3.

Substantial Assistance: For purposes of Article 10.7.1, a *Person* providing *Substantial Assistance* must: (1) fully disclose in a signed written statement or recorded interview all information he or she possesses in relation to anti-doping rule violations or other proceeding described in Article 10.7.1.1, and (2) fully cooperate with the investigation and adjudication of any case or matter related to that information, including, for example, presenting testimony at a hearing if requested to do so by an *Anti-Doping Organisation* or hearing panel. Further, the information provided must be credible and must comprise an important part of any case or proceeding which is initiated or, if no case or proceeding is initiated, must have provided a sufficient basis on which a case or proceeding could have been brought.

Tampering: Intentional conduct which subverts the *Doping Control* process but which would not otherwise be included in the definition of *Prohibited Methods*. *Tampering* shall include, without limitation, offering or accepting a bribe to perform or fail to perform an act, preventing the collection of a *Sample*, affecting or making impossible the analysis of a *Sample*, falsifying documents submitted to an *Anti-Doping Organisation* or *TUE* committee or hearing panel, procuring false testimony from witnesses, committing any other fraudulent act upon the *Anti-Doping Organisation* or

[*検体又は標本の解説：一定の宗教的又は文化的集団においては、血液検体の採取は信条に反すると主張されることがあるが、当該主張には根拠がないものとされている。*]

「署名当事者」とは、世界規程の第23条に定めるとおり、世界規程を受諾し、これを実施することに同意した団体をいう。

「特定方法」については、第4.2.2項を参照すること。

「特定物質」については、第4.2.2項を参照すること。

「厳格責任」とは、アンチ・ドーピング規則違反を立証するためにはアンチ・ドーピング機関が競技者側の使用に関する意図、過誤、過失又は使用を知っていたことを立証しなくてもよいとする第2.1項及び第2.2項に基づく法理をいう。

「濫用物質」については、第4.2.3項を参照すること。

「実質的な支援」：第10.7.1項との関係において、実質的な支援を提供する人は、(1)自己が保有するアンチ・ドーピング規則違反その他第10.7.1.1項に記載された手続に関するすべての情報を署名入りの書面又は録音されたインタビューにより完全に開示し、(2)アンチ・ドーピング機関又は聴聞パネルからの要求がある場合には、例えば、聴聞会において証言をするなど、当該情報に関する事案又は案件のドーピング調査及び裁定に対し十分に協力しなければならない。さらに、提供された情報は、信頼できるものであり、かつ、開始された事案又は手続の重大な部分を構成するものでなければならず、仮に事案又は手続が開始されていない場合には、事案又は手続の開始に十分な根拠を与えるものでなければならない。

「不正干渉」とは、ドーピング・コントロール手続を覆すが、別途禁止方法の定義に含まれない意図的な行為をいう。不正干渉は、一定の作為又は不作為を目的として贈賄又は収賄を行うこと、検体の採取を妨害すること、検体の分析に影響を与え又はこれを不可能にすること、アンチ・ドーピング機関又はTUE委員会若しくは聴聞パネルに提出される文書を偽造すること、証人から虚偽の証言をさせること、結果管理又は措置の賦課に影響を与えるためにアンチ・ドーピング機関又は他の聴聞機関に他の詐欺的行為を行うこと、及び

hearing body to affect *Results Management* or the imposition of *Consequences*, and any other similar intentional interference or *Attempted interference* with any aspect of *Doping Control*.⁸⁶

[*Comment to Tampering: For example, this Article would prohibit altering identification numbers on a Doping Control form during Testing, breaking the B bottle at the time of B Sample analysis, altering a Sample by the addition of a foreign substance, or intimidating or attempting to intimidate a potential witness or a witness who has provided testimony or information in the Doping Control process. Tampering includes misconduct which occurs during the Results Management and hearing process. See Article 10.9.3.3. However, actions taken as part of a Person's legitimate defence to an anti-doping rule violation charge shall not be considered Tampering. Offensive conduct towards a Doping Control official or other Person involved in Doping Control which does not otherwise constitute Tampering shall be addressed in the disciplinary rules of sport organisations.*]

Target Testing: Selection of specific *Athletes* for *Testing* based on criteria set forth in the *International Standard for Testing and Investigations*.

Team Sport: A sport in which the substitution of players is permitted during a *Competition*.

Technical Document: A document adopted and published by *WADA* from time to time containing mandatory technical requirements on specific anti-doping topics as set forth in an *International Standard*.

Testing: The parts of the *Doping Control* process involving test distribution planning, *Sample* collection, *Sample* handling, and *Sample* transport to the laboratory.

Testing Pool: The tier below the *Registered Testing Pool* which includes *Athletes* from whom some whereabouts information is required in order to locate and *Test* the *Athlete Out-of-Competition*.

Therapeutic Use Exemption (TUE): A *Therapeutic Use Exemption* allows an *Athlete* with a medical condition to use a *Prohibited Substance* or *Prohibited Method*, but only if the conditions set out in Article 4.4 and the *International Standard for Therapeutic Use Exemptions* are met.

Trafficking: Selling, giving, transporting, sending, delivering or distributing (or *Possessing* for any such purpose) a *Prohibited Substance* or *Prohibited Method* (either physically or by any electronic or other means)

ドーピング・コントロールの側面に対する類似的意図的な妨害又は妨害の企てを含むが、これらに限られない。

[不正干渉の解説: 例えば、本項は、検査中にドーピング・コントロール・フォームにおける識別番号を改変すること、B 検体の分析時に B のボトルを破壊すること、他の異物を追加することにより検体を改変すること、又は、ドーピング・コントロール手続で証言若しくは情報を提供した潜在的な証人若しくは証人を威嚇し、威嚇しようとする企てを禁止する。不正干渉とは、結果管理及び聴聞手続中に発生する不正行為も含む。第10.9.3.3 項を参照すること。しかし、アンチ・ドーピング規則違反の責任追及に対する人の正当な防衛の一環として取られた行動は、不正干渉とはみなされないものとする。ドーピング・コントロール・オフィサー又はドーピング・コントロールに関わる他の人に対する攻撃的な行為であって、別途不正干渉を構成しない行為は、スポーツ団体の規律規則で取り扱われるものとする。]

「特定対象検査」とは、「検査及びドーピング調査に関する国際基準」に定める基準に基づき、検査のために特定の競技者を抽出することをいう。

「チームスポーツ」とは、競技会中に、選手交代が認められるスポーツをいう。

「テクニカルドキュメント」とは、国際基準に規定されるとおりの特定のアンチ・ドーピングの主題についてのテクニカルな義務的要件を含む、WADA が採択し、随時公表する文書をいう。

「検査」とは、ドーピング・コントロール手続のうち、検査配分計画の立案、検体の採取、検体の取扱い並びに分析機関への検体の搬送を含む部分をいう。

検査対象者リストとは、競技者の居場所を特定しこれを競技会外で検査するための、一定の居場所情報が必要な競技者を含む、登録検査対象者リストより下の階層をいう。

「治療使用特例 (TUE)」とは、医療上の症状を有する競技者が禁止物質又は禁止方法を使用することを認めるものである。但し、第4.4 項及び「治療使用特例に関する国際基準」に定める条件が充足される場合に限る。

「不正取引」とは、アンチ・ドーピング機関の権限に服する競技者、サポートスタッフ又はその他の人が、第三者に対し、(物理的方法、電子的方法その他方法を問わず) 禁止物質又は禁止方法を販売、

<p>by an <i>Athlete</i>, <i>Athlete Support Person</i> or any other <i>Person</i> subject to the authority of an <i>Anti-Doping Organisation</i> to any third party; provided, however, this definition shall not include the actions of bona fide medical personnel involving a <i>Prohibited Substance</i> used for genuine and legal therapeutic purposes or other acceptable justification, and shall not include actions involving <i>Prohibited Substances</i> which are not prohibited in <i>Out-of-Competition Testing</i> unless the circumstances as a whole demonstrate such <i>Prohibited Substances</i> are not intended for genuine and legal therapeutic purposes or are intended to enhance sport performance.</p>	<p>供与、輸送、送付、配送又は頒布すること（又は当該目的のために保有すること）をいう。但し、当該定義は、真正かつ適法な治療目的その他認められる正当理由のために使用された禁止物質に関する誠実な医療従事者の行為を含まないものとし、又、当該禁止物質が真正かつ適法な治療目的のために意図されたものでないこと若しくは競技力を向上させるために意図されたものであることにつき状況全体から立証された場合を除き、当該定義は、競技会外の検査において禁止されない禁止物質に関する行為を含まないものとする。</p>
<p>UNESCO Convention: The International Convention against Doping in Sport adopted by the 33rd session of the UNESCO General Conference on 19 October 2005, including any and all amendments adopted by the States Parties to the Convention and the Conference of Parties to the International Convention against Doping in Sport.</p>	<p>「ユネスコ国際規約」とは、2005年10月19日のユネスコ総会の第33回会期において採択されたスポーツにおけるドーピングの防止に関する国際規約並びに同規約の締約国及びスポーツにおけるドーピング防止に関する締約国会議において採択されたそのすべての改定をいう。</p>
<p>Use: The utilisation, application, ingestion, injection or consumption by any means whatsoever of any <i>Prohibited Substance</i> or <i>Prohibited Method</i>.</p>	<p>「使用」とは、いずれかの禁止物質又は禁止方法において、手段を問わず、これを利用し、塗布し、服用し、注入し若しくは摂取することをいう。</p>
<p>WADA: The World Anti-Doping Agency.</p>	<p>「WADA」とは、世界アンチ・ドーピング機構をいう。</p>
<p>Without Prejudice Agreement: For purposes of Articles 10.7.1.1 and 10.8.2, a written agreement between an <i>Anti-Doping Organisation</i> and an <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> that allows the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> to provide information to the <i>Anti-Doping Organisation</i> in a defined time-limited setting with the understanding that, if an agreement for <i>Substantial Assistance</i> or a case resolution agreement is not finalised, the information provided by the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> in this particular setting may not be used by the <i>Anti-Doping Organisation</i> against the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> in any <i>Results Management</i> proceeding under the <i>Code</i>, and that the information provided by the <i>Anti-Doping Organisation</i> in this particular setting may not be used by the <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> against the <i>Anti-Doping Organisation</i> in any <i>Results Management</i> proceeding under the <i>Code</i>. Such an agreement shall not preclude the <i>Anti-Doping Organisation</i>, <i>Athlete</i> or other <i>Person</i> from using any information or evidence gathered from any source other than during the specific time-limited setting described in the agreement.</p>	<p>「条件付合意」とは、第10.7.1.1項及び第10.8.2項において、定められた時間内において、競技者又はその他の人がアンチ・ドーピング機関に情報を提供することを認める、アンチ・ドーピング機関と競技者又はその他の人との間の書面による合意であって、以下の理解が規定されたものをいう。実質的な支援に関する合意又は事案解決合意が成立に至らなかった場合には、アンチ・ドーピング機関は、この特別の設定の中で競技者又はその他の人から提供を受けた情報を、本規程に基づく結果管理手続で当該競技者又はその他の人の利益に反する方法で使用してはならず、また、競技者又はその他の人は、この特別の設定の中でアンチ・ドーピング機関から提供を受けた情報を、本規程に基づく結果管理手続で当該アンチ・ドーピング機関の利益に反する方法で使用してはならない。かかる合意は、アンチ・ドーピング機関、競技者又はその他の人が、かかる合意において記載される定められた時間外に情報源から収集された情報又は証拠を使用することを妨げるものではない。</p>